粕川村文化財報告第11集

西迎遺跡

1990

群馬県勢多郡粕川村教育委員会

西迎遺跡

昭和60年度調査遺跡　　遠景（南より）

西迎遺跡　　全景（北より）

昭和60年度調査遺跡

昭和60年度は、粕川村の南部にあたる深津地区が調査の対象となった。

深津は、仏教説話集『神道集』に収められる赤城神の由来を説いた「赤城大明神の事」の舞台となった地とされている。

深津地区の地形は複雑である。洪積台地、粕川扇状地、そしてそれらを浸食する湧水を伴う谷地が入り組んでいる。この深津の地は、欠水性土壌の多い粕川扇状地の中にあって、古代から農耕に適した地域であった。

西迎遺跡

西迎遺跡では、弥生時代中期後半から平安時代にかけての集落が発掘された。遺跡の南端部には古墳時代前期の方形周溝墓群がある。

13号住居出土遺物

13号住居全景（西より）

13号住居出土遺物

西迎遺跡からは弥生時代中期後半の遺物が多く出土した。これまで赤城山南麓地域では、弥生時代中期後半の土器については不明な部分が多かった。今回の西迎遺跡出土の一括資料は当該期の土器の状況を知るうえで重要な資料となった。

13号住居全景

弥生時代中期後半の住居が15軒調査された。13号住居は東西11㍍、南北７㍍の大型住居である。弥生時代の集落でどのような役割をもっていたのだろうか。

序

粕川村は赤城山南麓に開けた村です。最近ではだいぶ様子が変わってきましたが、米麦と養蚕を中心とした典型的な純農業地域と言えます。この農業の伝統はいつから生まれてきたのでしょうか。

ここに報告する『西迎遺跡』は弥生時代中期後半から平安時代にかけての集落遺跡です。特に、弥生時代中期の竪穴住居15軒がまとまって検出されました。そして、それらの住居から出土した土器の表面にはモミ殻の圧痕が認められるものもあります。群馬県にあっては、弥生時代は、まさにコメ作りの始まった時代といえます。そして、粕川村にとっても「農業粕川」の原点をこの『西迎遺跡』に見いだすことができると思います。

本報告書が多くのみなさんに活用されることを願ってやみません。

最後に、発掘調査に際し、ご尽力を頂いた地元土地改良の役員さん並びに土地所有者の皆さんに御礼申し上げると共に、酷寒の中、発掘調査に従事された皆さんの労に心より感謝申し上げ、序といたします。

平成２年３月

粕川村教育委員会

教育長　中　嶋　茂　美

例　　言

1．本書は昭和60年度粕川地区県営圃場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査深津地区遺跡群の内『西迎(ニシムカエ)遺跡』の発掘調査報告書である。

2．『西迎遺跡』は群馬県勢多郡粕川村深津(フカヅ)字西迎(ニシムカエ)1303-1番地他に所在する。

3．発掘調査は昭和60年10月21日から昭和60年12月20日まで行った。

　また、整理作業及び本書の作成は平成元年4月5日から平成2年3月30日まで行った。

4．発掘調査は昭和60年度の国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金及び群馬用水土地改良事業所委託金の一部を使用して行った。

　整理事業は平成元年度国宝重要文化財等保存整備費国庫補助金を使用して行った。

5．調査組織は次のとおりである。

事務局

教育長　金井久雄（62年9月退任）

事務局長　笠原　清（61年6月転出）

係　長　坂本　実（62年6月転出）

調査担当

文化財担当　小島純一

調査員　竹内　寛（現　大間々町教育委員会）

　　笠原仁史（現　玉村町教育委員会）

6．本書の作成組織は次のとおりである。

事務局

教育長　中嶋茂美（62年10月着任）

事務局長　梅沢　上（平成元年4月着任）

局長補佐　横沢克明　県派遣社会教育主事　（昭和62年4月着任）

係　長　木島定幸（平成元年4月着任）

文化財担当　小島純一

7．本書の作成は小島が編集、執筆を担当し、遺構写真は竹内・笠原による。また、、遺物写真は真下泰男（粕川村サンフォト）による。なお、本書の作成には以下のものが参加した。

庶務担当　笠原嘉子　　遺物接合復元　中嶋あぐり

遺物実測及びレイアウト　鈴木幸子　　吉沢てい子

8．発掘調査によって出土した遺物については総て粕川村教育委員会で保管管理している。

9．調査から整理にかけて、下記の方々からご指導、ご助言を賜った。記して感謝申し上げます。

井上唯雄　柿沼恵介　小島敦子　小山岳夫　坂爪久純　鹿田雄三　能登　健　林　幸彦

前原　豊　右島和夫

凡　　例

1．本書の挿図の方位は座標北を示す。

2．本書で使用した地形図は下記のとおりである。

図１　国土地理院20万分の１「宇都宮」

図２　国土地理院2.5万分の１「鼻毛石」

図３　国土地理院5万分の１「前橋」

3．本書の遺構図、遺物図の縮尺は下記のとおりである。

住居址平面図	1/80
竈平面図	1/40
古墳平面図	1/100
古墳土層断面図	1/40
土器及び土製品	1/4
石器及び石製品	1/4

4．土器観察表及び挿図の番号は、遺物取り上げ番号をそのまま使用した。
一括取り上げの遺物については、遺構毎の通し番号とした。

5．挿図の土層断面のアミ表記は下記のとおりである。

浅間Ｂ軽石（As－Ｂ）

浅間Ｃ軽石（As－Ｃ）

焼　土

目　　次

巻頭図版
序
例　　言
凡　　例

I　発掘調査の経緯……1

II　発掘調査の概要……2
　1　西迎遺跡の位置……2
　2　周辺の遺跡……2
　3　調査の方法と概要……2

III　調査の記録……5
　1　弥生時代の遺構と遺物……5
　2　古墳時代前期の遺構と遺物……8
　3　古墳時代中期の遺構と遺物……9
　4　古墳時代後期の遺構と遺物……10
　5　奈良・平安時代の遺構と遺物……11
　6　時期不明の遺構……12

挿　　図　遺構実測図……17
　　出土遺物実測図……17
遺物観察表　土器……59

IV　調査の成果と今後の課題……83

写真図版
付　　図

挿　図　目　次

図１　西迎遺跡の位置
図２　昭和60年度調査遺跡……１
図３　西迎遺跡と周辺の遺跡……３
図４　西迎遺跡調査図……４
図５　７号住居実測図・遺物実測図(1)……17
図６　７号住居遺物実測図(2)……18
図７　21号住居実測図・遺物実測図……18
図８　９号住居実測図・遺物実測図……19
図９　10号住居実測図・遺物実測図……20
図10　11号住居実測図・遺物実測図……20
図11　13号住居実測図・遺物実測図(1)……21
図12　13号住居遺物実測図(2)……22
図13　13号住居遺物実測図(3)……23
図14　25号住居実測図・遺物実測図……23
図15　20号住居実測図・遺物実測図(1)……24
図16　20号住居遺物実測図(2)……25
図17　22号住居実測図・遺物実測図……26
図18　27号住居実測図・遺物実測図……26
図19　29号住居実測図・遺物実測図……27
図20　30号住居実測図・遺物実測図……27
図21　32号住居実測図・遺物実測図(1)……28
図22　32号住居遺物実測図(2)……29
図23　23号住居実測図・遺物実測図……29
図24　33号住居実測図・遺物実測図……30
図25　各住居出土土器拓影図……31
図26　各住居出土の南東北系土器拓影図……32
図27　28号住居実測図・遺物実測図……33
図28　１号方形周溝墓実測図……34
図29　２号方形周溝墓実測図・遺物実測図……35
図30　３号方形周溝墓実測図……37
図31　４号方形周溝墓実測図・遺物実測図……39
図32　５号方形周溝墓実測図・遺物実測図……41
図33　６号方形周溝墓実測図……41
図34　７号方形周溝墓実測図……42
図35　５号住居実測図・遺物実測図……43
図36　８号住居実測図・遺物実測図……44
図37　34号住居実測図・遺物実測図……45
図38　１号住居実測図・遺物実測図……45
図39　３号住居実測図・遺物実測図……45
図40　２号住居実測図・遺物実測図……46
図41　16号住居実測図・遺物実測図……47
図42　４号住居実測図・遺物実測図……48
図43　18号住居実測図・遺物実測図……48
図44　31号住居実測図・遺物実測図……49
図45　17号住居実測図・遺物実測図……49
図46　19号住居実測図・遺物実測図……50
図47　24号住居実測図・遺物実測図……50
図48　26号住居実測図・遺物実測図……50
図49　12号住居実測図・遺物実測図……51
図50　14号住居実測図・遺物実測図……51
図51　15号住居実測図・遺物実測図……51
図52　６号住居実測図……52
図53　地割れ内出土遺物実測図……52
図54　炭窯実測図……52
図55　壺の組列……84
図56　甕の組列……85

写 真 目 次

PL. 1　1　赤城山と深津地区遺跡群（南より）
　　2　昭和60年度調査遺跡（南西より）
PL. 2　1　西迎遺跡全景（南より）
　　2　西迎遺跡南区全景（東より）
PL. 3　1　西迎遺跡と東側の低地
　　2　西の低地から望む西迎遺跡
　　3　大型重機による表土剝ぎ
　　4　精査作業
　　5　ブーム方式（計測用カメラ）による住居の写真測量
　　6　進む発掘調査
　　7　電子野帳による遺物の取り上げ
　　8　ケーブル方式（35㎜一般カメラ）による写真測量
PL. 4　1　方形周溝墓群と住居（東より）
　　2　方形周溝墓と住居の発掘調査
　　3　大溝の調査
　　4　大溝と方形周溝墓
　　5　縄文時代の６号陥し穴（23号住居内）
　　6　１・２・３号陥し穴
　　7　４号陥し穴（２号方形周溝墓内）
　　8　７号陥し穴（４号方形周溝墓内）
PL. 5　1　７号住居全景
　　2　７号住居土層堆積状態
　　3　７号住居遺物出土状況
　　4　７号住居遺物出土状況
　　5　７号住居遺物出土状況
　　6　７号住居遺物出土状況
　　7　10号住居全景
　　8　10号住居遺物出土状況
PL. 6　1　９号住居全景
　　2　９号住居遺物出土状況
　　3　９号住居遺物出土状況
　　4　９号住居P_1内遺物出土状況
　　5　11号住居全景
　　6　11号住居遺物出土状況
　　7　11号住居遺物出土状況
　　8　11号住居遺物出土状況
PL. 7　1　13号住居全景
　　2　13号住居遺物出土状況
PL. 8　1　13号住居土層堆積状況
　　2　13号住居炉址
　　3　13号住居遺物出土状況
　　4　13号住居壁周溝
　　5　13号住居遺物出土状況
　　6　13号住居遺物出土状況
　　7　13号住居遺物出土状況
　　8　13号住居遺物（459）出土状況
PL. 9　1　13号住居遺物出土状況
　　2　13号住居遺物（185・196）出土状況
　　3　13号住居遺物（360・298）出土状況
　　4　13号住居遺物（94）出土状況
　　5　13号住居内埋め甕（487・488）確認状況
　　6　13号住居内埋め甕断ち割り状況
　　7　13号住居内埋め甕断ち割り状況
　　8　13号住居内埋め甕被覆の壺（487）除去後
PL. 10　1　20号住居全景
　　2　20号住居遺物出土状況
　　3　20号住居土層堆積状況
　　4　20号住居遺物出土状況
　　5　20号住居土層堆積状況
PL. 11　1　20号住居磨製石斧出土状況
　　2　20号住居磨製石斧出土状況
　　3　20号住居遺物（154・183）出土状況
　　4　20号住居遺物（154・183）出土状況
　　5　20号住居遺物（326・348）出土状況
　　6　20号住居遺物（326・348）出土状況
　　7　20号住居遺物出土状況
　　8　20号住居遺物（13・29）出土状況
PL. 12　1　22号住居遺物出土状況
　　2　22号住居土層堆積状況
　　3　22号住居遺物（27）出土状況
　　4　22号住居遺物（２）出土状況
　　5　23号住居全景
　　6　23号住居遺物出土状況
　　7　21号住居全景
　　8　25号住居全景
PL. 13　1　29号住居遺物出土状況
　　2　29号住居全景
　　3　29号住居遺物出土状況

4　29号住居土層堆積状況
5　29号住居遺物（12・13）出土状況
6　27号住居全景
7　27号住居遺物出土状況
8　27号住居遺物出土状況
ＰＬ．14　1　30・31号住居全景
2　30号住居土層堆積状況
3　30号住居遺物（４）出土状況
4　30号住居遺物（88）出土状況
5　30号住居遺物出土状況
ＰＬ．15　1　32号住居全景
2　32号住居遺物出土状況
3　32号住居遺物出土状況
4　32号住居遺物出土状況
5　32号住居遺物（37）出土状況
6　32号住居遺物出土状況
7　33号住居全景
8　33号住居P_2内遺物（88）出土状況
ＰＬ．16　1　方形周溝墓群全景（北より）
2　28号住居全景
3　28号住居遺物出土状況
4　28号住居遺物（1・2・4・5・7）出土状況
5　28号住居遺物出土状況
ＰＬ．17　1　１号方形周溝墓全景
2　１号方形周溝墓土層堆積状況
3　１号方形周溝墓土層堆積状況
4　１号方形周溝墓土層堆積状況
5　３号方形周溝墓全景
ＰＬ．18　1　２号方形周溝墓全景
2　２号方形周溝墓土層堆積状況
3　２号方形周溝墓出土状況
4　２号方形周溝墓遺物（36）出土状況
5　２号方形周溝墓遺物（48）出土状況
ＰＬ．19　1　４号方形周溝墓全景
2　４号方形周溝墓調査状況
3　４号方形周溝墓土層堆積状況
4　４号方形周溝墓遺物（４）出土状況
5　４号方形周溝墓遺物（１）出土状況
ＰＬ．20　1　５号方形周溝墓全景
2　５号方形周溝墓遺物（１）出土状況
3　５号方形周溝墓遺物（２）出土状況
4　６号方形周溝墓全景
5　６号方形周溝墓土層堆積状況
6　７号方形周溝墓全景
7　７号方形周溝墓土層堆積状況（浅間Ｃ軽石）
ＰＬ．21　1　５号住居遺物出土状況
2　５号住居全景
3　５号住居遺物（132・170・172）出土状況
4　５号住居遺物（2・3・4・5）出土状況
5　５号住居遺物（8・9・10）出土状況
ＰＬ．22　1　８号住居全景
2　８号住居遺物（11）出土状況
3　８号住居遺物（1・2・3・4・5）出土状況
4　８号住居遺物（2・3・4・5）出土状況
5　８号住居遺物（1・2・3・4・5）出土状況
6　８号住居遺物（11・12）出土状況
7　８号住居遺物（6）出土状況
8　１号住居全景
ＰＬ．23　1　２号住居全景
2　２号住居竈部
3　２号住居遺物（1・3）出土状況
4　３号住居全景
5　３号住居遺物出土状況
ＰＬ．24　1　４号住居全景
2　４号住居遺物出土状況
3　４号住居竈部周辺遺物出土状況
4　４号住居土層堆積状況
5　４号住居遺物（4・3）出土状況
6　18号住居全景
7　18号住居土層堆積状況
8　18号住居竈部周辺遺物出土状況
ＰＬ．25　1　16号住居全景
2　16号住居土層堆積状況
3　16号住居竈部遺物出土状況
4　16号住居遺物（４）出土状況
5　31号住居土層堆積状況
6　31号住居竈部遺物出土状況
7　31号住居遺物（18）出土状況
8　31号住居貯蔵穴内遺物出土状況
ＰＬ．26　1　19号住居全景
2　19号住居遺物出土状況

3　26号住居全景
4　26号住居遺物出土状況
5　24号住居遺物出土状況
6　24号住居土層堆積状況
7　24号住居遺物出土状況
ＰＬ．27　1　12号住居全景
2　12号住居遺物（石製紡錘車）出土状況
3　14号住居全景
4　14号住居土層堆積状況
5　14号住居遺物出土状況
6　17号住居全景
7　6号住居全景
8　15号住居全景
ＰＬ．28　1　中央大溝全景（東より）
2　中央大溝土層堆積状況
3　中央大溝西コーナー部
4　近世炭窯全景
5　炭窯炊口部
6　炭窯炊口部近景
7　炭窯煙道部
ＰＬ．29　1　7号住居出土遺物
2　9号住居出土遺物
3　22号住居出土遺物
ＰＬ．30　1　13号住居出土遺物
2　20号住居出土遺物
3　28号住居出土遺物
ＰＬ．31　1　5号住居出土遺物
2　8号住居出土遺物
3　3号住居出土遺物
ＰＬ．32　7号住居出土遺物
9号住居出土遺物
ＰＬ．33　10号住居出土遺物
11号住居出土遺物
22号住居出土遺物
ＰＬ．34　13号住居出土遺物（1）
ＰＬ．35　13号住居出土遺物（2）
ＰＬ．36　13号住居出土遺物（3）
ＰＬ．37　20号住居出土遺物（1）
ＰＬ．38　20号住居出土遺物（2）
ＰＬ．39　23号住居出土遺物
29号住居出土遺物
30号住居出土遺物
ＰＬ．40　28号住居出土遺物
ＰＬ．41　32号住居出土遺物
33号住居出土遺物
各住居出土土器（拓影図掲載遺物）
各住居出土東北系土器（拓影図掲載遺物）
ＰＬ．42　2号方形周溝墓出土遺物
4号方形周溝墓出土遺物
5号方形周溝墓出土遺物
ＰＬ．43　5号住居出土遺物
ＰＬ．44　8号住居出土遺物
34号住居出土遺物
3号住居出土遺物
ＰＬ．45　2号住居出土遺物
ＰＬ．46　4号住居出土遺物
16号住居出土遺物
31号住居出土遺物
ＰＬ．47　18号住居出土遺物
19号住居出土遺物
24号住居出土遺物
26号住居出土遺物
ＰＬ．48　12号住居出土遺物
14号住居出土遺物
15号住居出土遺物
地割れ内出土遺物
ＰＬ．49　7号住居出土石器
33号住居出土石器
13号住居出土石器
20号住居出土石器
10号住居出土石器
9号住居出土石器
33号住居出土磨製石斧
33号住居出土特種磨石
20号住居出土磨製石斧
ＰＬ．50　各住居出土横長削器・掻器
33号住居・32号住居出土石核掻器
7号住居・23号住居・32号住居出土石核

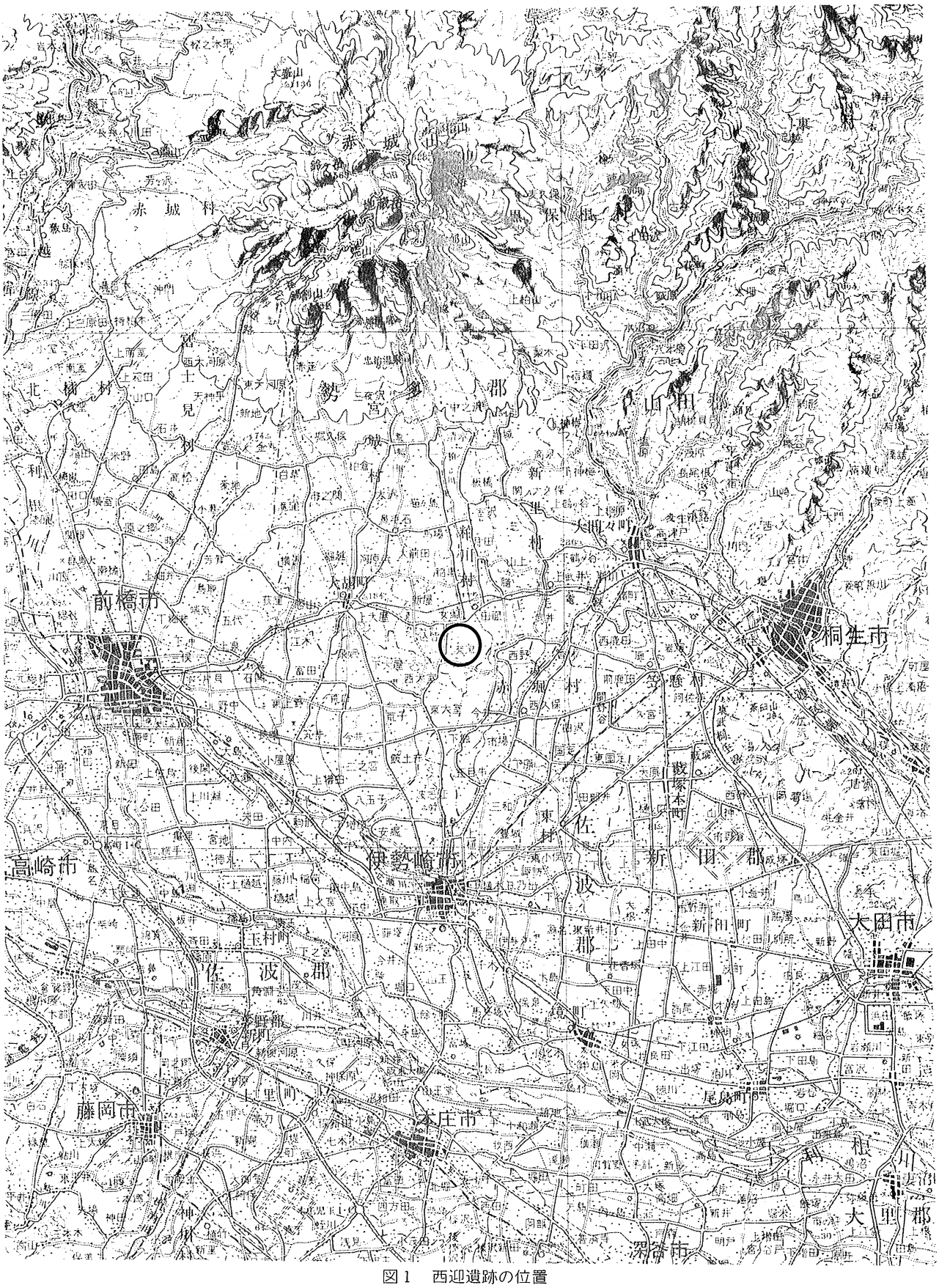


図１　西迎遺跡の位置

Ⅰ　発掘調査の経緯

粕川村は昭和53年度より県営圃場整備事業をほぼ全村にわたって実施することとなった。粕川村教育委員会では、それに伴って、直接破壊を受ける埋蔵文化財の記録保存を目的として発掘調査を昭和54年度より開始した。

本書で報告する昭和60年度は、深津三ケ尻・西迎地区及び女淵八幡地区が圃場整備事業該当区とされた。当初、両地区には7カ所の埋蔵文化財包蔵地と1カ所の古墳の存在が予想されていた。教育委員会ではこれらの遺跡の取り扱いについて、工事施工者である群馬用水土地改良事業所と数度にわたり調整を行った。その結果、これらの周知の遺跡については、圃場整備工事着手前に詳細な試掘調査を行い、その結果に基づいて現状保存あるいは記録保存かを判断することとなった。

試掘調査は昭和60年9月21日より開始した。これにより当該7遺跡の内、深津西迎遺跡、深津三ケ尻遺跡、深津西原遺跡、女淵松原田遺跡の4遺跡について、工事変更等による現状保存が不可能と判断され、記録保存を目的とした発掘調査を実施することとなった。また、圃場整備工事中に深津西原遺跡に近接する土塁状遺構が古墳であることが判明したため急遽調査を行うこととなった。

発掘調査は昭和60年10月14日より開始し、昭和61年1月14日まで行った。調査期間は延べ85日、調査面積は延べ16,280m²、調査参加人員は延べ3,476名であった。

本書の『西迎遺跡』については、昭和60年10月21日から同年12月19日まで調査を実施した。

調査期間は延べ52日、調査面積は8,400m²、調査参加人員は延べ1,572名であった。

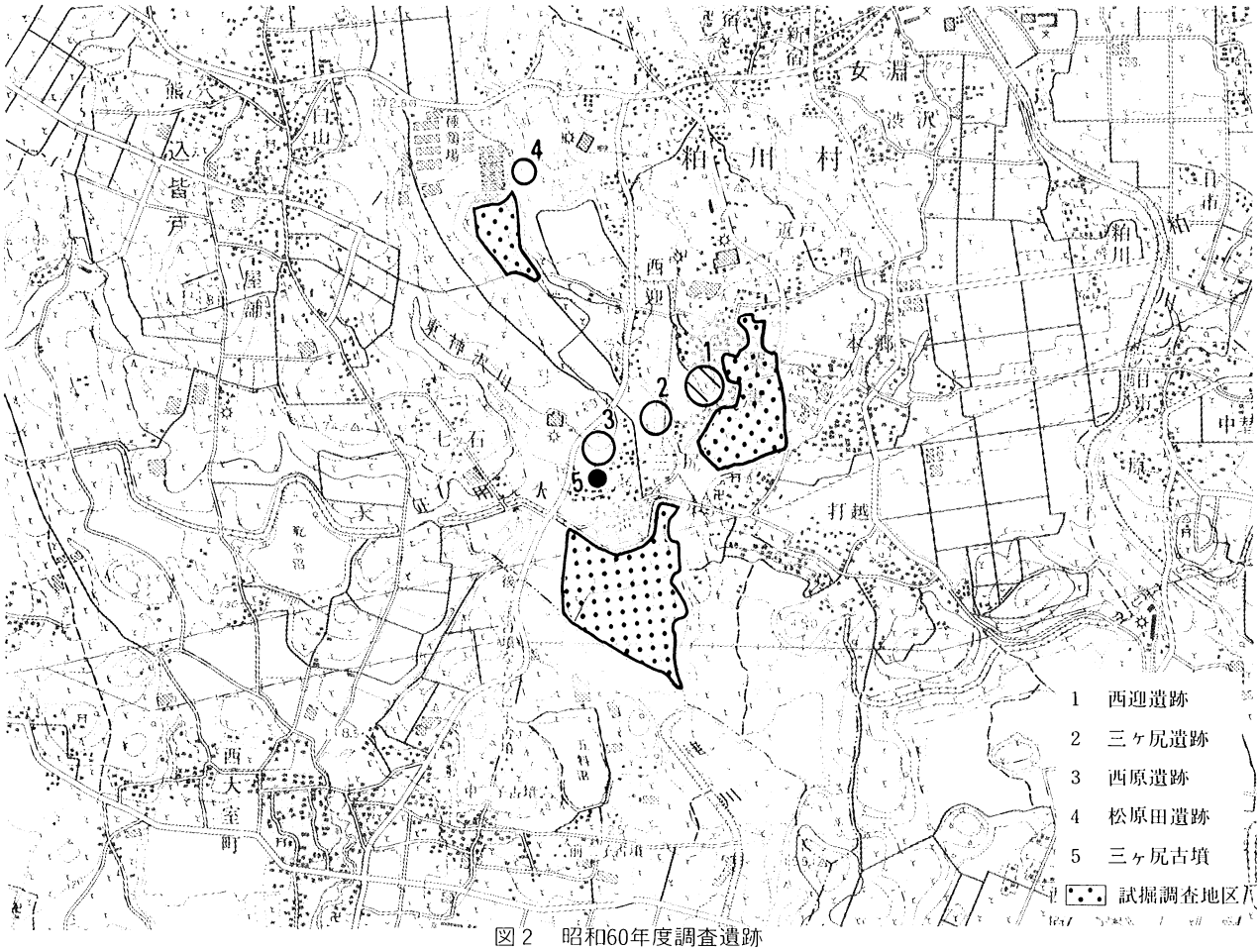


図2　昭和60年度調査遺跡

II 発掘調査の概要

1　西迎遺跡の位置

西迎遺跡は、粕川村の南西部の大字深津にある。上毛電鉄新屋駅より南に約2㌔の距離に当たる。小字「西迎」の集落の南端に位置する。

遺跡は粕川・荒砥川扇状地によって侵食され、独立丘陵状をなす洪積台地南端にある。遺跡地はなだらかな幅の広い舌状台地状である。西は赤城山山麓の染み出し水による湿潤な開析谷が南北に延びる。この開析谷の谷頭には「頭無沼」と呼ばれる大きな溜め池がある。東も洪積台地から扇状地面を開析する浅い谷が入り込む。南は桂川に向かって、一見なだらかな段丘状の地形が続くが、試掘調査を行うと北からの細い開析谷が何本も入り込み複雑な状況を見せている。現在でも、これらの開析谷は良好な水田として利用されている。

遺跡の標高は遺跡中央で147.6㍍である。西の谷地との比高差は約5㍍、東の谷地との比高差は約1.5㍍程である。

2　周 辺 の 遺 跡

西迎遺跡の周辺は遺跡の密集地域である。西迎遺跡の位置する洪積台地や洪積台地縁辺の扇状地面には弥生時代から奈良・平安時代にかけての遺跡が切れ目無く分布する。

西迎遺跡の西の谷地を挟んで東側の台地上には方形周溝墓2基と古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落である三ケ尻遺跡、古墳時代前期の環濠集落である西原遺跡、縄文時代中期の集落と古墳時代中期の集落から成る後原遺跡が続き、さらにその北には古墳時代後期の横穴式石室を主体部とする古墳20基前後と平安時代の小集落及び炭窯跡からなる西原古墳群が続く。

西迎遺跡の北には、10基前後の中・後期の古墳からなる近戸・聖天古墳群がある。

東には古墳時代後期から奈良・平安時代の集落遺跡である友成遺跡が、その北には古墳時代前期から古墳時代後期前半の近戸遺跡へと続いている。友成遺跡の南には方形に濠のめぐる坂田城跡と呼ばれる時期不明の城館跡がある。

これらの遺跡が成立する背景については、すでに『粕川村の遺跡』のなかで指摘されている。

欠水性の地域である粕川扇状地内にあって、本遺跡のある残丘状の洪積台地が比較的自然湧水を多く持ち、それに伴う湿潤な谷地が多く形成されるという条件によるものである。また、周辺の時期別の遺跡の分布を見ると、弥生時代の遺跡は明らかに自然河川や自然湧水などによる湿潤な谷地に近接して分布する。その例として西迎遺跡や前原遺跡が挙げられる。また、古墳時代前期以降、特に古墳時代中期以降には粕川扇状地内への遺跡の積極的な進出が見られる。それらの遺跡の分布はやはり扇状地内の自然河川や自然湧水を伴う谷地を目指して進出し、その後に集落は谷地に沿って拡大していくことが伺える。渋沢遺跡、友成遺跡、下池皆戸遺跡等がその例として挙げられよう。

3　調査の方法と概要

調査は圃場整備事業によって直接破壊される部分全域を対象として実施した。調査は当初、表土等の残土を調査区域内で処理しなければならないことからトレンチ調査を実施し、調査対象区内の遺構のある部分と無い部分の確認を行ってから開始した。型重機を導入し遺跡全面の表土を剝ぎ、北から順次精査していった。

調査にあたっては、遺構図面の作成に写真測量を遺物の取り上げに電子野帳を導入するなど極力迅速化を図った。

遺跡内の基本土層は赤城山南麓地域の洪積台地の一般的な堆積状況であった。

調査遺構は以下のとおりである。

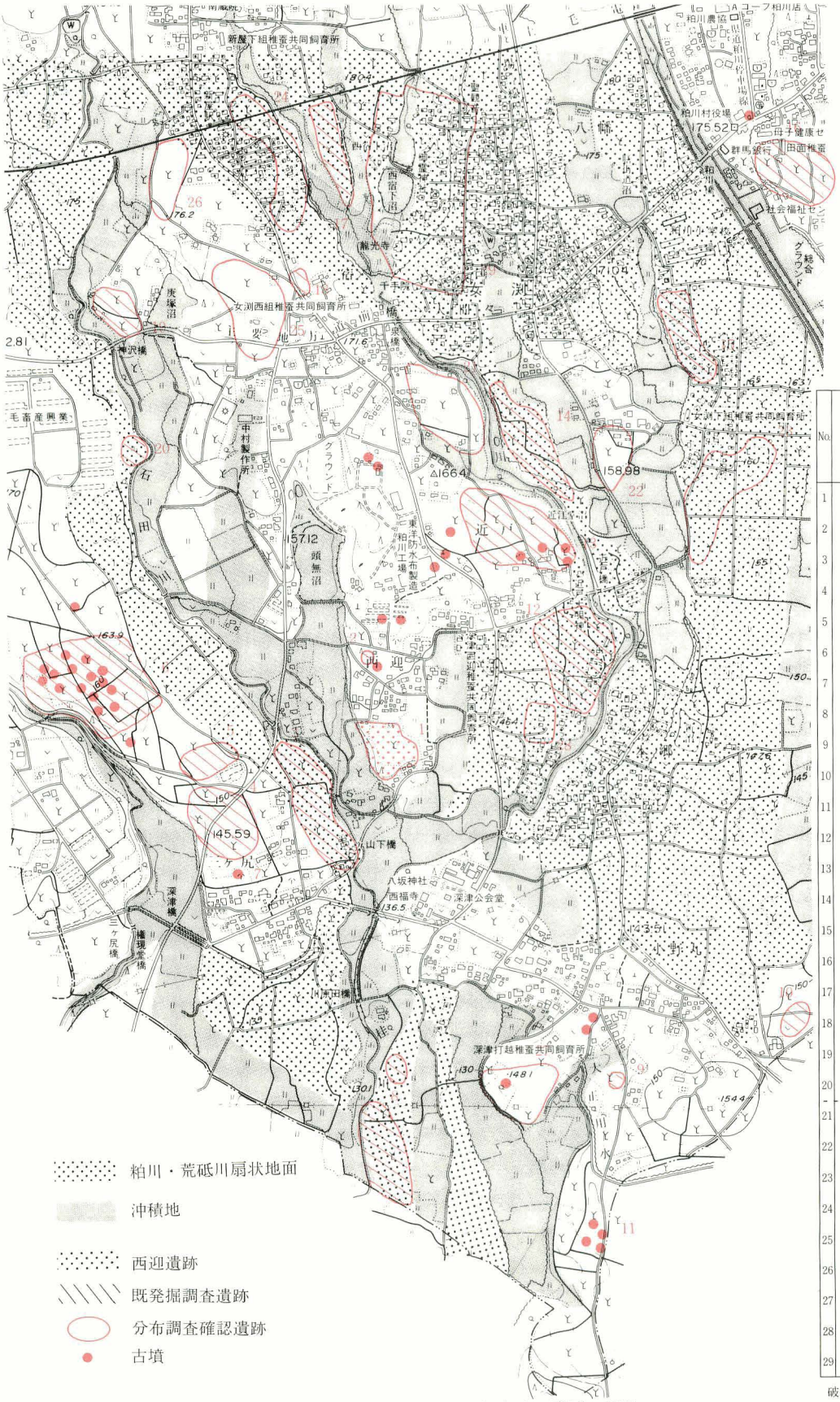
縄文時代　陥し穴8基が調査された。遺物の出土は無く、他の遺構も検出されなかった。

弥生時代　弥生時代中期後半の住居15軒が調査された。15軒の内5軒は焼失家屋である可能性が高い。

古墳時代　方形周溝墓7基、古墳時代前期の住居2軒、中期の住居3軒、後期の住居5軒が調査された。

奈良・平安時代　住居8軒が調査された。

他に時期不明の遺構として、住居1軒、炭窯1基、溝4条が検出された。



No.	遺跡名	縄文	弥生 中	弥生 後	古墳 前	古墳 中	古墳 後	奈良	平安
1	西迎遺跡	◇	◇		◇	◇	◇	◇	◇
2	西迎遺跡	◇		◇					
3	三ケ尻遺跡			◇	◇	◇	◇	◇	◇
4	西原遺跡			◇	◇	◇			
5	後原遺跡	◇				◇			
6	西原古墳群	◇			◇			◇	◇
7	三ケ尻古墳						◇		
8	五反田遺跡			◇	◇	◇	◇	◇	◇
9	前原遺跡	◇	◇						
10	稲荷山遺跡	◇			◇			◇	
11	三騎堂古墳群					◇			
12	友成遺跡						◇	◇	◇
13	近戸古墳群	◇			◇	◇	◇		
14	下池皆戸遺跡					◇	◇	◇	◇
15	渋沢遺跡					◇	◇		◇
16	前田遺跡	◇				◇	◇	◇	
17	稲荷田遺跡					◇	◇	◇	◇
18	吹上遺跡	◇					◇	◇	◇
19	庚塚遺跡	◇					◇	◇	◇
20	松原田遺跡								◇
21	近戸遺跡						◇	◇	◇
22	新宿遺跡						◇	◇	◇
23	横手遺跡						◇	◇	◇
24	新屋宿遺跡			◇			◇	◇	◇
25	大塚遺跡	◇					◇	◇	◇
26	大塚遺跡	◇							
27	丸山遺跡			◇			◇		
28	坂田城址								
29	女淵城址								

破線以下は未調査遺跡
（分布調査報告参照）

図３　西迎遺跡と周辺の遺跡

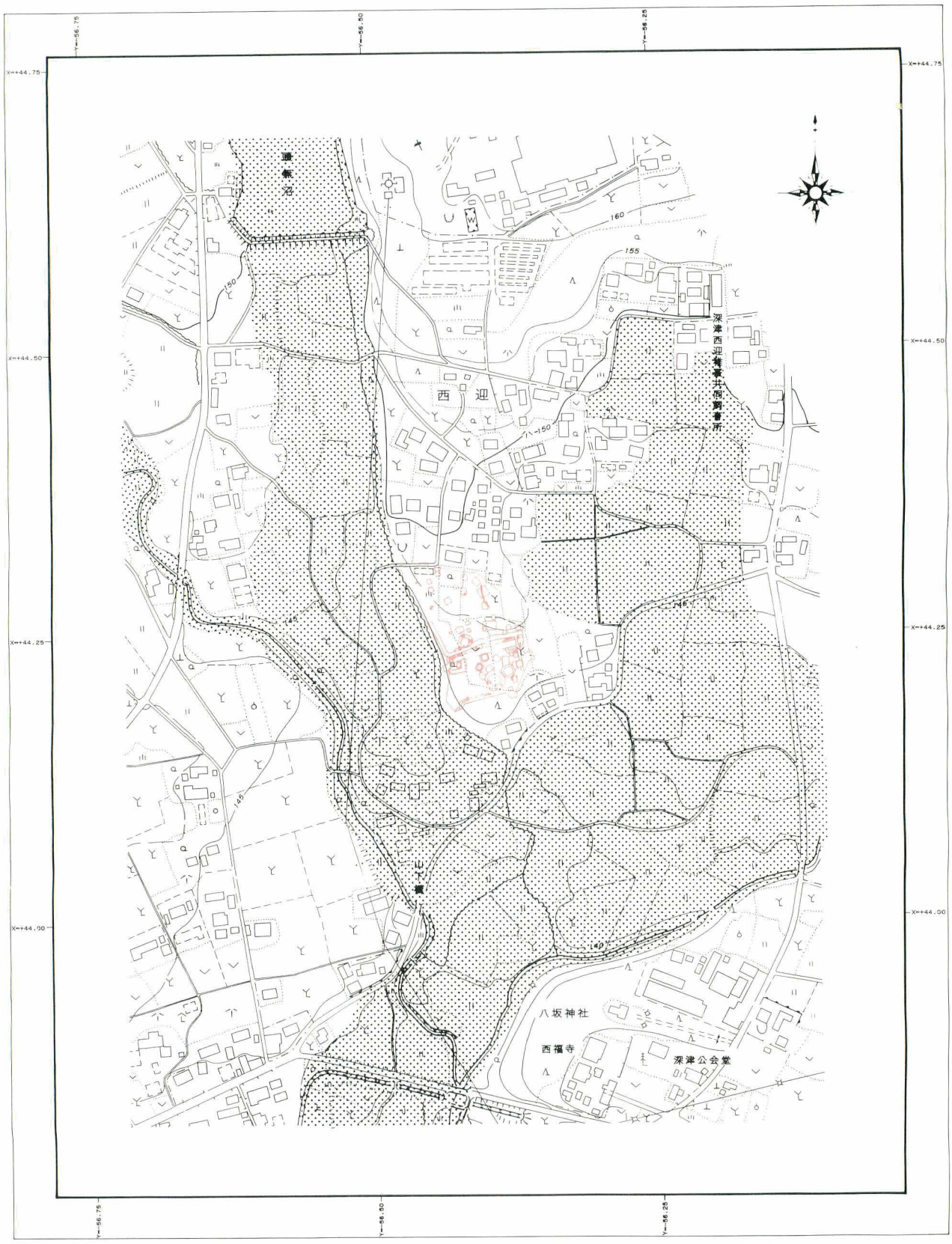


図4　西迎遺跡調査図

III 調査の記録

1 弥生時代の遺構と遺物

7号住居（図5・6、PL. 5・29・32・49・50）

形状 平面形はやや隅の丸い長方形で、各辺はやや中央部が張る。長辺6.08、短辺3.8㍍である。確認面からの掘り込みは浅く、住居の残りは比較的悪い。壁高は、最も残りの良い部分で30㌢である。

床面積 26.02㎡

方位 N－5.5°－W

床面 軟らかく、張り床等は確認できなかった。

炉址 円礫使用の炉石2石を持つ地床炉が中央やや北よりに検出された。炉面は良く焼けて赤化していた。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。P_1長径52×短径20×深さ37.8㌢・$P_2$32×32×36.4・$P_3$30×26×10.1・$P_4$32×28×28.7・$P_5$28×20×16.0・$P_6$36×30×17.9・$P_7$68×48×16.4

遺物 床面直上から比較的多くの遺物が出土したが完形のものは少ない。甕38のみ完形であった。甕38は炉址の周辺から出土した。図上復元ができるものでそれぞれ壺7・甕3・高坏？1・鉢1・台付き鉢1固体が出土した。また、磨り石類の出土が多い。石1は砂岩の砥石、石123・11は安山岩の磨り石、石5・4は片岩系の円礫である。他に安山岩の石核9、削器13、黒色頁岩製の削器？が出土した。石核9は円礫を分割し自然面を打面として概ね求心的な剥片剥離を行っている。作出される剥片は不整形な小型のものである。

備考 住居埋め土中第4層中には焼土や炭化物が含まれ、焼土のブロックも確認できた。焼土ブロックは住居の壁よりに多く検出された。但し、明瞭な炭化材の出土はなかった。貯蔵穴と考えられるものは検出できなかった。住居の一部は時期不明の井戸によって切られている。

9号住居（図8、PL. 6・29・32・49）

形状 平面形は長方形で長辺6.48、短辺4.72㍍である。確認面からの住居の掘り込みは浅く、壁高は最も残りの良い部分で23㌢である。

床面積 29.97㎡

方位 N－6.5°－W

床面 軟らかく張り床状のものは確認できなかった。また、床面は中央部に向かって僅かに傾斜を持ちくぼむ。

炉址 地床炉で、拳大の円礫を用いた炉石を2個持つ。焼土はあまり残っていなかった。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。P_1長径36×短径38×深さ60.1㌢。

遺物 完形の遺物の出土はなかった。壺3・甕2が出土した。壺81は、貯蔵穴と考えられるP_1内から出土した。他に、磨り石3・削器2が出土した。磨り石6・61は安山岩製、58は砂岩製である。削器55は安山岩製、29は頁岩製でいずれも周縁加工のものである。

備考 埋め土第4層中には焼土や炭化物を含んでいた。貯蔵穴は円形で長径52×短径50×深さ30㌢である。一部を時期不明の溝で切られている。

10号住居（図9、PL. 5・33・49）

形状 やや隅の丸い長方形で長辺5.3、短辺3.5㍍である。確認面からの掘り込みは浅く住居の残りは悪い。壁高は最も残りの良い部分で13㌢であった。

床面積 19,45㎡

方位 N－23.5°－W

床面 軟らかく不明瞭である。張り床状のものは検出されなかった。

炉址 住居中央に検出された。焼土の残りは極めて悪い。

柱穴 明瞭な柱穴は検出できなかった。P_1長径24×短径24×深さ11㌢・$P_2$34×32×25.7・$P_3$36×32×31.4・$P_4$62×30×39.4・$P_5$28×28×25.5・$P_6$44×42×41.9。

遺物 甕1、壺1、磨り石1、削器1が出土した。甕1はほぼ完形である。磨り石は安山岩製で炉の周辺から出土した。削器は黒色頁岩製の周辺加工のものである。

備考 埋め土中には焼土や炭化物を含み、焼土ブロックが住居の壁周辺で検出された。貯蔵穴は検出されなかった。

11号住居（図10、PL. 6・33）

形状 やや隅の丸い長方形で長辺6.9、短辺4.8㍍である。住居の残りは極めて悪く、壁高は最も残りの良い部分で14㌢である。

床面積 34.07㎡

方位 N－43.5°－W

床面　軟らかく不明瞭で、張り床は検出されなかった。
炉址　地床炉で拳大の円礫4個からなる炉石を持つ。焼土の残りは悪い。
柱穴　明瞭な柱穴は検出できなかった。P_1長径56×短径40×深さ26.1㌢・$P_2$44×36×50.8・$P_3$38×24×16.5・$P_4$68×38×45.7・$P_5$40×32×24.6・$P_6$26×24×32.3・$P_7$46×42×60.1・$P_8$36×30×38.3・$P_9$32×24×38.8・P_{10}36×32×28.9・P_{11}32×18×33。
遺物　図上復元は壺1、甕1、台付き鉢1が可能であった。石器は削器2が出土した。削器69は頁岩製の縦型の削器である。削器2は硅岩質の薄い石材を用いた周辺加工の削器である。
備考　埋め土中には焼土粒子、焼土ブロックや炭化物が多く含まれていた。貯蔵穴は検出されなかった。

13号住居（図11・12・13、ＰＬ．7・8・9・30・34・35・36・49）
形状　長方形の大型住居で長辺11.68、短辺7.4㍍である。住居の残りは極めて良好で、確認面からの壁高は43㌢である。また、壁下には壁周溝が巡らされる。周溝幅は上幅56～18、下幅18～6㌢、床面からの深さは3.2～8.9㌢である。
床面積　73.6㎡
方位　N－87°－E
床面　軟らかく、張り床状の床は確認されなかった。中央に向かって緩やかな傾斜を持ち、中央部が僅かにくぼむ。
炉址　住居中央にある地床炉で、拳大の円礫の炉石2個を持つ。焼土、灰がよく残っていた。
柱穴　明瞭な柱穴は検出できなかった。P_1長径26×短径24×深さ31.1㌢・$P_2$38×26×24.8・$P_3$26×22×19.4・$P_4$40×24×23.6・$P_5$22×20×14.6・$P_6$52×44×25.4・$P_7$40×22×29.5・$P_8$32×24×23.6・$P_9$34×32×25.7・P_{10}72×72×17.3。P_6については貯蔵穴と考えられる。
遺物　遺物の残りは良好で床面直上から完形土器が多く出土した。図上復元遺物を含めて壺17、甕5、甑1、鉢1、土製品1が出土した。

壺185と壺196は住居中央北壁よりの床面直上から、近接して出土した。壺360・298は住居北東よりからまとまって出土した。壺459はP_6内から出土した。壺94は住居西壁より中央部から出土した。

他に磨り石と掻器が出土した。228・227・216・486一括1が安山岩の磨り石である。一括2は片岩の自然円礫である。掻器は黒色安山岩製で剝片の端部に僅かに二次加工を施したものである。
備考　床面からは炭化材が出土した。しかし、明瞭な焼土等は確認できなかった。

20号住居（図15・16、ＰＬ．10・11・30・37・38・49）
形状　長辺5.7、短辺4.9㍍のやや隅の丸い長方形である。住居の残りは非常に良好で確認面からの壁高は47㌢である。
床面積　27.4㎡
方位　N－65°－E
床面　やや硬く明瞭である。ただし、張り床状のものは検出されなかった。
炉址　地床炉で住居のほぼ中央に位置する。炉石を持たない。焼土、灰層は不明瞭である。
柱穴　規則的に並ぶ柱穴は確認できなかった。P_1長径38×短径24×深さ21㌢・$P_2$24×20×29・$P_3$48×40×22・$P_4$24×24×27・$P_5$28×22×20・$P_6$28×20×29・$P_7$32×20×31・$P_8$36×20×41.6・$P_9$20×16×22.9
遺物　遺物の残りは良好で床面直上から多くの遺物が出土した。図化できたもので壺8・甕4・甑1が出土した。また、大型磨製蛤刃石斧1、削器1、磨り石3が出土した。9の大型磨製蛤刃石斧は蛇紋岩製で刃部を欠失している。残存長16.9・最大幅8.3・最大厚5.8㌢・重さ1409㌘である。一括1は頁岩製の削器で刃部には細かな二次調整が見られる。磨り石3は砂岩製、7は安山岩製のものである。一括2は軽石製で両面に幅の広い磨り溝がある。
備考　床面直上から炭化材や焼土がおおく検出された。

21号住居（図7、ＰＬ．12）
形状　平面形は不整形な長方形で長辺2.1、短辺2.0㍍である。壁高は確認面からの深さ49㌢である。
床面積　3.6㎡
方位　N－87.5°－E
床面　明瞭であるがやや軟質である。
炉址・柱穴は検出されなかった。
遺物　完形品の出土はなかった。
備考　他の住居と比べかなり小型であり、土壙としてとらえたほうが良いかもしれない。

22号住居（図17、ＰＬ．12・29・33）
形状　2号方形周溝墓、中央大溝によって切られ、住居の北端の一部しか残っていなかった。残存する東西辺の長さは5.3㍍であり、20号住居とほぼ同規模の住居と推定できる。壁高は残存する北側の確認面からの高

さで50㌢である。
方位　N－70°－E
床面　やや軟質であるが明瞭である。
炉址　検出されなかった。
柱穴　主柱穴２本が検出できた。P_1長径34×短径20×深さ41.7㌢・$P_2$40×32.0×46.4
遺物　床面直上から壺３、削器１が出土した。また、住居埋め土中上層から小型広口壺１、台付き甕の脚部１が出土している。

23号住居（図23、ＰＬ．12・39・50）
形状　北側と南側を大溝によって切られている。また、住居西辺より中央では縄文期の陥し穴を切る。残存する東西辺は5.58㍍である。確認面からの壁高は最も残りの良い部分で34㌢である。住居壁下には壁周溝が巡る。周溝は上幅32～14×下幅18～4×深さ10～15㌢である。
方位　N－19°－W
床面　やや軟質。張り床状の部分はなかった。
炉址　住居中央部やや南にある地床炉である。炉石は持たない。また、焼土等も少ない。
柱穴　規則的に並ぶ柱穴の検出はなかった。
遺物　床面直上から椀１、匙形土製品１、黒色安山岩製の石核１、砂岩製の磨石１が出土した。また、埋め土中からは壺１が出土している。

25号住居（図14、ＰＬ．12）
形状　遺構の残りは極めて悪く南側は一部不明である。平面形は隅の丸い長方形と推定される。残存する東西辺の長さ3.7㍍である。壁高は最も残りの良い部分で20㌢である。
方位　N－19.5°－W
床面　柔らかく不明瞭である。
炉址　地床炉で住居中央やや南にある。２個の炉石を持つ。焼土は極めて薄い。
柱穴　柱穴は検出できなかった。
遺物　床面よりやや浮いた状態で壺１、椀１が出土した。

27号住居（図18、ＰＬ．13）
形状　平安期の26号住居によって一部を切られている。東西辺3.62、南北辺4.1㍍、壁高は36㌢である。
床面積　11.49㎡
方位　N－13.5°－W
床面　比較的軟らかい。叩き絞め状や張り床は検出されなかった。
炉址　検出されなかった。
柱穴　明瞭な柱穴は検出されなかった。
遺物　土器片数点と石斧１が出土した。出土した土器は復元図化できるものはなかった。いずれも、無文土器片であった。
備考　貯蔵穴は検出されなかった。

29号住居（図19、ＰＬ．13・39）
形状　４号方形周溝墓によって南東隅の一部を切られている。平面形は南北に長い長方形で北壁の中央がやや外に張り出す。長辺6.7、短辺4.7㍍、壁高は北側の最も残りの良い部分で48㌢である。
床面積　（24.7）㎡
方位　N－39°－E
床面　明瞭だがやや軟質。
炉址　住居中央やや南にある。地床炉で炉石を持たない。焼土は極めて薄い。
柱穴　規則的に並ぶ柱穴は検出できなかった。P_1長径84×短径72×深さ118㌢・$P_2$28×26×32・$P_3$38×28×48.8・$P_4$26×20×25。
遺物　床面直上から壺３、片岩の自然礫１が出土した。また、埋め土中に住居に流れ込むような状態で大型の甕１が出土した。
備考　床面直上からは炭化材が多く出土した。しかし、焼土は検出されなかった。

30号住居（図20、ＰＬ．14・39）
形状　一部を７号円形周溝墓及び古墳時代の住居31号住居によって切られている。平面形は南北に長い長方形で長辺5.8、短辺4.6㍍である。壁高は最も残りの良い部分で確認面から深さ46㌢である。
床面積　27.5㎡
方位　N－21°－E
床面　明瞭だがやや軟質である。
炉址　検出されなかった。
柱穴　４本が検出された。P_1長径28×短径26×深さ20㌢・$P_2$44×38×44.7・$P_3$20×18×28・$P_4$26×24×24
遺物　図化できる遺物として、床面直上から壺２、甕２が出土した。また、床面直上からやや浮いた状態で、埋め土中から壺１、甕１が出土している。

32号住居（図21・22、ＰＬ．15・41・50）
形状　７号円形周溝墓に一部を切られている。平面形は南北に長い長方形で長辺９、短辺5.8㍍である。ただし、東西辺については一部のみの確認である。壁高は北壁の最も残りの良い部分で30㌢である。

床面積　(46.7) m²
方位　N－2°－W
床面　やや軟質で張り床状のものは検出できなかった。
炉址　住居ほぼ中央にある地床炉で、多孔質安山岩の炉石を1石持つ。焼土は僅かにみとめられた。
柱穴　不規則に並ぶ4本が検出できた。P_1長径52×短径48×深さ36㌢・$P_2$76×50×36.4・$P_3$28×20×18.1・$P_4$44×36×26.3
遺物　壺7、土製紡錘車2が出土している。壺4の肩部は7号周溝墓の周溝底から出土した。高坏は埋め土上層からの出土である。また、石器類の出土が多い。削器・掻器4、石核2が出土した。安山岩製の76を除き総て黒色頁岩製のものである。

33号住居（図24、ＰＬ．15・41・49・50）
形状　平面形は不整形な長方形である。南隅が不明瞭であった。長辺6.0、短辺5.2㍍、壁高は最も残りの良い部分で30㌢である。
床面積　28.79m²
方位　N－62.5°－W
床面　やや軟質で不明瞭。
炉址　地床炉で、ほぼ住居中央にある。焼土は極めて薄く、炉石を持たない。
柱穴　明瞭な柱穴は検出できなかった。P_1長径80×短径48×深さ36.4㌢・$P_2$72×52×37.1
遺物　完形品の出土は無かった。壺88はP_2内から出土した。他に土製紡錘車1、石鏃1、磨製石斧1、掻器2、特種磨石1、片岩自然偏平円礫4が出土した。安山岩製の特種磨石と頁岩製の片面加工の石核掻器についてはその所属時期に問題があり、本住居に伴うものかどうかについては今後の課題としておきたい。

2　古墳時代前期の遺構と遺物

28号住居（図27、ＰＬ．16・30・40）
形状　南辺を4号方形周溝墓によって切られている。東西辺は5.56㍍で、南北辺は不明である。壁高は最も残りの良い部分で、確認面から50㌢である。
床面積　(26.30) m²
方位　N－33.5°－W
床面　壁よりがやや叩き絞め状であったが貼り床はなかった。
炉址　検出されなかった。
柱穴　規則的に並ぶ4本の主柱穴を検出できた。P_1長径32×短径30×深さ64.7㌢・$P_2$90×76×44.4・$P_3$52×44×60.2・$P_4$36×32×34.5・$P_5$30×24×39.1・$P_6$26×20×20.7・$P_7$64×44×54.7・$P_8$68×44×28.5・$P_9$40×32×41.6・P_{10}34×30×38。
遺物　壺2、甕1、台付き甕1、小型甕1、片口1、蓋1、小型器台2が出土した。遺物は殆どが床面直上からの出土である。住居南東隅からまとまって出土した。
備考　住居床面からは炭化材や焼土が多く検出された。

34号住居（図37、ＰＬ．44）
形状　平面形は南北に長い隅の丸い長方形である。住居の残りは極めて悪い。長辺4.68、短辺3.96㍍である。壁高は最も残りの良い部分で18.5㌢であった。
床面積　18.21m²
方位　N－31°－W
床面　軟らかく不明瞭である。
炉址　検出されなかった。
柱穴　明瞭な柱穴の検出はなかつた。P_1長径70×短径36×深さ45.1㌢・$P_2$52×32×36.2・$P_3$28×24×40.9・$P_4$44×36×24.6・$P_5$68×64×14.7
遺物　甕1、椀1、高坏2の出土があったが、いずれも住居上層の出土であった。

1号方形周溝墓（図28、ＰＬ．17）
墳丘　平面形は方形で、周堀の各一辺が膨らみを持ち外に張り出す。4隅も丸い。周堀の外側まで含む東西長11.56、南北長11.96㍍である。墳丘は一辺約7㍍の方形である。墳丘には盛り土は認められず、主体部も検出されなかった。周堀の一部は大溝によって切られている。主軸方向はN－21°－Eである。
周堀　上幅2.9～1.9㍍、下幅0.95～0.6㍍、深さ0.49～0.98㍍で、断面は箱薬研形である。
遺物　出土しなかった。

2号方形周溝墓（図29、ＰＬ．18・42）
墳丘　周堀の外側までを含む東西長15.4、南北長15.24㍍の方形周溝墓で、時期不明の溝等による攪乱が著しい。墳丘の南東部の一部の残りが比較的良好であった。墳丘上には旧表土が確認できることから、盛り土の存在も予想される。主体部は検出されなかった。主軸方向N－9.5°－Wである。
周堀　上幅4.4～3.31㍍、下幅3.3～1,5㍍、深さ0.54～0.98㍍で断面は逆台形状である。周堀の立ち上がりは外側はなだらかに、墳丘よりは垂直に立ち上がる。

遺物　周堀内より壺４、甕１の出土があった。

備考　周堀内で縄文時代の陥し穴１基が検出された。

３号方形周溝墓（図30、ＰＬ．17）

墳丘　時期不明の溝によって切られ、遺構の残りは極めて悪い。東西長13.7、南北長13.6㍍で主軸方向はＮ－11°－Ｗである。盛り土はみとめられなかった。主体部は検出されなかった。

周堀　上幅2.08～3.72、下幅0.8～2.3、深さ0.51～0.64㍍で、断面形は逆台形状である。

遺物　出土しなかった。

４号方形周溝墓（図31、ＰＬ．19・42）

墳丘　平面形は周堀の各辺に膨らみを持ち、外側に張り出す。周堀を含めた南北長15.88、東西長17.32㍍である。墳丘部は南北長9.0㍍、東西長9.6㍍の方形である。現況で１㍍前後の僅かな高まりがみとめられ、墳丘断ち割りの結果でも旧表土上に僅かに盛り土が確認できた。主体部は検出されなかった。主軸方向はＮ－36.5°－Ｗである。

周堀　上幅4.40～2.6、下幅1.9～0.8、深さ0.80～1.53㍍で、断面は逆台形状で、墳丘側の立ち上がりはほぼ垂直に近い。

遺物　周堀内から大型高坏１、壺１、甕１、坩１が出土した。

備考　周堀には縄文時代の陥し穴が２基が検出された。

５号方形周溝墓（図32、ＰＬ．20・42）

墳丘　東西長5.92、南北長6.64㍍の方形である。

周堀　上幅1.5～0.9、下幅0.5～0.15、深さ0.43～0.65㍍で、断面形は箱薬研状である。

遺物　壺１、小型高坏１が周堀内より出土した。

６号方形周溝墓（図33、ＰＬ．20）

墳丘　北辺を時期不明の溝によって切られている。東西長7.2、南北長7.6㍍である。

周堀　上幅1.8～0.7、下幅1.0～0.2、深さ0.33～0.62㍍で断面形は箱薬研状である。中央がやや張り出し丸みを帯びる。

遺物　出土しなかった。

７号方形周溝墓（図34、ＰＬ．20）

墳丘　４号方形周溝墓に一部を切られている。周堀を含めた東西長11.92、南北長11.20㍍である。墳丘には盛り土はみとめられなかった。主体部も検出されなかった。

周堀　上幅2.1～1.2、下幅1.4～0.5、深さ0.1～0.37㍍で、断面形は浅い逆台形状である。周堀の各辺は中央部が張り、丸みを帯びる。埋め土内にはＡｓ－Ｃの純層が検出された。

遺物　出土しなかった。

３　古墳時代中期の遺構と遺物

５号住居（図35、ＰＬ．21・31・43）

形状　平面形はやや隅の丸い長方形で、長辺4.7、短辺3.5㍍である。壁高は確認面からの31.9㌢である。

床面積　15.68㎡

方位　Ｎ－79°－Ｅ

床面　明瞭であるがやや軟らかく、貼り床や叩き絞め状の床は検出されなかった。

炉址　地床炉で住居のほぼ中央にある。焼土が僅かにみとめられた。

柱穴　主柱穴は検出されなかった。

遺物　殆どの遺物が床面直上からの出土であった。甕３、高坏３、小型坩８、双口瓢形坩１、小型甕２、椀１が出土した。

備考　貯蔵穴は住居南東隅に検出された。平面形は不整円形で、長径96×短径92×深さ44.7㌢であった。貯蔵穴内からは完形遺物の出土は無かった。

８号住居（図36、ＰＬ．22・31・44）

形状　住居の中央を南北に走る時期不明の溝によって切られる。平面形はほぼ正方形で、東西辺8.8、南北辺8.4㍍である。壁高は床面から垂直に立ち上がり、確認面からの高さは37.5㌢である。壁下には壁周溝が巡らされる。壁周溝は上幅40～18、下幅16～2、深さ7.9～6.4㌢である。

床面積　63.86㎡

方位　Ｎ－31°－Ｗ

床面　明瞭で、一部で叩き絞め状の部分がみとめられた。貼り床は無い。

炉址　検出されなかった。

柱穴　規則的に並ぶ４本の主柱穴が検出された。P_1長径32×短径30×深さ77.1㌢・$P_2$42×34×73.4・$P_3$36×28×68.9・$P_4$28×26×68.5

遺物　坩10、甕１、高坏２が出土した。遺物の出土は壁よりに偏っていた。

備考　貯蔵穴は住居南東隅に検出された。平面形は不整円形で、長径90×短径88×深さ48㌢であった。貯蔵穴内からは完形遺物の出土は無かった。

１号住居（図38、ＰＬ．22）

形状　発掘区の都合で、住居の北側の一部が調査できなかつた。また、南壁の一部を２号住居によって切られている。平面形は正方形が予想される。東西辺は4.08㍍である。壁高は確認面から54.6㌢であった。壁下には壁周溝が巡る。周溝の上幅40～18、下幅22～6、深さ7.9㌢であった。

床面積　(71.90) m²

方位　N－106.5°－E

床面　明瞭で一部で叩き絞め状であった。

竈　住居西壁中央に付設される。僅かに焼土がみとめられたが灰層や粘土はみとめられなかった。

柱穴　検出されなかった。

遺物　高坏２が出土したのみである。

備考　貯蔵穴は住居南西隅に検出された。平面形は円形で、長径76×短径70×深さ55.2㌢であった。

4　古墳時代後期の遺構と遺物

２号住居（図40、ＰＬ．23・45）

形状　１号住居の一部を切る。ほぼ正方形で、東西辺4.04、南北辺3.76㍍である。住居の残りは良好で、確認面からの壁高は51.2㌢である。

床面積　14.02m²

方位　N－80°－E

床面　堅く、叩き絞め状であった。しかし、張り床は検出されなかった。

竈　東辺中央やや南に付設される。袖及び炊口部に心材として長胴甕を用い、灰白色粘土で被覆している。

柱穴　検出されなかった。

遺物　長胴甕５、坏３、大型坏１、小型甕２が出土した。

備考　貯蔵穴は住居南東隅に検出された。平面形は長楕円形で長径84×短径56×深さ27.2㌢である。

３号住居（図39、ＰＬ．23・31・44）

形状　平面形はやや隅の丸い方形で、東西辺3.24、南北辺4.12㍍である。住居の残りは良好で壁高は64.4㌢である。

床面積　13.58m²

方位　N－84°－E

床面　堅く、一部に張り床がみとめられた。

竈　東辺中央やや南に付設される。袖部は褐色粘土のみで作られていた。土器、石等は用いられていない。

柱穴　検出されなかった。

遺物　坏５、椀１、鉢１、甕２が出土したが床面直上からの遺物の出土は少なかった。

備考　貯蔵穴は住居南東隅に検出された。平面形は不整円形で、長径56×短径26×深さ53.9㌢であった。

４号住居（図42、ＰＬ．24・46）

形状　平面形はほぼ正方形で、東西辺3.76、南北辺4.12㍍である。住居の残りは良好で、確認面からの壁高は53.3㌢である。

床面積　15.75m²

方位　N－1°－W

床面　堅く、叩き絞め状であったが張り床はみとめられなかった。

竈　北辺中央やや東よりと東辺中央とに１基づつ２基の竈を持つ。北辺の竈を１号竈、東辺のものを２号竈とする。２号竈は、焼土も殆ど無く、袖も検出されなかった。また、周辺から遺物の出土も無かった。１号竈は褐色粘土で袖を作り、先端に石を置く。

柱穴　検出されなかった。

遺物　坏９、甕２、須恵器高坏１、須恵器甕１が出土した。

備考　貯蔵穴は１号竈脇の住居北東隅に検出された。貯蔵穴の周りには僅かに土塁状に高い部分がある。長径92×短径80×深さ61.3㌢である。

16号住居（図41、ＰＬ．25・46）

形状　平面形はほぼ正方形で、東西辺3.72、南北辺4.20㍍である。住居の残りは良好で、確認面の壁高は66.3㌢である。

床面積　13.24m²

方位　N－78°－E

床面　堅く、叩き絞め状であった。張り床は検出されなかった。

竈　東辺中央に付設される。袖の先端に石を縦位置に据えるが、袖部については検出できなかった。遺物の出土状態からは炊口部の用材として長胴甕を用いていたことが考えられる。

柱穴　検出されなかった。

遺物　長胴甕２、坏４、鉢２、甑１、小型甕１が出土した。竈部周辺からの遺物の出土が多かった。

備考　貯蔵穴は検出されなかった。

31号住居（図44、ＰＬ．14・25・46）

形状　弥生時代中期後半の30号住居の一部を切り、時期不明の溝によって切られている。平面形はほぼ正方形で、一辺が5.24㍍である。最も残りの良い部分で確認面からの壁高は69.1㌢である。壁下には、西辺を除

き壁周溝が巡らされる。上幅40～18、下幅14～4.0、深さ5.3～7.5である。

床面積　21.95㎡

方位　N－110.5°－W

床面　堅く、叩き絞め状であり、一部で張り床が認められた。

竈　西辺中央に付設される。竈は灰白色粘土を用いて作られ、袖部先端に長胴甕を心材として用いている。

柱穴　主柱穴は規則的に並ぶ４本が検出できた。P_1長径20×短径18×深さ63.1㌢・$P_2$32×26×56.9・$P_3$20×12×85.7・$P_4$48×40×42.6・$P_5$28×24×58。

遺物　坏７、長胴甕２、台付き甕？１、須恵器甑１が出土した。坏は貯蔵穴底面からの出土が多く、甑は床面密着の状態で出土した。

備考　貯蔵穴は住居南西隅で検出された。平面形は隅丸の長方形で、長径76×短径56×深さ54.8㌢であった。

5　奈良・平安時代の遺構と遺物

18号住居（図43、ＰＬ．24・47）

形状　平面形はやや隅の丸い長方形で、東西辺3.48、南北辺2.92㍍である。壁高は最も深い部分で93.6㌢である。

床面積　6.42㎡

方位　N－81°－E

床面　本住居は平面図では、壁ぎわに一段犬走り状に床面を持ち更にその内側に一段下がた床面を持つという特異な形状となっている。調査中においては張り床等が確認できなかったため床面の二段になる特異な住居と判断したが、その後の土層断面の検討や遺物の出土状態から張り床が存在したものと考えたい。

竈　炊口部分に安山岩を用いている。焼土は余り顕著でない。

柱穴　明瞭な柱穴は検出されなかった。

遺物　坏７、鉢１、甕１が出土している。須恵器蓋１及び須恵器高台付き椀は上層からの一括出土である。鉢は竈にかけられた状態で出土した。

備考　貯蔵穴は検出されなかった。

17号住居（図45、ＰＬ．27）

形状　住居の上面は時期不明の溝等によって攪乱され、床面のみの検出であった。東西辺4.3、南北辺4.5㍍である。

床面積　（17.89）㎡

方位　N－72°－E

床面　堅く、叩き絞め状であった。

竈　東壁に僅かに竈の痕跡のみ確認できた。

柱穴　検出されなかった。

遺物　甕１のみ出土した。

19号住居（図46、ＰＬ．26・47）

形状　平面形は隅の丸い東西に長い長方形で、長辺6.24、短辺3.0㍍である。壁高は確認面からの深さ52㌢である。

床面積　7.34㎡

方位　N－98°－E

床面　張り床を施すが、あまり堅緻ではない。

竈　袖部に拳大の円礫を用いている。

柱穴　明瞭な主柱穴は検出されなかった。P_1長径32×短径24×深さ33.2㌢・$P_2$56×32×42.3

遺物　坏３、高台付き椀２、甕３（内、甕22は弥生土器）が出土しているが、甕一括３を除いて埋め土内からの出土が多い。甕一括３は竈内からの出土である。

備考　貯蔵穴は検出されなかった。

24号住居（図47、ＰＬ．26・47）

形状　調査区の都合で住居の約1/2のみの調査であった。東西辺3.6㍍である。壁高は1.25㍍であった。

床面積　（5.31）㎡

方位　N－74°－E

床面　堅く、叩き絞め状であった。

竈　袖部の先端に拳大の石を置く。竈内面は良く焼けていた。

柱穴　検出されなかった。

遺物　床面直上から須恵器坏２が出土した。甕は竈部分からの一括出土である。

備考　貯蔵穴は検出されなかった。本住居は818年に起きたとされる大地震によってできたと考えられる地割れによって住居の床面に亀裂が生じていた。

26号住居（図48、ＰＬ．26・47）

形状　３号方形周溝墓と弥生時代の２７号住居を切って作られている。平面形は南北に長い長方形で東西辺2.66、南北辺3.22㍍である。確認面からの壁高は39.0㌢である。

床面積　8.35㎡

方位　N－85°－E

床面　不明瞭で柔らかい。

竈　東辺の南よりに付設される。焼土が僅かに認められた。

柱穴　検出されなかった。

遺物　坏１、高台付き椀１、灰釉椀１、甕１が出土した。甕は竈内から出土である。

備考　貯蔵穴は検出されなかった。平面図のピットは床下土壙と考えられる。長径64×短径60×深さ32.4㌢。

12号住居（図49、ＰＬ．27・48）

形状　一部を時期不明の溝によって切られている。住居の残りは悪い。東西辺3.03、南北辺3.6㍍、壁高は確認面から35.8㌢である。

床面積　11.09㎡

方位　Ｎ－85°－Ｅ

床面　軟らかいが、張り床がみとめられた。

竈　東辺やや南よりに付設される。焼土は殆どみとめられなかった。

柱穴　検出されなかった。

遺物　坏１、高台付き椀３、皿１、石製紡錘車１が出土した。高台付き椀の１個を除き総て床面直上から出土した。

備考　貯蔵穴は南東隅に検出された。平面形は不整円形で、長径60×短径52×深さ43.4㌢である。

14号住居（図50、ＰＬ．27・48）

形状　弥生時代の13号住居を切って作られている。13号住居を調査中に確認されたもので、ほぼ床面のみでの検出であった。平面形は南北に長い長方形で、東西辺2.4、南北辺3.72㍍である。壁高は南辺で35.7㌢であった。

床面積　7.7㎡

方位　Ｎ－89.5°－Ｅ

床面　明瞭な張り床は検出されなかった。

竈　東辺中央に付設されるが、下底面での確認であったため詳細は不明である。

柱穴　明瞭な柱穴は検出されなかった。浅い不整形なピットが検出されているが、いずれも住居の掘り方面のピットと考えられる。P_1長径42×短径40×深さ17.5㌢・$P_2$64×34×15.7・$P_3$28×26×23・$P_4$36×24×16・$P_5$24×22×10である。

遺物　高台付き椀６、甕５、台付き甕？１が出土したが、埋め土上層からの出土が多い。甕17のみ竈部周辺の床面直上から出土した。

備考　貯蔵穴は検出されなかった。

15号住居（図51、ＰＬ．27・48）

形状　大溝によって住居の一部を切られている。住居の残りは極めて悪い。東西辺2.7、南北辺4.24㍍である。壁高は確認面から21.4㌢である。

床面積　（10.58）㎡

方位　Ｎ－93°－Ｅ

床面　堅いが不整地で凹凸がある。

竈　僅かに焼土がみとめられた。壁は殆ど焼けていない。

柱穴　検出されなかった。

遺物　甕２、高台付き椀１、滑石製剣形模造品１が出土した。

備考　貯蔵穴は検出されなかった。

６　時期不明の遺構

６号住居（図52、ＰＬ．27）

形状　平面形は一辺5.3㍍のほぼ正方形である。住居の残りは極めて悪く、確認面からの壁高は19㌢であった。

床面積　27.8㎡

方位　Ｎ－27.5°－Ｅ

床面　明瞭な叩き絞め状や張り床は検出されなかった。

炉址　住居のほぼ中央に検出された。僅かに焼土がみとめられた。

柱穴　明瞭な柱穴は検出されなかった。P_1長径60×短径58×深さ32㌢

遺物　出土しなかった。

備考　所属時期については出土遺物が無いことから不明としておきたい。住居形態からは古墳時代中期以前弥生中期以降の可能性が強い。

炭窯（図54、ＰＬ．28）

形状　２号方形周溝墓の一部を壊し、時期不明の溝の上に作られている。平面形は長楕円形の燃焼部と方形の掻き出し部からなる。炊口部や煙道部には自然円礫を用いている。全長5.96、燃焼部長2.62、燃焼部中央幅1.52、炊口部幅0.54、掻き出し部幅3.01㍍である。主軸方向はＮ－26°－Ｅである。

遺物　出土しなかった。

備考　大型のスサ入り焼け粘土塊の出土が多い。

１号溝（付図１．『西迎遺跡』全体図参照）

１号溝は西迎の台地の西端を南北に走り、遺跡の中央で東西方向へと曲がり、遺跡を東西に横切り東の低地に至る。上幅4.8㍍、下幅0.54㍍、深さは遺跡の中央部分で1.74㍍である。断面形は箱薬研形である。弥生時代中期後半の住居や平安時代の住居を切っている。

出土遺物は無かった。溝の埋め土中にはA_s－Ｃ、A_s－Ｂ等のテフラはみとめられない。中世以降のもの

と考えたい。

2号溝（付図1.『西迎遺跡』全体図参照）

遺跡の中央を東西方向に横切り、西迎の台地の西端で南に折れる。遺跡の中央部では1号溝と平行して走る。2号溝は1号溝に比べ浅い。2号方形周溝墓と3号方形周溝墓がこの2号溝によって切られている。

3号方形周溝墓を切っている部分では3本以上の溝の重なりがみとめられる。埋め土中にはテフラ層を含まない。遺物の出土も無い。溝の埋め土の状態からは1号溝より新しいものと思われる。

遺跡の南は宅地となっているが、僅かに土塁と堀が残る。村の文化財目録には「御蔵屋敷」跡としている。寛政3年の『深津村銘細帳控』には「御蔵御座候」とあるが場所が特定できない。詳細は不明である。あるいは、2号溝は現在残る土塁跡等と共に何等かの近世の遺構の一部を成すものの可能性もある。

挿　　図

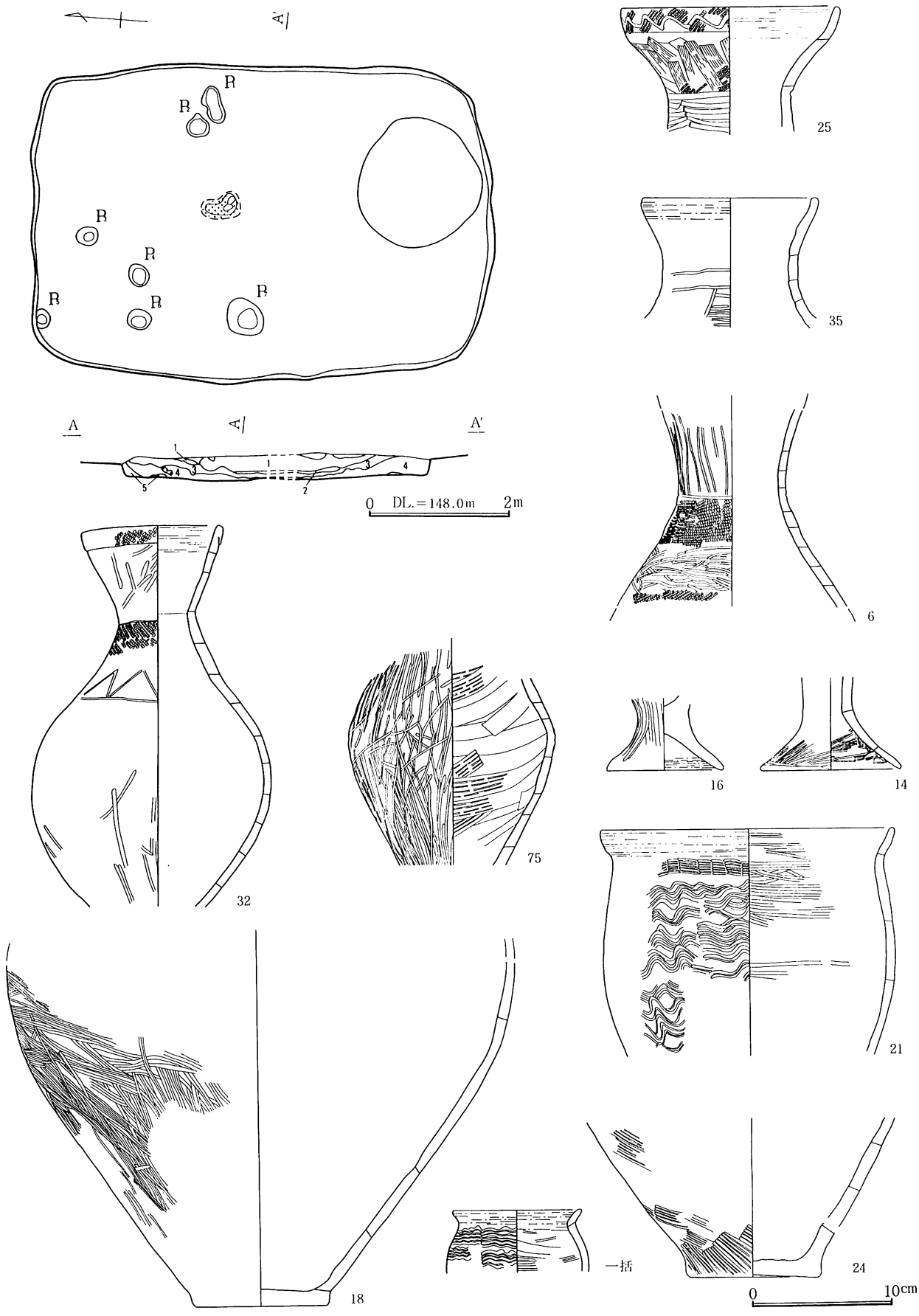


図５　７号住居実測図・遺物実測図（１）

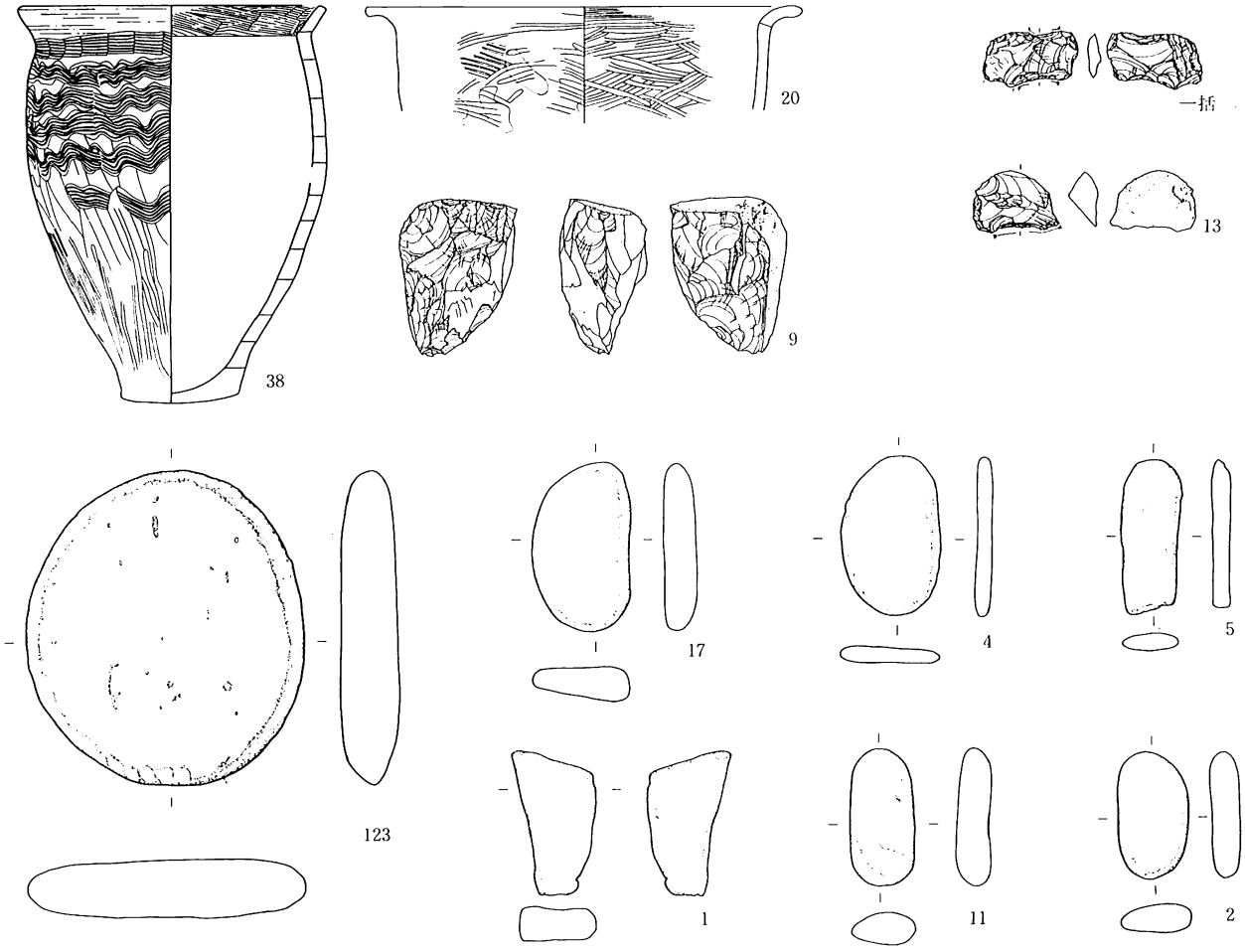


図6　7号住居遺物実測図（2）

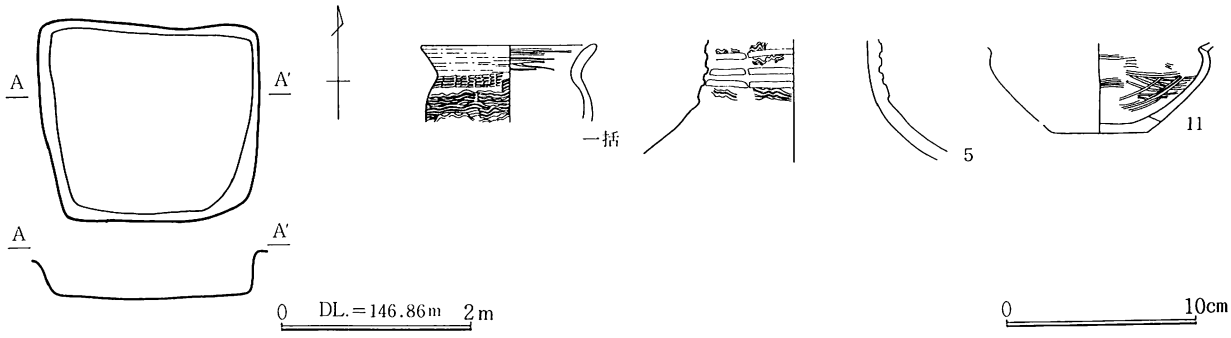


図7　21号住居実測図・遺物実測図

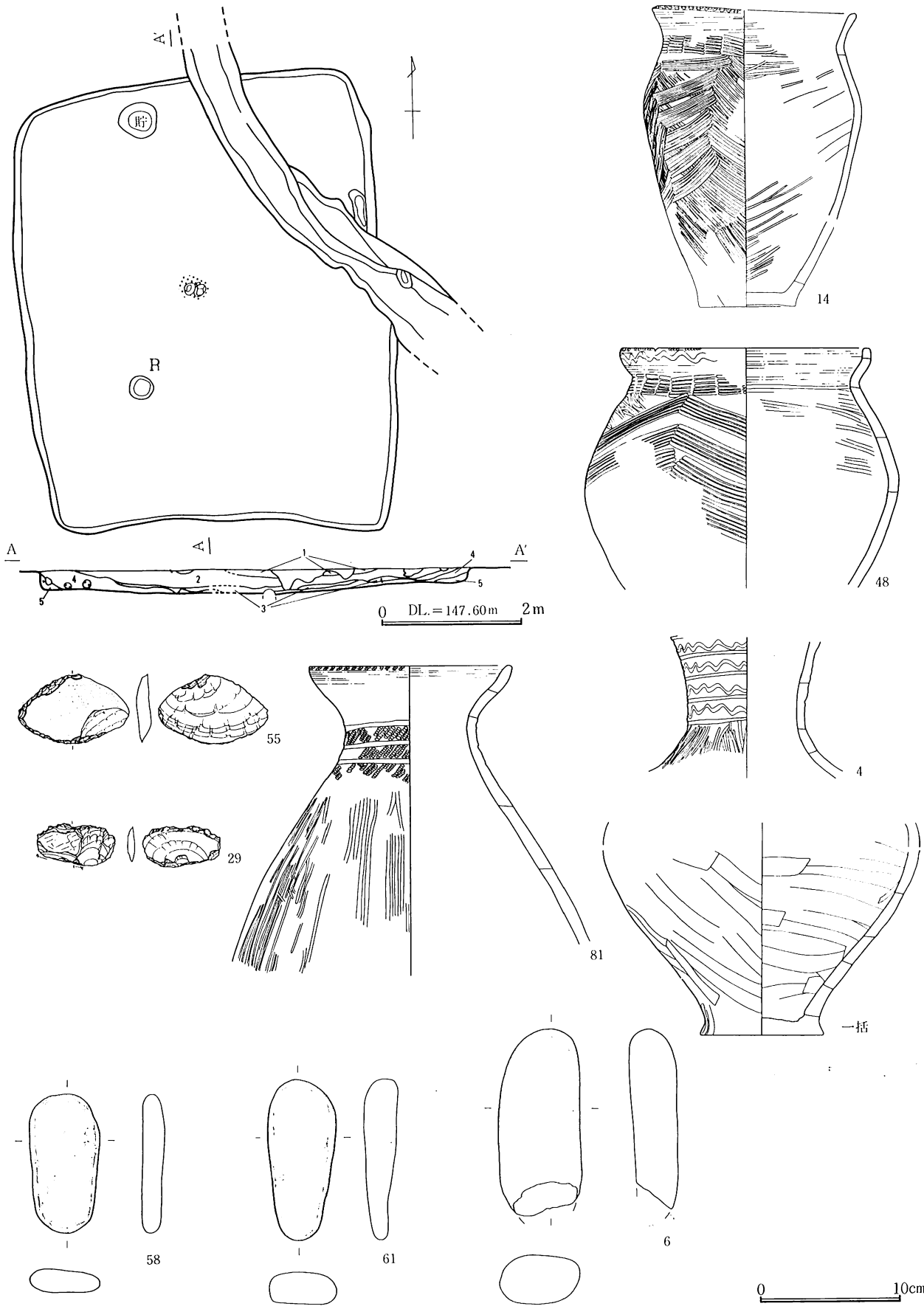


図８　９号住居実測図・遺物実測図

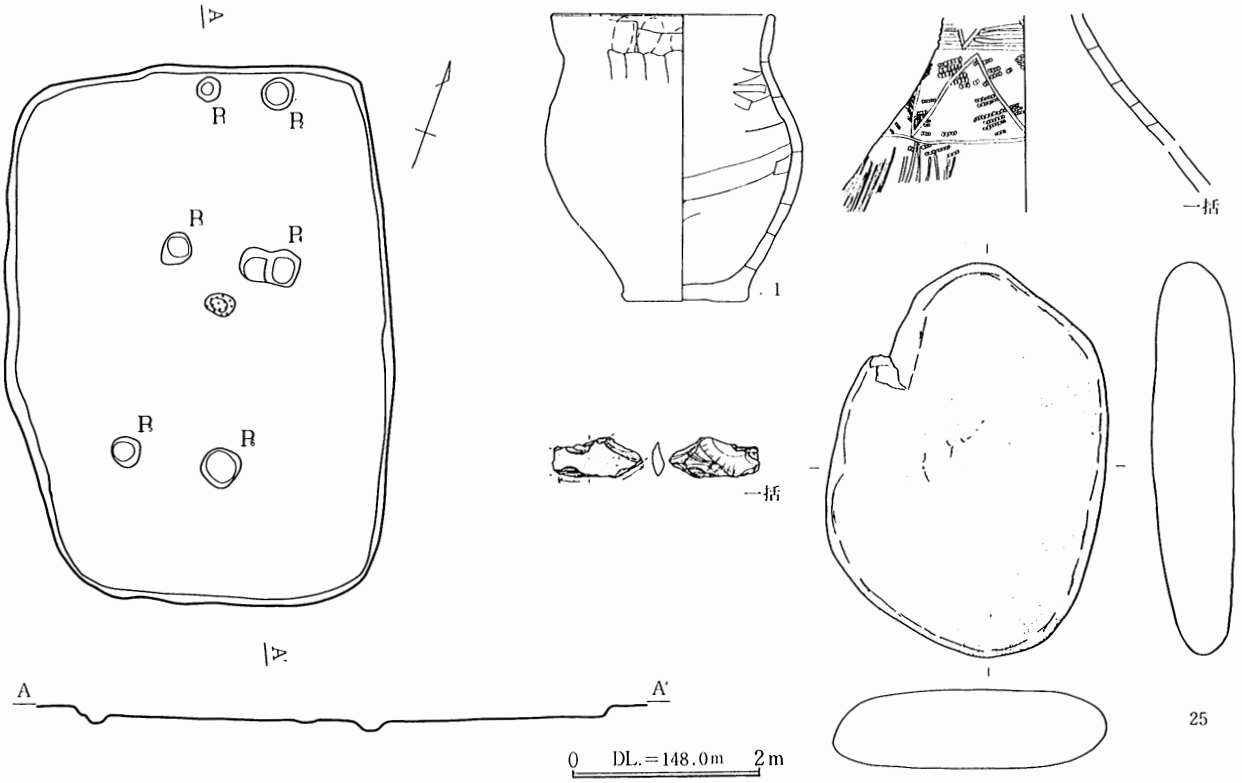


図9　10号住居実測図・遺物実測図

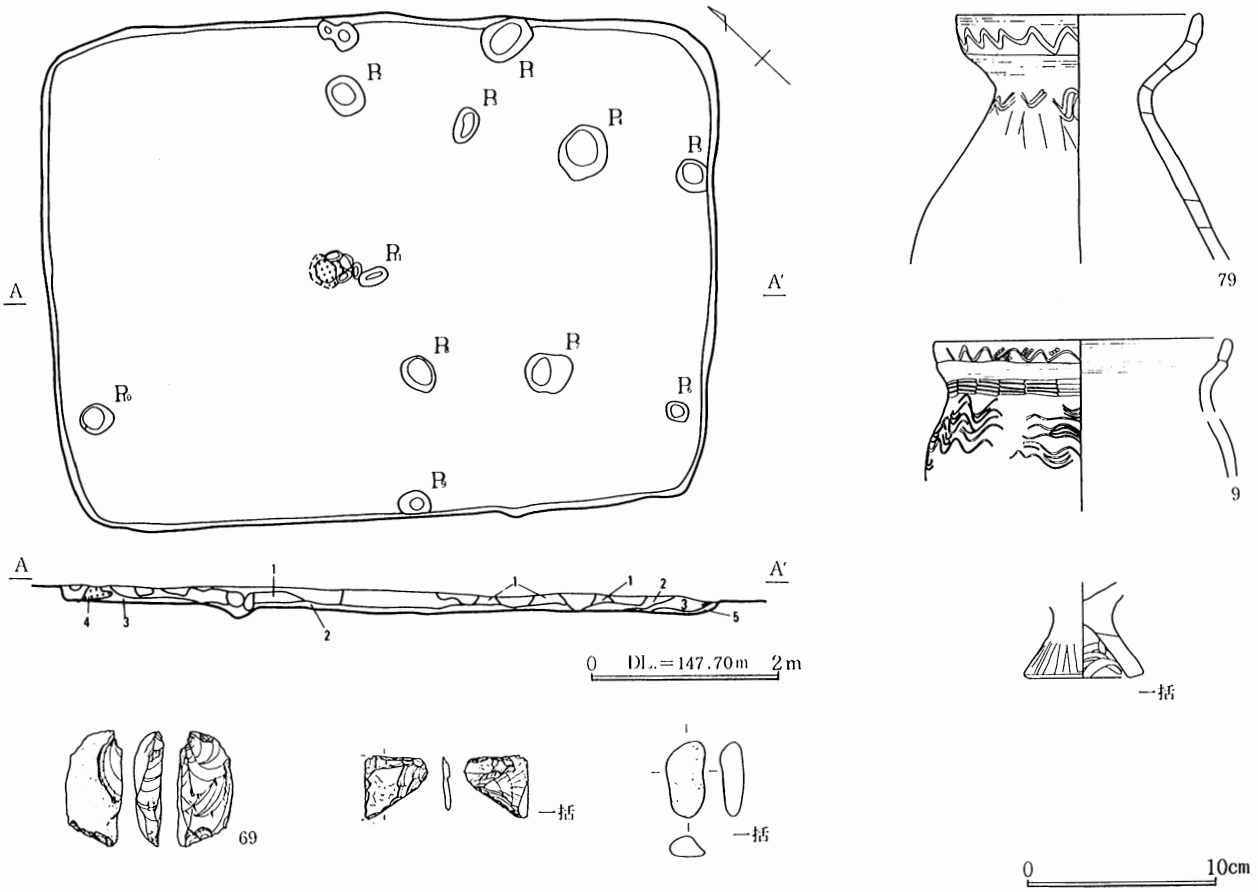


図10　11号住居実測図・遺物実測図

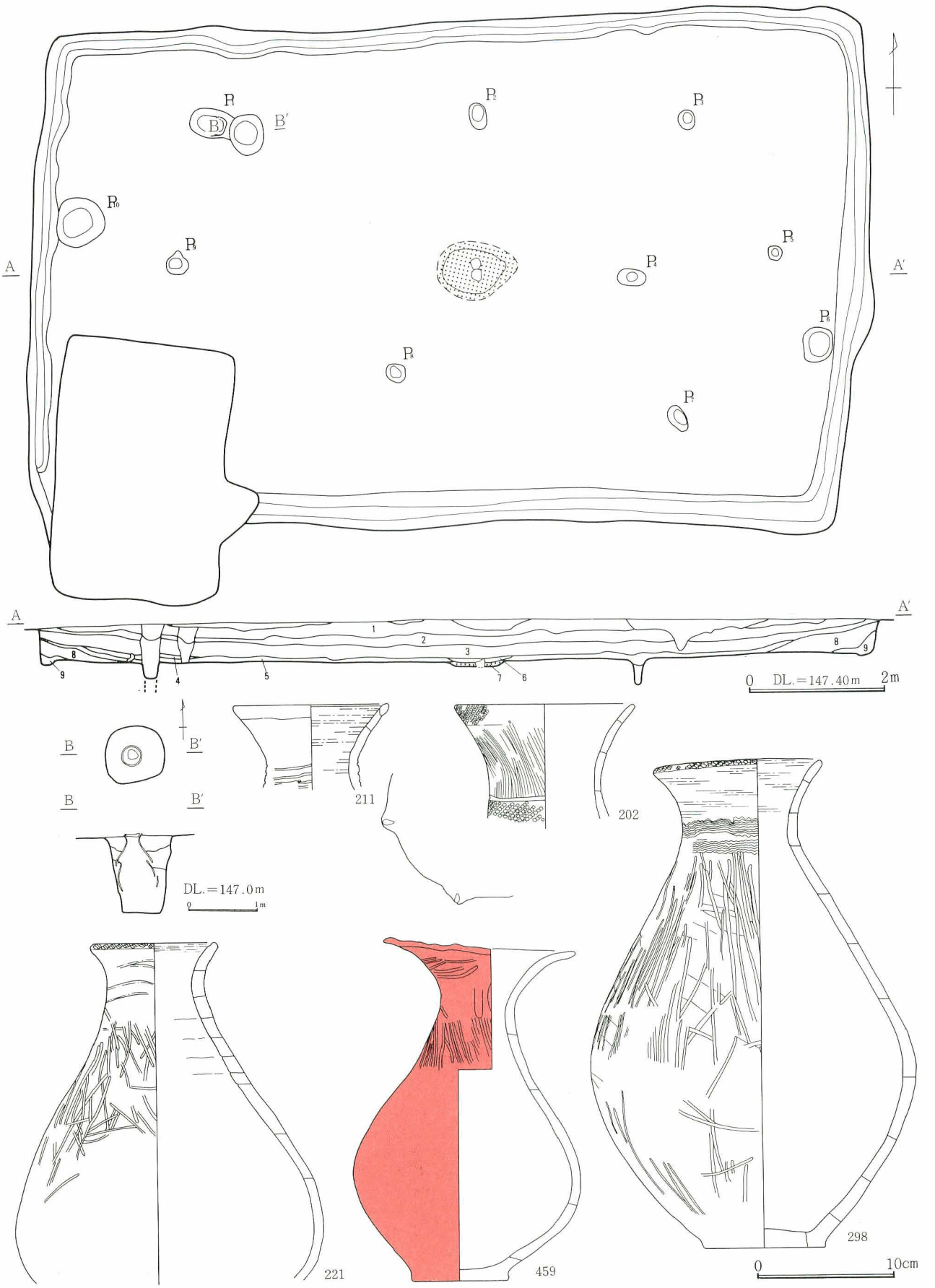


図11　13号住居実測図・遺物実測図（1）

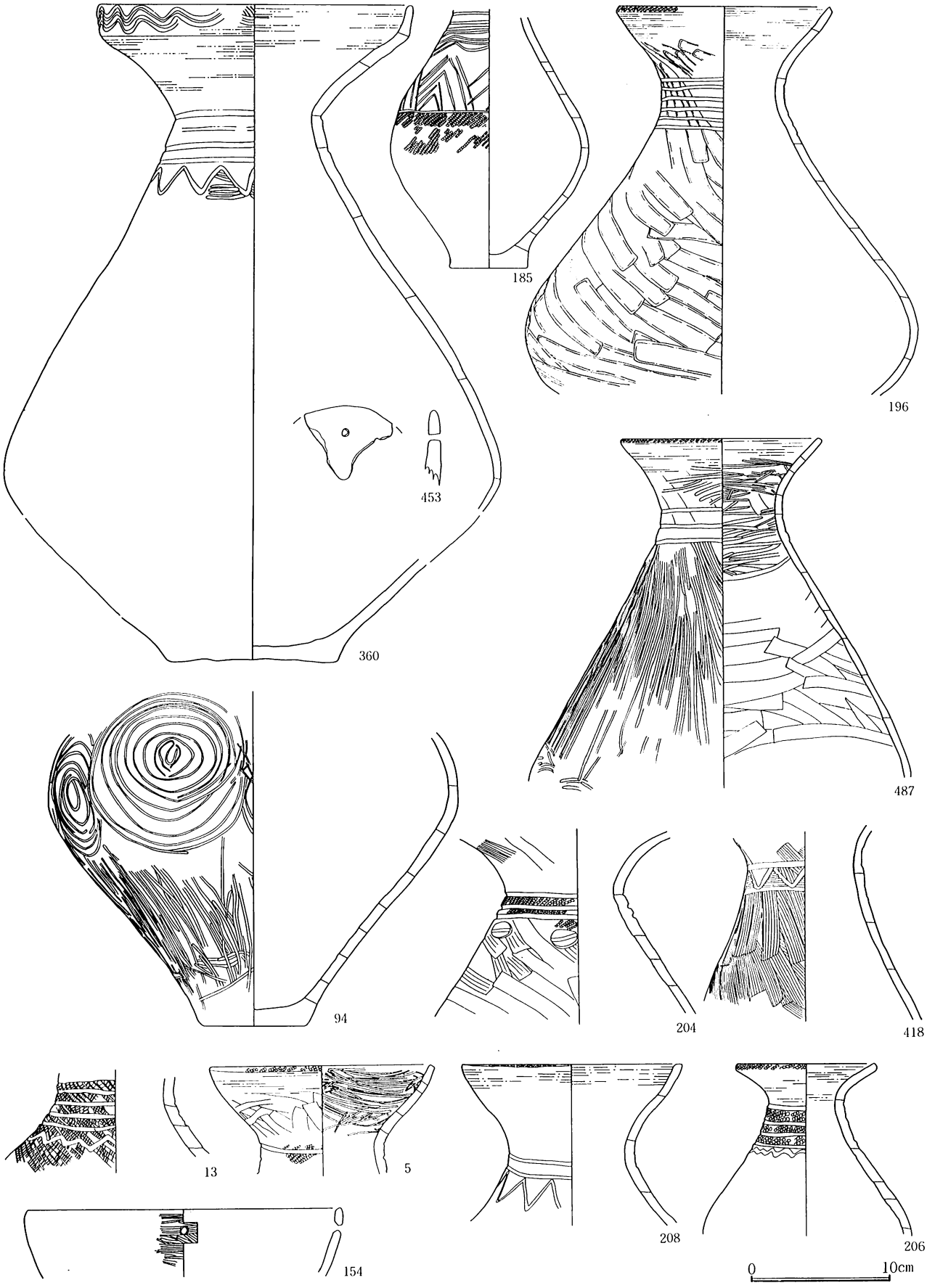


図12　13号住居遺物実測図（２）

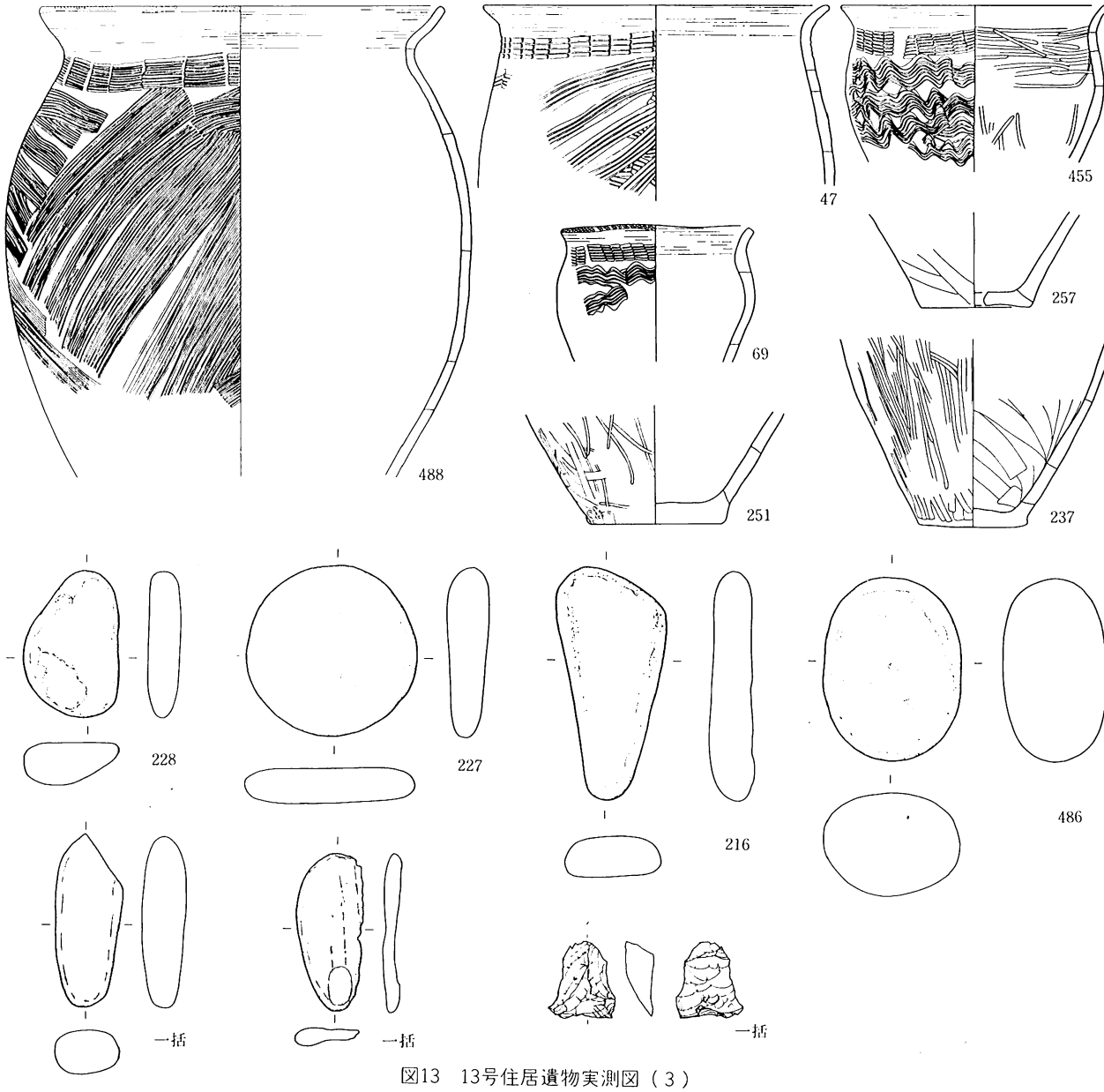


図13　13号住居遺物実測図（３）

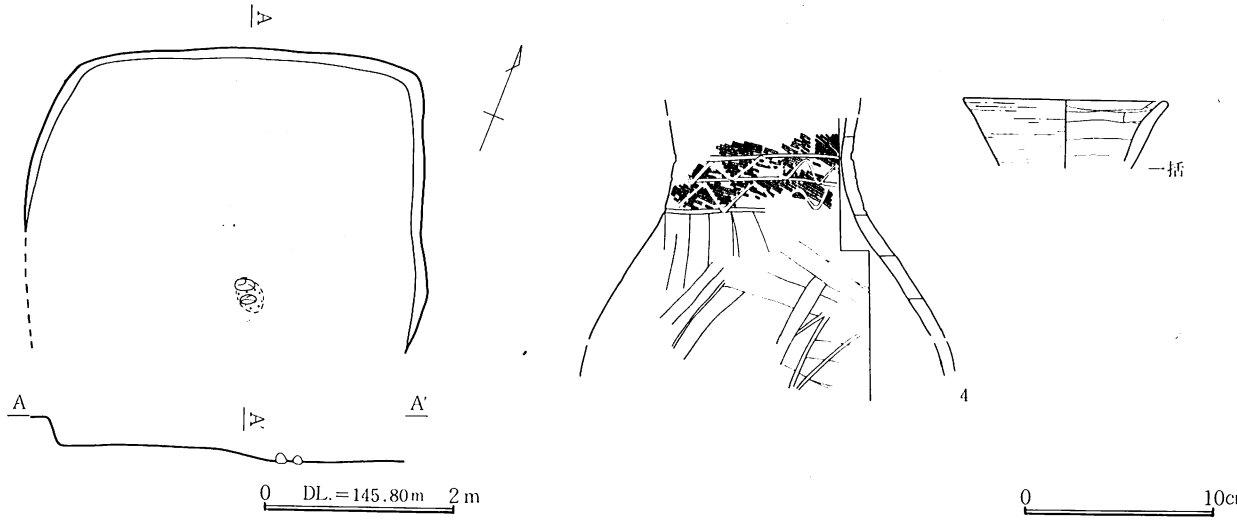


図14　25号住居実測図・遺物実測図

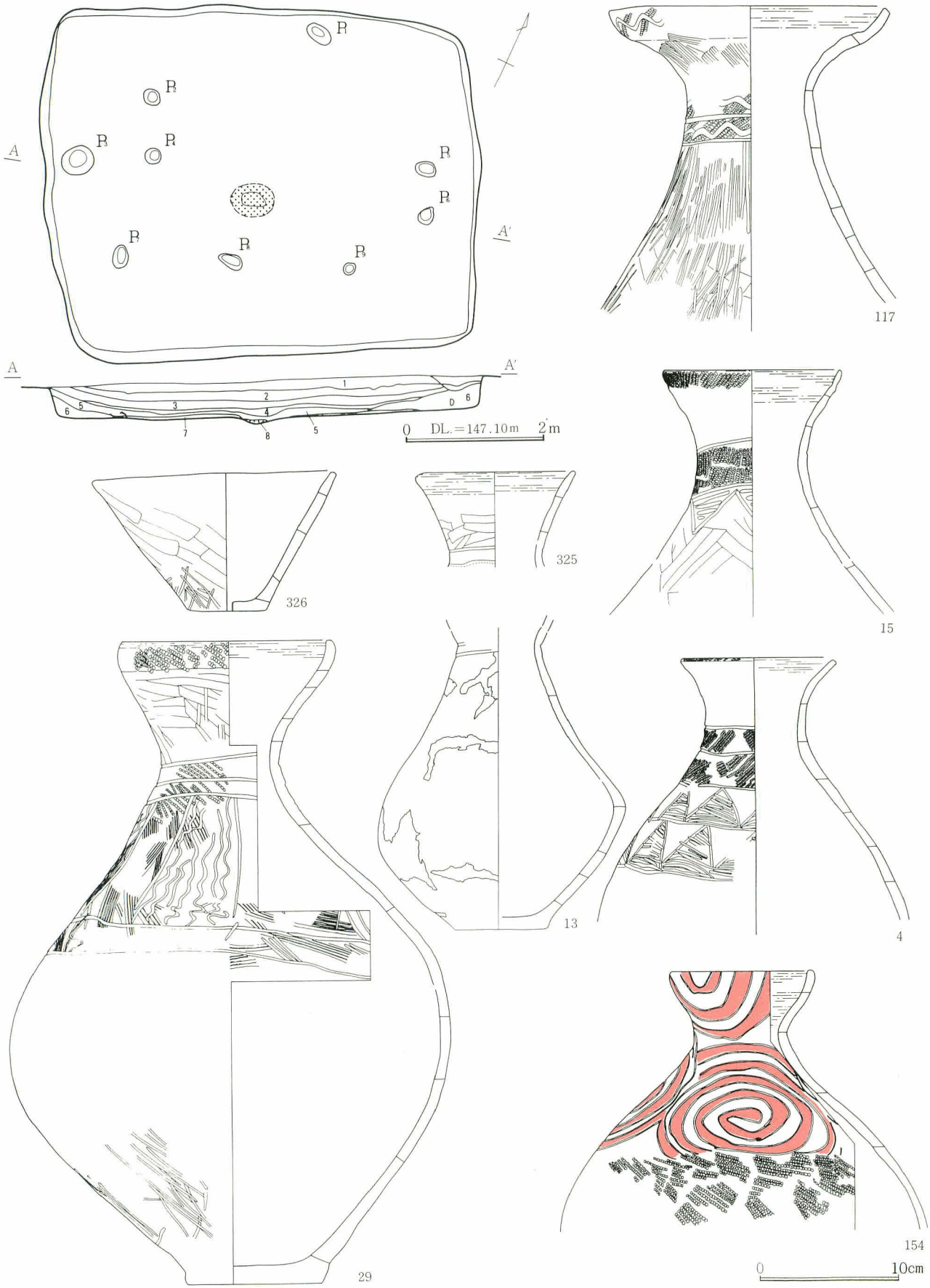


図15　20号住居実測図・遺物実測図（1）

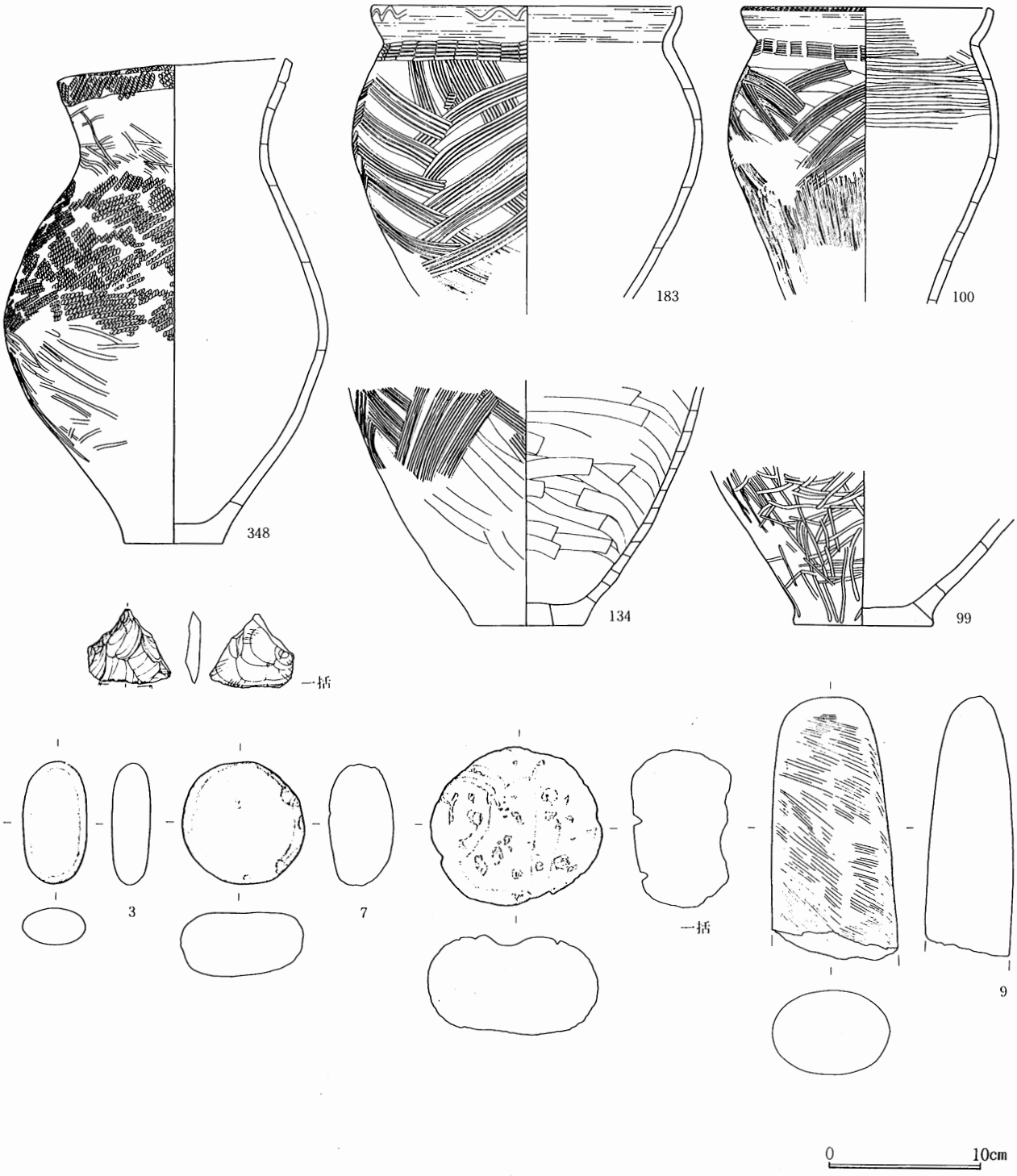


図16　20号住居遺物実測図（２）

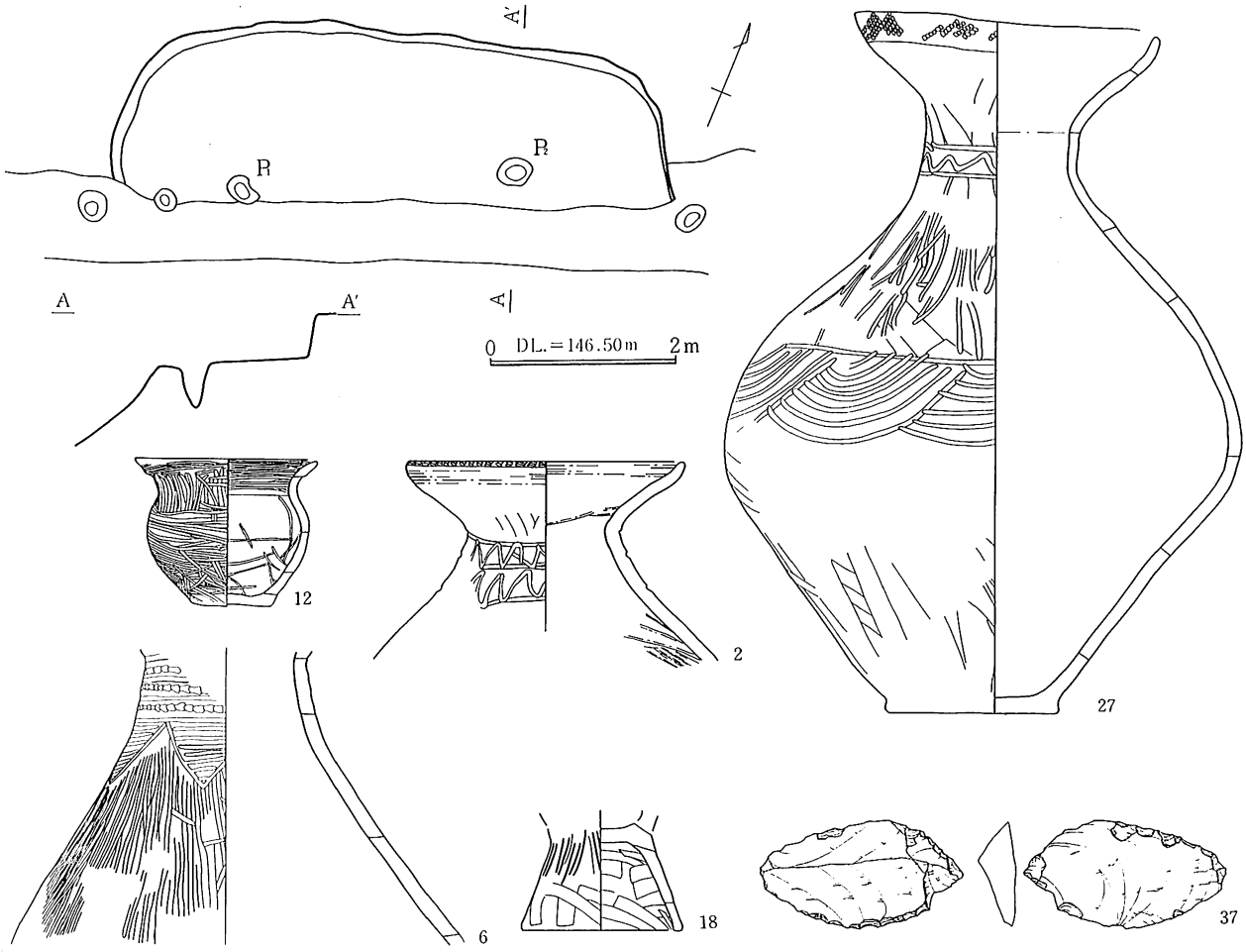


図17　22号住居実測図・遺物実測図

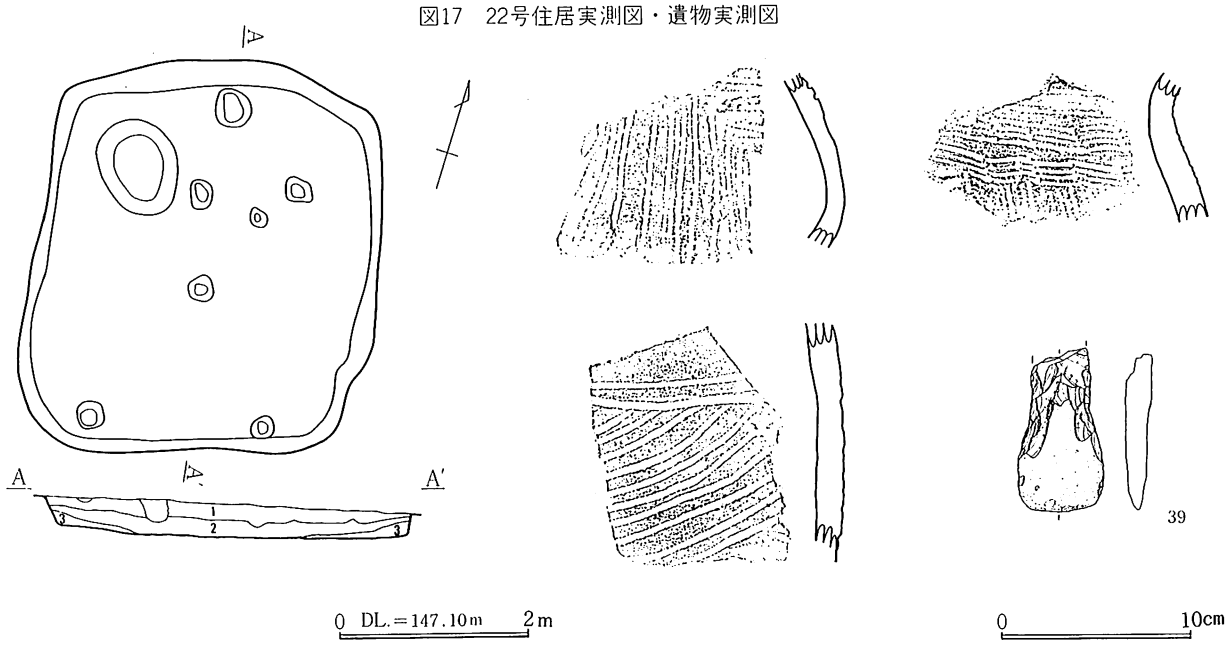


図18　27号住居実測図・遺物実測図

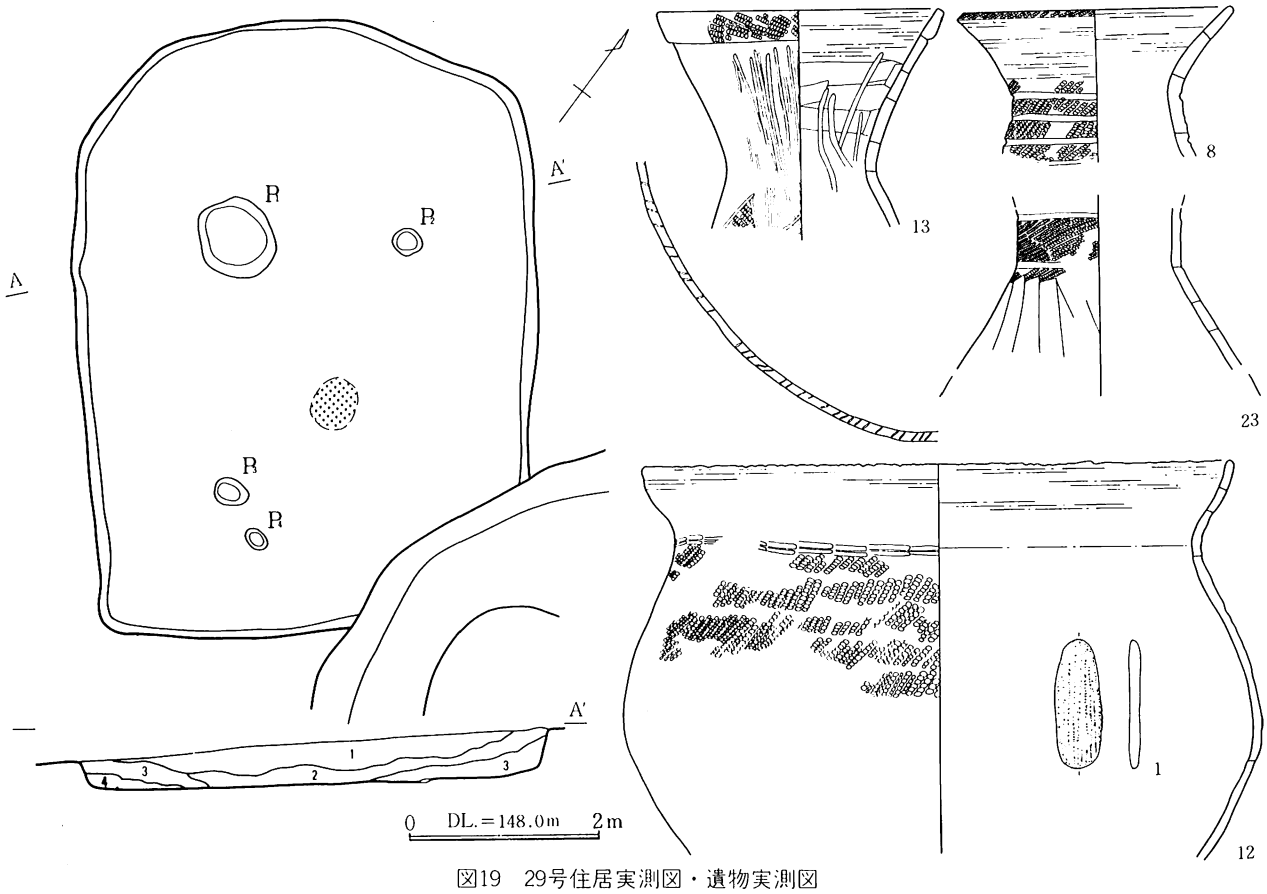


図19　29号住居実測図・遺物実測図

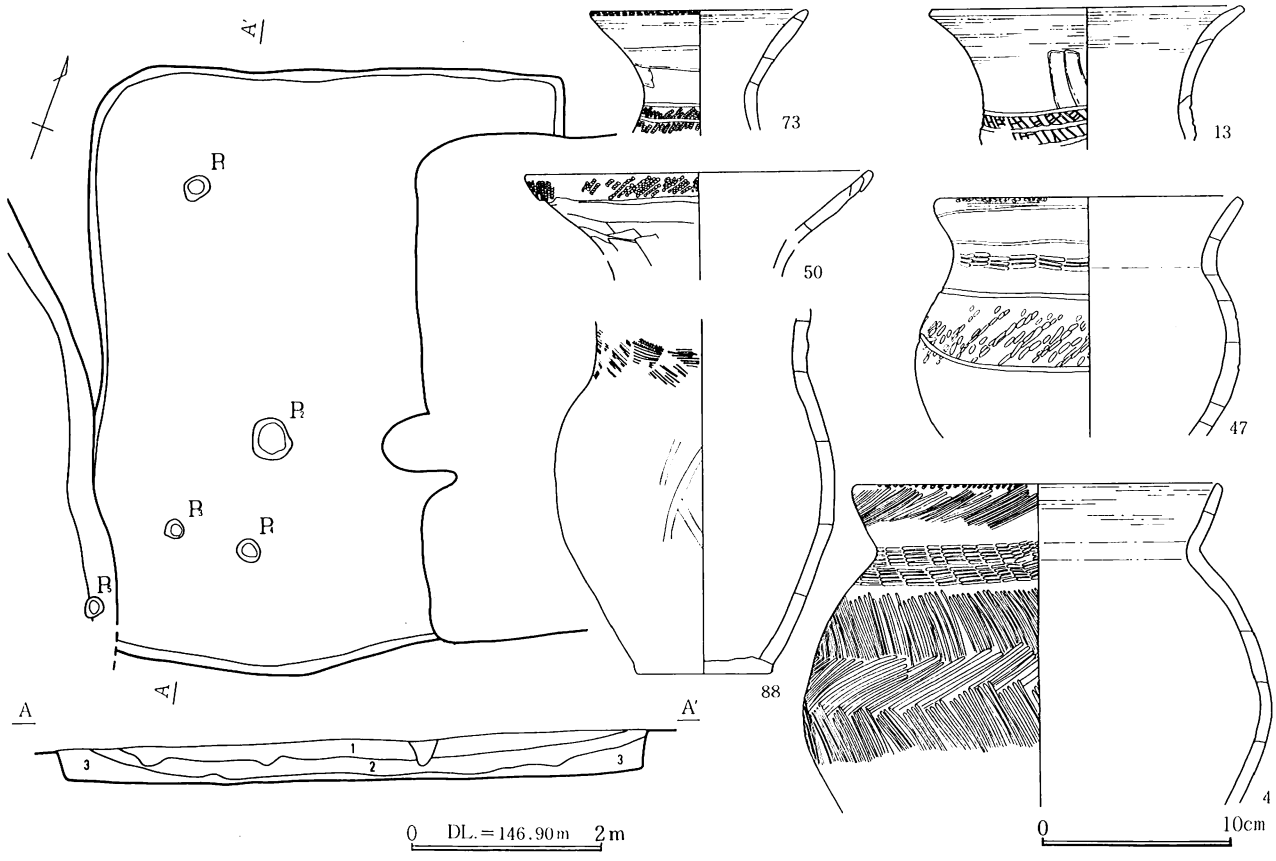


図20　30号住居実測図・遺物実測図

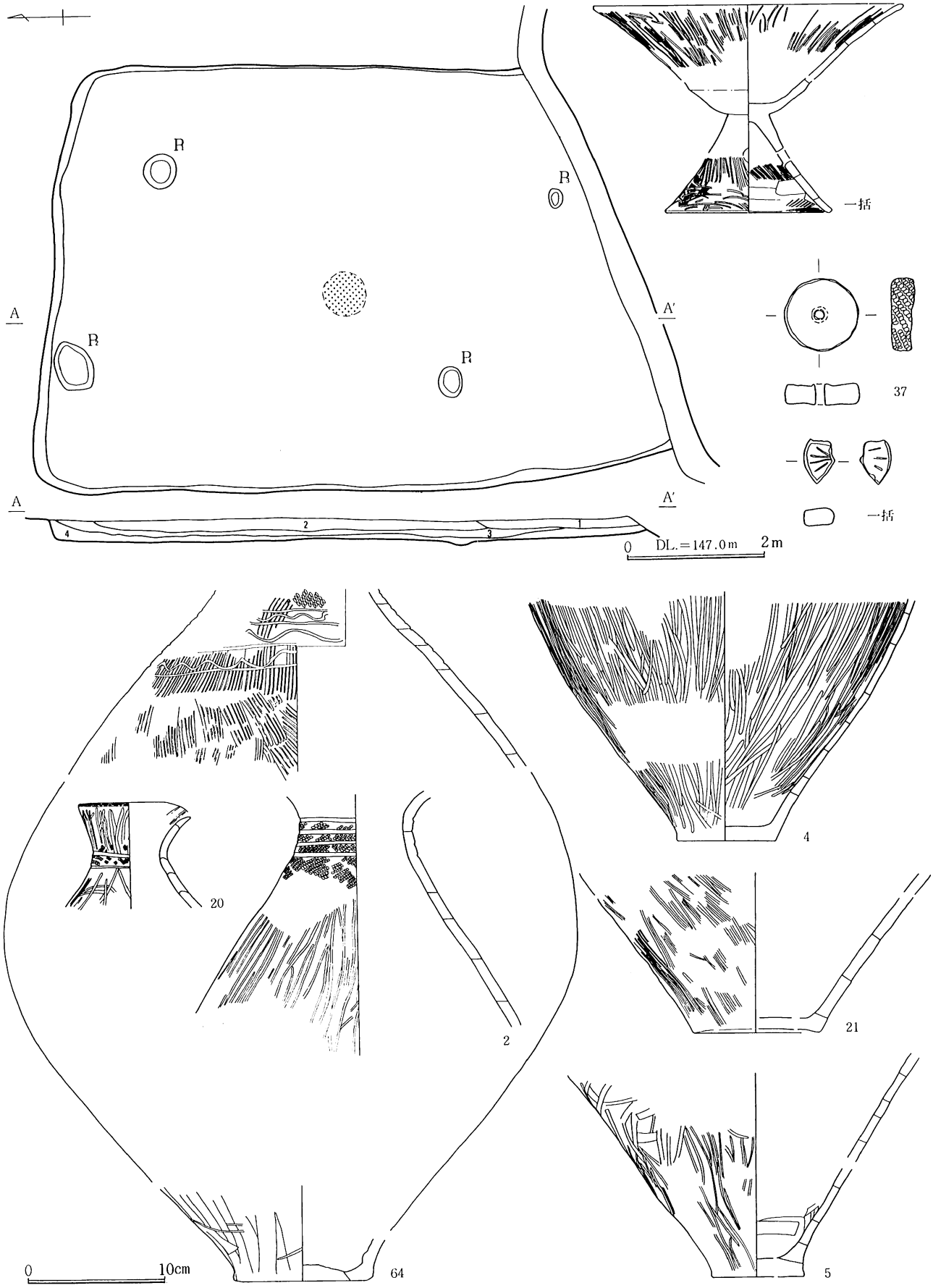


図21　32号住居実測図・遺物実測図（１）

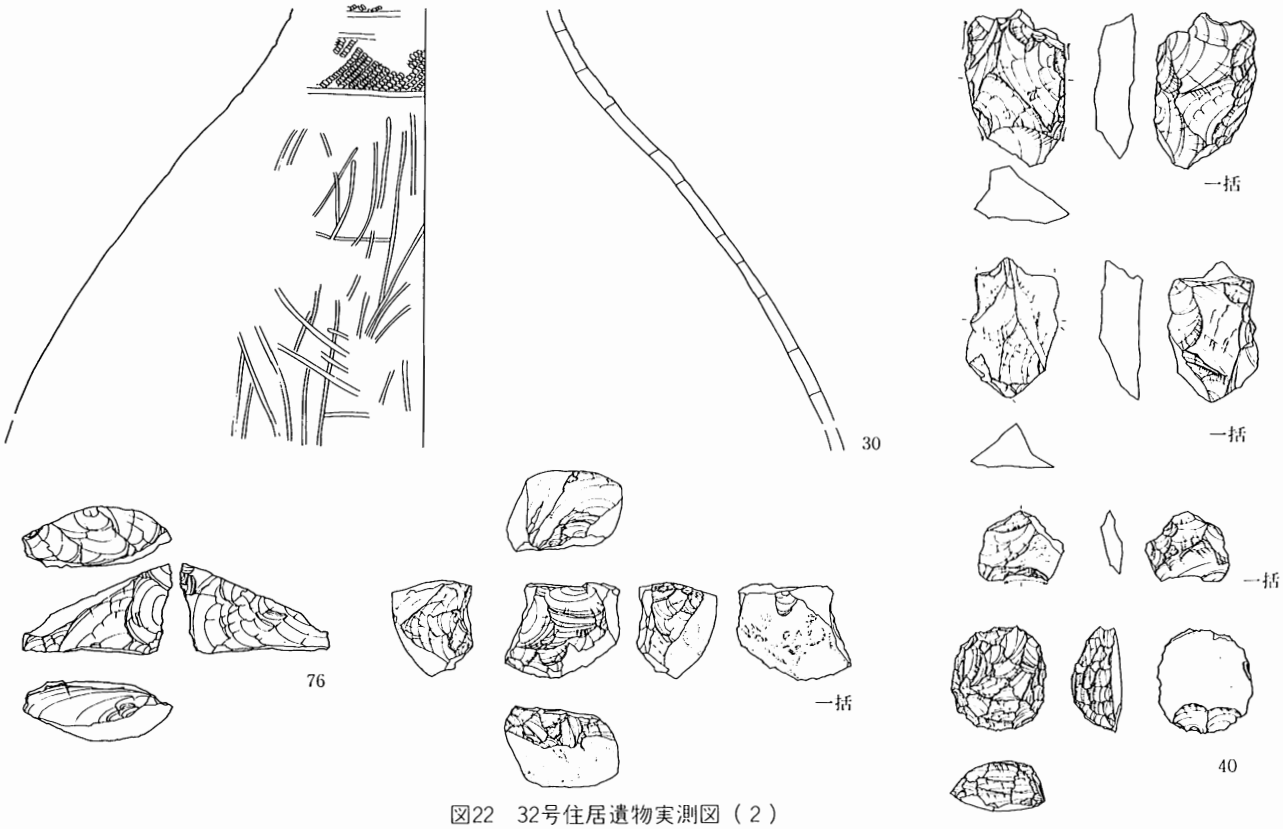


図22　32号住居遺物実測図（２）

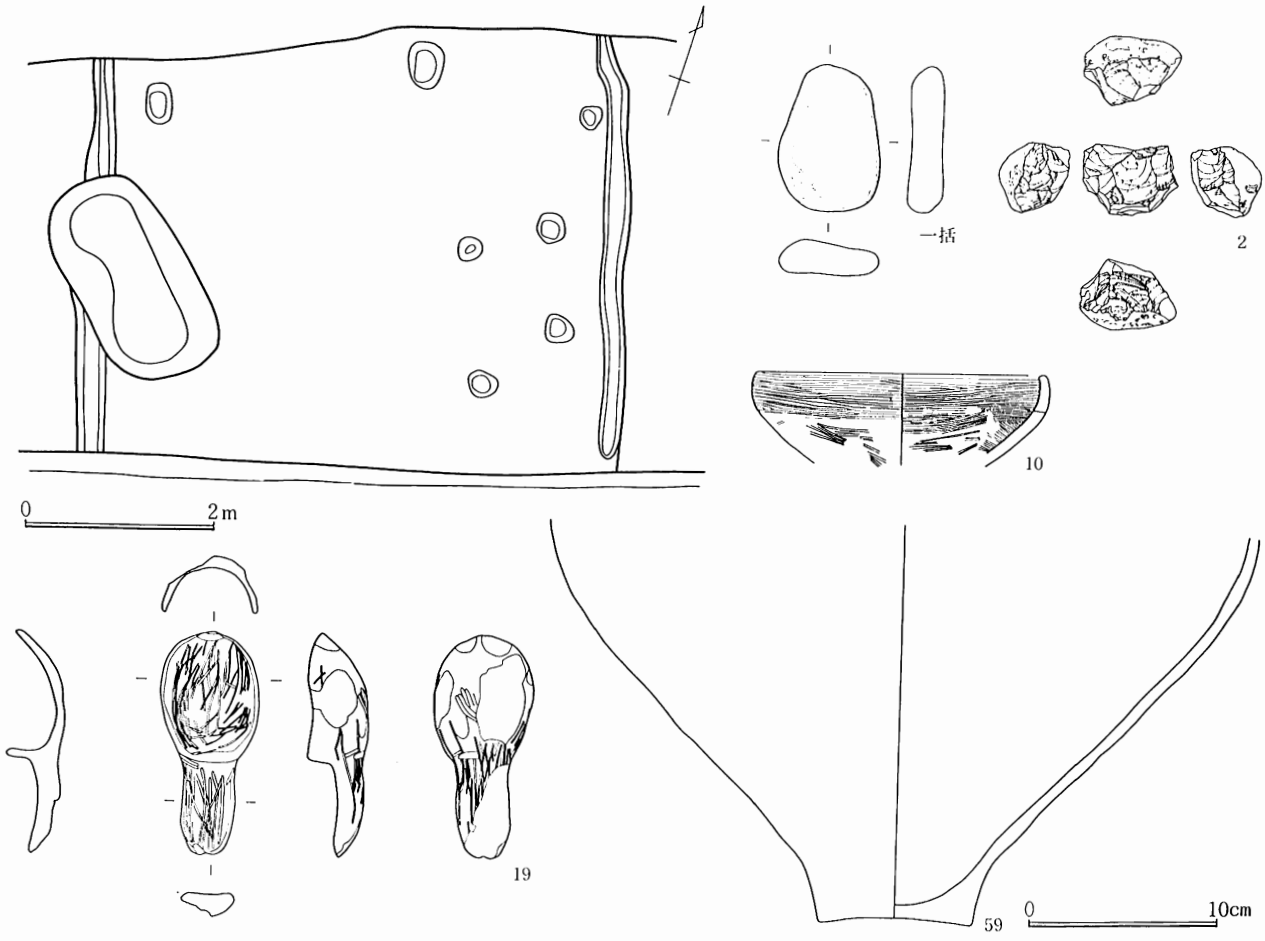


図23　23号住居実測図・遺物実測図

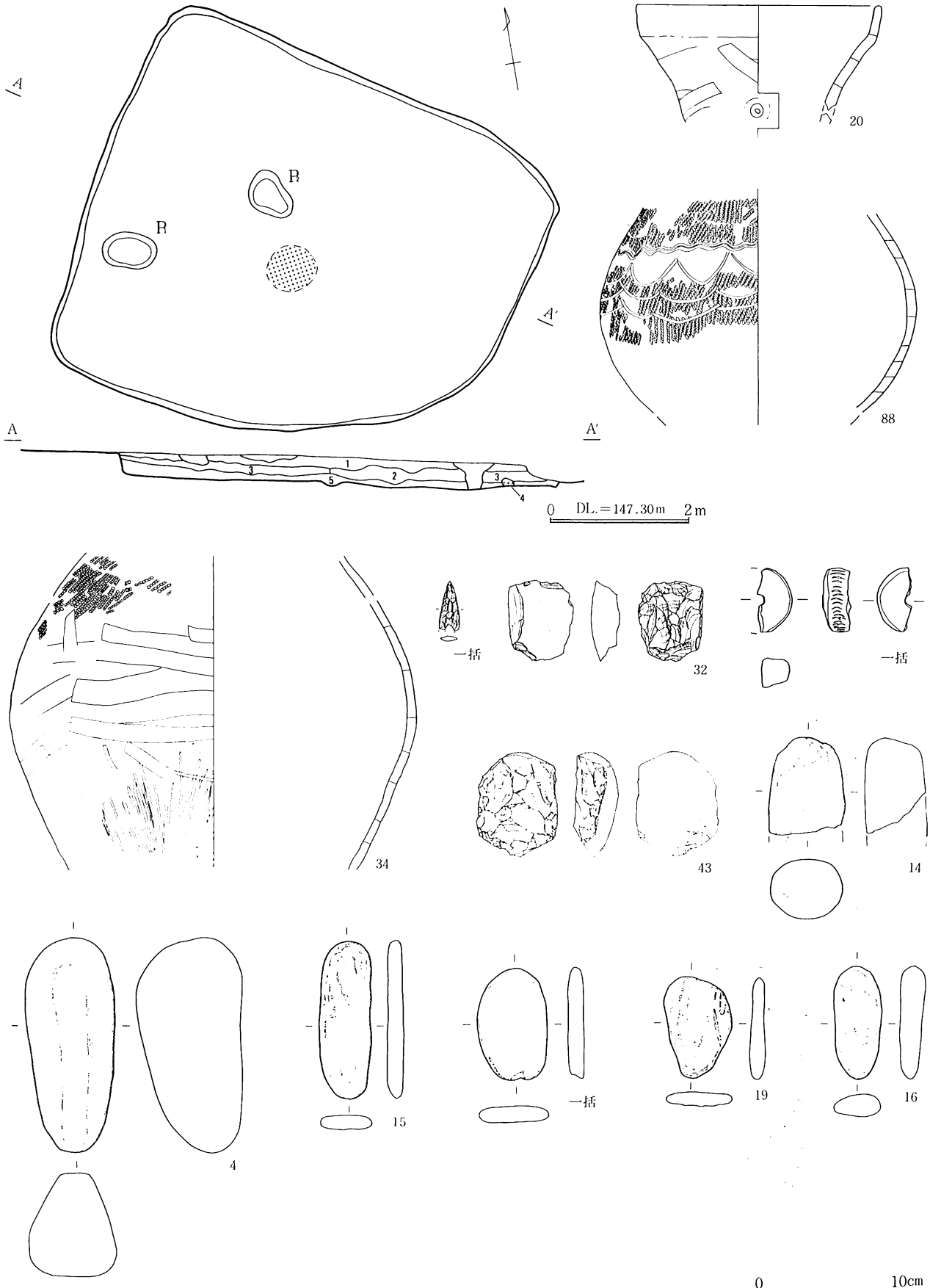


図24　33号住居実測図・遺物実測図

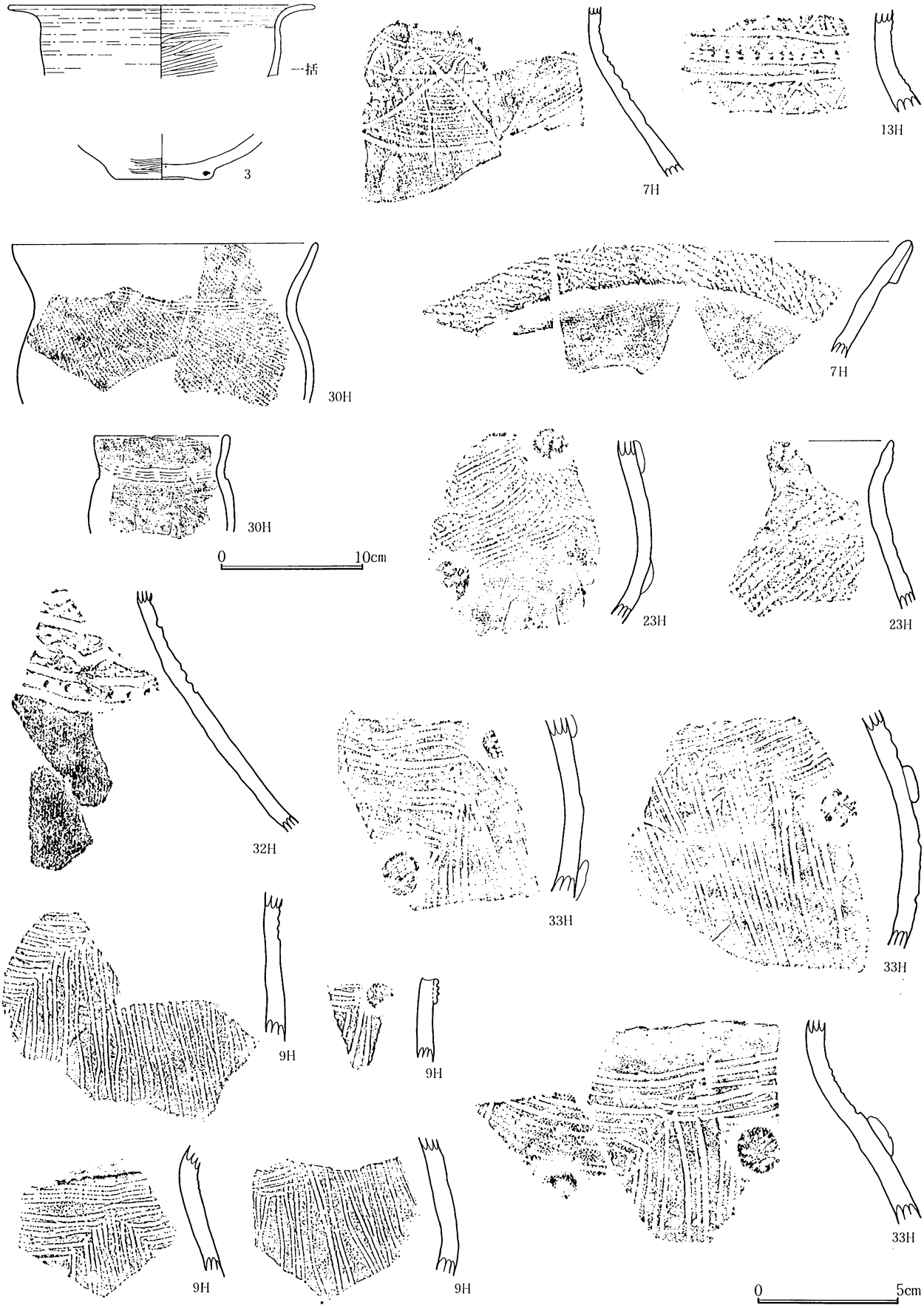


図25　各住居出土土器拓影図

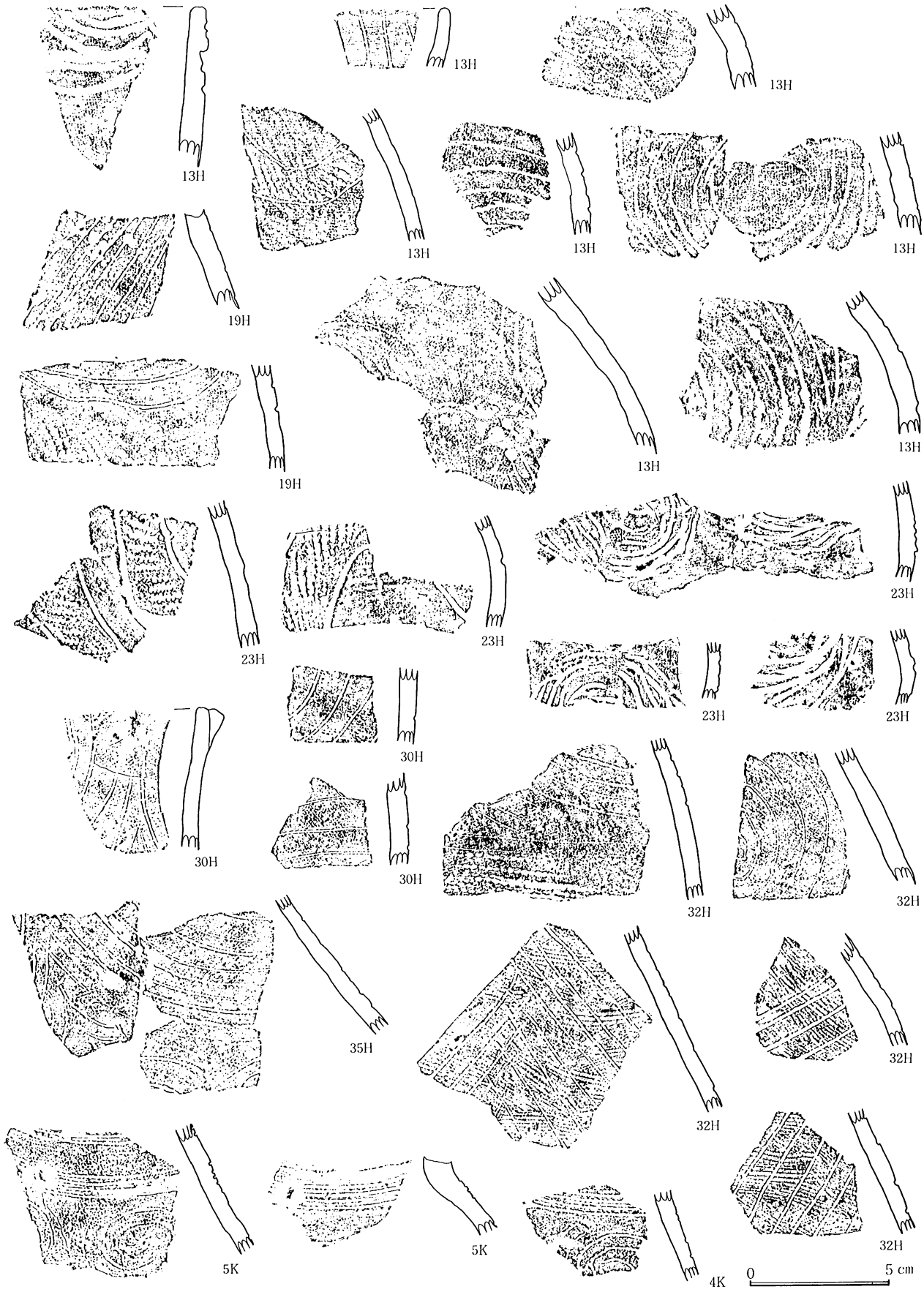


図26　各住居出土の南東北系土器拓影図

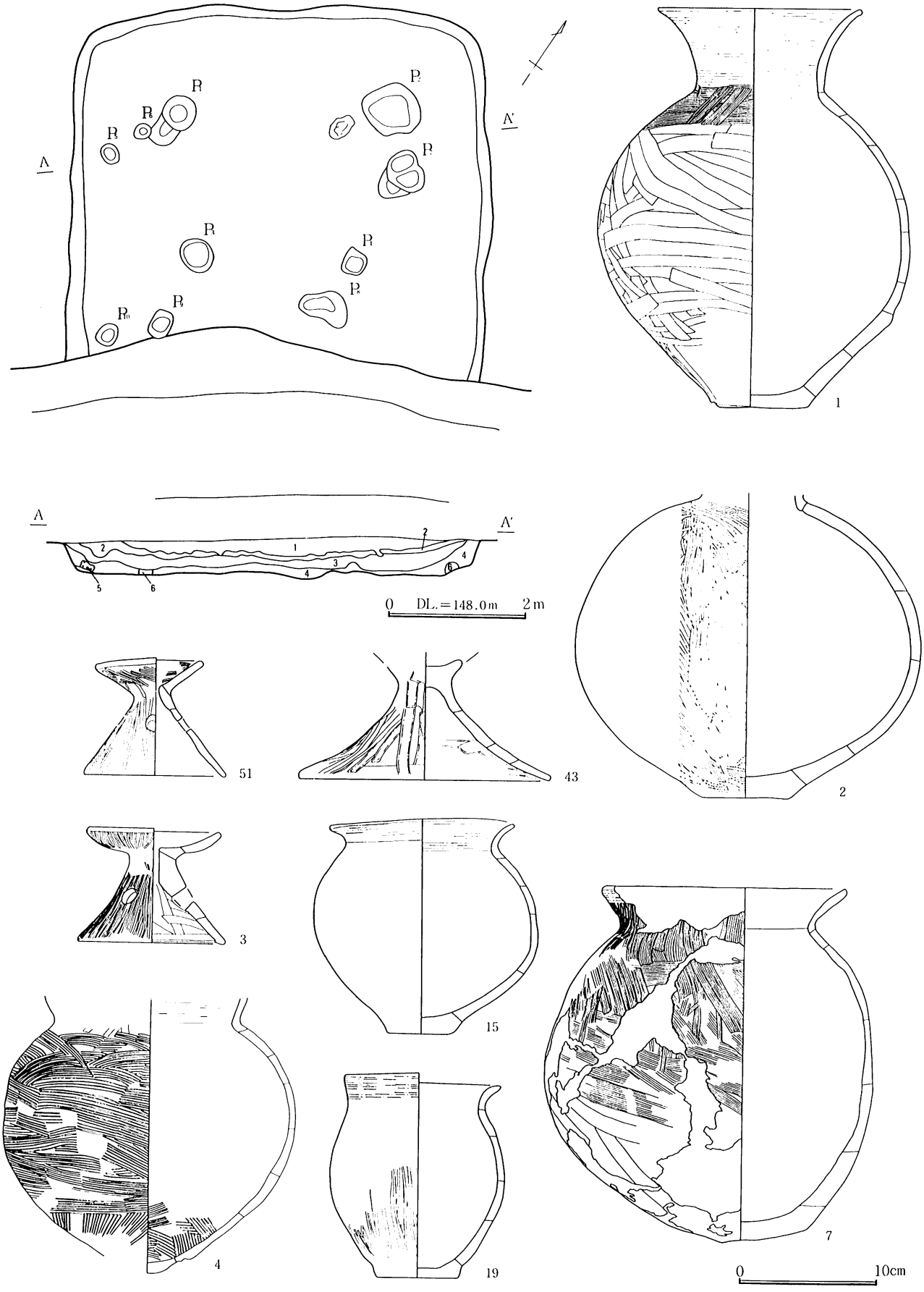


図27　28号住居実測図・遺物実測図

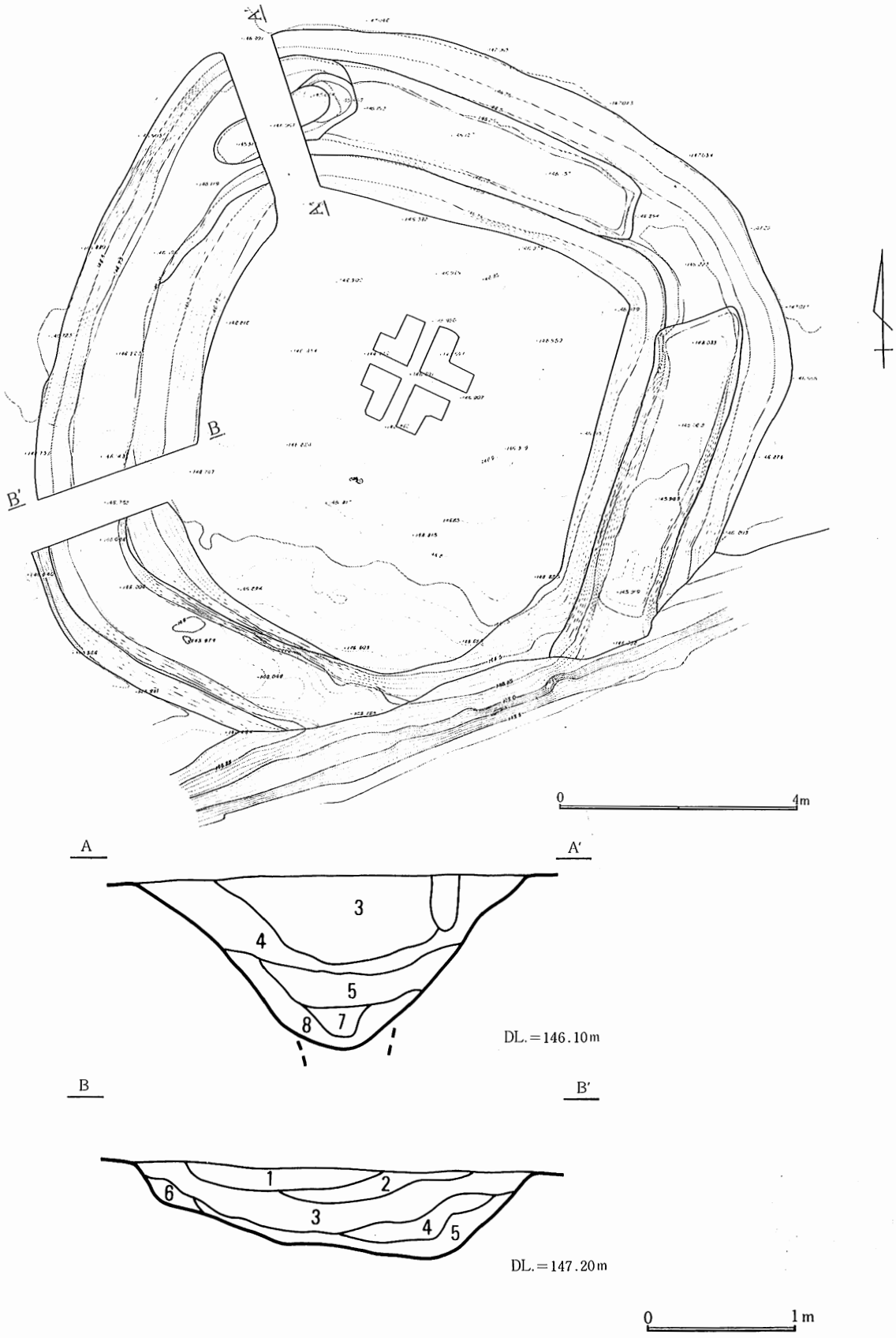


図28　1号方形周溝墓実測図

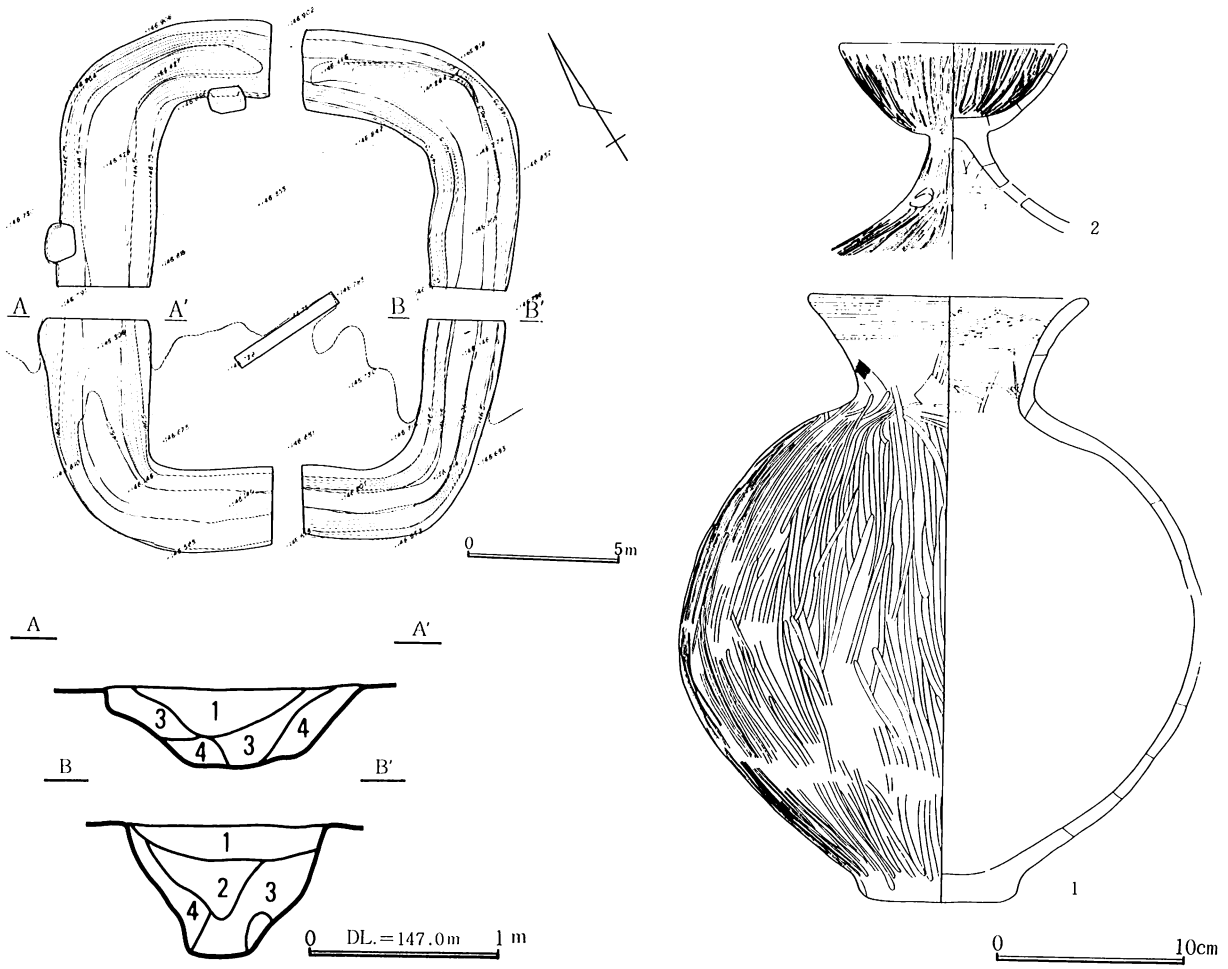


図32　5号方形周溝墓実測図・遺物実測図

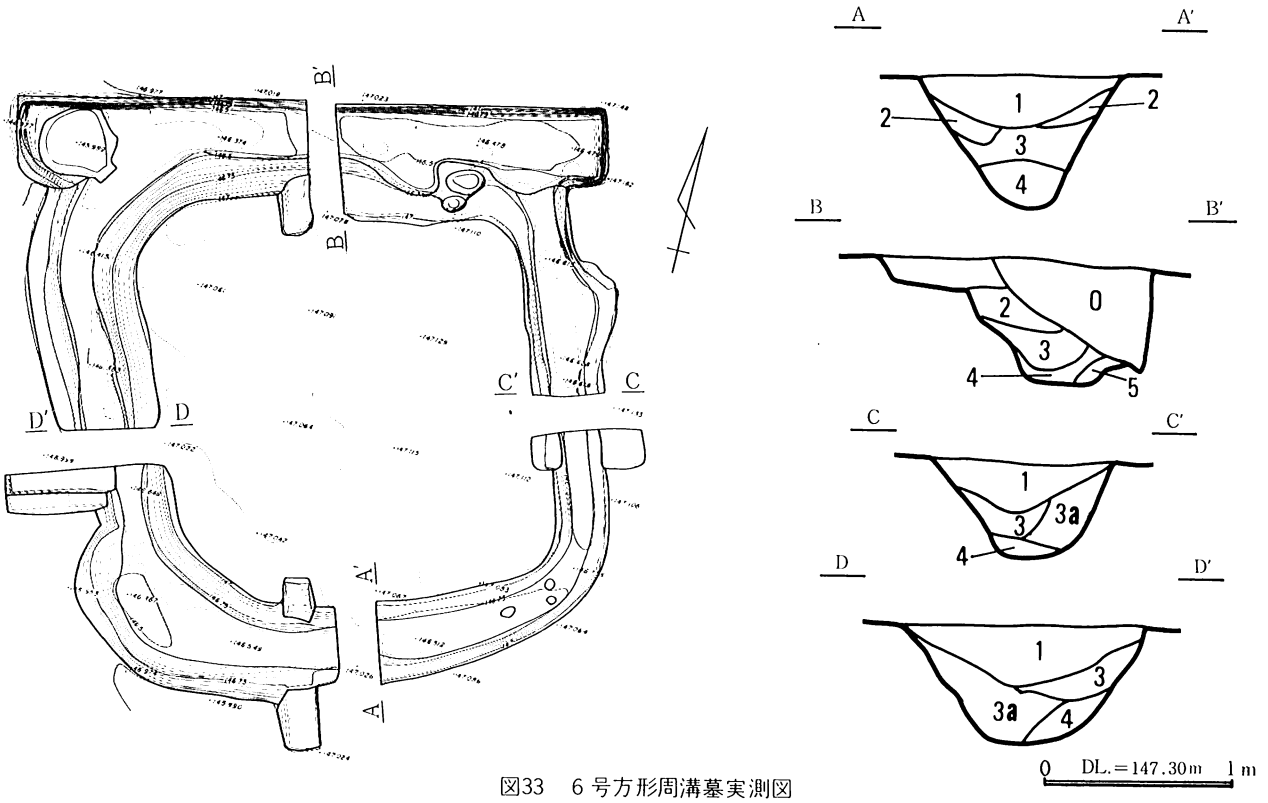


図33　6号方形周溝墓実測図

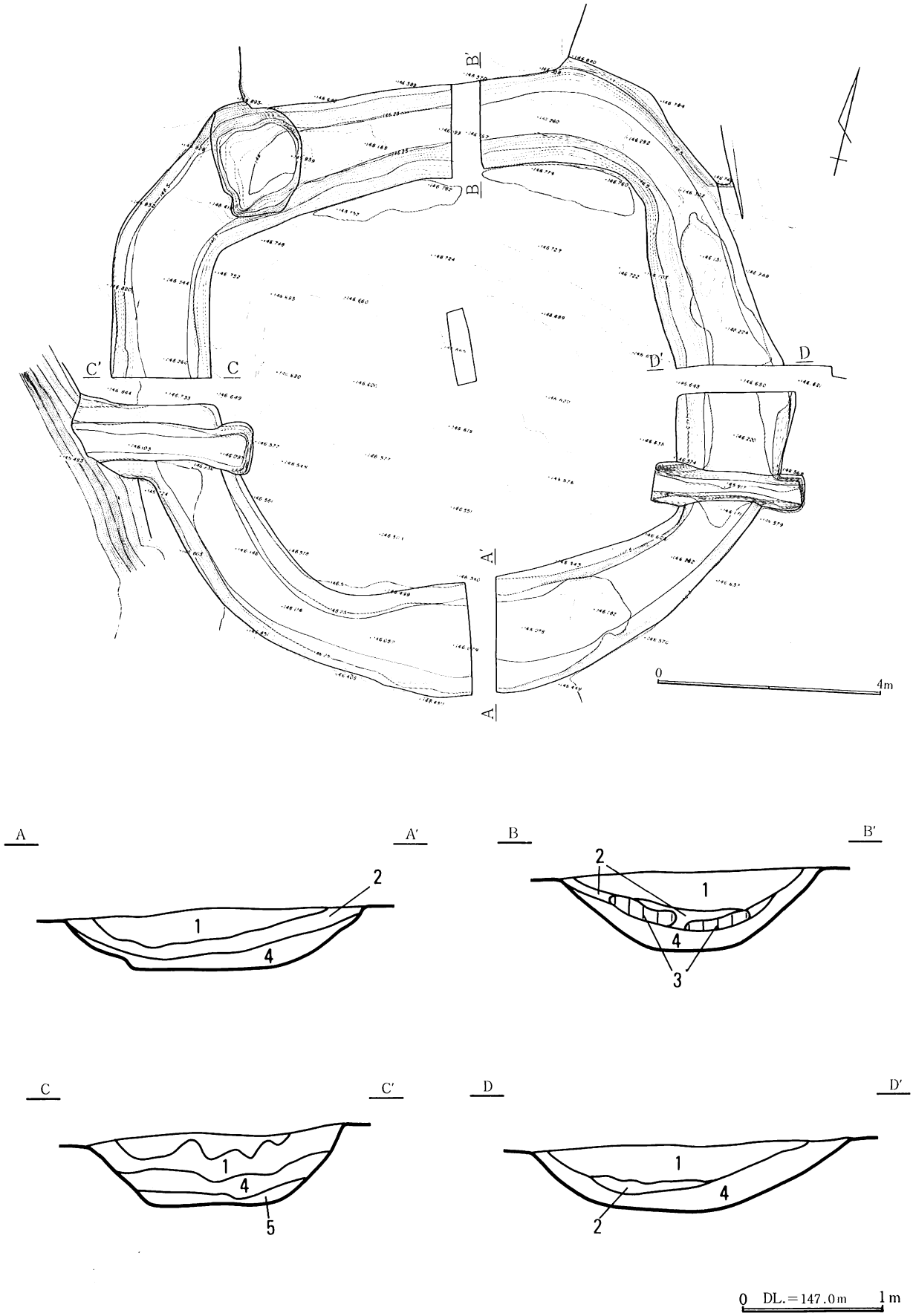


図34　7号方形周溝墓実測図

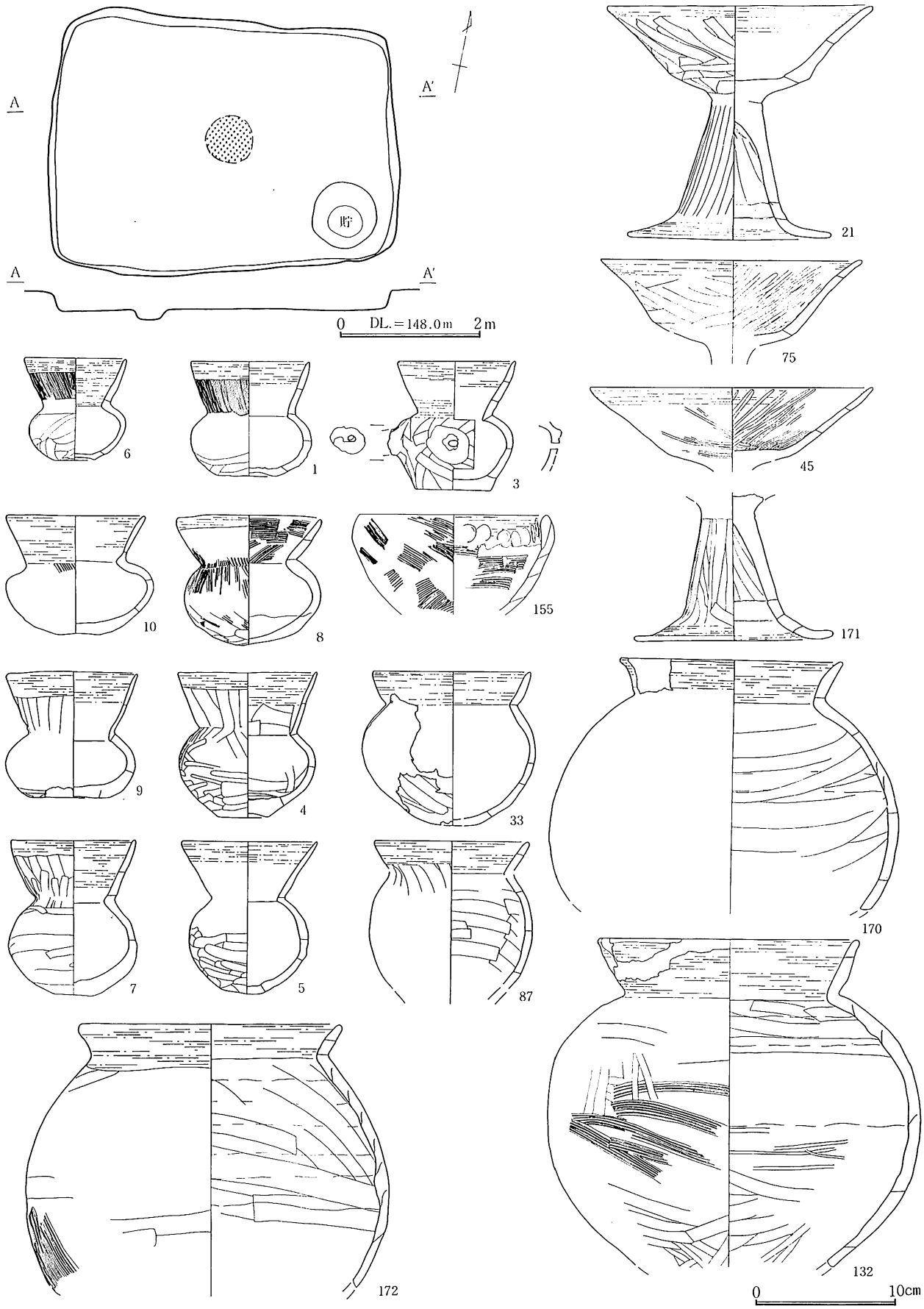


図35　5号住居実測図・遺物実測図

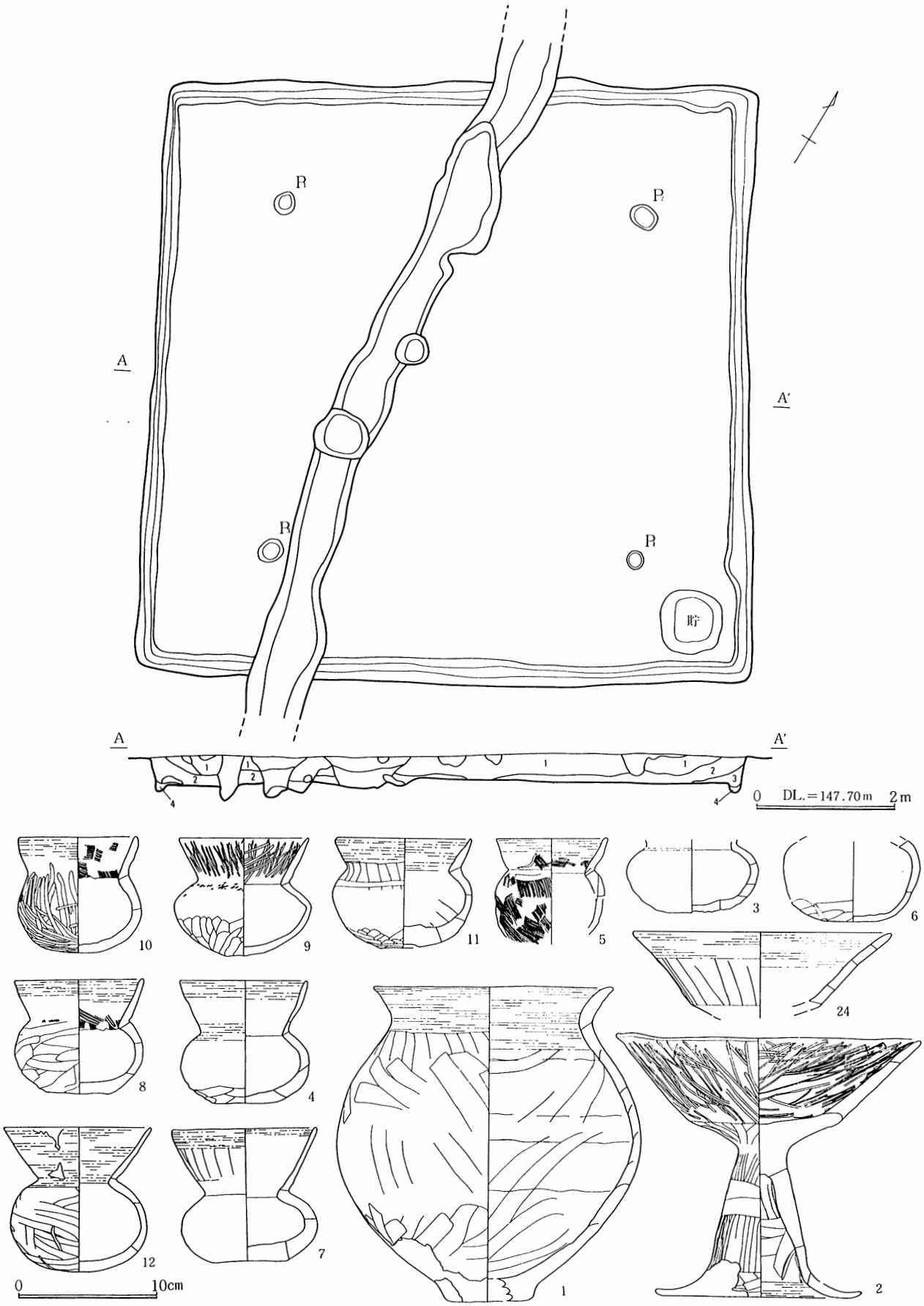


図36　8号住居実測図・遺物実測図

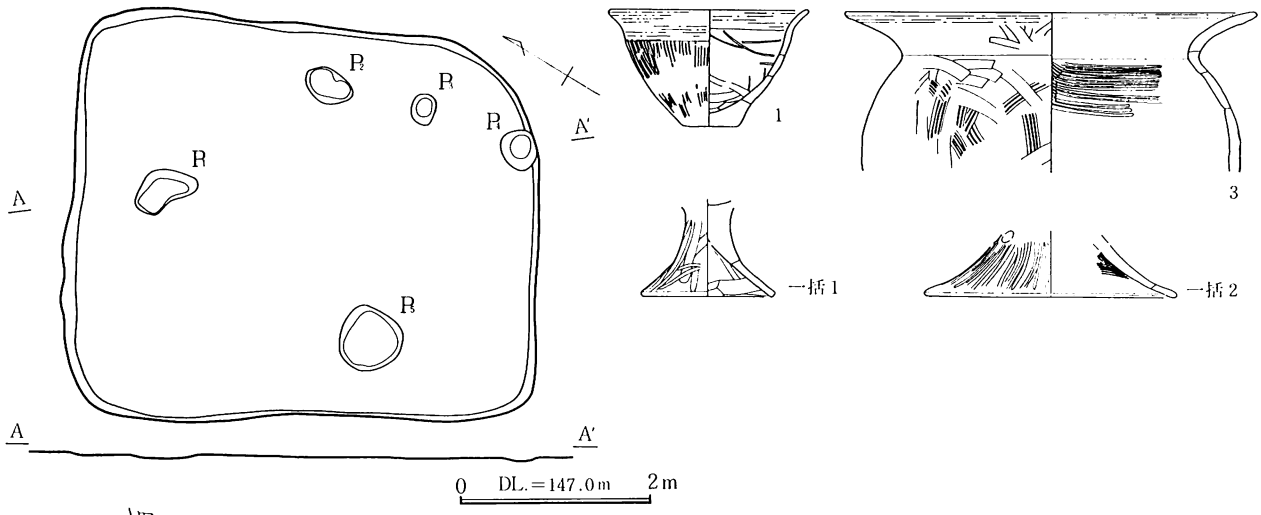


図37　34号住居実測図・遺物実測図

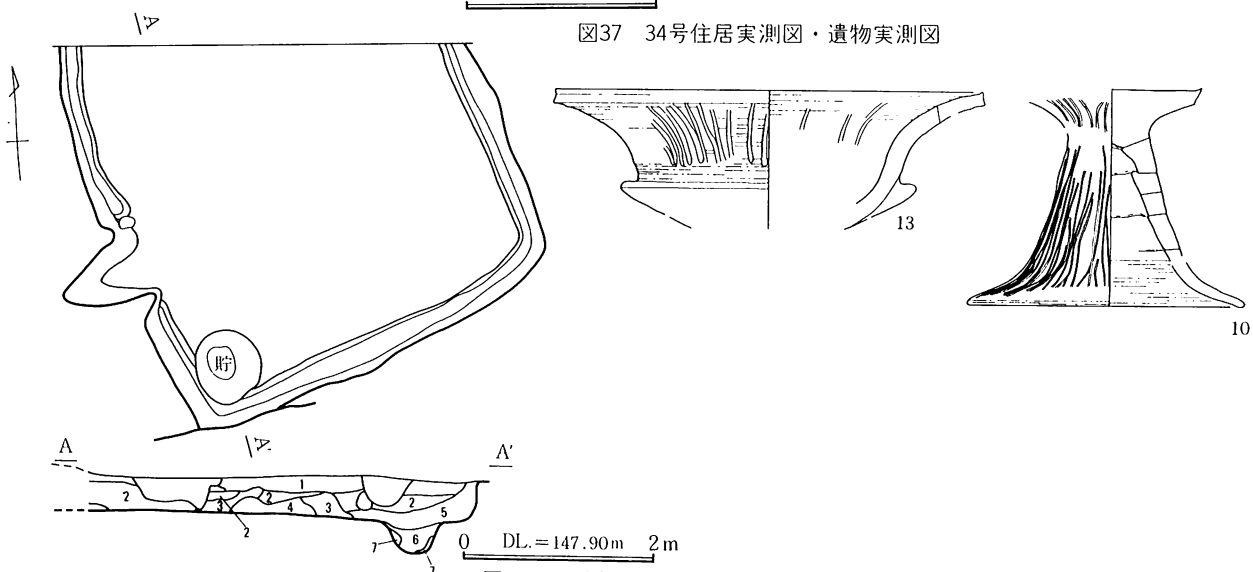


図38　1号住居実測図・遺物実測図

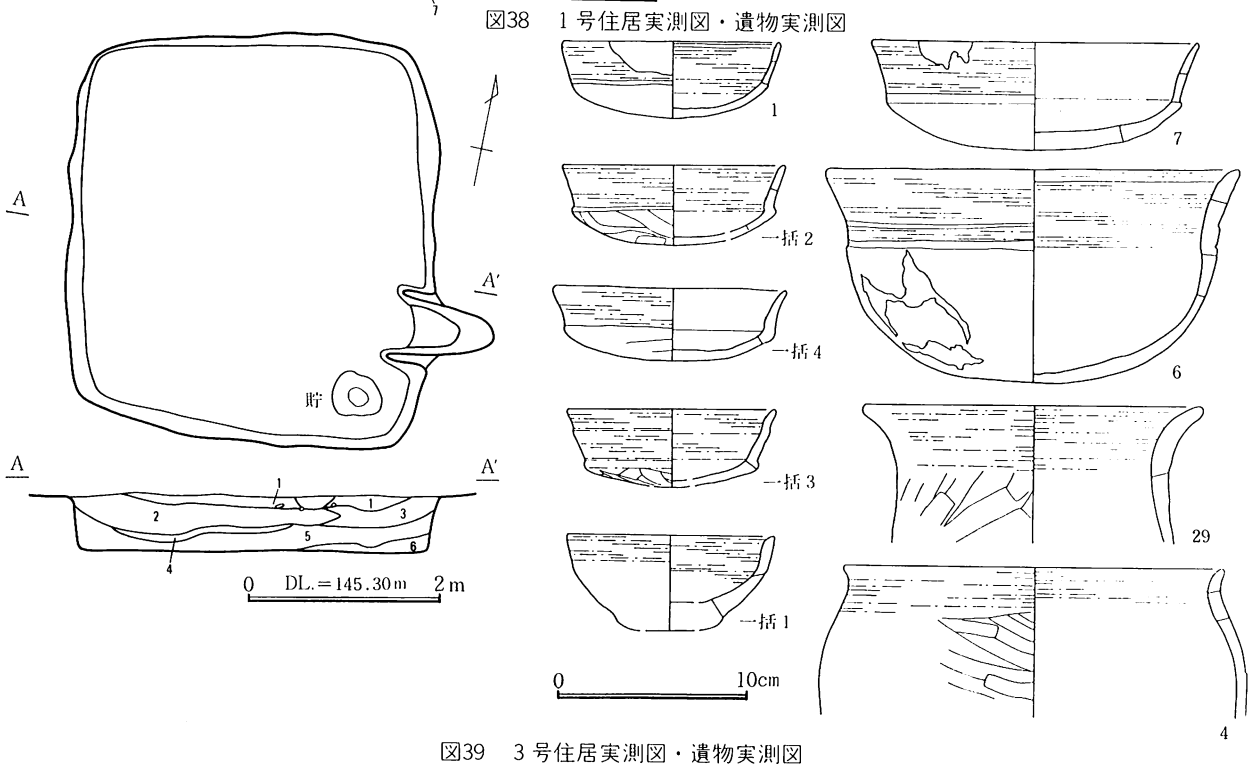


図39　3号住居実測図・遺物実測図

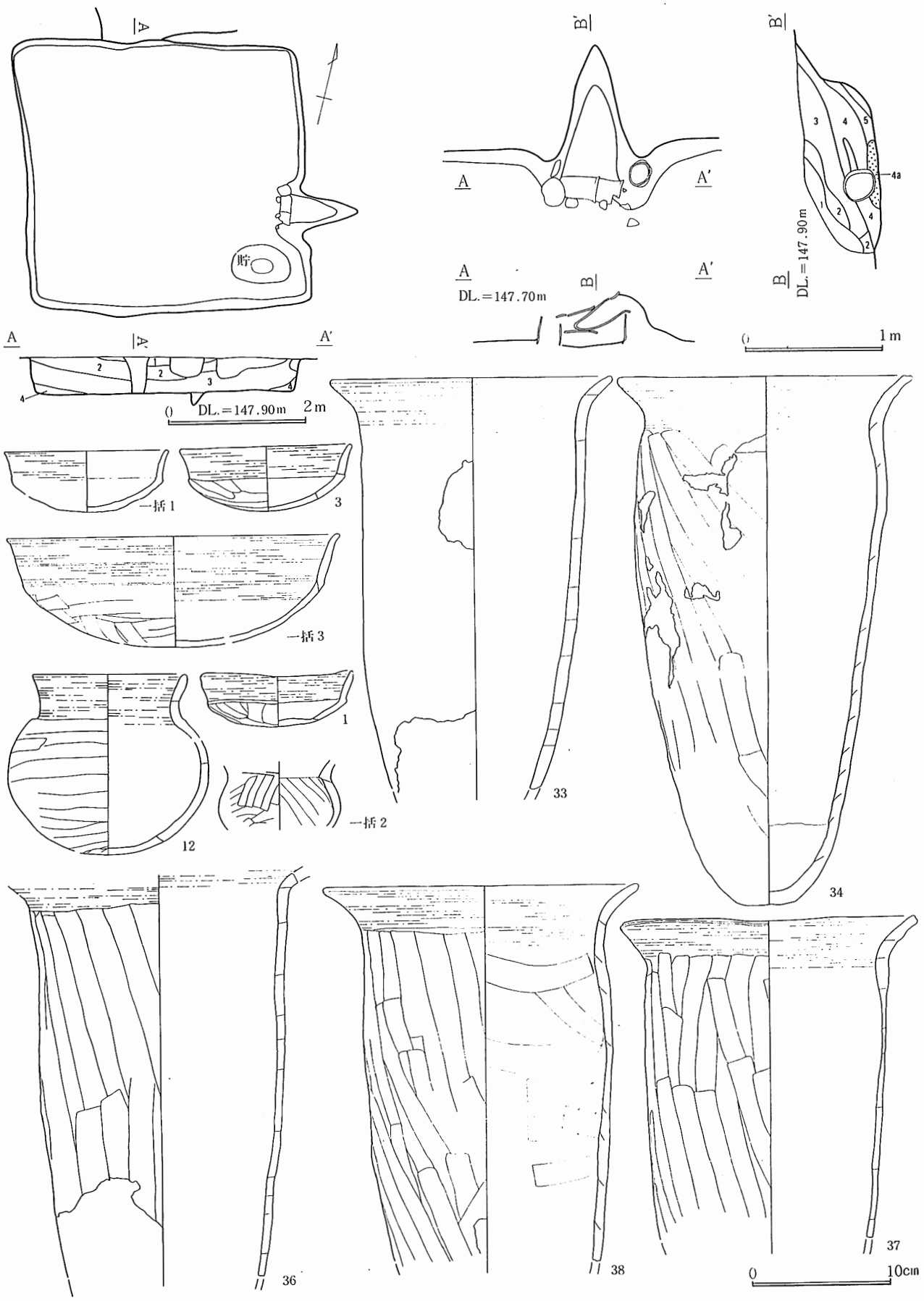


図40　2号住居実測図・遺物実測図

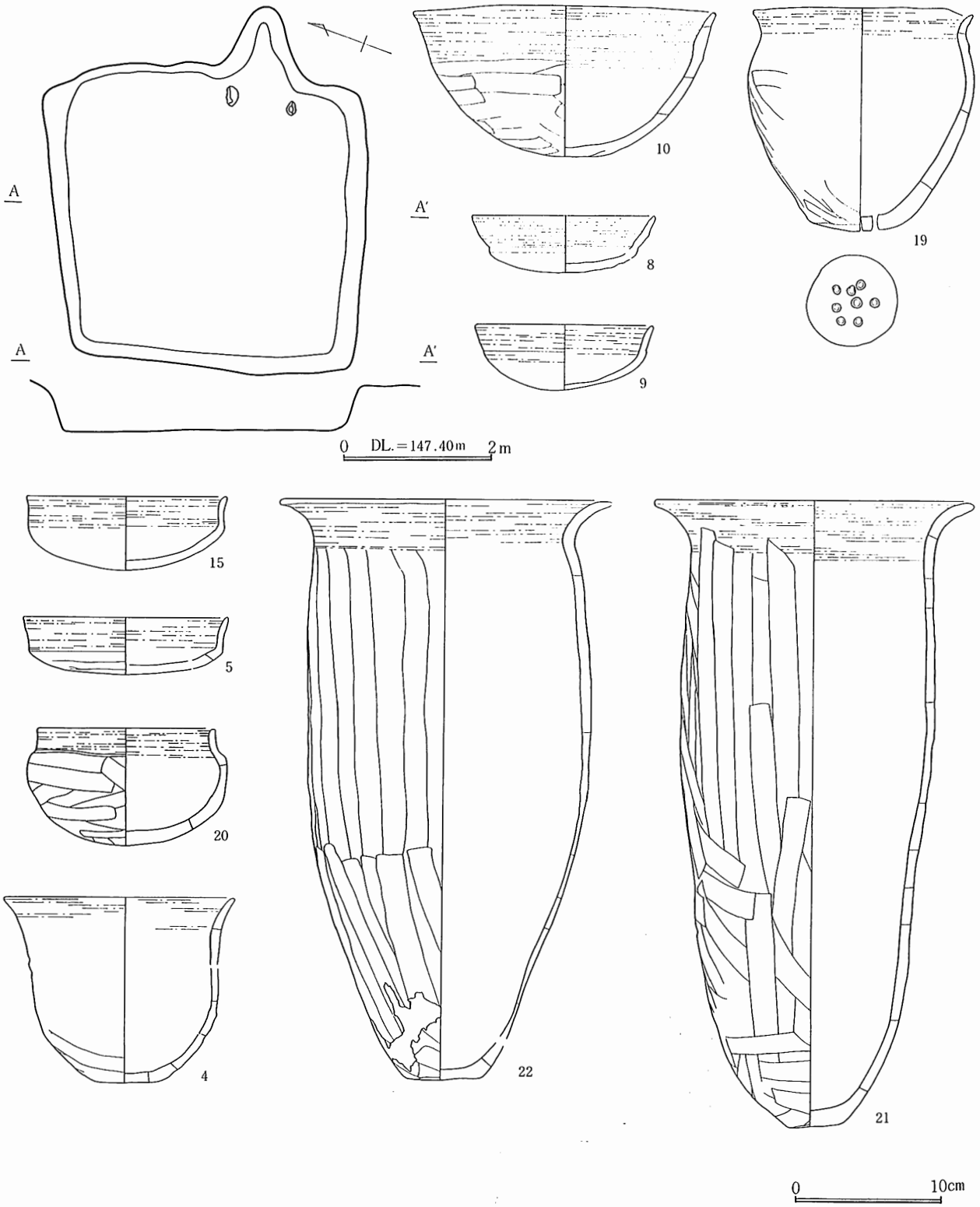


図41　16号住居実測図・遺物実測図

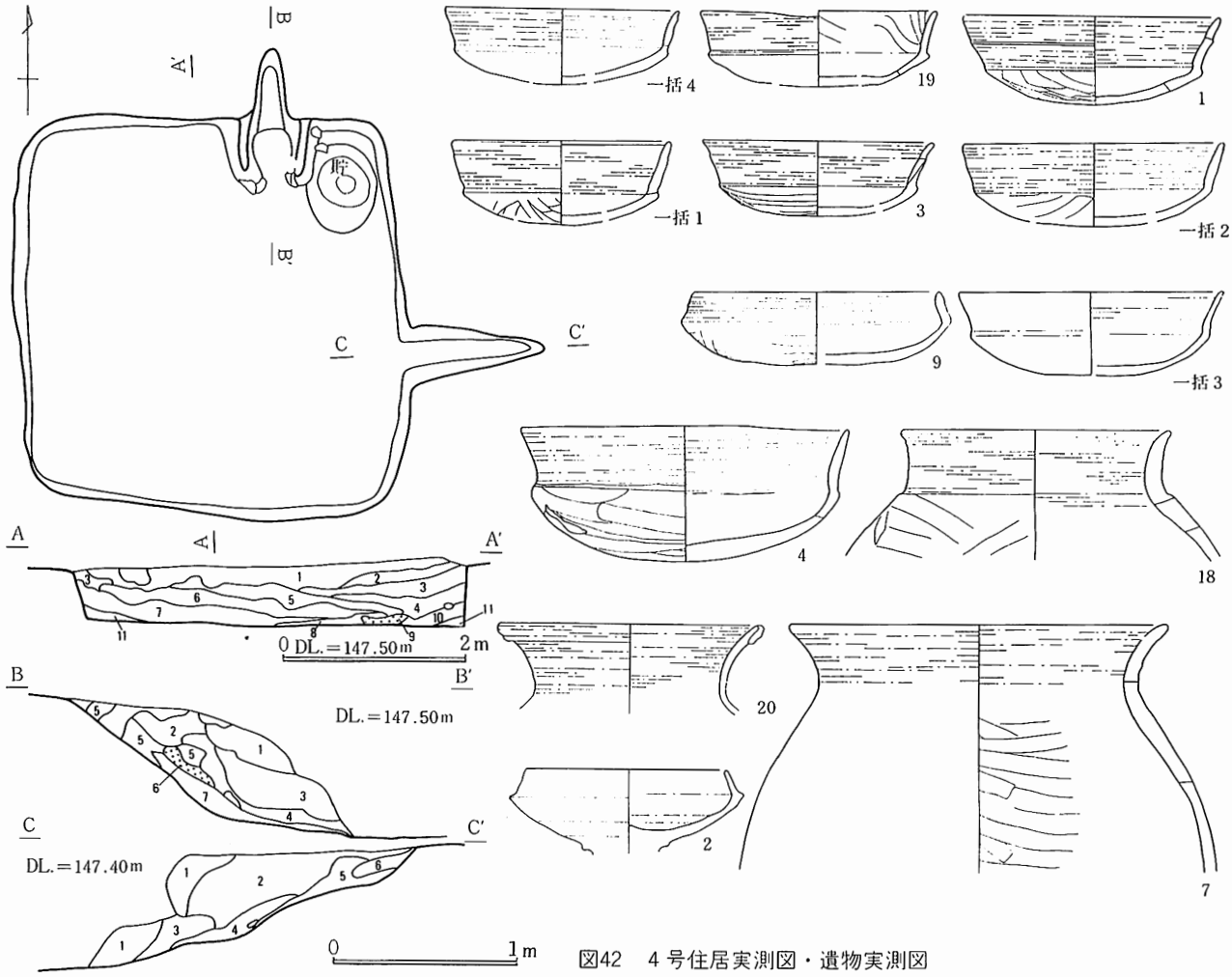


図42　4号住居実測図・遺物実測図

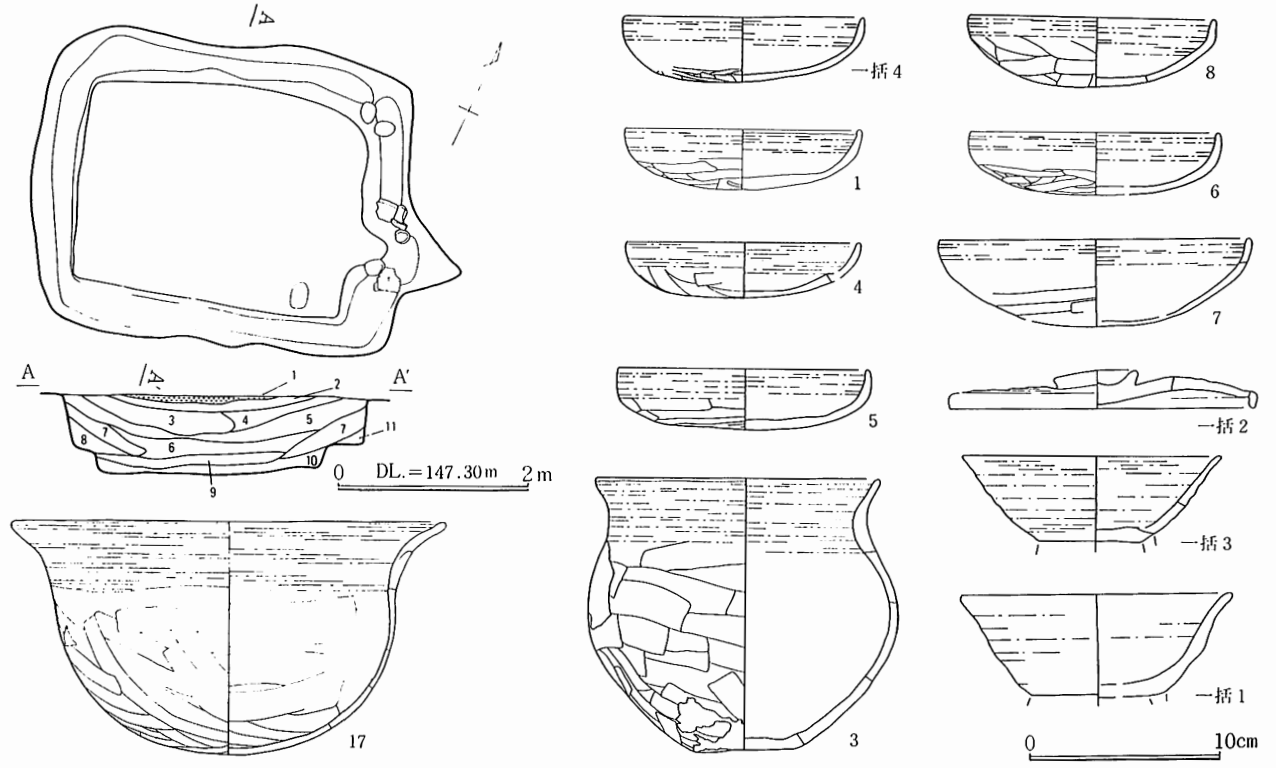


図43　18号住居実測図・遺物実測図

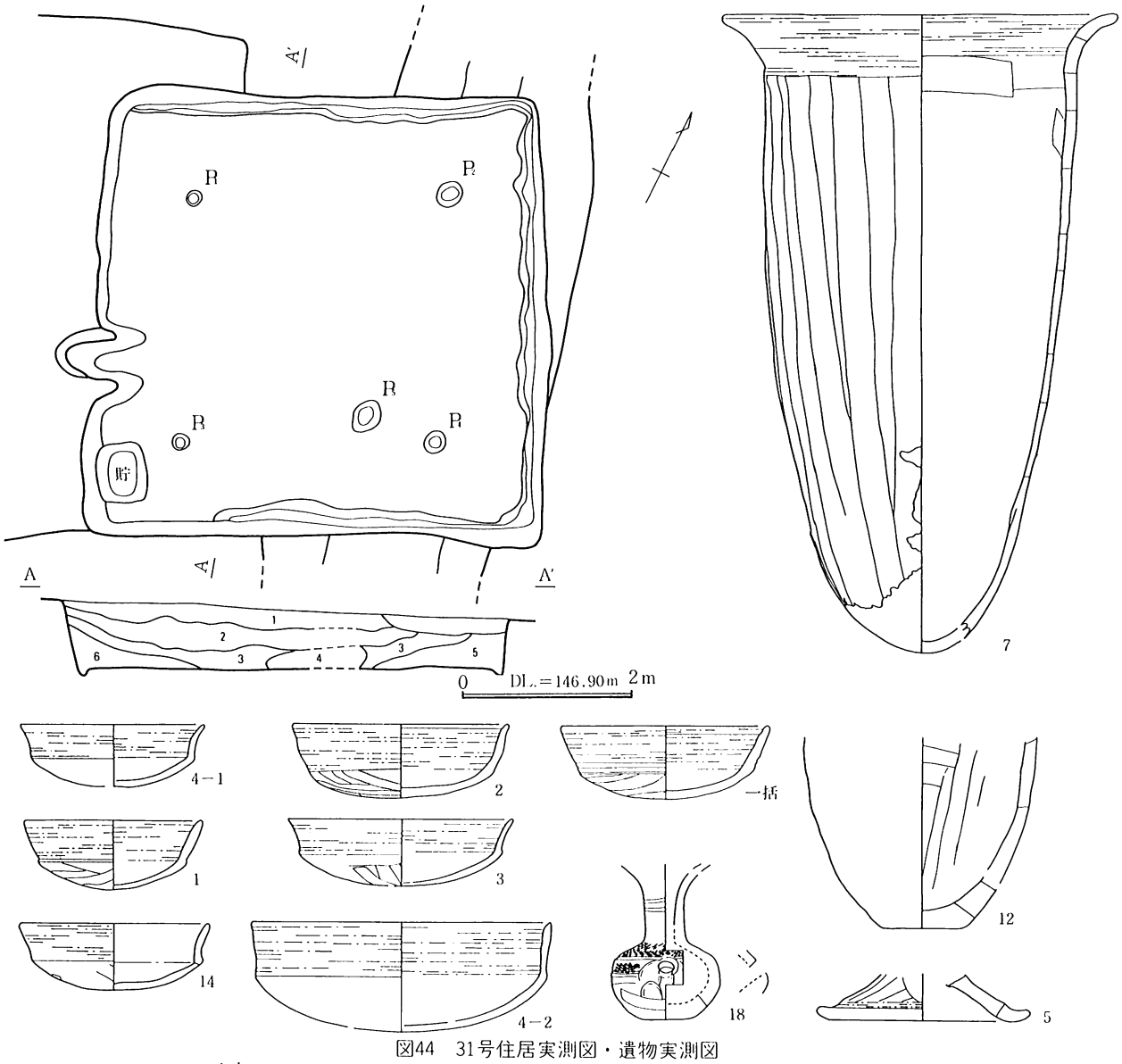


図44　31号住居実測図・遺物実測図

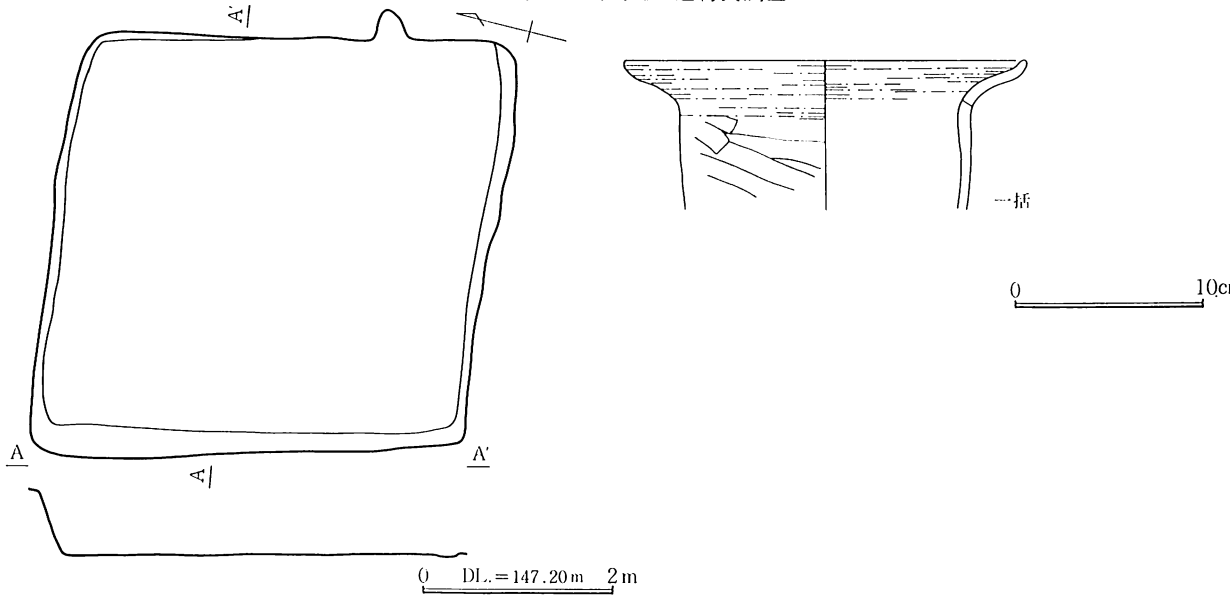


図45　17号住居実測図・遺物実測図

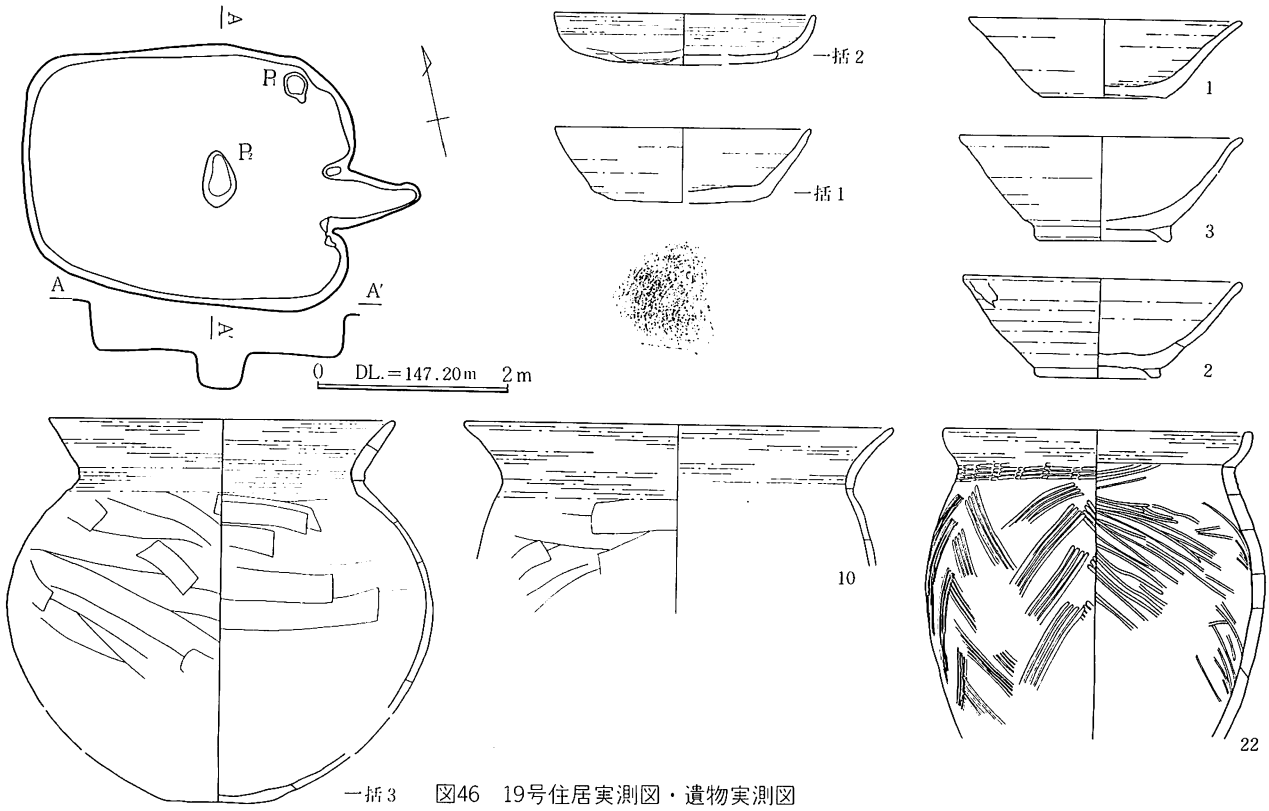


図46　19号住居実測図・遺物実測図

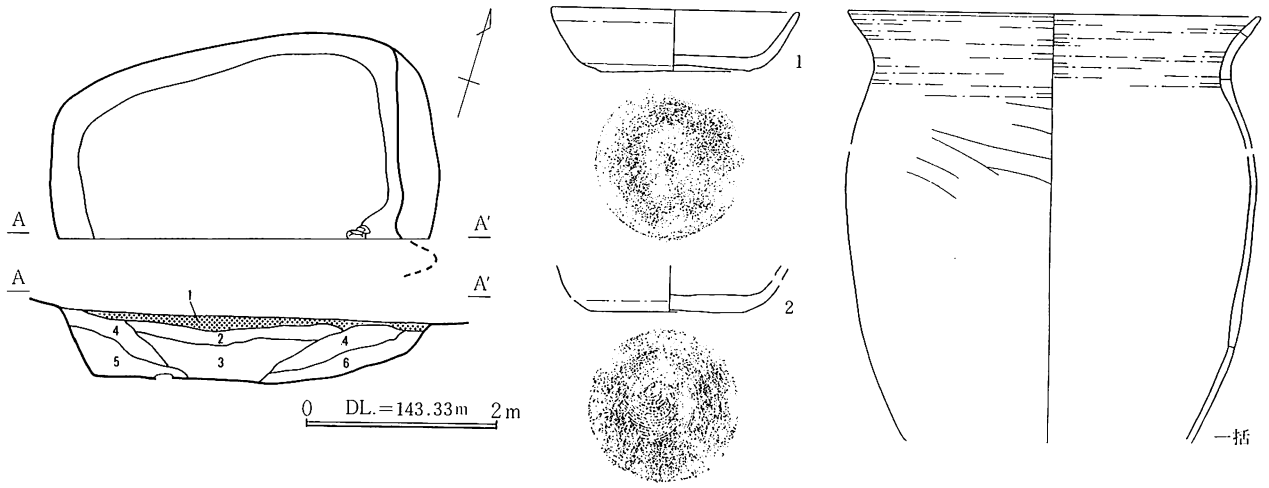


図47　24号住居実測図・遺物実測図

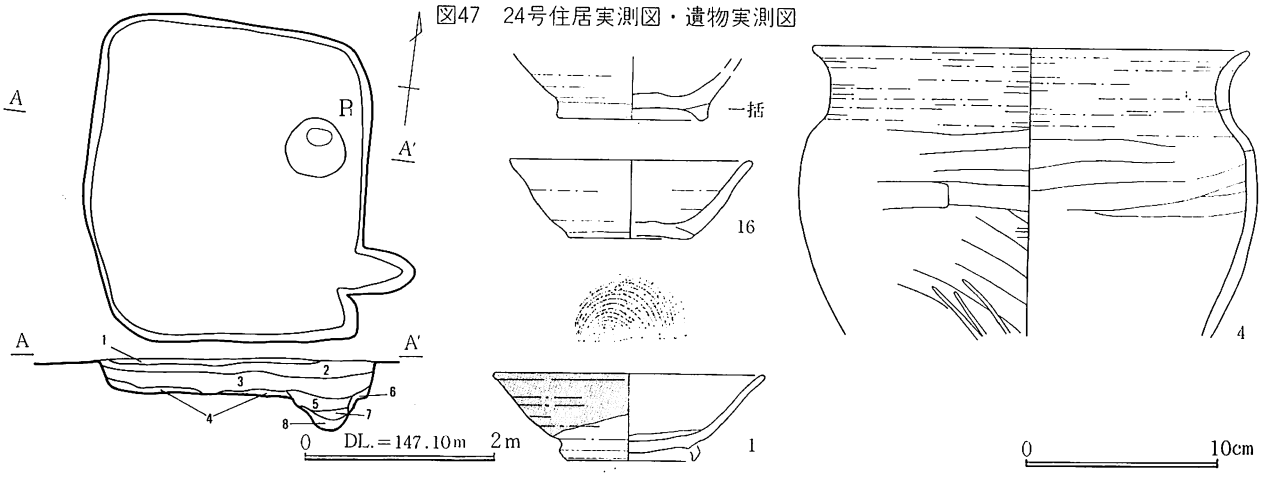


図48　26号住居実測図・遺物実測図

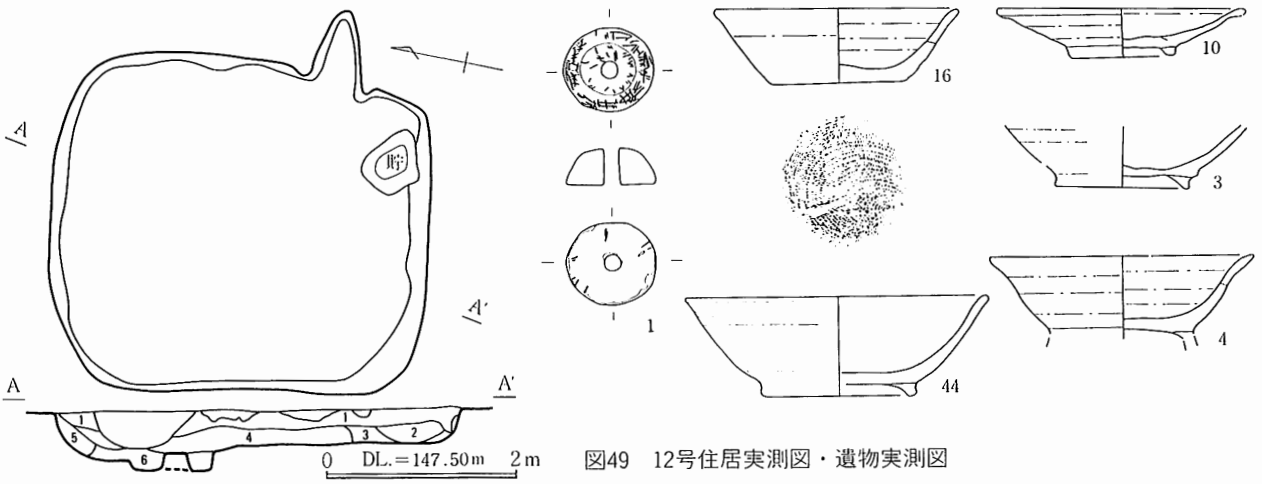


図49　12号住居実測図・遺物実測図

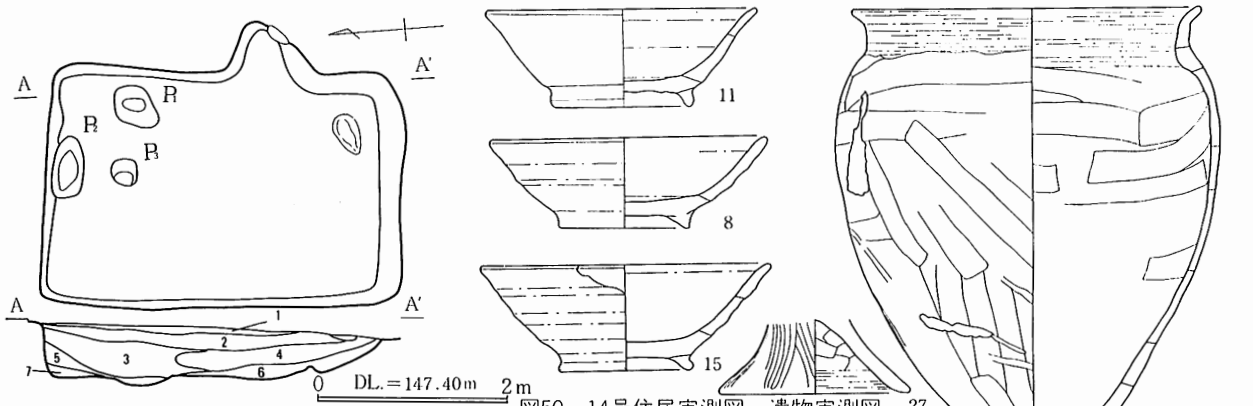
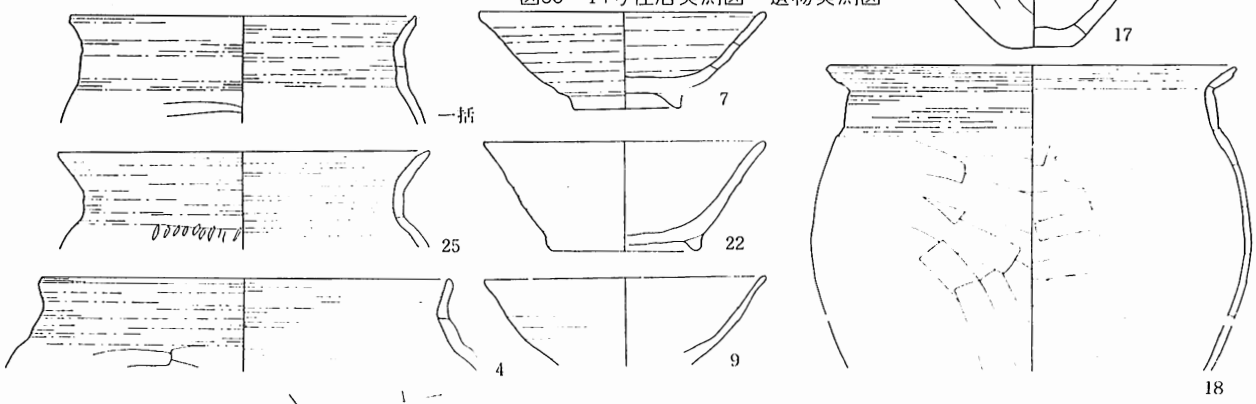


図50　14号住居実測図・遺物実測図



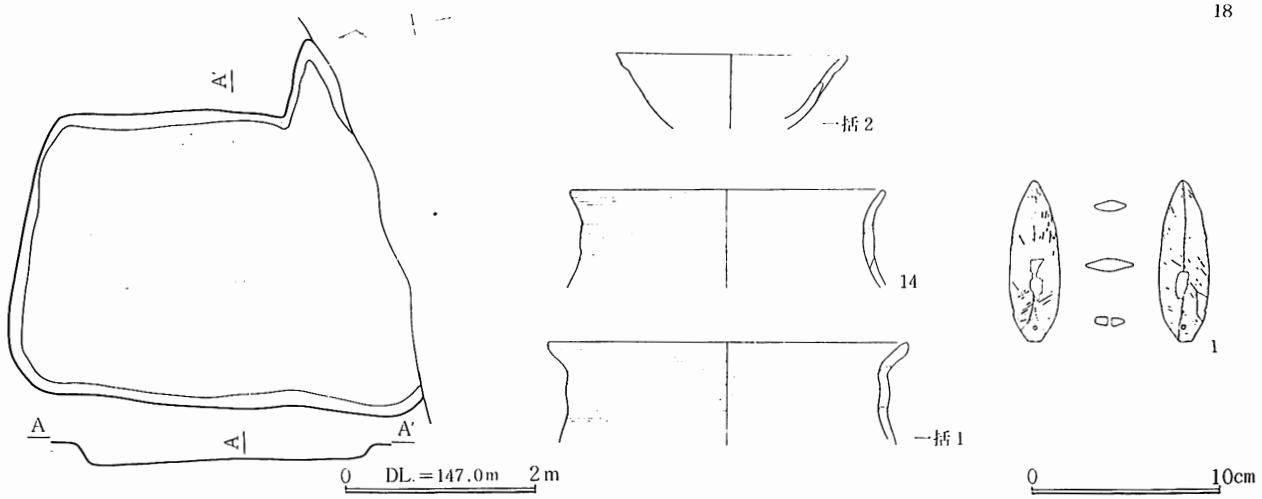


図51　15号住居実測図・遺物実測図

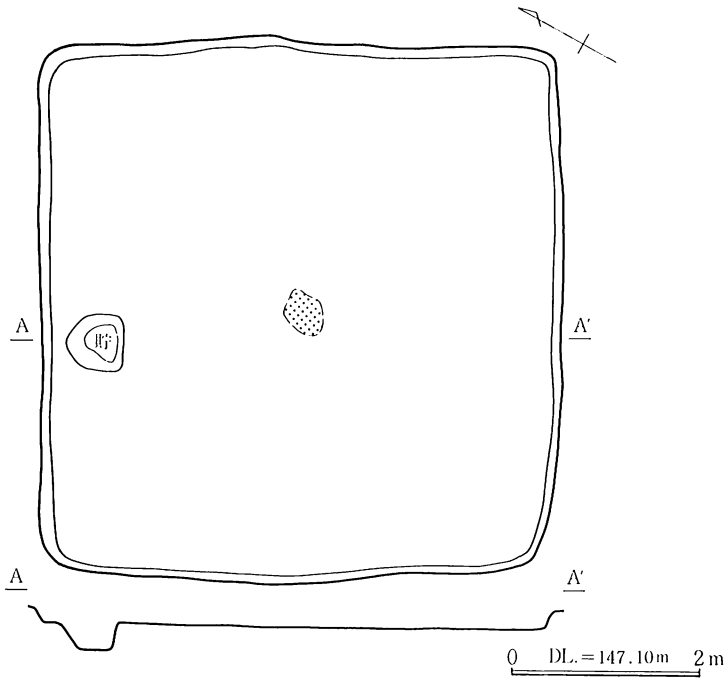


図52　6号住居実測図

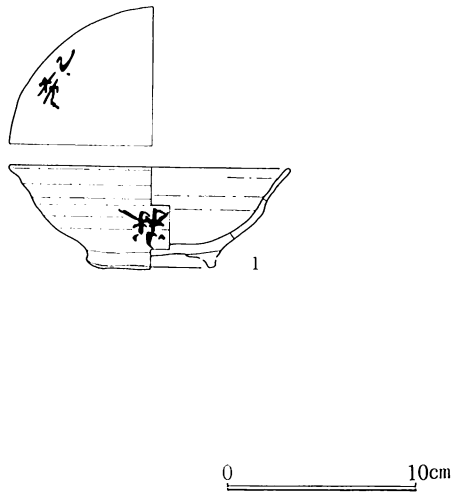


図53　地割れ内出土遺物実測図

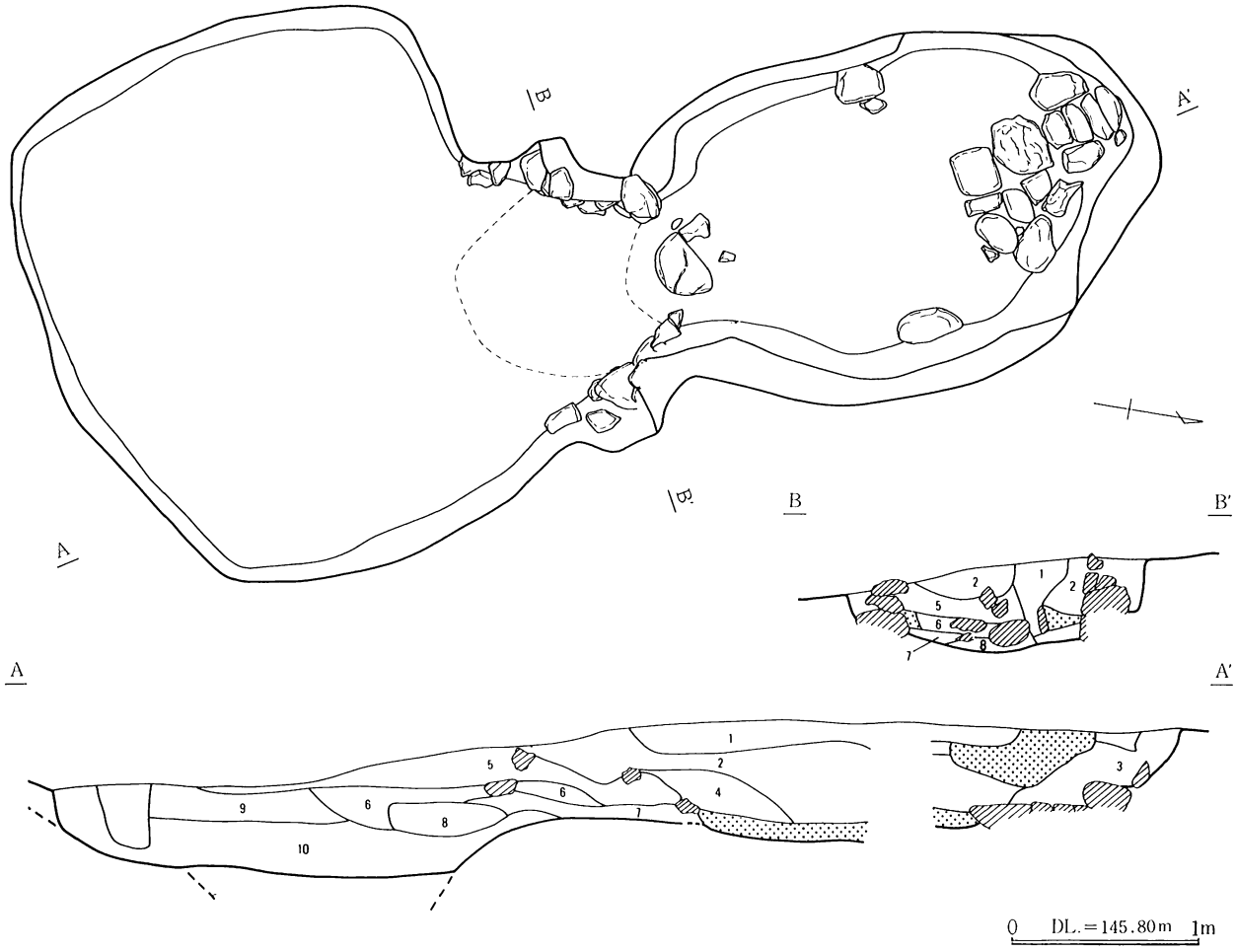


図54　炭窯実測図

遺構土層説明一覧

7号住居土層説明

1層	黒褐色土	多量のAs－Cを含む。
2層	黒褐色土	1層に比べAs－Cの含有量が少ない。
3層	暗褐色土	As－Cを僅かに含む。
4層	褐色土	焼土、炭化物を含む。ブロック状に焼土・炭化物塊を含む。
5層	明褐色土	ローム質土。

9号住居土層説明

1層	淡黒褐色土	As－C及びHr－FP粒を含む。
2層	黒色土	As－Cを多量に含む。
3層	黒褐色土	2層に比べAs－Cの含有量が少ない。
4層	褐色土	焼土、炭化物を含む。ブロック状に焼土・炭化物塊を含む。
5層	明褐色土	ローム質土。

11号住居土層説明

1層	黒色土	多量のAs－Cを含む。
2層	黒褐色土	斑状にローム質土を含む。As－Cを余り含まない。
3層	明褐色土	As－Cを含まない。焼土、炭化物を含む。
4層	赤褐色土	焼土・炭化物ブロック。

13号住居土層説明

1層	黒褐色土	As－C及びHr－FP粒を含む。少量の炭化物・焼土粒を含む。
2層	淡黒褐色土	As－C及びHr－FP粒を含む。1層よりやや淡い。
3層	黒色土	As－Cを多量に含む。
4層	黒褐色土	As－Cを僅かに含む。
5層	暗褐色土	ローム質土を斑状に含む。
6層	黒褐色土	多量の炭化物・焼土を含む。
7層	褐色土	焼土を多く含む。
8層	褐色土	ローム質土。
9層	明褐色土	ローム質土。(壁周溝埋め土)

20号住居土層説明

1層	黒褐色土	As－C及びHr－FP粒を含む。
2層	黒色土	1層よりHr－FPの量が少ない。
3層	黒色土	多量のAs－Cを含む。
4層	黒褐色土	3層に比べAs－Cの含有量が少ない。
5層	暗褐色土	少量のAs－Cを含む。炭化物を含む。
6層	褐色土	斑状にローム質土を含む。
7層	褐色土	ロームブロックを含む。
8層	赤褐色土	焼土層

27号住居土層説明

1層	黒褐色土	As－Cを多量に含む。
2層	黒色土	上部に少量のAs－Cを含む。
3層	暗褐色土	ローム質土。

29号住居土層説明

1層	黒褐色土	As－C及びHr－FP粒を含む。
2層	黒色土	As－Cを多量に含む。
3層	暗褐色土	ローム粒を含み、少量のAs－Cを含む。
4層	褐色土	ローム粒を含む、As－Cを含まない。

30号住居土層説明

1層	黒褐色土	As－Cを含む。
2層	黒色土	As－Cを少量の含む。
4層	暗褐色土	ローム粒を少量の含む。

32号住居土層説明

1層	暗褐色土	As－C及びHr－FP粒を含む。
2層	黒褐色土	多量のAs－Cを含む。
3層	黒色土	少量のAs－Cを含む。
4層	暗褐色土	ローム質土を斑状に含む。As－Cを含まない。

33号住居土層説明

1層	暗褐色土	多量のAs－C及び少量のHr－FP粒を含む。
2層	黒褐色土	As－C及びHr－FP粒を少量の含む。
3層	黒色土	極少量のAs－Cを含む。
4層	赤褐色土	多量の焼土を含む。
5層	褐色土	ローム質土を斑状に含む。

28号住居土層説明

1層	黒色土	As－C及びHr－FP粒を含む。
2層	暗褐色土	As－Cを含む。
3層	褐色土	As－Cを少量含む。ローム粒、炭化物粒を含む。
4層	暗褐色土	As－Cを含まない。炭化物、焼土粒を多く含む。
5層	赤褐色土	焼土ブロック。
6層	黒色土	炭化物ブロック。

1号方形周溝墓周堀土層説明

1層	暗褐色土	Hr－FP粒、As－C粒を少量含む。
2層	黒褐色土	Hr－FP粒、As－C粒を含む。

3層	黒色土	Hr－ＦＰ粒を含み、As－Ｃ粒を僅かに含む。
4層	黒褐色土	Hr－ＦＰ粒を含む。
5層	暗褐色土	Hr－ＦＰ粒、ローム粒を含む。
6層	褐色土	Hr－ＦＰ粒、ローム粒を僅かに含む。
7層	暗褐色土	ローム粒を少量含む。硬く締まる。以下、縄文時代の土壙埋め土。
8層	褐色土	ローム粒を含む。硬く締まる。

2号方形周溝墓周堀土層説明

a層	褐色土	ローム粒を多く含む。a層～e層は大溝埋め土。
b層	暗褐色土	ローム粒を含む。
c層	暗褐色土	僅かにローム粒を含む。やや砂質。
d層	褐色土	ロームブロック、ローム粒を多く含む。a層より明るい。
e層	褐色土	ロームブロック、ローム粒を多く含む。d層より明るい。
1層	黒褐色土	As－B粒を多く含む。やや砂質。
2層	黒色土	大粒のHr－ＦＰ粒を含む。少量のAs－Ｃ、炭化物粒を含む。
3層	黒褐色土	Hr－ＦＰ、As－Ｃ粒を含む。
4層	黒色土	As－Ｃを含む。
5層	黒褐色土	As－Ｃ、ローム粒を含む。
6層	暗褐色土	As－Ｃを僅かに含む。
7層	淡褐色土	ロームブロックを斑状に含む。

3号方形周溝墓土層説明

a層	淡褐色土	砂質土。耕作土に似る。a～ｉは溝埋め土。
b層	暗褐色土	As－Ｃ、Hr－ＦＰ粒を少量含む。砂質土。
c層	暗褐色土	b層に似る。炭化物を含む。砂質土。
d層	黒褐色土	c層に似る。ローム粒を含む。砂質土。
e層	黒褐色土	As－Ｃ粒、ローム粒を少量含む。やや砂質。
f層	暗褐色土	e層に似るが、As－Ｃ、ローム粒が少ない。
g層	暗褐色土	f層に似るが、ローム粒を含む。
h層	黒色土	As－Ｃ粒を含む。
i層	暗褐色土	ローム粒を多く含む。
1層	黒褐色土	Hr－ＦＰ、As－Ｃ粒を多く含む。1～4層は3号方形周溝墓周堀埋め土。
2層	黒色土	Hr－ＦＰ、As－Ｃ粒を少量含む。
3層	黒褐色土	As－Ｃ粒を僅かに含む。ローム粒を含む。
4層	淡褐色土	ローム質土。

4号方形周溝墓土層説明

1層	暗褐色土	Hr－ＦＰ粒、As－Ｃ粒を少量含む。1層～6層は周堀埋め土。
2層	暗褐色土	Hr－ＦＰ粒、As－Ｃ粒を少量含む。1層より僅かに暗い。
3層	暗褐色土	As－Ｃ粒、ローム粒を含む。
4層	黒色土	As－Ｃ粒を僅かに含む。
5層	褐色土	ロームブロックを多量に含む。
6層	暗褐色土	ロームブロックを含むが5層よりも少ない。
7層	褐色土	ロームブロックを含む。軟らかい。7層～9層は周溝墓墳丘盛土。
8層	暗褐色土	ロームブロックを殆ど含まない。
9層	明褐色土	ロームブロックを多量に含む。
10層	黒褐色土	As－Ｃを多量に含む。旧表土層
11層	黒褐色土	ローム粒、ロームブロックを含まない。
12層	黒褐色土	ロームブロックを含む。
13層	暗褐色土	ロームへの漸移層。
14層	褐色土	ソフトローム層。

5号方形周溝墓土層説明

1層	黒褐色土	As－Ｃ粒を含む。やや砂質。
2層	黒褐色土	As－Ｃ粒を含む。1層よりやや暗い。
3層	暗褐色土	1・2層に比べAs－Ｃ粒の含有量が少ない。
4層	褐色土	ローム質土。

6号方形周溝墓土層説明

0層	溝埋め土。	
1層	黒褐色土	多量のAs－Ｃ粒を含む。上面に少量のHr－ＦＰ粒を含む。
2層	黒褐色土	1層に似るが、ローム粒を含み1層より明るい。
3層	暗褐色土	As－Ｃ粒、少量のローム粒を含む。
3a層	暗褐色土	少量のAs－Ｃ及びローム粒を含む。
4層	暗褐色土	As－Ｃ粒を含まず、少量のローム粒を含む。
5層	褐色土	多量にローム粒を含む。

7号方形周溝墓土層説明

1層	黒色土	As－Ｃ粒を含む。
2層	黒褐色土	1層よりさらに多くのAs－Ｃ粒を含む。

3層　灰白色軽石層　As－Cの純層。
4層　暗褐色土　As－C粒を含む。しまりあり。
5層　淡褐色土　ロームブロックを含む。ローム質土。

8号住居土層説明

1層　黒褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。
2層　暗褐色土　As－C及び少量の炭化物を含む。
3層　褐色土　ローム粒を含む。
4層　褐色土　ローム質土。

1号住居土層説明

1層　暗褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。炭化物、ローム粒も含む。
2層　黒褐色土　1層よりローム粒の含有量が少なく、やや暗い。
3層　淡褐色土　焼土粒や粘土粒を含む。竈の部財か。
4層　淡赤褐色土　焼土粒や粘土粒を多く含む。
5層　暗褐色土　1層に似るがHr－FPを含まない。
6層　褐色土　締まりが無くサラサラしている。貯蔵穴埋め土
7層　黄褐色土　ロームブロック。

2号住居土層説明

1層　暗褐色土　As－C、Hr－FPを少量含む。
2層　褐色土　ローム質土を斑状に含む。
3層　黄褐色土　1層に似るが、ローム粒を多く含む。
4層　明黄褐色土　ロームブロックを多く含む。

2号住居カマド部土層説明

1層　暗褐色土　上記1層と同様。
2層　灰褐色土　灰白色粘土粒を含む。
3層　灰褐色土　2層より多量の粘土粒を含む。
4層　灰色土　灰白色粘土質土。
4a層赤褐色土　焼土ブロック。
5層　暗灰褐色土　焼土粒、炭化物粒を含む。

3号住居土層説明

1層　暗褐色土　Hr－FP粒と少量のローム粒を含む。
2層　褐色土　1層より多量のローム粒を含む。
3層　黒褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。
4層　黒褐色土　As－C、Hr－FP、ローム粒を少量含む。
5層　暗褐色土　1層に似る。
6層　淡褐色土　粘土を含む。

4号住居土層説明

1層　暗褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。
2層　褐色土　ローム粒を多く含む。
3層　明褐色土　2層よりさらに多くのローム粒を含む。
4層　黒褐色土　1層に似る。
5層　褐色土　ロームブロックを含む。
6層　明褐色土　ロームブロックを多量に含む。
7層　黒褐色土　1層に似る。
8層　黒灰褐色土　炭化物を多く含む。カマドの崩落部か。
9層　赤褐色土　焼土層
10層　褐色土　ローム粒を含む。
11層　褐色土　ローム質土

4号住居1号カマド部土層説明

1層　暗褐色土　住居埋め土1層に同じ。
2層　淡褐色土　焼土粒を含む。
3層　褐色土　2層に似る。
4層　明褐色土　焼土粒を多く含む。
5層　赤褐色土　多量の焼土を含む。
6層　赤褐色土　焼土ブロック。
7層　暗赤褐色土　焼土、灰層、炭化物を含む。

4号住居2号カマド部土層説明

1層　上記に同じ
2層　暗褐色土　ローム粒を含む。
3層　暗褐色土　炭化物粒を僅かに含む。
4層　褐色土　焼土粒を含む。
5層　淡褐色土　粘土粒、焼土粒を含む。
6層　褐色土　やや軟質のローム質土

18号住居土層説明

1層　青紫色砂質土　As－B純層
2層　黒褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。やや砂質。
3層　黒色土　As－C、Hr－FP粒を含む。
4層　黒褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。
5層　暗褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。
6層　暗褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。5層よりやや暗い。
7層　暗褐色土　Hr－FPを少量含む。6層よりさらに暗い。
8層　暗褐色土　7層よりやや明るい。
9層　褐色土　ロームブロックを含む。
10層　暗褐色土　ロームブロックを少量含む。
11層　褐色土　ローム質土。

31号住居土層説明

1層　暗褐色土　As－C、Hr－FP粒を含む。
2層　褐色土　ロームブロックを含む。
3層　褐色土　2層に比べロームブロックの量が少ない。

4層	褐色土	ローム粒、粘土粒、焼土粒を含む。
5層	茶褐色土	多量の粘土ブロック、焼土粒を含む。
6層	暗褐色土	ローム粒を含む。

24号住居土層説明

1層	灰褐色土	As－Bを含む。
2層	青紫色砂質土	As－B純層。
3層	黒色土	Hr－FP粒を僅かに含む。
4層	黒褐色土	3層よりやや明るい。Hr－FP粒を含む。
5層	暗褐色土	ローム粒を僅かに含む。
6層	褐色土	ローム粒、焼土粒を含む。竈部の崩落土。

26号住居土層説明

1層	黒褐色土	As－Bを少量含む。
2層	黒褐色土	As－C、Hr－FP粒を含む。
3層	褐色土	As－Cを少量含む。
4層	暗褐色土	ロームブロック、ローム粒を含む。
5層	黒色土	As－Cを僅かに含む。貯蔵穴埋め土。
6層	暗褐色土	ローム粒を僅かに含む。
7層	黒褐色土	ローム粒を僅かに含む。
8層	暗褐色土	ロームブロックを少量含む。4層より明るい。

12号住居土層説明

1層	黒褐色土	As－C、Hr－FP粒を含む。
2層	暗褐色土	Hr－FPを少量含む。焼土、ローム粒を僅かに含む。
3層	褐色土	ロームブロック、ローム粒を多く含む。
4層	暗褐色土	As－C、Hr－FP粒を僅かに含む。
5層	暗褐色土	ローム質土。床下埋め土。
6層	褐色土	ロームブロックを含む。

14号住居土層説明

1層	灰褐色土	As－Bを多量に含む。
2層	黒褐色土	As－Bを含む。やや砂質。As－C、Hr－FP粒を僅かに含む。
3層	黒褐色土	As－C、Hr－FP粒を含む。少量の焼土、炭化物を含む。
4層	黒褐色土	3層に比べやや黄色味を増す。
5層	褐色土	As－Cを含む。3層よりやや明るい。
6層	暗褐色土	焼土を多く含む。
7層	褐色土	ローム質土。

炭窯

1層	淡赤褐色土	焼土粒を含み、焼土ブロックを僅かに含む。
2層	暗褐色土	焼土粒、炭化粒を含む。
3層	淡赤褐色土	スサ入り粘土、焼土ブロックを多く含む。
4層	褐色土	焼土ブロックを含むが1層より少ない。
5層	暗褐色土	焼土粒、ローム粒を含む。
6層	暗褐色土	焼土粒を僅かに含む。5層より暗い。
7層	黒色土	炭層。硬く締まる。
8層	淡赤褐色土	焼土粒、ローム粒を含む。
9層	黒色土	炭化物、焼土粒を僅かに含む。7層より淡い。
10層	淡褐色土	ローム質土。大溝埋め土。

遺物観察表

7号住居　出土遺物観察表（図5・6、PL29・32）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
25	壺	(15.6)	受け口状口縁。頸部は太い。 (外面調整)　頸部ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　全体にハケメ。口縁部ヨコナデ。 (文様)　口縁部にＬＲの縄文施文。その後ヘラ描きによる波状文。頸部はＬＲの縄文を地文として、ヘラ描きによる沈線を1条巡らし、その下にヘラ描きによる連弧文が5段施される。	①7.5YR 7/6 橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選　⑤内面の剝落顕著　⑥床面直上
	壺	(10.2)	胴部は緩やかな膨らみを持ち、中央部に最大径を持つ。頸部は細く締まり、口縁部は直線的に開く。口縁部は折り返し口縁。 (外面調整)　口縁上部にヨコナデ。胴部の一部にヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部から胴部にかけてナデ。 (文様)　口縁の折り返し部にRLの縄文。頸部から胴上半部にかけてRL縄文が施文された後、細描き沈線によって帯状文とその下に連続山形文が施文され、それぞれ擦り消しにより帯状文と山形文内に縄文が残される。	①7.5YR 7/4 にぶい橙　②酸化　③2/3　④精選。輝石を含む　⑤底部周辺に黒斑　⑥床面直上
18	壺	9.4	胴下半部のみ。胴上部に最大径をもつ。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　剝落。	①7.5YR 5/3 にぶい褐　②酸化　③胴下半部のみ　④砂礫粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
75	壺		胴中央部よりやや上位に最大径を持つ。 (外面調整)　丁寧なヘラミガキ。 (内面調整)　ハケメの後ナデ。	①5YR 5/6 明赤褐　②酸化・良好　③胴中央部のみ1/2　④精選　⑥
6	壺		頸部は細く、緩やかに開く。 (外面調整)　頸部は縦方向のヘラミガキ。肩部は横方向のヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラナデ。 (文様)　頸部から肩部にかけてＬＲ縄文を横位施文し、沈線で区画して擦り消しにより2段の帯状文としている。	①2.5YR 5/6 明赤褐　②酸化やや軟質　③頸部周辺のみ　④精選　⑤黒斑　⑥床面直上
14	高坏？	10.0	脚柱部は細く裾部で大きくラッパ状に開く。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　ハケメの後ヘラミガキ。	①2.5YR 4/6 赤褐　②酸化　③脚柱部のみ　④精選。砂粒を含む　⑤赤色塗彩　⑥床面直上
一括	甕	(9.2)	口縁部は短く、僅かに外反する。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキか。 (文様)　太めの4本歯櫛状工具による波状文が施される。	①10YR 5/4 にぶい黄橙　②酸化　③1/4　④精選　⑤黒斑　⑥埋め土内
24	壺	9.8	胴部は底部から直線的に開く。 (外面調整)　ハケメ。 (内面調整)　剝落が激しい。	①10YR 7/4 にぶい黄橙　②酸化　③底部周辺のみ　④砂粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
16	台付き甕	8.3	脚柱部は短く、裾部でラッパ状に開く。 (外面調整)　裾部ヨコナデ。脚柱部ヘラミガキ。 (内面調整)　ナデ。	①7.5YR 5/4 にぶい橙　②酸化　③脚台部のみ　④精選。白色軽石粒子を含む　⑥床面直上
21	甕	(21.0)	口縁部は短く、やや受け口状に内湾して開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。 (内面調整)　擦痕状のハケメの後胴部上半部は横方向のヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＲＬの縄文が施されている。頸部には櫛状工具による不規則な簾状文。胴部には全面に不規則な波状文。	①10YR 5/4 にぶい黄橙　②酸化　③1/3　④精選。白色鉱物粒を多く含む。　⑤二次焼成を受ける　⑥床面直上
35	壺	(12.6)	口縁部は頸部から緩やかに外反しながら開くが、端部で僅かに内湾する。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ (内面調整)　ハケメ。剝落が激しい。 (文様)　口唇部に縄文？。頸部に2条の沈線をめぐらす。その下に部分的に沈線により四角な区画文を描き、横位の沈線で充填している。	①10YR 7/4 にぶい黄橙　②酸化やや軟質　③口縁部の一部のみ　④精選。砂礫粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
38	甕	20.7 15.3 6.2	底部は小さく端部が外に張り出す。胴部は上半部に最大径を持つ。口縁部は、頸部からくの字に短く外傾する。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴下半部ハケメの後ナデ。 (内面調整)　口縁部ハケメ。胴上半部に縦方向のヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文。頸部に7本歯の櫛状工具による等間隔止めの簾状文。胴部に頸部と同一工具による波状文。	①5YR⅚明赤褐　②酸化　③完形　④精選。砂粒を含む　⑥床面直上
20	鉢	(23.2)	口縁端部が大きく外反して開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部は擦痕状のハケメの後ヘラミガキ。部分的に赤色塗彩。 (内面調整)　ヘラミガキの後赤色塗彩。	①7.5YR¾にぶい橙　②酸化　③口縁部の一部のみ　④精選　⑤赤色塗彩　⑥床面直上

9号住居　出土遺物観察表（図8、ＰＬ29・32）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
4	壷		頸部は太く、口縁部は緩やかに開く。 (外面調整)　口縁部にヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部にヘラミガキ。 (文様)　頸部にヘラ描きによる沈線が5条巡り、その沈線と沈線との間にヘラ描きによる波状文がそれぞれ1条づつ施される。	①7.5YR¾にぶい橙　②酸化　③頸部のみ　④精選。砂粒を含む　⑥床面直上
81	壷	14.4	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反して開き、端部で僅かに内湾し、受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部はハケメの後、縦方向のヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部はハケメ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文。頸部にはＬＲ縄文を施文後ヘラ描きによる沈線が3条巡らされる。	①7.5YR¾にぶい黄橙　②酸化　③½　④精選。輝石を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥P_1内
48	甕	(17.8)	胴上半部に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は短く、内湾して立ち上がり、受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部は擦痕状のハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部は擦痕状のハケメの後ヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。口縁部にはヘラ描き沈線による波状文が施される。頸部には6本歯の櫛状工具による等間隔止の簾状文が、胴部には同一の櫛状工具による5単位の羽状斜走線文が施される。	①10YR⅔にぶい黄橙　②酸化　③½　④精選。輝石を含む　⑥床面直上
14	甕	21.2 (14.7) 7.1	胴上半部に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は緩やかに外傾して開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部は擦痕状のハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部はヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部に6本歯の櫛状工具による等間隔止の簾状文が施される。胴部には頸部と同一工具による、不規則な羽状の斜走直線文が施される。	①10YR⅔にぶい黄橙　②酸化　③½　④精選。輝石を含む　⑥床面直上
一括	壷		底部が外に張り出す。 (外面調整)　擦痕状のハケメ。 (内面調整)　ハケメ。	①7.5YR⅚橙　②酸化　③底部½　④砂粒・白色軽石粒を含む　⑥埋め土内

10号住居　出土遺物観察表（図9、ＰＬ33）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
1	甕	15.0 11.9 6.8	胴部は上半部がやや張る。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は肥厚して直線的に僅かに開く。 (外面調整)　口縁部にナデ。一部にユビオサエ。胴部は縦方向のナデ。 (内面調整)　ナデ。	①7.5YR¾にぶい橙　②酸化　③½　④精選。輝石を含む　⑤胴部外面に炭化物の付着　⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
一括	壺		頸部は緩やかな屈曲を持つ。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　剝落。 (文様)　ヘラ描きの沈線を5〜7条巡らせ、その上を沈線により鋸歯状に区画し、頂点を下にする三角形部分について沈線を磨り消す。結果的に沈線が充填された連続三角形となっている。その下にＬＲ縄文を地文として頸部を巡る沈線とその中を斜交する沈線により連続する三角形文を構成させている。	①7.5YR⅘浅黄橙　②酸化 ③頸部のみ　④精選。砂粒を含む　⑤黒斑有り　⑥埋め土内

11号住居　出土遺物観察表（図10、ＰＬ33）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
9	甕	(15.8)	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに内湾ぎみに開き、端部で立ち上がる。 (外面調整) (内面調整)　ハケメ。 (文様)　口唇部から口縁部にかけてＬＲの縄文を施文。口縁部については縄文を磨り消し、ヘラ描き沈線による波状文を施す。頸部は4本歯の櫛状工具による等間隔止めの簾状文が巡る。胴部は頸部の簾状文と同一工具による不規則な横位の波状文が巡る。	①7.5YR⅚橙　②酸化。やや軟質　③胴上半部のみ　④砂粒を含む　⑥床面直上
79	壺	13.0	頸部はくの字に屈曲する。口縁部は外傾して開き、端部でやや内湾して立ち上がり、受け口状である。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部はハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部はハケメの後ヘラミガキ。 (文様)　口縁部にはヘラ描き沈線による波状文が施される。頸部には3本歯の櫛状工具による波状文が巡る。	①10YR⅔にぶい黄橙　②酸化 ③口縁部のみ　④精選。砂粒を含む　⑤口縁部に黒斑　⑥床面直上
一括	台付き甕		脚部は短くハの字に開く。 (外面調整)　縦方向のヘラナデ。 (内面調整)　ヘラナデか。	①5YR⅚橙　②酸化　③脚部のみ　④砂粒を含む　⑤脚柱部に炭化物付着　⑥床面直上

13号住居　出土遺物観察表（図11・12・13、ＰＬ30・34・35・36）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
196	壺	(15.2)	胴部は中央部が張る。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに内湾ぎみに開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴撃はヘラナデの後一部にヘラミガキ。 (内面調整)　胴下半部はハケメ。上半部はハケメの後ヘラミガキか。口縁部ナデ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部にヘラ描きによる6条の沈線が巡る。	①2.5YR⅘淡黄　②酸化　③½　④砂粒を含む　⑥床面直上
251	壺	8.1	(外面調整)　ヘラミガキ。底部周辺をユビオサエ。 (内面調整)　一部にヘラミガキ。	①2.5YR⅘淡黄　②酸化　③底部のみ　④砂粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥埋め土内
69	甕	11.2	頸部は僅かに屈曲し、口縁部は短く僅かに開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。 (内面調整)　横方向のヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部に6本歯の櫛状工具による不規則な簾状文が施される。胴部は頸部と同一工具による不規則な波状文が横位に施文される。	①2.5YR⅚橙　②酸化　③½　④砂粒を含む　⑤外面の荒れ顕著　⑥床面直上
298	壺	35.6 11.9 8.9	胴部は無果状で中央よりやや下位に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は緩やかに外反して開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部は擦痕状のハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部に櫛描波状文を2段にわたって施文する。	①7.5YR⅚橙　②酸化　③完形　④精選。輝石を含む　⑤頸部外面に黒斑　⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
360	壺	(47.6) 22.8 12.6	胴部中央が大きく張る。頸部はくの字に屈曲する。口縁部は僅かに外反ぎみに開き、端部で直立する受け口状である。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部はヘラミガキか。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部不明。剝落。 (文様)　口唇部にＲＬの縄文を施文。口縁部は3本歯の櫛状工具による波状文が、頸部にはＲＬ縄文を地文としてヘラ状工具による沈線が4条巡る。地文の縄文はほとんど磨り消されている。さらにその下位にヘラ描き沈線による波状文を描き、交互に横位の沈線を充塡する。	①5Y 8/2 灰白　②酸化　③2/3　④砂粒を多く含む　⑤器面の荒れが顕著。二次焼成か。　⑥床面直上
459	壺	25.0 (14.2) 6.5	胴部は無花果状で胴部中央よりやや下位に最大径を持つ。頸部は細く、口縁部は大きく外反して開く。口唇部には5～6個の突起を持ち、それぞれの突起にはヘラによる切り込みがみられる。また、胴下部に1カ所縦に長い瘤状の突起が認められる。 (外面調整)　口縁部はヨコ方向のヘラミガキ。胴部はタテ方向のヘラミガキ。全面赤色塗彩。 (内面調整)　口縁部ヘラミガキ。口縁部内面に赤色塗彩。	①2.5YR 8/3 淡黄　②酸化　③完形　④精選　⑤胴部内面の荒れが顕著　⑥床面直上
221	壺	(8.8)	胴部はやや下膨れ。頸部は太く、口縁部は頸部から短く、僅かに外反する。 (外面調整)　口縁部から頸部にかけてナデ。胴部ヘラミガキ。 (内面調整)　ナデ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文。	①2.5Y 7/2 灰黄　②酸化　③上半部のみ　④精選。白色鉱物粒を含む　⑤内面黒色　⑥床面直上
455	甕	(16.1)	胴上部に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は短く、僅かに外反する。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。 (内面調整)　胴部ヨコ方向のヘラミガキ。 (文様)　頸部に7本歯の櫛状工具による等間隔止めの簾状文。胴部に同一工具による横位の波状文。	①7.5YR 6/6 橙　②酸化　③口縁部の一部のみ　④精選。白色鉱物粒子を含む　⑤内面黒色。頸部に炭化物の付着　⑥埋め土内
257	甑	6.7	胴部は逆ハの字状に開く。底部には1孔を持つ。 (外面調整)　ハケメの後ナデか。 (内面調整)　ハケメの後ヘラミガキ。	①10YR 7/4 にぶい黄橙　②酸化　③底部のみ　④精選。輝石を含む　⑥床面直上
154	鉢	(22.8)	口縁部は僅かに内湾する。口縁部に焼成後穿孔による補修孔を持つ。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。 (内面調整)　ナデの後ヘラミガキ。	①10YR 7/3 にぶい黄橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選　⑥埋め土内
453	土製品		偏平で周囲に焼成前穿孔による小孔を持つ。 (外面調整)　赤色塗彩。 (裏面調整)	①10YR 7/3 にぶい黄橙　②酸化　③1/4　④精選。輝石を含む　⑥床面直上
211	壺	(11.5)	口縁部は僅かに外反し、緩やかに開く。口縁部は折り返し状である。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部はヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。 (文様)　口唇部にＲＬの縄文施文。頸部にはやや細いヘラ描きによる沈線が4条巡る。	①5YR 6/6 橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選。白色鉱物粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
47	甕	(20.7)	口縁部は頸部から、短く外傾する。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部擦痕状のハケメ。 (内面調整)　ヨコ方向のヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部には4本歯の櫛状工具による等間隔止めの簾状文。胴部には同一工具での羽状の斜行直線文が施される。	①5YR 6/6 橙　②酸化　③1/3　④精選　⑤二次焼成か　⑥床面直上
488	甕	24.0	胴部は上半部に最大径を持つ。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は僅かに内湾して立ち上がり開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部は剝落。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部には11本歯の櫛状工具による等間隔止めの簾状文。胴部は頸部と同一工具による不規則な羽状の斜行直線文が施される。	①7.5YR 6/4 にぶい橙　②酸化　③底部を欠失　④精選。砂粒を含む　⑤胴部外面に黒斑　⑥住居内の埋設土器で487がうえに被る。P_2内から出土。
185	壺	5.7	胴部は中央に最大径を持つ。頸部は細く締まる。 (外面調整)　胴部ハケメ。下部はハケメの後ヘラミガキか。 (内面調整)　ナデ。一部にヘラミガキ。 (文様)　細描きの沈線を頸部に3条巡らす。その下位に4段連弧文を施こす。胴部中央には沈線を1条巡らせる。そして連弧文と胴中央の沈線との間に重山形文(6個一組)が8単位施され、さらにその下位にＬＲ縄文が施文されている。	①7.5YR 7/8 黄橙　②酸化　③口縁部を欠失　④精選　⑤二次焼成　⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
487	壷	14.6	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は外反し端部で僅かに立つ。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部はハケメの後タテ方向のヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部から頸部にかけてヘラミガキ。胴部ハケメ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部にヘラ描きの沈線を3条巡らす。	①10YR⅝浅黄橙　②酸化　③胴部下半部を欠失　④精選　⑥住居内埋設土器488の上に被る。P_2内から出土。
208	壷	(8.0)	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに内湾して開き、受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部にヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部に2条のヘラ描き沈線。その下にヘラ描き沈線による波状文が施される。	①7.5YR⅝にぶい褐　②酸化　③口縁部のみ　④精選。白色鉱物粒を含む　⑤二次焼成　⑥埋め土内
94	壷	7.5	胴上半部に最大径を持ち、大きく張る。 (外面調整)　胴下部ヘラミガキ。 (内面調整)　剝落不明。 (文様)　胴上半部に細描きの沈線による不規則な重孤文を4～5単位施す。	①10YR⅝浅黄橙　②酸化　③胴部½　④砂礫粒子を多く含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
237	甕		胴部は底部から直線的に開く。 (外面調整)　ハケメ。一部にヘラミガキか。 (内面調整)　ハケメ。	①7.5YR⅝橙　②酸化　③底部のみ　④精選　⑤内面に黒斑　⑥床面直上
204	壷		頸部はやや太く緩やかな屈曲する。口縁部は僅かに外反して開く。 (外面調整)　ハケメの後一部にヘラミガキ。 (内面調整)　ハケメの後ヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部もＬＲ縄文を施文してヘラ描きによる沈線を3条巡らす。さらに大型のコーヒー豆状の粘土瘤を7～8個貼付する。	①10YM⅞にぶい黄橙　②酸化　③胴上半部のみ　④白色鉱物粒を含む　⑤二次焼成　⑥埋め土内
232	壷	(13.2)	口縁部は頸部から緩やかに外反しながら開く。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキ。剝落。 (文様)　口唇部から口縁部にかけてＬＲの縄文施文。頸部にもＬＲ縄文を施文後ヘラ描きの沈線を1条巡らす。	①10YR⅝浅黄橙　②酸化　③口縁部のみ　④白色鉱物粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
63	壷		頸部は太い。 (外面調整)　ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　ナデ。 (文様)　頸部から胴上半部にかけてＬの縄文を施文。その上にやや太めのヘラ描き沈線を5条巡らせ、その下位に同一工具による波状文を1条巡らす。	①10YR⅞にぶい黄橙　②酸化　③頸部のみ　④精選。白色軽石粒を含む　⑥床面直上
5	壷	(16.4)	頸部はやや太く、口縁部は僅かに内湾して受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ハケメの後ヨコナデ。 (内面調整)　口縁部ヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部にはＬＲ縄文を地文としてヘラ描き沈線を3条施す。	①10YR⅞にぶい黄橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選　⑥床面直上
206	壷	9.5	口縁部は大きく外反して開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部にヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。一部にヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部にもＬＲの縄文を施文後ヘラ描き沈線を4条巡らせ、その下に波状文を1条巡らす。	①7.5YR⅝橙　②酸化　③胴上半部½　④精選　⑥床面直上
418	壷		頸部はやや太く、緩やかに屈曲する。 (外面調整)　ハケメ。 (内面調整)　ハケメの後ナデ。 (文様)　頸部にヘラ描き沈線を2条巡らせその間にヘラ描き沈線による波状文を描く。そして頂点を上にする波状部分に沈線を充填する。	①7.5YR⅞橙　②酸化　③頸部のみ　④精選。白色鉱物粒を含む　⑤二次焼成　⑥埋め土内

20号住居　出土遺物観察表（図15・16、ＰＬ30・37・38）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
15	壷	(12.0)	口縁部は頸部から緩やかに開く。 (外面調整)　口縁部ナデ。胴部にハケメ。 (内面調整)　ナデ。一部にヘラミガキ。 (文様)　口唇部から口縁部にかけてＬＲの縄文施文。頸部にもＬＲの縄文を施文後ヘラ描き沈線2条で帯状文としている。その下にヘラ描き沈線によって山形文を描き谷部分に沈線を充填する。山形文は左回りに施文される。	①10YR⅝浅黄橙　②酸化　③口縁部½　④精選。輝石を含む　⑥床面直上
325	壷	11.6	口縁部は緩やかに開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部周辺ヘラナデの後ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラナデ。一部にヘラミガキ。 (文様)　頸部に細いヘラによる沈線が2条巡る。	①7.5YR⅝浅黄橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選。白色鉱物粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
4	壷	11.2	頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は端部で開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部から胴部にかけてヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部にＬＲの縄文を施文し、細いヘラ描きの沈線を3条巡らせ、2段の帯状文状としている。さらにその下に2条沈線を巡らせ中に山形文を2段施し、山部分に沈線を充填する。	①7.5YR¾にぶい橙　②酸化　③胴上半部のみ　④精選。輝石を含む　⑤胴部内面の荒れ顕著　⑥床面直上
13	壷	6.9	やや下膨れで、胴部が張る。 (外面調整)　ハケメの後ヘラミガキか。 (内面調整) (文様)　頸部にヘラ描き沈線を2条巡らす。	①10YR⅝浅黄橙　②酸化　③口縁部を欠失　④精選。砂粒を含む　⑤器形の歪みが大きい。また、器面の荒れが顕著　⑥床面直上
117	壷	20.3	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は大きく開き端部で立ち上がる受け口状である。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部にハケメを残す。胴部はハケメの後タテ方向のヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部にハケメを残す。 (文様)　口唇部から口縁部にかけてＬＲの縄文施文。口縁部は縄文施文後ヘラ描き沈線による山形文を巡らす。頸部にはＬＲ縄文を施文沈線を3条施し中に山形文を2段施す。	①10YR⅞にぶい黄橙　②酸化　③胴部を欠失　④砂粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
183	甕	20.4	頸部はくの字に屈曲する。口縁部は短く、僅かに開いて端部で内湾する受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部から胴上半部ハケメの後ヘラミガキか。 (文様)　口唇部にLRの縄文施文。口縁部にヘラ描き沈線による波状文を施し、頸部には5本歯の櫛状工具による等間隔止め簾状文が施文される。胴部は頸部と同一工具による斜行直線による羽状文が施されている。	①5YR⅝橙　②酸化　③底部を欠失　④精選。砂粒を含む　⑤胴下半部内面の荒れ顕著　⑥床面直上
134	甕	7.2	(外面調整)　ハケメの後ヘラミガキか。 (内面調整)　ハケメ。 (文様)　6本歯の櫛状工具による羽状の斜行直線文。	①7.5YR¾にぶい橙　②酸化　③底部周辺のみ　④精選。砂粒を含む　⑤一部に赤色塗彩が残る。二次焼成か　⑥床面直上
27	壷	(46.4) 15.8 9.8	胴部は球形で胴中央部が張る。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は僅かに開くが端部で内湾し、受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部はハケメを残す。胴部はハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部は不明。 (文様)　口唇部から口縁部にかけてと頸部に付加条ＬＲ＋ＬＲの縄文を施す。頸部には縄文施文後ヘラ描き沈線を3条巡らす。さらに胴中央部にも2条の沈線を巡らせ、頸部と胴中央部との間を縦の沈線で5等分し交互に不規則な縦方向のヘラ描き沈線による波状文を充填する。	①10YR⅔にぶい黄橙　②酸化　③胴下半部½を欠失　④精選。白色鉱物粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
99	壷	9.1	(外面調整)　ヘラミガキ。底部周辺ユビオサエ。 (内面調整)　ヘラナデか。	①7.5YR⅝にぶい橙　②酸化　③底部のみ　④精選。砂粒を含む　⑤二次焼成か　⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
154	壺	(10.0)	頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は僅かに内湾して開き、受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部から胴上半部ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデの後ヘラミガキか。 (文様)　口縁部に細いヘラ状工具の沈線による3単位の下向きの重半孤線文を施す。頸部から胴上半部にかけて4単位の渦文を施す。胴中央部にはＲＬの縄文を施す。	①5YR⅝明赤褐　②酸化　③胴上半部のみ　④精選。砂粒を含む　⑤渦文内を交互に赤色塗彩　⑥床面直上
100	甕	(16.1)	最大径を胴上半部に持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は僅かに内湾し受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ一部にヘラミガキ。胴部ハケメの後ヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部に6本歯の櫛状工具による等間隔止めの簾状文。胴部に同一の櫛状工具による羽状の斜行直線文が施される。	①7.5YR⅝にぶい褐　②酸化　③底部を欠失　④精選　⑤胴中央部から口縁部にかけて炭化物の付着　⑥床面直上
326	甑	10.0 17.6 5.3	口縁部は底部から直線的に逆ハの字状に開く。底部には1孔を持つ。 (外面調整)　胴部はハケメの後ヘラミガキ。底部ヘラミガキ。 (内面調整)　ハケメの後ヘラミガキ。	①10YR⅞にぶい黄橙　②酸化　③⅔　④精選。砂粒を含む　⑤口縁部周辺の荒れ顕著　⑥床面直上
348	甕	31.5 15.2 6.5	胴部は中央に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は直線的に緩やかに開く。口縁端部には粘土の輪積み痕を外面に残す。 (外面調整)　頸部ヘラミガキ。胴下半部ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキ。 (文様)　口唇部から口縁部にかけてLRの縄文施文。頸部を無文帯として胴上半部にLRの縄文を施文する。	①10YR⅞にぶい黄橙　②酸化　③口縁部の一部欠失　④精選。砂粒を含む　⑤胴中央部に炭化物の付着　⑥床面直上

21号住居　出土遺物観察表（図７）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
一括	小型甕	(11.2)	口縁部は短く開く。頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキか。 (内面調整)　ヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部に4本歯の櫛状工具による等間隔止の簾状文。胴部に同一工具による横位の波状文を施す。	①7.5YR⅝にぶい橙　②酸化・良好　③口縁部½　④精選。輝石を含む　⑤内面胴部に黒斑　⑥埋め土内
5	壺		頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整)　肩部にハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　ハケメの後ヘラミガキか。 (文様)　頸部に櫛状工具による横位の波状文。その上に棒状工具による等間隔止めの沈線文を3～4段巡らす。	①7.5YR⅝橙　②酸化　③頸部½　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土内
11	椀		口縁部は緩やかに内湾して立ち上がる。口縁部は頸部から鋭角に屈曲し、開く。 (外面調整)　ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　頸部ヘラミガキ。赤色塗彩。	①10YR⅞にぶい黄橙　②酸化　③½　④精選　⑤内面赤色塗彩　⑥床面直上

22号住居　出土遺物観察表（図17、ＰＬ29・22）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
6	壺		頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整)　胴部にヘラミガキ。 (内面調整)　剝落。 (文様)　頸部にヘラ状工具による4段の浅い沈線と同一工具による3段の押し引き文を上下に交互に施文する。その下にヘラ描きの沈線による山形文を描き、谷部分に沈線を充填する。	①7.5YR⅝橙　②酸化　③頸部⅔　④精選。白色鉱物粒を含む　⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
12	小型壷	7.8 9.7 4.3	胴部はやや上下に潰れた球形。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反して開く。口縁部は折り返し口縁。 (外面調整)　ハケメの後全面へラミガキ。 (内面調整)　ナデの後へラミガキ。	①7.5YR 7/4 にぶい橙　②酸化良好　③口縁部の一部を欠失　④精選　⑤胴部外面に黒斑　⑥埋め土。上層
2	壷	15.0	頸部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開き端部で立ち上がり、受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部から胴部にかけてへラミガキか。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部へラナデの後へラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部にへラ描きの浅い沈線を3条巡らし、その間に同一工具による鋸歯文を2段描く。	①10YR 8/4 浅黄橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選。白色鉱物粒を含む　⑤口縁部内面の荒れ顕著　⑥床面直上
27	壷	37.4 16.3 9.3	胴部は球形で、中央部が張る。頸部は細く締まり、緩やかに屈曲する。口縁部はやや内湾ぎみ開き端部で立ち上がり受け口状となる。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部から胴上半部にかけてへラミガキ。胴下半部はハケメの後へラナデ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。 (文様)　口唇部から口縁部にかけてＬＲの縄文施文。頸部もＬＲの縄文施文後へラ描き沈線を2条巡らせその間に同一工具のへラ描き沈線による鋸歯文を描く。胴中央部にへラ描き沈線を１条巡らせ、その下に9単位から成る連弧文を描く。	①7.5YR 8/4 浅黄橙　②酸化　③口縁部の一部を決失　④精選。白色鉱物粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
18	台付き甕		脚部は直線的にハの字に開く。 (外面調整)　ハケメの後へラナデ。 (内面調整)　へラナデ。	①7.5YR 7/6 橙　②酸化　③脚台のみ　④砂礫粒を含む　⑥埋め土上層

23号住居　出土遺物観察表（図23、ＰＬ39）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
10	椀	(15.2)	口縁部は内湾して開く。 (外面調整)　へラミガキ。赤色塗彩。 (内面調整)　へラミガキ。赤色塗彩。	①10R 5/6 赤　②酸化　③1/3　④精選砂粒を含む　⑤赤色塗彩　⑥床面直上
19	土製品 (匙形土器)		匙部は楕円形で深い。把手部分は断面半円形である。全長(11.9)・高さ3.6・匙部長径6.6・短径5.2・把手幅(2.9)・把手厚(1.1)㎝。 (内・外面調整)　へラミガキ。	①10YR 7/3 にぶい黄橙　②酸化　③ほぼ完形　④精選　⑥床面直上
59	壷	(8.1)	胴部中央が大きく張り出す。 (外面調整)　へラナデの後へラミガキ。 (内面調整)　へラナデか。	①10YR 8/4 浅黄橙　②酸化　③底部1/2　④精選。白色鉱物粒を含む　⑥埋め土内

25号住居　出土遺物観察表（図14）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
4	壷		頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整)　ハケメの後へラミガキか。 (内面調整)　ハケメの後へラミガキか。 (文様)　頸部にＲＬの縄文施文。その上にへラ描き沈線を3条巡らせ、その間にへラ描きの山形文を2段巡らせる。	①5YR 6/6 橙　②酸化　③頸部1/2　④砂礫粒を含む　⑥床面直上
一括	壷	(11.0)	口縁部は直線的に開く。 (外面調整)　細かいハケメの後へラミガキか。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。 (文様)　口唇部にＲＬの縄文施文。	①7.5YR 7/6 橙　②酸化　③口縁部1/3　④精選　⑥床面直上

29号住居　出土遺物観察表（図19、ＰＬ39）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
8	壺	14.7	口縁部は頸部から緩やかに開く。頸部はやや太い。 (外面調整)　ハケメの後ナデ。 (内面調整)　ナデ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。頸部にＬＲの縄文施文後、ヘラ描き沈線を4条巡らす。	①10YR7/4にぶい黄橙　②酸化 ③口縁部のみ　④精選。輝石を含む　⑥床面直上
13	壺	15.1	口縁部は折り返し口縁。頸部から直線的に開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部へラミガキ。 (内面調整)　口縁部ナデ。頸部にヘラミガキか。 (文様)　口縁部折り返し部にＲＬの縄文施文。頸部にＲＬ縄文を施文後細いヘラ描き沈線による山形文を描き、山の部分にのみ縄文を残し、他の部分は磨り消す。	①2.5YR6/6橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選。白色鉱物粒を含む　⑥床面直上
12	甕	31.0	大型の広口の甕である。胴部はやや張る。頸部は締まらず緩やかに屈曲し、口縁部は内湾ぎみに開く。 (外面調整)　胴下半部へラナデ。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。 (文様)　口唇部に細いヘラ状工具による刻みが施される。頸部には3本歯の櫛状工具による等間隔止の簾状文が巡る。胴上半部には異束のＬＲ縄文が施文されている。	①7.5YR7/6橙　②酸化　③½ ④砂粒を含む　⑥上層
23	壺		頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整)　肩部はヘラナデの後へラミガキか。 (内面調整)　へラミガキか。 (文様)　頸部にＬＲの縄文施文。その上にヘラ描き沈線を2条巡らせ帯状文としている。	①5YR6/6橙　②酸化　③頸部のみ　④精選。砂粒を含む　⑥床面直上

30号住居　出土遺物観察表（図20、ＰＬ39）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
4	甕	(19.6)	胴部は球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開き、端部で僅かに内湾する。 (外面調整)　胴下半部へラナデ。 (内面調整)　口縁部ナデ。胴部ナデ。一部にヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＲの縄文施文。口縁部に斜め方向の粗いハケメ。頸部に5本歯の櫛状工具による等間隔止の簾状文を2段巡らす。胴部は粗いハケメで羽状文を2段描く。	①7.5YR7/6橙　②酸化　③⅓ ④精選　⑤口縁部に炭化物の付着　⑥床面直上
47	甕	16.4	胴部は球形で、頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は僅かに外反して開く。 (外面調整)　口縁部ナデ。胴下半部へラミガキ。 (内面調整)　口縁部ナデ。胴部は一部にヘラミガキ。 (文様)　口唇部にＬＬの縄文施文。頸部には3本歯の櫛状工具による等間隔止の簾状文が巡る。胴上部にはＬＬの縄文を施文した後ヘラ描き沈線2条で区画し、帯状文化している。	①10YR7/4にぶい黄橙　②酸化 ③½　④砂粒を含む　⑤胴上部に炭化物の付着　⑥埋め土内
88	甕	7.0	胴部は僅かに上部に膨らみを持つ。頸部は緩やかに屈曲し口縁部は僅かに開く。 (外面調整)　胴上半部へラナデ。一部にヘラミガキ。胴下半部へラケズリ。 (内面調整)　胴部へラナデ。頸部にヘラミガキか。 (文様)　頸部にＲＲ³の縄文を施文。	①10YR7/4にぶい黄橙　②酸化 ③口縁部を欠失　④砂礫粒を含む　⑤底部は木葉底　⑥床面直上
13	壺	(16.4)	口縁部は緩やかに外反する。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。 (内面調整)　ナデ。 (文様)　口唇部にＲの縄文施文。頸部にもＲの縄文施文後ヘラ描き沈線を3〜4条巡らせる。	①7.5YR6/4にぶい橙　②酸化 ③口縁部⅔　④精選　⑥埋め土内

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
73	壺	(11.5)	口縁部は僅かに外反して開く。 (外面調整)　ヘラナデ。 (内面調整)　ヘラナデ。一部にヘラミガキか。 (文様)　口唇部に細かなＬＲの縄文施文。頸部にも同一の原体の縄文を施文し、ヘラ描き沈線2条で帯状文化している。	①2.5YR⅔にぶい黄橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選。白色鉱物粒を多く含む　⑤内面に黒斑。頸部内面の荒れ顕著　⑥床面直上
50	壺	(18.4)	口縁部は折り返し口縁で、大きく開き端部でわずかに立ち上がる。 (外面調整)　ヘラナデ。一部にヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキか。 (文様)　口唇部と口縁の折り返し部にＬＲの縄文施文。	①7.5YR⅝橙　②酸化　③口縁部⅔　④精選　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上

32号住居　出土遺物観察表（図21・22、ＰＬ41）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
4	壺	7.0	胴部は底部から直線的に開く。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキ。	①10YR⅔にぶい黄橙　②酸化　③胴下半部のみ　④精選。砂粒を含む　⑤胴部に籾痕有り　⑥床面直上
2	壺		頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整)　ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキか。 (文様)　頸部にＬＲの縄文施文。その上にヘラ描き沈線を4条巡らす。	①5YR⅞橙　②酸化　③胴上半部のみ　④砂粒を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面やや上
20	片口壺	8.1	頸部は緩やかに屈曲する。口縁部は直線的に開き、片口部をつまみ出す。 (外面調整)　口唇部にＲＬの縄文を施文。頸部にもＲＬの縄文を施文し、ヘラ描き沈線を2条巡らせ帯状文様化している。縄文は一部が磨り消されている。	①7.5YR⅞橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選　⑥床面直上
21	壺	(9.2)	胴部は底部から直線的に開く。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキか。	①7.5YR⅝橙　②酸化　③底部½④精選。輝石を含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥床面直上
一括	紡錘車		表裏面にヘラ描き沈線による放射状の文様を描く。また、側面の中央にもヘラ描き沈線を一周させる。直径(4.6)ｾﾝﾁ、厚さ1.3ｾﾝﾁ、重さは不明。	
27	紡錘車		全面に丁寧なヘラミガキ。側面にＬＲの縄文を施文する。中央に焼成前の片面からの穿孔による軸穴を持つ。直径5.5ｾﾝﾁ、厚さ1.6ｾﾝﾁ、重さ54.6ｸﾞﾗﾑである。	
一括	高坏	(15.0) (22.4) (12.1)	坏部の口縁は緩やかに外反する。脚部はハの字に開き、透孔を持つ。 (外面調整)　ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　坏部ヘラミガキ。脚部はハケメと一部にヘラミガキ。	①10YR¾にぶい黄橙　②酸化　③½　④精選　⑥上層
64	壺	(10.1)	胴部中央がやや張る大型の壺である。 (外面調整)　荒いハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　荒いハケメ。一部にヘラミガキか。 (文様)　肩部から頸部にかけてＬＲの縄文施文。肩部には規則的な放射状のハケメ。その上にヘラ描き沈線を4条巡らせ、沈線の間には1本づつヘラ描き沈線の波状文を３段描く。	①10YR⅔にぶい黄橙　②酸化　③底部と肩部の一部のみ　④精選。白色鉱物粒を多く含む　⑤内面の荒れ顕著　⑥肩部は7号古墳周堀ないから出土
5	壺	6.7	胴部は直線的に開く。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラナデ。	①10YR¾にぶい黄橙　②酸化　③底部　④精選。白色鉱物粒を含む　⑥床面直上
30	壺		肩部から頸部は緩やかに屈曲する。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキか。 (文様)　肩部にＬＲの縄文施文。その上に4条のヘラ描き沈線を巡らせ2段の帯状文としている。	①10YR¾にぶい黄橙　②酸化　③肩部のみ　④砂粒及び白色鉱物粒を含む　⑥床面直上

33号住居　出土遺物観察表（図24、ＰＬ41）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
20	壷	(17.6)	口縁部は緩やかに開き、端部で内傾する受け口状となる。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキ。 (文様)　口唇部と口縁上端部にＬＲの縄文施文。	①10YR8/3浅黄橙　②酸化　③口縁部のみ1/3　④精選。砂粒を含む　⑤頸部に両面穿孔による補修孔あり　⑥床面直上
34	壷		胴郎中央がやや張る。 (外面調整)　胴肩部及び下半部にヘラミガキ。胴中央部はヘラナデ。 (内面調整)　ヘラミガキか。 (文様)　肩部にＬＲの縄文施文。	①10YR7/4浅黄橙　②酸化　③胴部1/3　④白色鉱物粒、砂粒を含む　⑥床面直上
88	壷		胴部中央が張る。 (外面調整)　ヘラミガキか。 (内面調整)　ヘラミガキか。 (文様)　肩部から中央部にかけてＬＲの縄文施文。中央部を磨り消し2段の帯状文としている。そして磨り消した部分には2本歯の櫛状工具による波状文を横位に施文し、下の帯状文にはヘラ描き沈線による3段の連弧文を描く。	①7.5YR7/4にぶい橙　②酸化　③胴部1/2　④精選。砂粒を含む　⑥P_2内出土
一括	紡錘車		中央部がやや厚くなる。側面には連続した細い爪形文が施文される。全面にヘラミガキがみられる。直径5.2$^{7}/_{15}$、厚さ2.1$^{1}/_{15}$、重さ(44)$^{4}/_{3}$である。	⑥埋め土内

35号住居　出土遺物観察表（図25）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
3	椀	6.8	胴部は底部から大きく開く。	ヘラミガキ		①10YR7/3にぶい黄橙　②酸化　③底部のみ　④砂礫粒を含む　⑤内外面赤色塗彩　⑥埋め土
一括	椀	(21.8)	口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	①10YR7/4にぶい黄橙　②酸化　③口縁部の一部のみ　④精選　⑤一部に黒斑　⑥埋め土

28号住居　出土遺物観察表（図27、ＰＬ30・40）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
1	壷	28.8 14.8 7.2	胴部は球形で、下半部は直線的に急に底部に向かってすぼむ。口縁部は頸部から直立し外反して開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ハケメの後ヘラミガキ。胴下半部はヘラナデか。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。 (文様)　頸部に9本歯の櫛状工具による簾状文を3～4段施し、その上を同一工具による2本一組のＴ文字4単位で区切る。	①7.5YR7/6橙　②酸化　③完形　④精選。砂粒を含む　⑤胴部外面に黒斑。焼成時の歪み有り　⑥床面直上
7	甕	25.8 17.9 6.4	胴部は球形。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外反ぎみに開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部から胴上半部ハケメ。胴下半部はハケメの後ヘラナデか。 (内面調整)　口縁部ハケメ。胴部ヘラナデか。	①2.5YR5/6明赤褐　②酸化　③1/2　④精選。砂礫粒を含む　⑤焼成時の歪み有り　⑥床面直上
2	壷		胴部はやや下膨れの球形である。 (外面調整)　胴部ヘラミガキ。 (内面調整)　不明。	①7.5YR7/6橙　②酸化　③口縁部を決失　④精選。砂礫粒を含む　⑤胴下部外面に黒斑　⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴　外面・内面調整　文様の特徴	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
19	片口	14.9 11.8 5.8	胴部はやや下膨れの球形で、口縁部は直立する。片口部はつまみ出す。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。頸部ハケメ。胴部ハケメの後ヘラミガキ。 (内面調整)　口縁部ハケメの後ヨコナデ。胴部ハケメか。	①5YR⅔にぶい橙　②酸化 ③完形　④白色鉱物粒を含む ⑤二次焼成か　⑥床面直上
15	甕	13.4 15.6 5	胴部は球形で、口縁部は短く、頸部から大きく外反して開く。 (外面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ハケメの後ヘラナデか。 (内面調整)　口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①2.5YR⅝明赤褐　②酸化 ③⅔　④砂礫粒を含む　⑤二次焼成か　⑥床面直上
4	台付き甕		胴部は球形。頸部はくの字に屈曲する。 (外面調整)　全面にハケメ。 (内面調整)　胴下部にハケメ。胴中央部にナデ。	①10R⅝赤　②酸化　③胴部のみ　④砂礫粒を含む　⑤二次焼成　⑥床面直上
51	小型器台	8.5 7.7 (10.4)	脚部は直線的にハの字に開く。器受部はくの字に屈曲し直線的に開く。脚部には3孔を持つ。 (外面調整)　口唇部ヨコナデ。胴部はヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラミガキか。	①10YR¾にぶい黄橙　②酸化 ③脚台部½　④精選　⑤黒斑 ⑥床面直上
3	小型器台	8.3 9.9 10.3	器受け部がやや大きく端部で僅かに立ち上がる。脚部は裾部で僅かに開く。脚部には3孔を持つ。 (外面調整)　ヘラミガキ。 (内面調整)　ヘラナデ。	①2.5YR⅔淡黄　②酸化　③完形　④精選。砂粒を含む　⑥床面直上
43	蓋	8.7	胴部は裾広がりとなる。つまみ部は僅かに外反する。つまみ部径5.6ｾﾝﾁ (外面調整)　ヘラナデ。 (内面調整)　ヘラナデ。一部にヘラミガキか。	①10YR⅔にぶい黄橙　②酸化 ③完形　④精選。砂礫粒を含む ⑤黒斑　⑥床面直上

34号住居　出土遺物観察表（図37、ＰＬ44）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
3	甕	21.8	頸部はくの字に屈曲し、口縁部は大きく外反して開く。	口縁端部ヨコナデ。口縁部ヘラナデ。胴部ハケメの後一部にヘラナデ。	口縁端部ヨコナデ。口縁部ヘラナデ。胴上部にハケメ、下部はヘラナデ。	①7.5YR⅝浅黄橙　②酸化 ③口縁部のみ　④砂礫粒を含む ⑥埋め土内
一括	高坏	(7.1)		裾端部ヨコナデ。裾部ヘラナデ。	ヘラナデ。	①2.5YR⅝浅黄　②酸化　③脚部のみ　④精選　⑤内外面に黒斑　⑥埋め土内
一括	高坏	(13.6)		縦方向のヘラミガキ。	ハケメの後ヨコナデ。	①7.5YR⅝浅黄橙　②酸化 ③脚部のみ　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土内
1	椀	6.1 10.6 3.0	底部は小さく、胴部はやや内湾する。口縁部は短く外傾して開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、一部にヘラミガキ。	①7.5YR¾にぶい橙　②酸化 ③完形　④精選　⑤外面に黒斑 ⑥埋め土内

2号方形周溝墓　出土遺物観察表（図29、ＰＬ42）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
36	壷	5.4	胴部は球形で、底部は胴部から突出する。	ヘラミガキ。	ハケメ。	①7.5YR⅚橙　②酸化　③½ ④精選　⑤外面に黒斑　⑥周堀底面
44	壺	12.7	胴部は球形で頸部はくの字に屈曲し口縁部に至る。口縁部は折り返し口縁である。	口縁部ヨコナデ。頸部縦方向のハケメ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。頸部にハケメを残す。胴部ヘラナデ。	①10YR¾浅黄橙　②酸化　③口縁部のみ　④精選。砂礫粒を含む　⑥周堀底面

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
48	壺	21.1	胴部は球形で頸部は短く、胴部から直立する。口縁部は2段口縁で大きく開く。口縁部外面の稜は不明瞭である。	ヘラミガキ。	口縁部から頸部にかけてヘラミガキ。胴部ヘラナデ。	①7.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③胴上半部のみ ④精選 ⑤外面赤色塗彩 ⑥周堀底面
32	壺	(19.0)	単純口縁。端部はやや肥厚する。頸部から大きく外反して開く。胴部は球形。	ヘラミガキ。	口縁部ヘラミガキ。胴部ハケメの後ヘラミガキ。	①10YR 8/3 浅黄橙 ②酸化 ③胴上半部のみ ④精選 ⑤内面の荒れ顕著 ⑥周堀底面
一括	甕	(12.2)	口縁部は折り返し口縁である。胴部・頸部ともに大きな屈曲を持たない。	口縁部から頸部にかけて不規則な横方向の櫛描き波状文。	ヘラミガキ。	①10YR 8/4 にぶい黄橙 ②酸化 ③1/2 ④砂粒を含む ⑥周堀埋め土

4号方形周溝墓　出土遺物観察表（図31、ＰＬ42）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	大型高坏	30.2	坏部はやや内湾ぎみに大きく開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③坏部のみ ④精選。白色透明鉱物粒子を含む ⑤赤色塗彩 ⑥周堀底面
一括	壺	(20.1)	折り返し口縁。大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。頸部ヘラナデ。	ヘラミガキか。	①7.5YR 8/4 浅黄橙 ②酸化 ③口縁部1/4 ④砂礫粒を含む ⑤赤色塗彩 ⑥周堀内下層
6	甕	16.1	折り返し口縁。口縁部は緩やかに開く。	口縁部ユビオサエの後ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。	ヘラミガキ。	①7.5YR 8/4 浅黄橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④精選。白色透明鉱物を含む ⑥周堀内下層
6	坩	12.0 9.5	胴部は球形で、口縁部は直立し端部で開く。底部は丸底。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。一部にヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR 8/3 浅黄橙 ②酸化 ③完形 ④精選。白色透明鉱物粒子を含む ⑥周堀内下層

5号方形周溝墓　出土遺物観察表（図32、ＰＬ42）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
2	小型高坏	12.0	坏部は椀形で口縁部は内湾する。脚柱部は裾部が大きく開き、3孔を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部から脚柱部にかけてヘラミガキ。	坏部ヘラミガキ。脚柱部ナデか。	①10YR 8/4 浅黄橙 ②酸化 ③裾部を欠失 ④精選 ⑥周堀底面
1	壺	31.9 14.7 8.3	胴部は球形で、頸部は直立する。口縁部は端部で大きく開く。	口縁部ヨコナデ。頸部ヘラミガキ。一部にハケメを残す。胴部ヘラミガキ。	口縁部ヘラミガキ。胴上半部ヘラナデ。下半部ハケメ。	①7.5YR 8/4 浅黄橙 ②酸化 ③完形 ④白色透明鉱物粒を含む ⑤二次焼成か ⑥周堀底面

5号住居　出土遺物観察表（図31・35、ＰＬ43）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
45	高坏	(20.4)	口縁部は直線的に大きく開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデの後暗文状のヘラミガキ。	①7.5YR 7/3 にぶい橙 ②酸化 ③坏部1/3 ④精選 ⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
75	高坏	(19.0)	口縁部は僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	①7.5YR 6/4 にぶい橙 ②酸化 ③坏部底部を欠損 ④砂礫を含む ⑥床面直上
155	鉢	(13.4)	口縁部は内湾し、肥厚する。	ハケメ。	口縁部ヨコナデ。指頭圧痕を残す。胴部ハケメ。	①7.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③1/8 ④精選。砂礫を含む ⑥床面直上
87	小型甕	(11.2)	胴部は球形。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外傾し、僅かに肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①2.5YR 7/6 橙 ②酸化 ③1/8 ④砂礫を含む ⑥床面直上
3	甕	9.3 8.5 5.5	底部はやや大きめの平底。胴部はやや肩部が張る。胴中央部に2個の注口を持つ。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ミガキか。	口縁部ヨコナデ。胴部ミガキか。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③注口部を欠損 ④精選 ⑥床面直上
170	甕	16.2	胴部は球形。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケメの後ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①5YR 7/6 橙 ②酸化 ③胴下半部を欠損 ④砂粒を含む ⑤胴下部の器面の荒れ顕著 ⑥床面直上
10	坩	8.5 10.1 2.6	胴部は偏平でやや肩が張る。頸部はくの字に屈曲し、口縁部直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキか。頸部にハケメを残す。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③3/4 ④精選。砂礫を含む ⑤底部に黒斑 ⑥床面直上
7	坩	11.0 9.1 2.8	胴部は下膨れの球形。底部は小さな平底。頸部はくの字に屈曲し、口縁部直線的に開く。	口縁部縦方向のナデの後ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③完形 ④精選 ⑤胴下半部に黒斑 ⑥床面直上
8	坩	9.3 10.4	胴部は上下につぶれた球形。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は僅かに内湾ぎみに開く。	口縁部ヨコナデ。胴上半部ハケメ、下半部ヘラケズリか。	口縁部ハケメ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③3/4 ④精選。砂礫を含む ⑤胴下半部に黒斑 ⑥床面直上
4	坩	10.3 10.0 3.65	底部の小さな上げ底状の平底。胴部はそろばん玉状である。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴上部ヘラナデ。下半部はヘラケズリの後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③完形 ④精選 ⑤口縁部に黒斑 ⑥床面直上
9	坩	8.9 9.5	胴部は上下につぶれた球形。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③3/4 ④精選 ⑥床面直上
1	坩	8.2 8.6 4.5	底部はやや上げ底状の平底。胴部はそろばん玉状である。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①7.5YR 3/3 暗褐 ②酸化 ③完形 ④精選。白色鉱物粒を含む ⑥床面直上
5	坩	10.8 9.8 2.8	底部は小さな平底。胴部は球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。下半部はヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR 7/4 にぶい黄橙 ②酸化 ③3/4 ④精選。砂粒を含む ⑥床面直上
6	坩	7.3 7.4 2.8	底部は小さな上げ底状の平底。胴部はそろばん玉状で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。下半部ヘラケズリの後ヘラミガキか。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 4/4 にぶい赤褐 ②酸化 ③完形 ④精選 ⑤胴下半部に黒斑 ⑥床面直上
171	高坏	14.5	脚柱部は下部がやや膨らむ。裾部はラッパ状に大きく開く。	脚柱部はヘラナデの後ミガキ。裾部はヨコナデ。	裾部ヨコナデ。絞り痕を残す。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③坏部を欠失 ④精選。砂粒を含む ⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
33	小型甕	11.0 11.4	胴部は球形で、底部は平底状の丸底。頸部はくの字に屈曲し、口縁部は内湾ぎみに外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR 5/4 にぶい赤褐 ②酸化 ③3/4 ④精選 ⑤胴内面の器面の荒れ顕著 ⑥床面直上
2	高坏	16.9 19.2 14.7	坏部は下部に稜を持ち、口縁部は外反ぎみに大きく開く。脚柱部は裾部に向かって緩やかに開き、裾部でラッパ状に開く。	坏部 口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、一部にヘラミガキ。 脚柱部 縦方向のヘラナデ、裾部ヨコナデ。	坏部 ヨコナデ。 脚柱部 ヨコナデ。絞り痕を残す。	①5YR 6/6 橙 ②酸化 ③完形 ④精選。砂礫を含む ⑤脚柱部内面に布の圧痕 ⑥床面直上
172	甕	19.0	胴部は球形で、口縁部は短く、頸部から外傾して開く。	口縁部ヨコナデ。胴上部ナデ。下部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①5YR 7/6 橙 ②酸化 ③1/2 ④砂粒を多く含む ⑤胴下部外面の荒れ顕著 ⑥床面直上
132	甕	18.9	胴部は球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は外傾し、僅かに中央部が肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。一部にハケメを残す。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ、一部にミガキか。	①7.5YR 7/4 にぶい橙 ②酸化 ③1/2 ④砂粒・白色鉱物粒を多く含む ⑥床面直上

8号住居　出土遺物観察表（図31・36、ＰＬ44）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
1	甕	22.8 17.7 6.4	胴部は球形で、底部はやや突出する。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は外反する。	口縁部ヨコナデ。頸部から胴中央部にかけて縦方向のヘラナデ。胴下部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR 6/6 橙 ②酸化 ③完形 ④砂粒を多く含む ⑤胴中央部に炭化物の付着が見られる ⑥床面直上
2	高坏	19.4 21.8 (14.9)	坏部は深く、下部に稜を持つ。口縁部は直線的に大きく開く。脚部は細く締まり、裾部でラッパ状に開く。	坏部はハケメの後ヨコナデ、更にヘラミガキ。 脚柱部はヘラミガキ、裾部はヨコナデ。	坏部は不規則な暗文状のヘラミガキ。脚柱部、裾部はヘラナデ。	①2.5YR 5/4 にぶい赤褐 ②酸化 ③3/3 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
3	坩	4.5	胴部は上下に潰れたそろばん玉状で、底部はやや上げ底状の平底。	胴部にヘラミガキか。	胴部ナデ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③口縁部を欠失 ④精選。白色鉱物粒を含む ⑥床面直上
4	坩	8.8 9.2 4.5	胴部は上下に潰れた球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は外傾して開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR 6/8 橙 ②酸化 ③完形 ④精選。砂礫を含む ⑤胴部外面に黒斑。胴部内面の器面荒れ顕著 ⑥床面直上
5	坩	7.9	胴部は球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。	口縁部ヨコナデ。一部にハケメを残す。胴部ナデ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③1/2 ④精選。白色鉱物粒を含む ⑥床面直上
6	坩		胴部は球形で、底部は上げ底状の平底。	ナデ。	ミガキ。底部周辺ヘラオサエ。	①2.5YR 6/6 橙 ②酸化 ③胴部上半部欠失 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
7	坩	9.6 10.6 5.5	胴部は上下で潰れた球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は僅かに内湾して開く。	口縁部ヘラナデの後ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①2.5YR 5/4 にぶい赤褐 ②酸化 ③3/4 ④砂粒を含む ⑤内面の荒れ顕著 ⑥床面直上
8	坩	8.3 9.3	胴部は上下に潰れた球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケメの後ヘラナデ。	口縁部ハケメの後ナデ。	①2.5YR 5/4 にぶい赤褐 ②酸化 ③砂礫粒を含む ⑤胴部内面の荒れ顕著 ⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
9	坩	8.4 9.4	胴部はそろばん玉状で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は直線的に開く。	口縁部暗文状のヘラミガキ。胴部ヘラナデ、一部にヘラミガキ。	口縁部ヘラナデの後暗文状のヘラミガキ。	①2.5YR⅝橙 ②酸化 ③完形 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
10	坩	8.2 8.7 3.2	胴部は球形で頸部は緩やかに屈曲するが、内面には稜を成す。口縁部はやや内湾して開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	口縁部ハケメ。	①5YR⅝明赤褐 ②酸化 ③完形 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
11	坩	7.8 9.9	胴部は球形で、頸部はくの字に屈曲する。底部は小さな上げ底状の平底である。口縁部は短く大きく外傾する。	口縁部ヨコナデ。頸部にナデ。胴下部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR⅝にぶい赤褐 ②酸化 ③完形 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
12	坩	10.6 10.6	胴部は球形で、頸部はくの字に屈曲する。口縁部は僅かに内湾し開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキか。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅞橙 ②酸化 ③完形 ④精選。砂礫粒を含む ⑥床面直上
24	高坏	18.6	胴下部に稜を持つ。口縁部は直線的に開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケメ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①2.5YR⅞橙 ②酸化 ③坏部のみ⅔ ④精選 ⑤口縁部内外面に黒斑 ⑥上層

1号住居　出土遺物観察表（図38）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
10	高坏	(14.7)	脚柱部は緩やかに開き裾部で大きく開く。	ヨコナデの後暗文状のヘラミガキ。	裾部ヨコナデ。輪積痕を残す。	①2.5YR⅝橙 ②良好・酸化 ③脚柱部のみ⅓ ④精選。砂粒を含む ⑥床面直上
13	高坏	(22.4)	口縁部は大きく外反坏底部に張り出しを持つ。	口縁部から胴部にかけてヨコナデ、暗文状のヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ 胴部一部ヘラミガキ。	①5YR⅝橙 ②酸化・酸化 ③口辺部、胴部の一部のみ ④精選。白色軽石粒を含む ⑥床面直上

2号住居　出土遺物観察表（図40、ＰＬ45）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
12	小型甕	(13.0) 11.1	胴部は球形で頸部には僅かな段を持つ。口縁部は緩やかに外反する。底部は丸底。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリの後ナデ。	口辺部ヨコナデ。	①7.5YR⅝浅黄橙 ②普通・酸化 ③⅜ ④砂粒を含む。 ⑤底部に黒斑 ⑥床面直上
一括1	坏	4.4 11.95	胴部と口辺部の境ち稜を持つ。口縁部は外傾し端部は尖る。底部は丸底。			①5YR⅞橙 ②普通・酸化 ③½ ④精選 ⑤内外面ともに器面の荒れが顕著 ⑥埋め土内
一括2	坩		胴部は球形で口縁部は緩やかに外傾する。内面に稜を持つ。	胴部ナデ。	ヘラナデ。	①10YR⅝浅黄橙 ②普通・酸化 ③¼ ④精選・砂粒を含む ⑥埋め土内
一括3	坏	(8.0) (24.1)	胴部は浅く丸底。口縁部は外傾し端部で肥厚する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①2.5YR⅝橙 ②普通・酸化 ③⅓ ④精選・砂粒を含む。 ⑥埋め土内
36	甕		長胴で直線的。 口縁部は緩やかに大きく外反する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	ナデ。	①10YR⅝にぶい黄橙 ②普通・酸化 ③½ ④砂粒を多く含む。 ⑥竈部材

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
34	甕	38.3 21.4 4.2	長胴で上半部に僅かに膨らみを持つ。口縁部は外反。底部は小さい。口辺部と胴部に明瞭な境を持つ。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口辺部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR⅝にぶい橙 ②普通・酸化 ③完形 ④砂粒を多く含む。 ⑥竈部材
33	甕	20.5	長胴で口縁部は大きく外反する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口辺部ヨコナデ。胴部ナデ。	①10YR⅝にぶい黄橙 ②普通・酸化 ③½ ④砂粒を含む。 ⑥竈部材
3	坏	4.7 12.4	胴部は浅く、底部は丸底。口縁部と胴部の境に稜を持つ。口縁部は僅かに外傾する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラミガキか。	①2.5YR⅝橙 ②普通・酸化 ③½ ④精選・砂礫粒を含む ⑤口縁部内面の器面の荒れが顕著。 ⑥床面直上
1	坏	4.05 11.0	胴部は浅く、底部は丸底。口縁部と胴部の境に稜を持つ。口縁部は僅かに外傾する。	口辺部ヨコナデ。胴部ナデ。	口辺部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR⅞橙 ②普通・酸化 ③⅜ ④精選・砂粒を含む。 ⑥床面直上
38	甕	21.45	長胴で口辺部は外反する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①7.5YR⅞橙 ②普通・酸化 ③⅔ ④砂粒を多く含む。 ⑥竈部材
38	甕	21.45	長胴で口辺部は外反する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①7.5YR⅞橙 ②普通・酸化 ③⅔ ④砂粒を多く含む。 ⑥竈部材
37	甕	23.5	長胴で口辺部は外反する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①10YR⅞浅黄橙 ②普通・酸化 ③⅔ ④砂粒を多く含む。 ⑥竈部材

3号住居　出土遺物観察表（図39、ＰＬ31・44）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	甕	(20.0)	口縁部は短く、外反する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR⅔にぶい黄橙 ②普通・酸化 ③口辺部の一部のみ ④白色軽石粒・石英粒を含む。 ⑥埋め土内
29	甕	(18.0)	長胴か。口辺部は外反する。	口辺部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口辺部ヨコナデ。	①5YR⅞橙 ②普通・酸化 ③口辺部のみ ④砂粒を含む。 ⑥埋め土内
一括1	椀	(5.1)	底部は厚く突出する。胴部は大きく外傾し、口縁部で短く立ち上がる。	口縁部ヨコナデ。	口辺部ヨコナデ。	①10YR⅝浅黄橙 ②普通・酸化 ③⅓ ④精選 ⑤内面黒色 ⑥埋め土内
一括2	坏	4.15 (11.7)	胴部は浅く底部は丸底。口縁部は外傾する。胴部と口縁部の境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	①5YR⅞橙 ②普通・酸化 ③½ ④精選 ⑥埋め土内
一括3	坏	(4.05) (11.0)	胴部は浅い。胴部と口縁部の境に稜を持つ。口縁部上部には段を持つ。	口縁部ヨコナデ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR⅝橙 ②普通・酸化 ③⅓ ④精選 ⑤内外面ともに器面の剝落が顕著。 ⑥埋め土内
一括4	坏	3.8 12.35	胴部は浅い。胴部と口縁部の境に稜を持つ。口縁内面がやや膨らむ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。		①2.5YR⅞橙 ②普通・酸化 ③½ ③精選 ⑤器面内外面の荒れ顕著。 ⑥埋め土内

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
6	鉢	11.15 22.0	胴部は深く、底部は丸底。胴部と口縁部の境に稜を持つ。口縁部は僅かに外反し内面に段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部境にユビナゾリによる稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。内面にユビナゾリ。	①60YR 5/4 浅黄橙 ②普通・酸化 ③3/4 ④精選・砂粒．含む ⑥床面直上
7	坏	5.6 17.5	口縁部は僅かに外傾する。胴部と口縁部との境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリか。		①5YR 7/6 橙 ②酸化 ③完形 ④砂礫粒を含む ⑤器面の荒れ顕著 ⑥床面直上
1	坏	4.1 11.6	口縁部は僅かに外傾する。胴部は浅く、口縁部との境は明瞭ではない。口唇部内面に沈線が一条巡る。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリか。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキか。	①7.5YR 4/1 灰 ②酸化 ③完形 ④砂粒を含む ⑤内面黒色 ⑥床面直上

4号住居　出土遺物観察表（図42、ＰＬ46）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
2	高坏 （須恵器）	10.5	脚部を欠損。胴部は浅く、口縁部は内傾する。胴部と口縁部との境に突出した稜を持つ。	轆成型。	轆成型。	①2.5GY 8/1 灰白 ②還元 ③坏部のみ ④精選・砂粒を含む。⑥埋め土上層
9	坏	4.0 (13.4)	胴部は浅く、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は短く、内傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキか。	①7.5YR 灰褐 ②普通・酸化 ③1/2 ④精選・砂粒を含む ⑥床面直上
7	甕	(20.6)	口縁部は緩やかに外反する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①10YR 5/4 にぶい黄橙 ②酸化 ③1/5 ④滑石粒・褐色鉱物粒を含む。 ⑤口縁内面の器壁の荒れ顕著。 ⑥竈部周辺
19	坏	(4.1) (12.95)	胴部は浅く、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立し口唇部が僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ナデ。	①5YR 7/6 橙 ②酸化 ③1/2 ④砂粒を含む ⑥埋め土上層
20	甕 須恵器	(14.6)	頸部は直立し、口縁部は緩やかに開く。口唇部は肥厚する。	轆成型。口唇部は張り付け。	轆成型。	①5Y 5/1 灰 ②還元 ③口縁部1/4 ④白色鉱物粒を含む ⑥埋め土内
18	甕	(14.5)	頸部は直立し、口縁部が僅かに開く。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR 7/8 橙 ②酸化 ③口縁部1/3 ④赤色鉱物粒を含む ⑥竈周辺
3	坏	4.1 (12.6)	胴部は浅く、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾し、口唇部で僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR 8/8 黄橙 ②酸化 ③1/2 ④砂粒を含む ⑥床面直上
4	坏	7.5 18.0	胴部はやや深い。胴部と口縁部との境は僅かに張り出す。口縁部は直立し、口唇部で僅かに外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR 7/6 橙 ②酸化 ③完形 ④精選 ⑥床面直上
1	坏	4.8	胴部は浅い。口縁部との境には稜を持つ。口縁部は中央部に段を持ち、大きく外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	①5YR 6/6 橙 ②酸化 ③完形 ④精選 ⑥床面直上
一括1	坏	(4.6) (12.0)	胴部は浅く、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は僅かに外傾する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキ。	①5YR 7/6 橙 ②酸化 ③1/4 ④精選 ⑥埋め土内

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括2	坏	14.2	胴部は浅く、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ミガキか。	①10YR⅔にぶい黄橙 ②酸化 ③¼ ④精選 ⑥埋め土内
一括3	坏	4.5 (14.4)	胴部は浅い。胴部と口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅞橙 ②普通・酸化 ③⅓ ④精選 ⑥埋め土内
一括4	坏	(4.1) (12.8)	胴部は浅く、口縁部は直立する。胴部と口縁部の境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR⅝灰白 ②普通・酸化 ③⅓ ④精選 ⑥埋め土内

16号住居　出土遺物観察表（図41、ＰＬ46）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4	小型甕	12.6 (15.6) 5.2	口縁部は外反する。胴部は短く丸底に近い平底。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリか。	ミガキか。	①10YR⅞にぶい黄橙 ②酸化 ③底部のみ ④片岩・石英片を含む ⑤器面の荒れ顕著 ⑥上層
15	坏	5.0 13.5	胴部は浅く口縁部は直立し、端部で僅かに開く。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①10YR⅝にぶい黄橙 ②酸化 ③完形 ④精選。輝石粒を含む ⑤器面の荒れ顕著。 ⑥竈周辺床面直上
8	坏	3.8 12.4	胴部は浅く、口縁部は直上直線的に大きく開く。	口縁部ヨコナデ。		①7.5YR⅜暗褐 ②酸化 ③⅔ ④精選 ⑤器面の荒れ顕著 ⑥床面直上
5	坏	(3.8) (13.8)	胴部は浅く、口縁部は直立する。胴部と口縁部の境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラミガキか。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅝橙 ②酸化 ③⅙ ④砂粒を含む ⑥床面直上
22	甕	39.4 22.4 (5.1)	長胴甕。口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR⅝橙 ②酸化 ③完形 ④砂礫粒を含む ⑥竈部材
19	甑	14.9 15.0 6.0	胴部は上半部に最大径を持つ。口縁部は短く、外反する。底部は焼成前穿孔による多孔を有す。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ一部にヘラミガキか。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①10YR⅔浅黄橙 ②酸化 ③完形 ④砂粒を含む。 ⑤外面の荒れ顕著 ⑥竈内
20	鉢	7.9 12.9	胴部は半球形で、口縁部は内傾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデか。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①7.5YR⅞橙 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑤外面の荒れ顕著 ⑥竈内
9	坏	4.4 12.2	胴部は浅く、口縁部は僅かに外傾して開く。胴部と口縁部の境に段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR⅞橙 ②酸化 ③完形 ④精選。砂粒を含む ⑤外面の荒れ顕著。 ⑥床面直上
21	甕	42.3 21.8 3.5	長胴甕。口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR⅞にぶい黄橙 ②酸化 ③完形 ④砂礫粒を含む ⑥竈部材。
10	鉢	11.0 18.4	胴部は半球形でやや深く、口縁部は端部で開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。一部にヘラミガキ。	①5YR⅝橙 ②酸化 ③ほぼ完形 ④精選砂粒を含む ⑤口縁裏面の荒れ顕著。 ⑥床面直上

18号住居　出土遺物観察表（図43、ＰＬ47）

番　号	器　　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
一括1	高台付き椀	(14.2)		轆成型。	轆成型。	①10YR⅘灰白　②還元　③⅓　④精選。　⑥埋め土内
一括2	蓋	2.0 (16.1)		轆成型。	轆成型。	①10Y⅘灰　②還元　③½　④精選。砂礫粒を含む　⑥埋め土内
7	坏	(4.6) (16.6)	胴部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ナデ。	①5YR⅚橙　②酸化　③½　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土上層
一括3	高台付き椀	13.6		轆成型。	轆成型。	①5Y ⅔灰白　②還元　③½　④砂礫粒を含む　⑥埋め土内
4	坏	2.9 (12.4)	胴部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅘にぶい橙　②酸化　③⅔　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土上層
3	甕	14.5 15.0 5.4	胴部は球形で、頸部はやや内湾ぎみに立ち、口縁部は短く外傾して開く。	口縁部から頸部にかけてヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅝にぶい赤褐　②酸化　③ほぼ完形　④精選。砂粒を含む.　⑥竈周辺上層
一括4	坏	3.4 12.8	胴部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅚橙　②酸化　③完形　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土上層
8	坏	3.6 13.0	胴部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR⅚橙　②酸化　③完形　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土上層
6	坏	3.3 13.3	胴部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅝明赤褐　②酸化　③¼　④精選。砂粒を含む　⑥
5	坏	3.2 13.4	胴部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅝にぶい赤褐　②酸化　③¾　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土上層
1	坏	3.2 12.7	胴部は浅く、口縁部は僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR⅝にぶい橙　②酸化　③完形　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土上層
17	鉢	12.4 22.9	底部は丸底でボール状である。口縁部は外反し、端部をつまみ上げる。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリか。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①5YR⅞橙　②酸化　③完形　④精選。砂粒. 含む　⑥竈内

31号住居　出土遺物観察表（図44、ＰＬ46）

番　号	器　　形	法　量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
12	甕	5.2	長胴甕。底部は小さな平底。	ヘラナデか。	ヘラナデか。	①2.5YR⅝明赤褐　②酸化　③底部のみ　④砂粒・滑石粒を含む　⑥竈部周辺
18	甑	3.4	胴部は球形で、頸部は長く直立し口縁部で大きく開く。	轆成型。胴上部に櫛描波状文、肩部に櫛歯による彩杉状の刺突文。	轆成型。	①2.5YR⅔灰黄　②還元　③口縁部を欠損　④精選　⑤注口部周囲に傷あり　⑥床面直上
4—1	坏	(3.6) (10.8)	胴部は浅く、口縁部は外反ぎみに開く。胴部と口縁部との境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅞橙　②酸化　③⅔　④精選。　⑥貯蔵穴内

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
4—2	坏	3.9 (13.2)	胴部は浅く、口縁部は直線的に開く。胴部と口縁部との境に段を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅙橙 ②酸化 ③⅓ ④精選。砂粒を含む ⑥貯蔵穴内
5	台付き甕	12.8	脚部は偏平で、端部は肥厚する。	裾部ヨコナデ。	裾部ヨコナデ。	①5YR⅝にぶい赤褐 ②酸化 ③脚部のみ ④砂礫粒を含む ⑥竈部周辺
一括	坏	(6.4) (17.6)	胴部はやや深く、口縁部は直立し、端部が僅かに外反する。胴部と口縁部との境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。内面黒色。	①7.5YR⅝にぶい橙 ②酸化 ③⅓ ④精選。 ⑥埋め土内
1	坏	4.1 10.6	胴部は浅く、口縁部はやや外傾して開く。胴部と口縁部との境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。一部にヘラケズリか。	①5YR⅝橙 ②酸化 ③完形 ④砂粒を含む ⑥床面直上
2	坏	4.4 12.7	胴部は浅く、口縁部は外傾して開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR⅔浅黄橙 ②酸化 ③完形 ④精選 ⑥床面直上
3	坏	4.3 12.4	胴部は浅く、口縁部は外傾して開く。口縁端部内面に沈線が1条施される。胴部と口縁部との境には稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	口縁部ヨコナデ。一部にヘラミガキか。	①10YR⅞にぶい黄橙 ②酸化 ③⅔ ④精選 ⑥貯蔵穴内
7	甕	(37.6) 23.3	長胴甕。口縁部は大きく外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ナデ。	①7.5YR⅝浅黄橙 ②酸化 ③底部を欠損 ④砂粒を含む ⑥竈袖部材
14	坏	3.9 11.4	胴部は浅く、口縁部は僅かに外反する。胴部と口縁部との境に稜を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR⅙橙 ②酸化 ③½ ④精選 ⑥床面直上

17号住居　出土遺物観察表（図45）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括	甕	(21.2)	口縁部は大きく外反し、端部をつまみあげる。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR⅝にぶい橙 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④精選。砂粒を含む ⑥埋め土内

19号住居　出土遺物観察表（図46、ＰＬ47

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
3	高台付き椀	5.4 14.9 7.2		轆成型。底部回転糸切りの後付け高台調整。	轆成型。	①2.5Y⅞浅黄 ②酸化 ③⅔ ④砂粒・片岩粒を含む ⑥床面上層
1	坏 （須恵器）	4.1 14.4 (6.6)		轆成型。底部回転糸切り	轆成型。	①5Y ⅝灰白 ②還元 ③½ ④砂粒を含む ⑥床面上層
10	甕	(22.8)	口縁部は緩やかに外反する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデか。	①2.5YR⅝橙 ②酸化 ③口縁部のみ ④砂粒を含む ⑥床面上層

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
2	高台付き椀	5.2 14.8 6.7		轆成型。底部回転糸切りの後付け高台。	轆成型。	①2.5YR 8/3 淡黄 ②還元 ③1/2 ④砂粒を含む ⑤底部内外面に黒斑 ⑥床面上層
22	甕 (弥生土器)	(16.4)	胴部は上半部に最大径を持つ。頸部はくの字状に屈曲し、口縁部は内湾する。	口唇部にＬＲの縄文。頸部に4本歯の櫛状工具による簾状文。胴部は4本歯の櫛状工具による羽状櫛描文。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケメの後ヘラミガキ。	①10YR 7/4 にぶい黄橙 ②酸化 ③1/3 ④精選。砂礫粒を僅かに含む ⑤胴部外面に黒斑 ⑥埋め土内
一括1	坏 (須恵器)	3.9 (13.6) (7.8)		轆成型。底部回転ヘラケズリ。	轆成型。	①5Y 7/1 灰白 ②還元 ③1/3 ④砂粒を含む ⑥埋め土内
一括2	坏	(2.7) (13.8)	胴部は浅く、口縁部は短く僅かに内湾する。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①10YR 8/4 にぶい黄橙 ②酸化 ③1/3 ④砂粒を含む ⑥埋め土内
一括3	甕	(18.2) (6.0)	胴部は球形で、口縁部はくの字に屈曲して開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①5YR 6/6 橙 ②酸化 ③1/3 ④砂粒を含む ⑥竈内

24号住居　出土遺物観察表（図47、ＰＬ47）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
一括	甕	(21.8)	胴部は長胴で、口縁部は緩やかに外反して開く。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR 7/6 橙 ②酸化 ③1/4 ④精選。砂粒を含む ⑥竈部
2	坏 (須恵器)	8.1		轆成型。底部は回転糸切りの後周辺回転ヘラケズリ。	轆成型。	①2.5YR 7/3 浅黄 ②還元 ③底部のみ ④精選。砂粒を含む ⑥床面直上
1	坏	3.3 13.1 8.0		轆成型。底部はやや上げ底で回転ヘラケズリ。	轆成型。	①7.5YR 5/1 灰 ②還元 ③完形 ④精選。白色鉱物粒を含む ⑥床面直上

26号住居　出土遺物観察表（図48、ＰＬ47）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
14	甕	(23.0)	コの字口縁。胴上部に最大径を持つ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①7.5YR 6/4 にぶい橙 ②酸化 ③1/3 ④砂粒を含む ⑥竈部
1	高台付き椀 (灰釉陶器)	4.6 14.3 (6.8)		内外面ともに施釉。		①2.5YR 7/1 灰白 ②還元 ③2/3 ④精選 ⑥埋め土内
16	坏	(12.8) (4.6) (6.8)		轆成型。底部回転糸切り無調整。	轆成型。	①2.5YR 5/2 暗灰黄 ②酸化 ③1/2 ④精選。砂粒を含む ⑥床面直上
一括	高台付き椀	8.0		轆成型。底部回転糸切り付け高台。	轆成型。	①2.5Y 7/1 灰白 ②還元 ③底部のみ ④砂粒を含む ⑥埋め土内

12号住居　出土遺物観察表（図49、ＰＬ48）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
3	高台付椀 （須恵器）	7.1		轆成型。底部は回転糸切りの後付け高台。		①2.5Y 7/2灰黄　②還元　③底部のみ　④精選。砂粒を含む　⑥埋め土内
4	高台付椀 （須恵器）	14.1		轆成型。底部は回転糸切りの後付け高台。		①5Y 8/1灰白　②還元　③口縁部の一部と高台部欠損　④精選。砂礫を含む　⑥床面直上
16	坏	4.1 12.9 7.0		轆成型。底部回転糸切り無調整。		①2.5YR 8/3淡黄　②酸化　③口縁部の一部欠損　④砂粒を含む　⑤口縁部の一部に還元部有　⑥床面直上
40	高台付椀 （須恵器）	5.2 15.9 8.2		轆成型。付け高台。		①5Y 8/1灰白　②還元　③1/2　④精選。砂粒を含む　⑤内外面にタール状の付着物　⑥床面直上
10	高台付皿 （須恵器）	2.7 13.3 5.7		轆成型。回転糸切りの後付け高台。		①2.5Y 7/2灰黄　②還元　③口縁部の一部欠損　④精選。砂粒を含む　⑥床面直上
1	紡錘車 （滑石製）		上径4.4・下径2.7・厚さ1.9 孔径0.9重さ55.9g	側面に線刻あり。		⑥床面直上

14号住居　出土遺物観察表（図50、ＰＬ48）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調　②焼式 ③残存　④胎土 ⑤備考　⑥出土状態
一括	甕	(18.2)	コの字状口縁。口唇端部をつまみあげる。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①5YR 6/4にぶい橙　②酸化　③口縁部1/3　④精選。砂粒を含む　⑥上層
4	甕	(21.8)	コの字状口縁。口唇端部をつまみあげ、外面に稜を成す。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR 6/4にぶい橙　②酸化　③口縁部1/4　④精選。砂粒を含む。　⑥上層
27	台付き甕	10.1	ハの字状に開く。	縦方向のヘラミガキ。	ハケメの後ヘラナデ。	①2.5YR 7/3淡黄　②酸化　③脚部のみ　④精選　⑤弥生土器　⑥埋め土内
25	甕	(19.6)	口縁部は肩部から緩やかに立ち上がり外反する。いわゆるコの字状口縁か。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	ヨコナデ。	①7.5YR 6/6橙　②酸化　③口縁部1/2　④精選。砂粒を含む　⑥上層
9	椀 （須恵器）	(14.8)		轆成型。	轆成型。	①10YR 7/3にぶい黄橙　②酸化　③1/3　④精選。砂粒を含む　⑥上層
22	高台付き椀	5.7 (14.8) (8.2)		轆成型。底部回転糸切りの後付け高台無調整。	轆成型。	①5YR 8/2灰白　②還元　③1/2　④砂礫粒を含む　⑥上層
18	甕	(21.7)	コの字状口縁。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①5YR 7/6橙　②酸化　③1/3　④精選。砂粒を含む。⑥上層
7	高台付き椀	5.3 15.3 5.8		轆成型。底部回転糸切りの後付け高台の後調整。	轆成型。	①10YR 8/3浅黄橙　②酸化　③完形　④砂礫粒を含む　⑥上層
17	甕	23.7 18.6 4.1	コの字口縁。胴部上半部に最大径を持ち、底部に向かって急にすぼまる。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	①5YR 7/4にぶい橙　②酸化　③完形　④精選。砂礫粒を含む　⑥床面直上

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
15	高台付き椀	5.6 15.3 7.2		轆成型。底部回転糸切りの後付け高台無調整。	轆成型。	①10YR⅔浅黄橙 ②酸化 ③完形 ④砂礫粒を含む ⑥上層
3	高台付き椀	4.9 14.7 7.7		轆成型。底部回転糸切りの後付け高台無調整。	轆成型。	①2.5YR⅞灰黄 ②酸化 ③ほぼ完形 ④砂礫粒を含む ⑥上層
11	高台付き椀 （須恵器）	5.1 14.4 7.7		轆成型。底部回転糸切りの後付け高台無調整。	轆成型。	①2.5Y⅝灰白 ②還元 ③口縁部の一部欠 ④砂礫粒を含む ⑥上層

15号住居　出土遺物観察表（図51、ＰＬ48）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
14	甕	(16.6)	コの字口縁。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①7.5YR⅞にぶい橙 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④砂粒を含む ⑥床面直上
一括1	甕	(18.9)	コの字口縁。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。	①2.5YR⅝明赤褐 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④砂粒を含む。 ⑥床面直上
一括2	坏	(11.9)		轆成型。	轆成型。	①10YR⅝浅黄橙 ②酸化 ③口縁部の一部のみ ④砂粒を含む ⑥床面直上
1	滑石製 剣形模造品		全長84㎜、中央幅26㎜ 中央厚7㎜、孔径2㎜	全面に研磨痕がみられる。		⑥上層

地割れ内　出土遺物観察表（図53、ＰＬ48）

番号	器形	法量 器高 口径 底径	器形の特徴	外面調整	内面調整	①色調 ②焼式 ③残存 ④胎土 ⑤備考 ⑥出土状態
1	高台付き椀	5.3 14.9 6.8		轆成型。	轆成型。	①2.5YR⅝淡黄 ②還元 ③完形 ④精選。 ⑤内外面に墨書 ⑥埋め土内

Ⅳ　調査の成果と今後の課題

西迎遺跡では住居33軒と７基から成る方形周溝墓群が検出された。遺跡内の各遺構の在り方は、調査遺跡内に散在する。しかも、それぞれの同一時期内の遺構が、互いに切り合い関係を持つことがない。また、方形周溝墓は遺跡内南地域に集中し、墓域を形成している。これらは、赤城山南麓地域の遺跡での一般的な傾向を示している。

弥生時代中期後半の遺構は住居15軒が検出された。これは、これまで赤城山南麓地域で調査されてきた同時期の遺跡と比較してかなり大きな規模である。また、13号住居のような大型住居の存在も目を引く。

ここでは、今回の調査において最もまとまった資料を得ることができた弥生時代中期後半の土器について若干の検討を加え、まとめとしたい。

西迎遺跡の住居出土の弥生時代中期後半の土器には、壺、甕、台付き甕？、椀、甑、高坏などの器種が見られる。これらのうち、椀、高坏、甑の個体数は極めて少ない。この椀、高坏などの特定器種や赤色塗彩された土器の欠落現象は西毛地域と東毛地域を比較した場合、東毛地域に顕著に認められる。

ここでは、最も出土量の多い壺及び甕について、分類基準を明らかにした上で型式分類を行いその組列を追う。なお、組列を追うに当たっては、西迎遺跡出土遺物のみに限ることなく、現利根川以東の赤城山南麓地域をその分析対象の中心とする。その上で各組列を横断する共通する型式の組み合わせを明らかにし、他地域との比較のための第一歩として時間軸の設定を試みることとする。ただし、今回は型式組列を検証するための遺構の重複などの層位的出土例がないため、あくまでも仮説として提示するに止どめたい。

１　型式分類

壺は７類９細分できる。

壺Ａ類

口縁部が受け口状をなす。頸部から外反した口縁部が端部で立ち上がり、外面には稜を持つ。頸部は比較的長く、胴部は中央部が張る。

文様は口唇部に縄文、口縁部は縄文施文の上にヘラ描き沈線による波状文、頸部は縄文施文の上にヘラ描き沈線あるいはヘラ描き沈線波状文を施す。これに続くものとしてA_1は口縁部あるいは頸部から縄文が欠落する。頸部がやや短くなり、胴部は最大径が胴下部に移りやや下膨れとなる。A_2は頸部からヘラ描き沈線が欠落する。胴部の張りは弱まる。

壺Ｂ類

口縁部は折り返し口縁で、頸部から緩やかに外反ぎみに開く。胴部の張りは比較的小さい。口縁部の折り返し部に縄文施文、頸部には縄文施文の後細いヘラ描き沈線による山形文を描き、他の部分を磨り消す。B_1は頸部の山形文内の縄文が欠落する。B_2は口縁部及び頸部から縄文が姿を消す。

壺Ｃ類

口縁部が内湾する。外面に稜を持たず緩やかに内湾して外に開く。胴部は中央部に最大径を持ち、大きく張る。口縁部文様帯を持つもの（C_a）と持たないもの（C_b）とに分けられる。

C_aは口唇部と口縁部に縄文施文、頸部にはヘラ描き沈線による横位区画をもうけ充填縄文を施し帯状文化する。頸部の帯状文の下にヘラ描き沈線による沈線充填の連続三角形文を施す。C_{a1}は頸部の文様帯から縄文が欠落する。C_{a2}は口縁部の文様も欠落し、頸部にヘラ描き沈線や波状文を施すのみとなる。この時点で壺Ａとの区別が不鮮明となる。

C_bは口唇部に縄文、頸部に縄文施文の後ヘラ描き沈線を施す。口縁部文様帯を持たない。胴部は中央部に最大径を持つ。C_{b1}は頸部から縄文が欠落する。胴部の最大径が胴部下部になりやや下膨れとなる。

壺Ｄ類

単口縁で頸部から外反して開く。D_aは胴部中央部に最大径を持つ。頸部は僅かに立ち上がり、口縁部は比較的短くひらく。口唇に縄文施文。頸部にはヘラ描き沈線をほどこしその間に縄文を充填する。胴上半部にヘラ描き沈線による沈線充填連続三角形文を二段描く。

D_bは口縁部は頸部から緩やかに外反する。胴部は中央部に最大径を持つ。口唇部に縄文施文、頸部に縄文施文の後ヘラ描き沈線を２～４条引く。さらにヘラ描き沈線による波状文を施す。D_{b1}は胴部の最大径がやや下になり下膨れとなる。頸部の縄文が欠落する。D_{b2}は口縁部の外反が緩やかになり、頸部のヘラ描き沈線

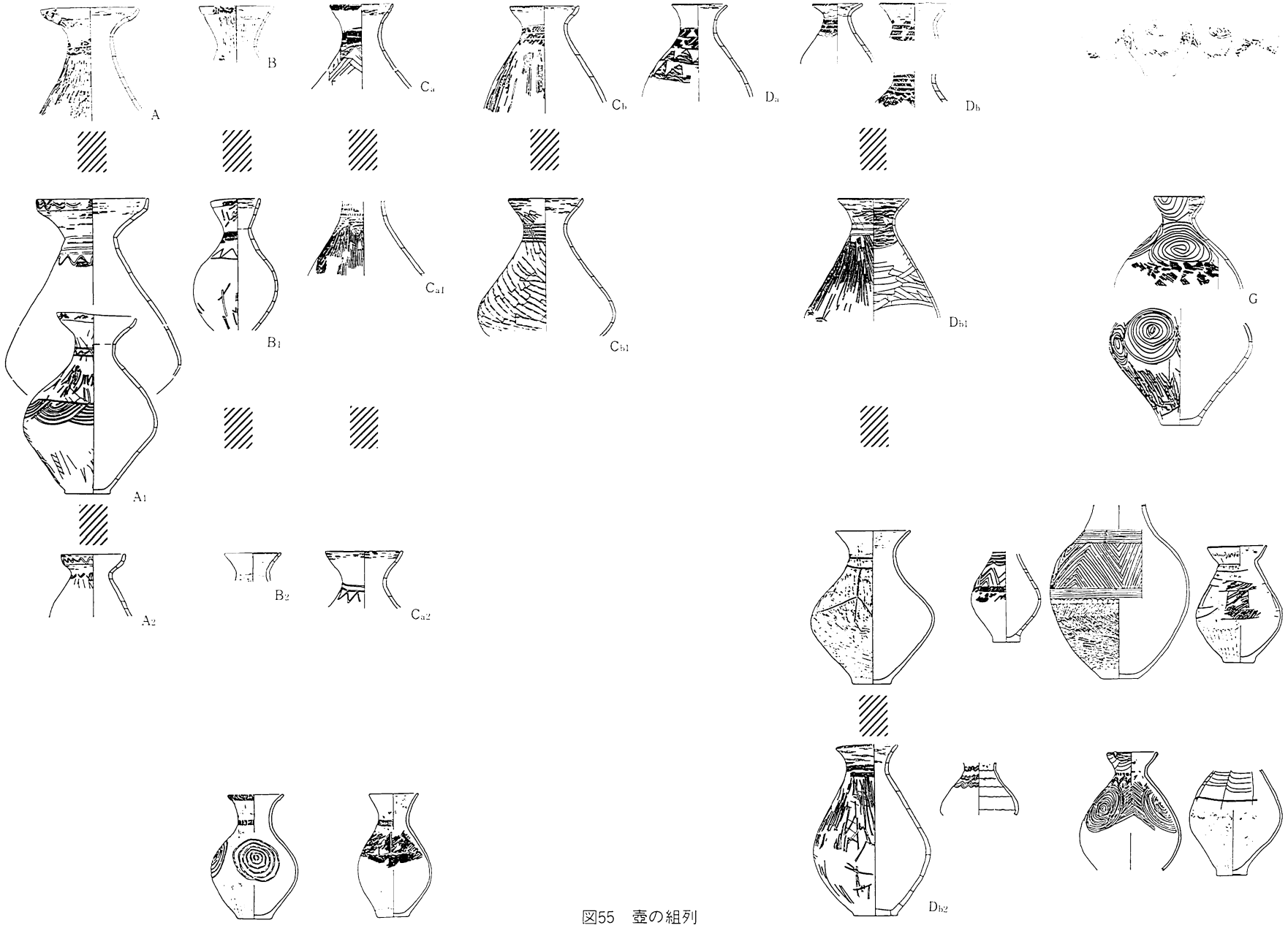


図55　壺の組列

が欠落し櫛描き波状文となる。

壺E類

単純口縁で内湾して立ち上がるいわゆる袋状口縁となる。胴部は上半部に最大径を持つ。文様は口縁部に細いヘラ描き沈線による重連弧文、胴部には渦文を施し、その下に縄文を施文する。

壺F類

口縁部の形態は不明であるが、全体にやや細く、胴部の張りは弱い。文様は細いヘラ描き沈線による重連弧文、その下に重三角形文を施す。さらに下部に縄文を施文する。文様は弧線と直線の違いはあるが重文であること、口縁部から胴部上半部に細いヘラ描き沈線文様を描き、胴部中央部に縄文を施すというパターンはF類と共通する。

壺G類

口唇部に4単位の突起を持つ。口縁部は大きくラッパ状に開き、頸部はやや締まり、胴部は下半部が張る。全面に赤色塗彩される。

甕は2類5細分分類する。

甕A類

A_aは口縁部が内湾する。頸部は「くの字」状に屈曲する。口縁部が比較的長く、胴部は強く張る。口唇部

図56　甕の組列

刻目、頸部に2～3本のヘラ描き簾状文を巡らせ、胴部上半部には縄文を施文する。

A_bは口縁部は僅かに内湾し、頸部は「くの字」に屈曲する。胴部は中央部が張る。文様は口縁部に深い櫛状工具による斜走直線文、頸部に2段にわたる簾状文、胴部には羽状の斜走直線文を3段に亙って施文する。

A_{b1}は口縁部の内湾はより明瞭になり、胴部は上半部に最大径を持つ。下半部は直線的にすぼまる。文様は口唇部に縄文、口縁部にヘラ描き沈線波状文をほどこし頸部にはヘラ状工具による簾状文、胴部には斜走直線文の縦羽状文を施す。

A_{b2}は口縁部の内湾は緩やかになり開きが大きくなる。また、胴部の張りは弱くなる。口縁部のヘラ描き沈線波状文が欠落する。

A_{b3}は口縁部の内湾は僅かになり開きはより大きくなる。胴部は張りが少なくなり全体になだらかとなる。

甕B類

B_aは口縁部は頸部から「くの字」に屈曲し、外反ぎみに開く。胴部は球形に近い。口唇部に縄文施文、口縁部から胴部にかけて縄文施文、頸部にはヘラ状工具による簾状文が施される。

B_{a1}は口縁部の縄文が欠落し、胴部にはヘラ描き沈線による横位区画文が形成される。

B_bは口縁部が頸部から緩やかに外反して開く。口縁部は比較的短い。胴部は上半部に最大径を持つ。口縁部には文様を持たず、頸部に簾状文、胴部には斜走直線文による縦羽状文を施す。

B_{b1}は口縁部の開きが大きくなり、胴部はなだらかとなる。

B_dは口縁部が短く頸部から「くの字」に鋭く開く。頸部には簾状文、胴部には横位の波状文が施される。

B_{d1}は頸部の屈曲がやや緩やかになり、胴部の張りもやや弱くなる。

Hは胴部の中央部に最大径を持つ。頸部は緩やかに屈曲し、口縁部は直線的に開く。文様は口唇部に縄文施文、口縁部と胴上半部に縄文を施文する。頸部には無文帯を残す。

小型甕A

台付き甕になる可能性もある。口縁部は緩やかに外反する。胴部は球形胴に近い。頸部にヘラ描き簾状文を施す。A_1は胴部に櫛状工具による波状文が施される。

2　型式組列の検討

型式組列が追えるものとして、壺A、壺C_a、壺D_b、甕A_bを上げることができる。

壺Aは受け口状口縁と胴部の張る器形が特徴的である。文様要素として縄文が欠落し、胴部の張りが弱くなる。A→A_1→A_2へという組列を設定する。

具体的遺構に照らすなら、西迎遺跡20号住居→西迎遺跡13号住居→西迎遺跡11号住居へという変遷である。

壺C_aは口縁部が僅かに内湾するもので、胴部は壺Aと同様に大きく張る。文様要素として縄文の欠落が指摘でき、文様も簡略化する。

C_a→C_{a1}→C_{a2}という組列を設定する。

具体的遺構は西迎遺跡20号住居→西迎遺跡22号住居→西迎遺跡13号住居へという変遷である。

壺D_bは口縁部が外反し、胴部は張る。文様要素として縄文の欠落傾向と文様の簡略化が指摘できる。また、頸部文様帯に櫛描波状文の導入がある。D_b→D_{b1}→D_{b2}という組列を設定する。

具体的遺構は西迎遺跡30号住居→13号住居への変遷であり、これにつづくものとして荒口前原遺跡の壺があげられる。

甕A_bは口縁部は短く、内湾して開く。胴部は中央部が張る。文様要素として頸部の簾状文、胴部の斜走直線文による縦羽状文があげられる。

A_b→A_{b1}→A_{b2}という組列を設定する。

具体的遺構は西迎遺跡30号住居→西迎遺跡20号住居・荒砥島原A区11号住居→西迎遺跡13号住居である。これに続くものとして荒砥前原遺跡2号住居の甕があげられる。

以上の組列の組み合わせをもとに、西迎遺跡及び赤城山南麓地域の弥生時代中期後半の土器編年を試案した。

3　赤城山南麓の弥生時代中期後半の土器編年にむけて

赤城山南麓の弥生時代中期後半の遺跡は、現在までに10遺跡程が知られているにすぎない。調査された住居を含む遺構も50軒に満たない。

このような状況の中で、敢えて、表1のように4細分を考えた。前述したようにいくつかの型式で組列を追うことができ、しかも、それらを横断する組み合わ

	壺									甕					小型甕	遺　跡　名	備　考
	A	B	C_a	C_b	D_a	D_b	E	F	G	A_a	A_b	B_a	B_b	H	A		
Ⅰ		B								A_a				H		荒砥前原遺跡5T3号竪穴 西迎遺跡29号住居 西迎遺跡30号住居	野沢Ⅱ
Ⅱ	A	B	C_a	C_b	D_a	D_b	E	F			A_b		B_b	H		西迎遺跡20号住居 荒砥島原遺跡A区11号住居 西太田遺跡136号住居	南御山Ⅱ 二ツ釜
Ⅲ	A_1	B_2	C_{a2}	C_{b1}		D_{b1}	◇	◇	G		A_{b3}		B_{b1}			西迎遺跡13号住居	川原町口・山草荷
Ⅳ							◇	◇						◇		荒口前原遺跡 荒砥前原遺跡2号住居	桜井Ⅱ

赤城山南麓地域の弥生時代中期後半における土器型式組成及び編年試案

せが認められることをその根拠としてあげておきたい。

型式組列やこれらの組み合わせについては、先に述べたように、検証し得る資料は今のところ乏しい。ここでは、他地域の土器群との対比から、その見通しを述べておきたい。

まず、細分したⅠからⅣまでにそれぞれ共伴する壺E類、F類、甕A_a類、甕H類に注目する。これらの土器は、ヘラによる細描沈線文と縄文を特徴とする土器群であり、ここで分類したヘラ描き沈線文土器や櫛描き文系土器とは明らかに系統を異にするものとしてとらえられる。

すでにこれらの土器群については柿沼恵介を初めとして多くの研究者によって南東北系土器群として位置付られているところである(柿沼・井上1977、設楽1986他)。近年では大木紳一郎によって詳細な分析がおこなわれた。大木は各遺跡毎の南東北系土器と呼ばれるものと実際の南東北の土器型式との対比を行い、これら南東北系土器群の出自や流入経路について言及した(大木1988)。

ところで、これまでのところ最も精緻に組み立てられ、信頼のおけると判断される弥生時代中期後半から後期にかけての南東北地域の土器編年は、中村五郎や井上義安他によって組み上げられた編年であろう(中村1976、井上他1978)。南御山Ⅱ式から二ツ釜式、川原町口式、天王山式を経て十王台式にいたる編年大綱は極めて妥当性の強いものと考える。

そこで表1の備考欄に示したように中村編年を赤城山南麓地域出土の南東北系土器群にあてはめてみた。Ⅰ段階は明確ではないが、荒砥前原遺跡5トレンチ3号竪穴出土の磨り消し縄文を持つ壺は南御山Ⅱ式に対比される可能性がある。Ⅱ段階では、すでに大木の指摘(大木1988)のとおり二ツ釜式段階の土器が伴う。西迎遺跡20号住居や西太田遺跡136号住居がこの例である。Ⅲ段階は2本同時施文工具による川原町口・山草荷式段階の土器が伴う。この段階では二ツ釜式並行の土器も共伴する。西迎遺跡13号住居出土一括資料があげられる。Ⅳ段階には川原町口・山草荷式段階の土器に、連弧文を縦線で区分する桜井Ⅱ式平行の土器が共伴する。荒口前原遺跡一括資料があげられる。

以上のことは、南東北の弥生時代中期編年の是認を前提とした場合、先の型式組列に基づく編年試案の妥当性を示しているといえよう。ただし、これはあくまでも南東北地域の編年が正しいという仮説の上に成り立っている。東北地方や赤城山南麓地域での層位学的な検証が一日でも早く行われることを期待し、赤城山南麓地域の弥生時代中期後半の土器群についてⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳという4期区分を提唱しておきたい。

また、今後の課題として、ここで取り上げた弥生時代中期後半の土器群とこれに続く弥生時代後期の土器群との関係の究明があげられよう。特に、赤井戸式土器との関係が最も大きな問題となる。この問題については、赤井戸式Ⅰ期の土器の出土例の増加を待って再論してみたい。今後の大きな課題である。

参考文献

井上唯雄・柿沼恵介　1977「入門講座　弥生土器－北関東2－」考古学ジャーナル141

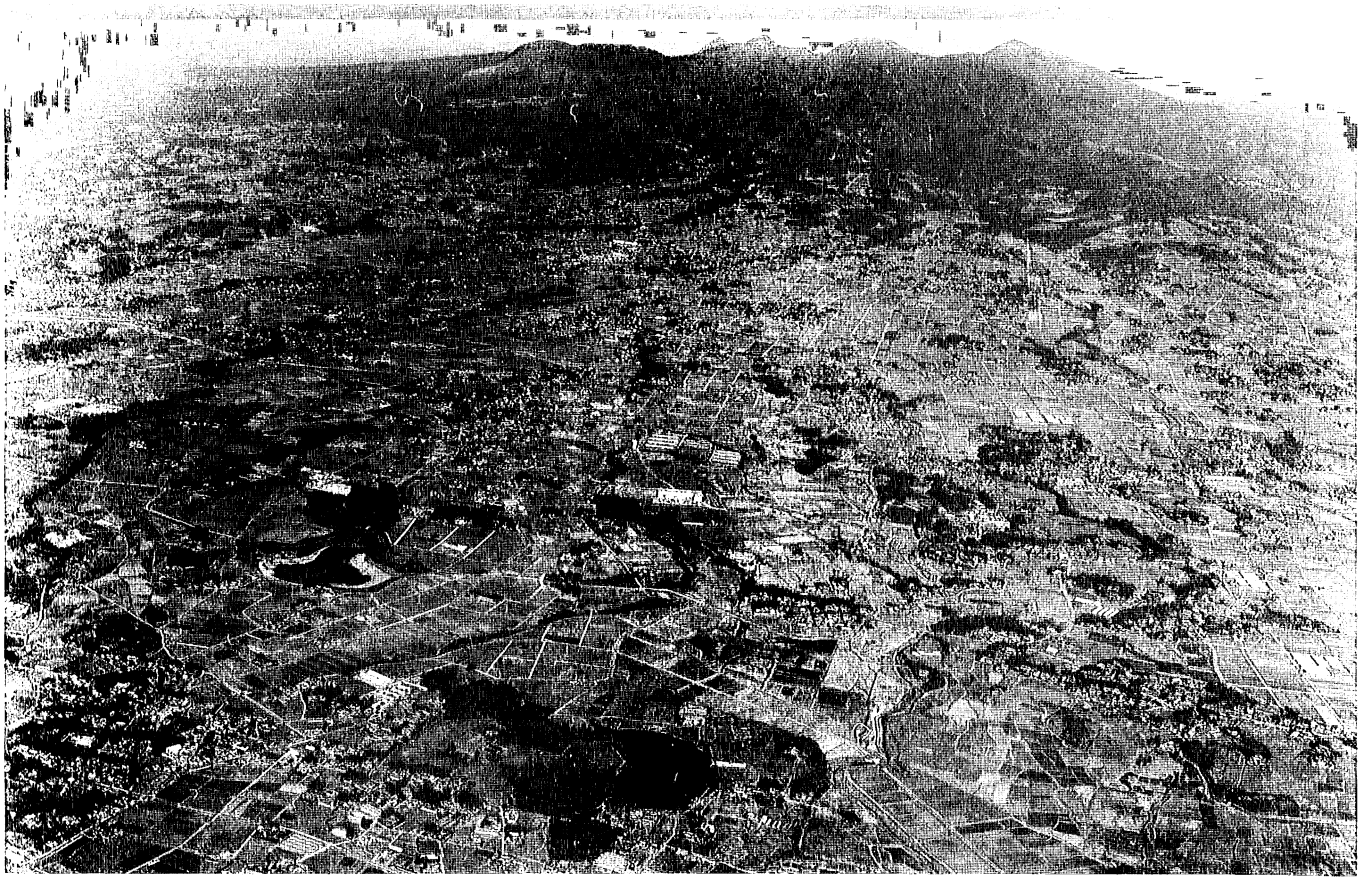
設楽博巳　1986「竜見町式土器をめぐって」第7回三県シンポジュウム『東日本における中期後半の弥生土器』北武蔵古代文化研究所他

大木紳一郎　1988「群馬県東部における弥生時代中期後半の土器について－南東北系土器群の分析－」『群馬の考古学　創立十周年記念論集』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

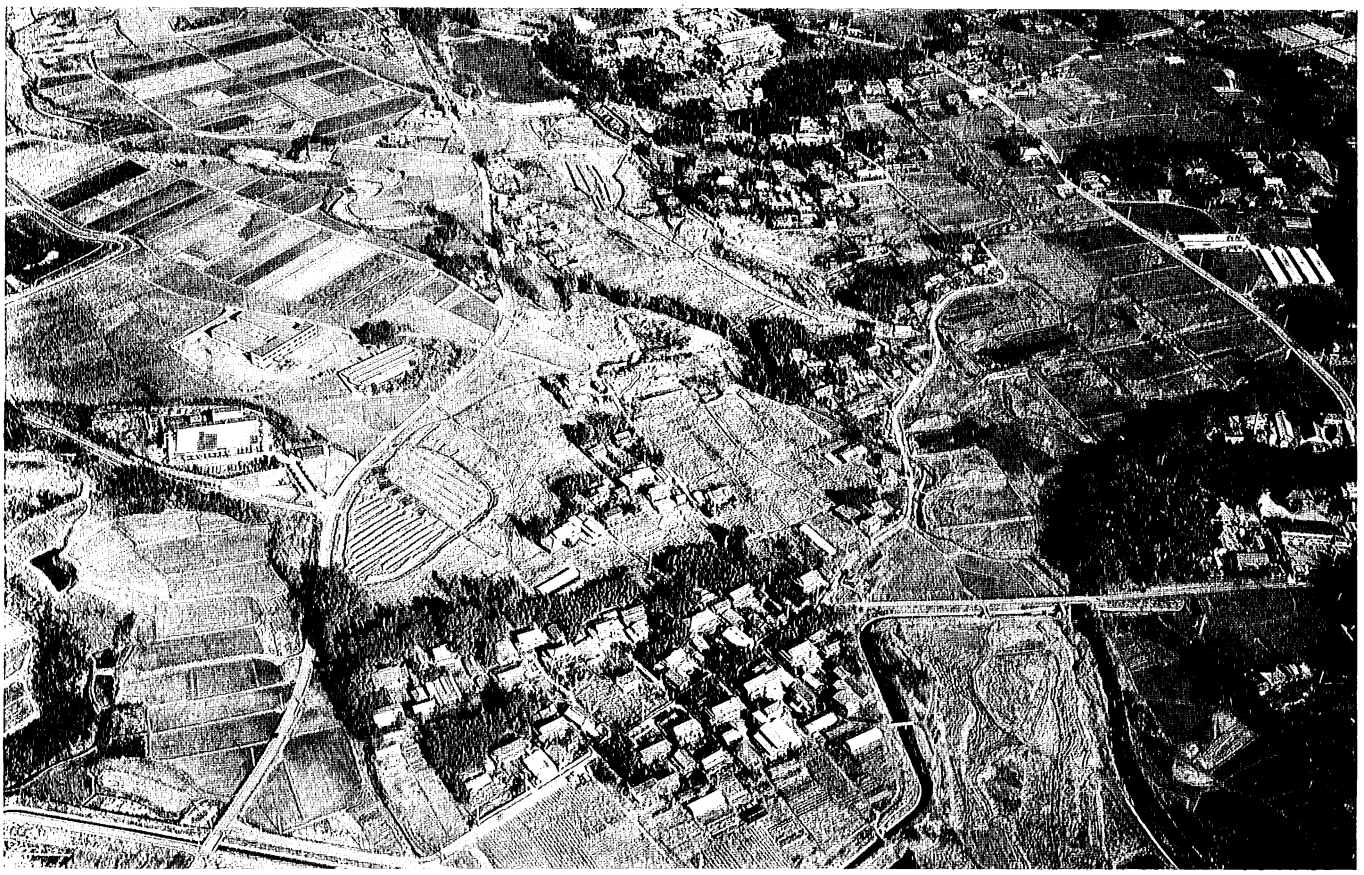
中村五郎　1976「東北地方南部の弥生式土器編年」東北考古学の諸問題

佐藤次男・井上義安・宮田毅　1977「入門講座弥生土器－関東東部－」考古学ジャーナル146・147

写 真 図 版



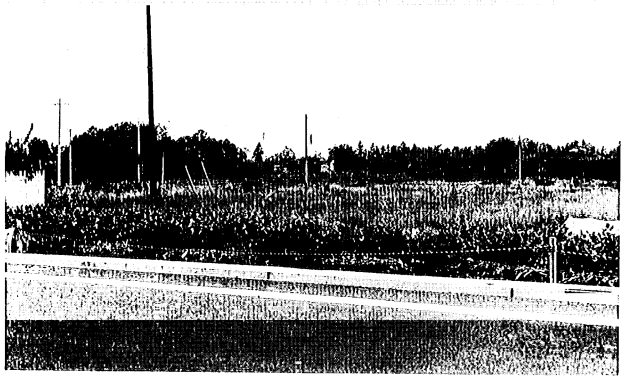
1．赤城山と深津地区遺跡群（南より）



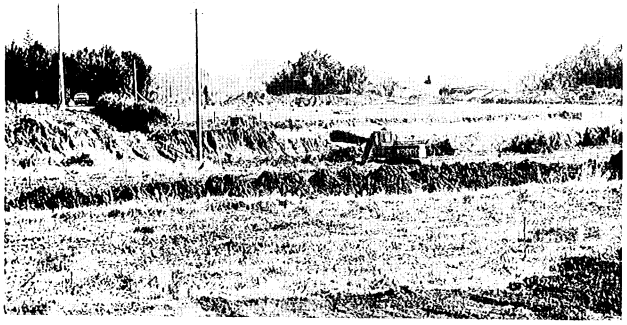
2．昭和60年度調査遺跡（南西より）

1．西迎遺跡全景（南より）

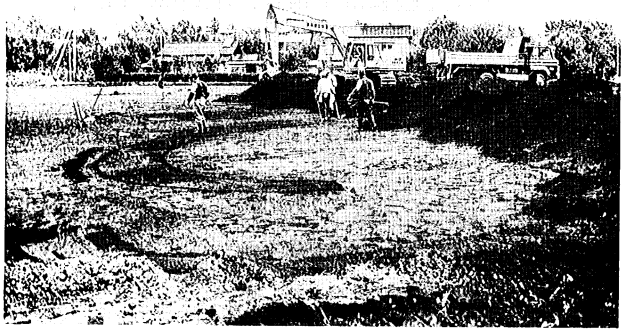
2．西迎遺跡南区全景（東より）



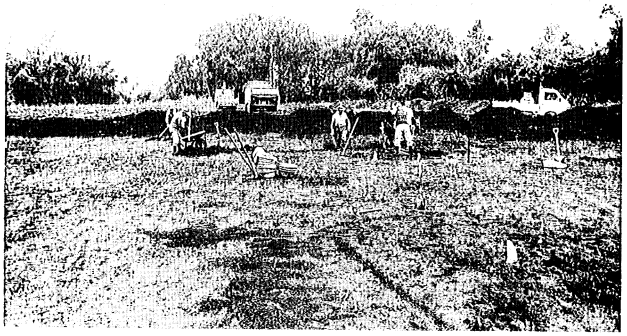
1．西迎遺跡と東側の低地



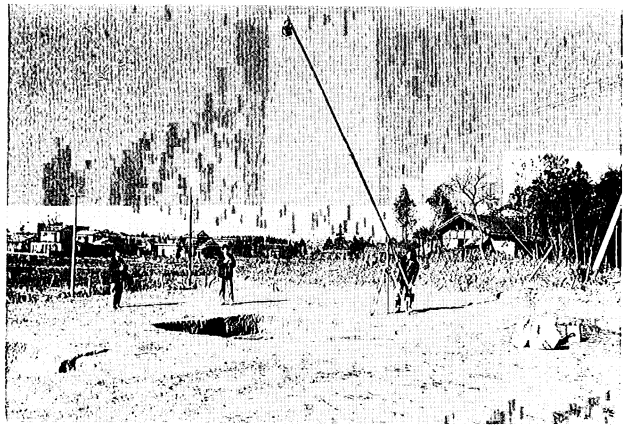
2．西の低地から望む西迎遺跡



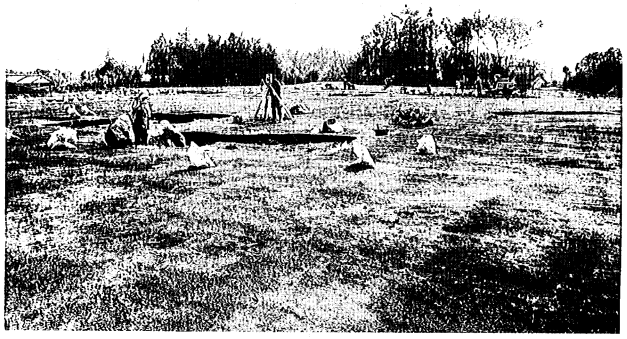
3．大型重機による表土剝ぎ



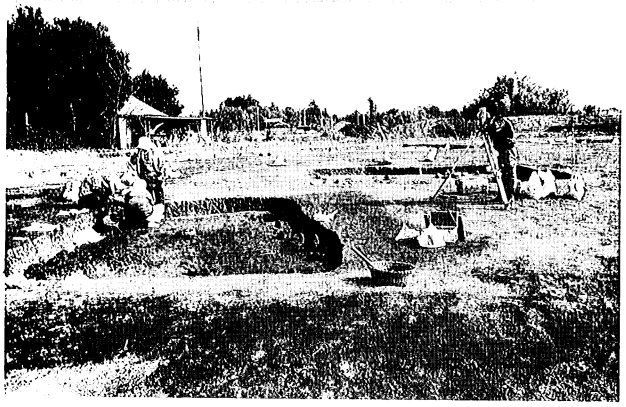
4．精査作業



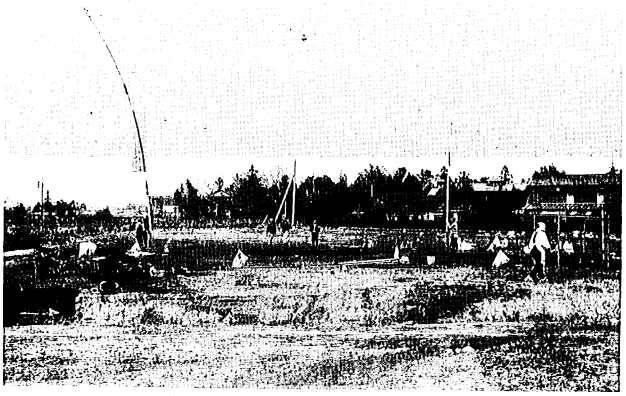
5．ブーム方式（計測用カメラ）による住居の写真測量



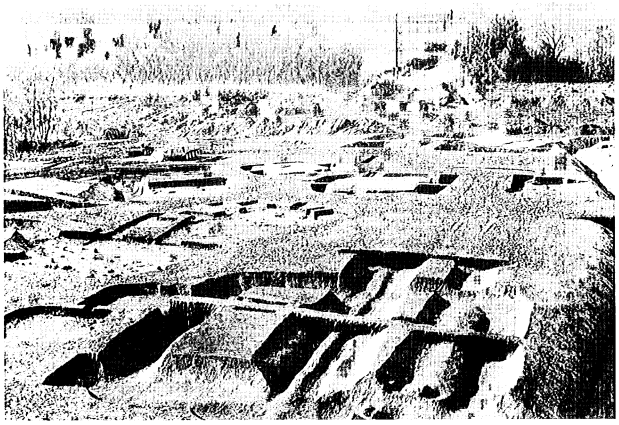
6．進む発掘調査



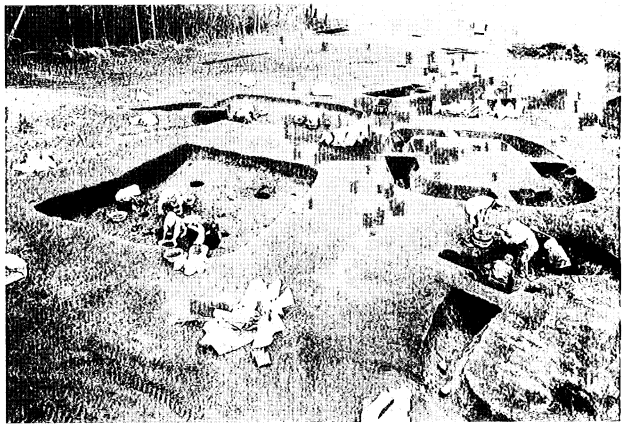
7．電子野帳による遺物の取り上げ



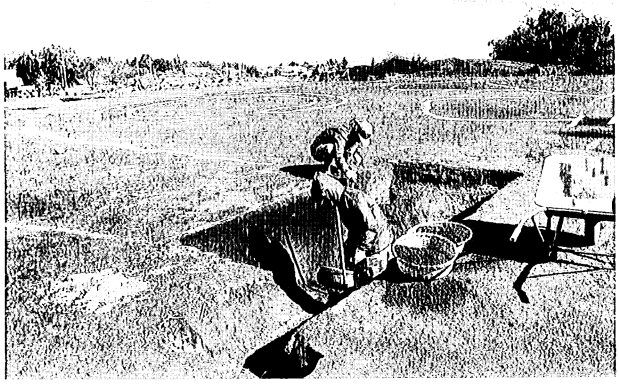
8．ケーブル方式（35㎜一般カメラ）による写真測量



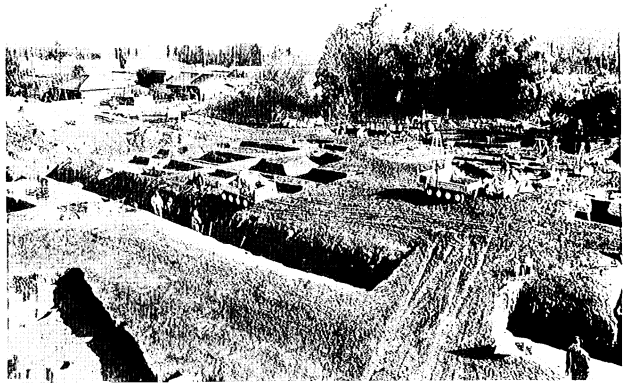
1．方形周溝墓群と住居（東より）



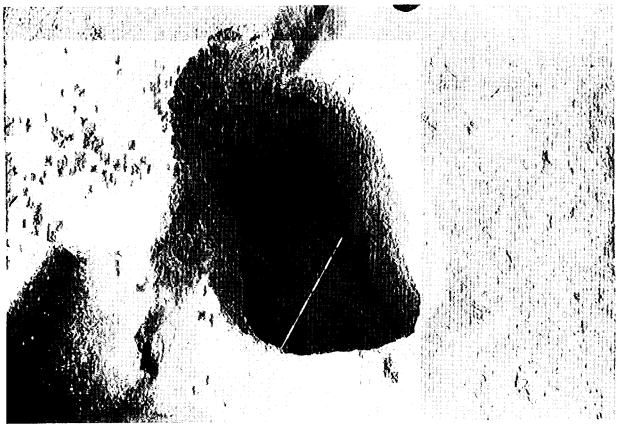
2．方形周溝墓と住居の発掘調査



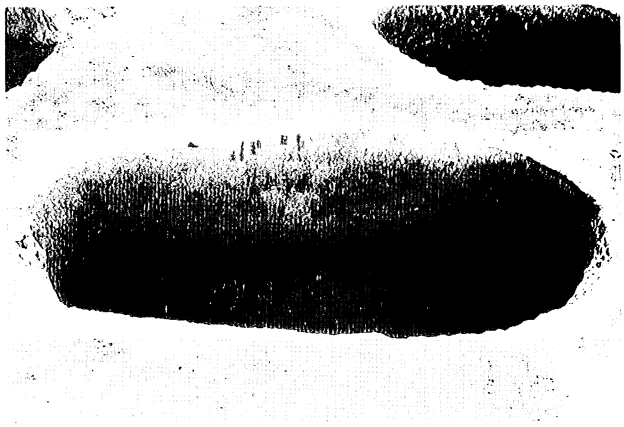
3．大溝の調査



4．大溝と方形周溝墓

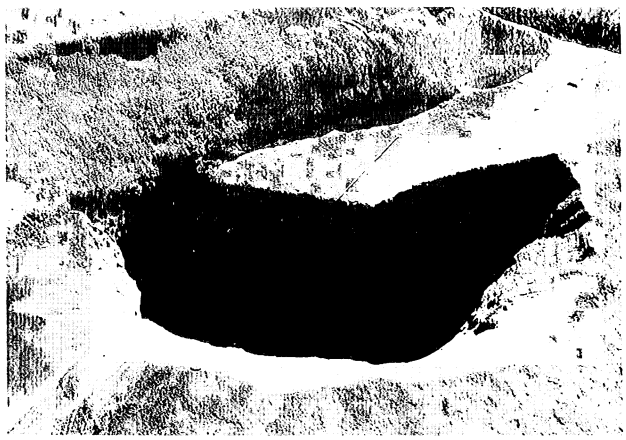


5．縄文時代の６号陥し穴（23号住居内）



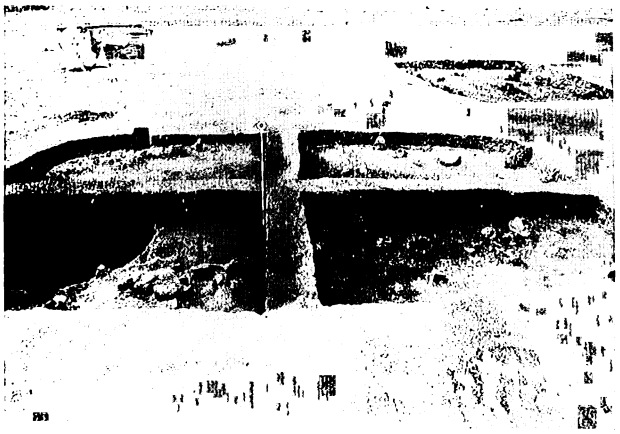
6．１・２・３号陥し穴

7．４号陥し穴（２号方形周溝墓内）

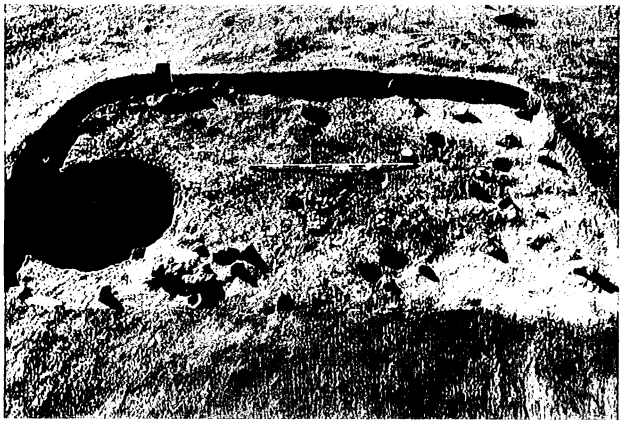


8．７号陥し穴（４号方形周溝墓内）

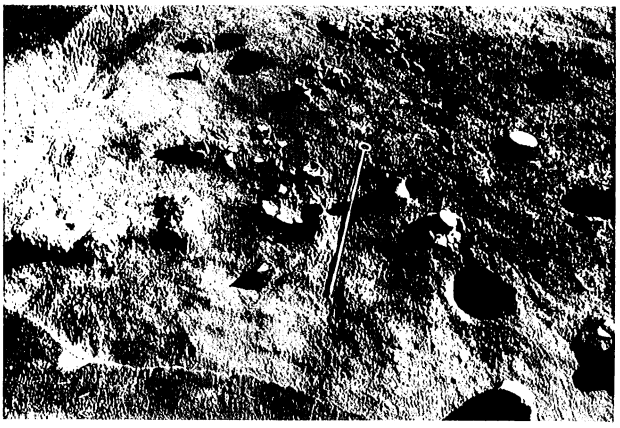
1．7号住居全景



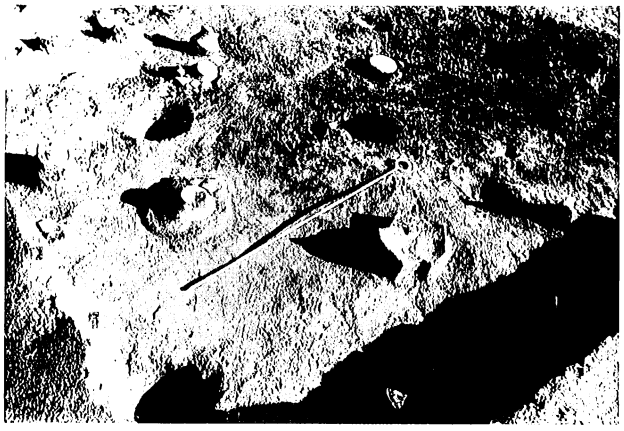
2．7号住居土層堆積状態



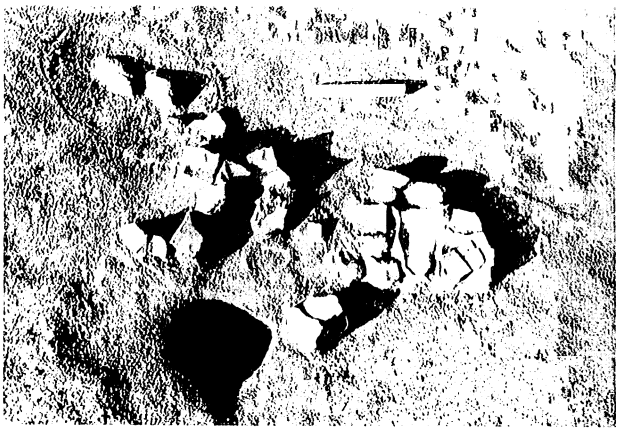
3．7号住居遺物出土状況



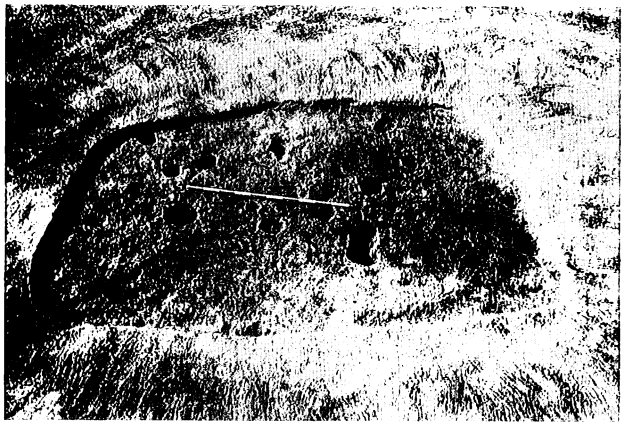
4．7号住居遺物出土状況



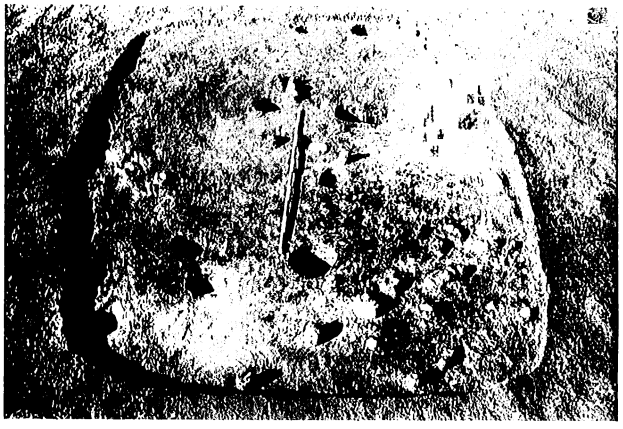
5．7号住居遺物出土状況



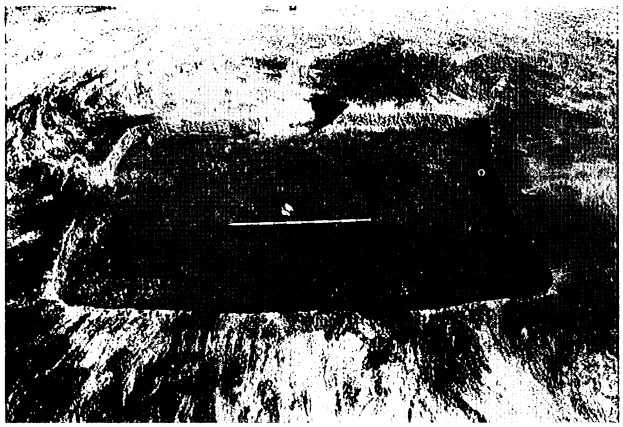
6．7号住居遺物出土状況



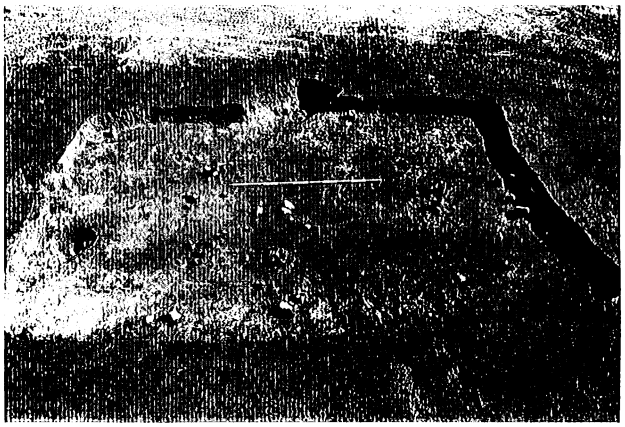
7．10号住居全景



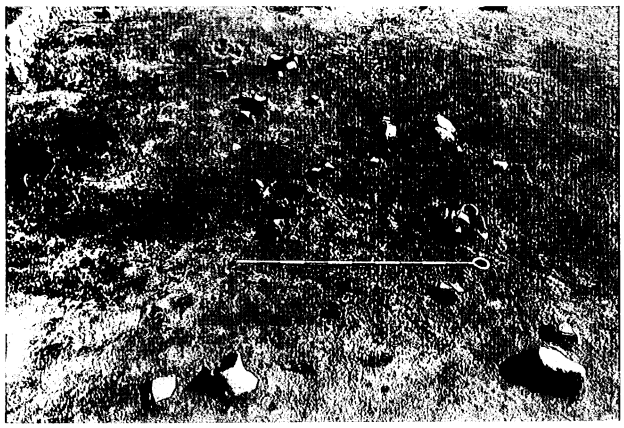
8．10号住居遺物出土状況



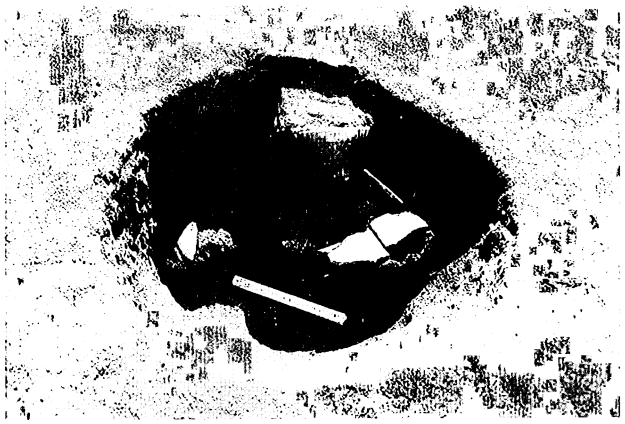
1．9号住居全景



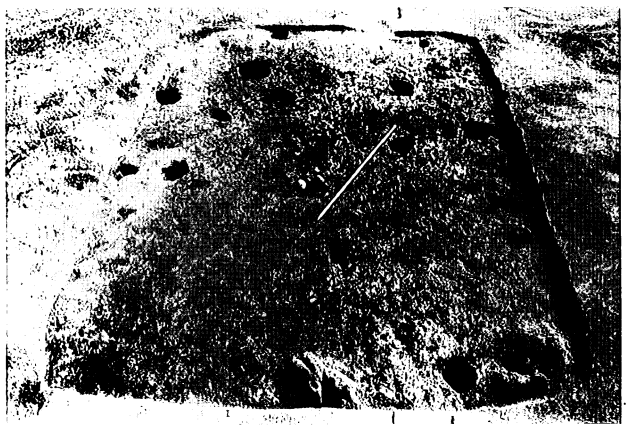
2．9号住居遺物出土状況



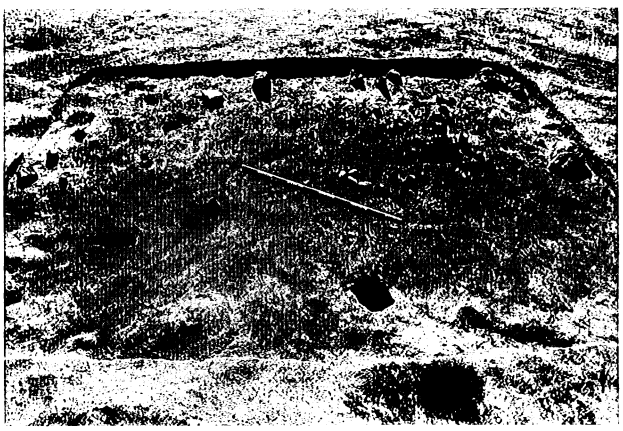
3．9号住居遺物出土状況



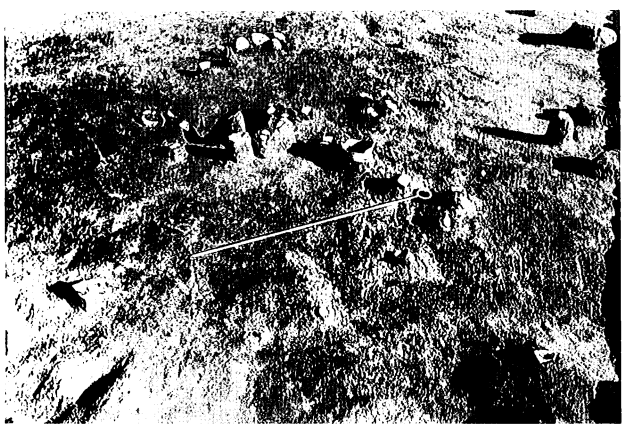
4．9号住居P_1内遺物出土状況



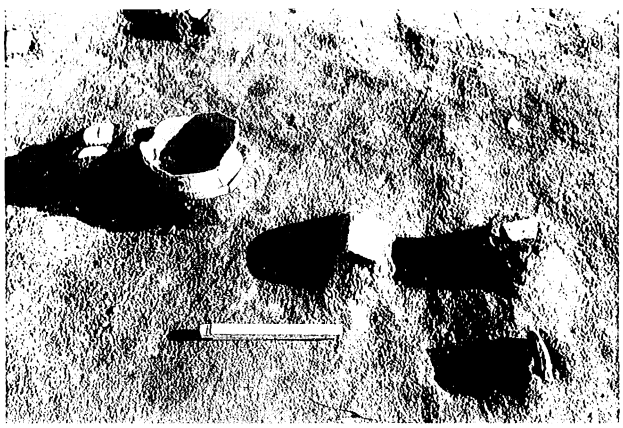
5．11号住居全景



6．11号住居遺物出土状況



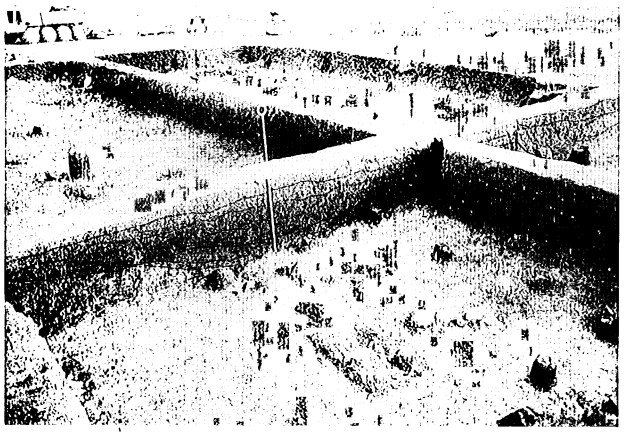
7．11号住居遺物出土状況



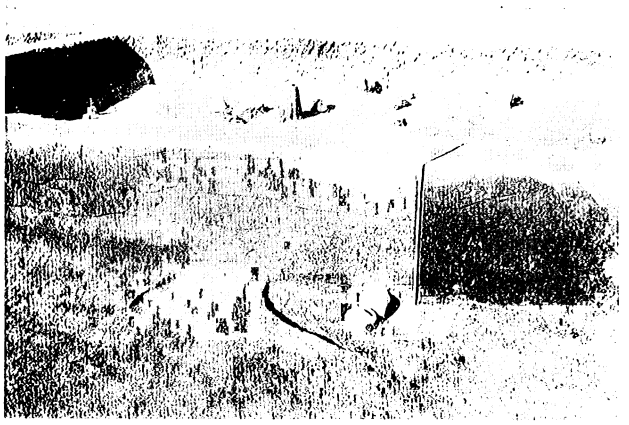
8．11号住居遺物出土状況

1．13号住居全景

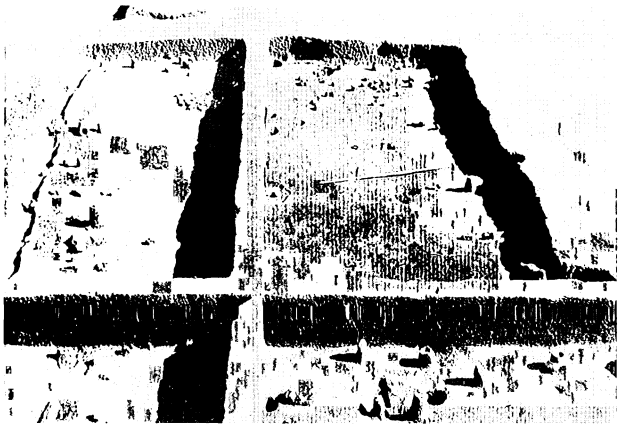
2．13号住居遺物出土状況



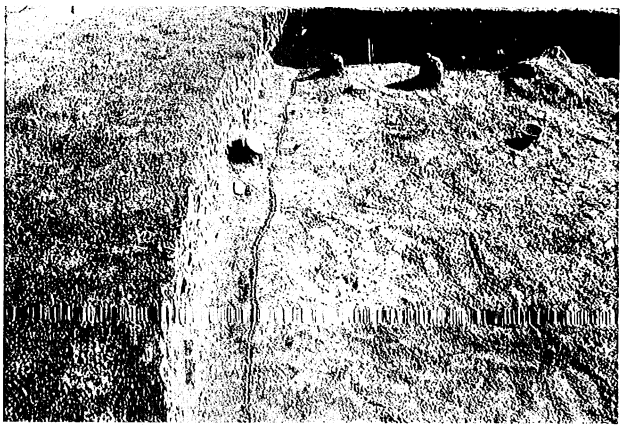
1．13号住居土層堆積状況



2．13号住居炉址

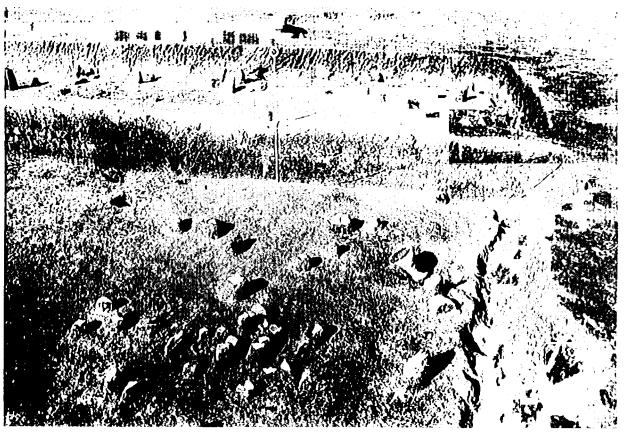


3．13号住居遺物出土状況

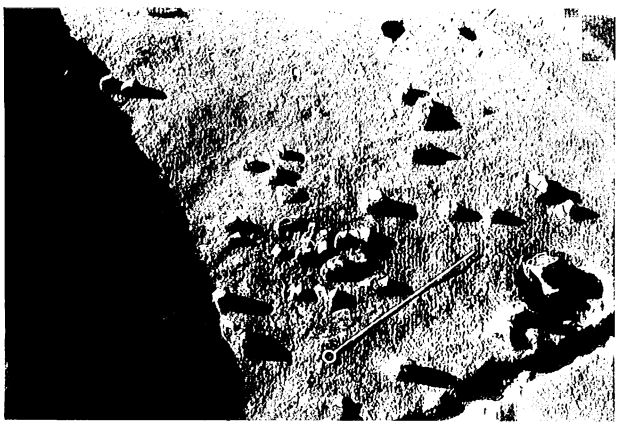


4．13号住居壁周溝

5．13号住居遺物出土状況

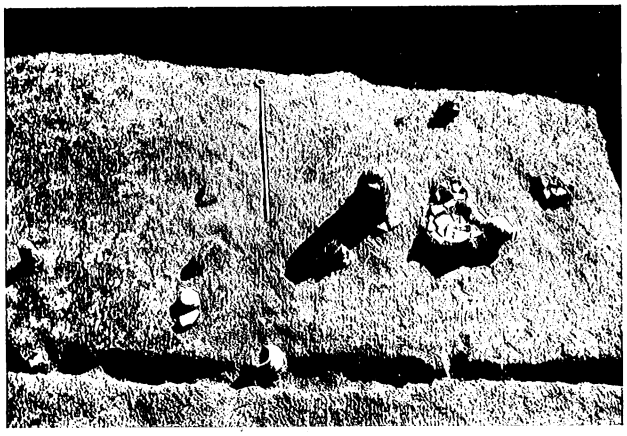


6．13号住居遺物出土状況

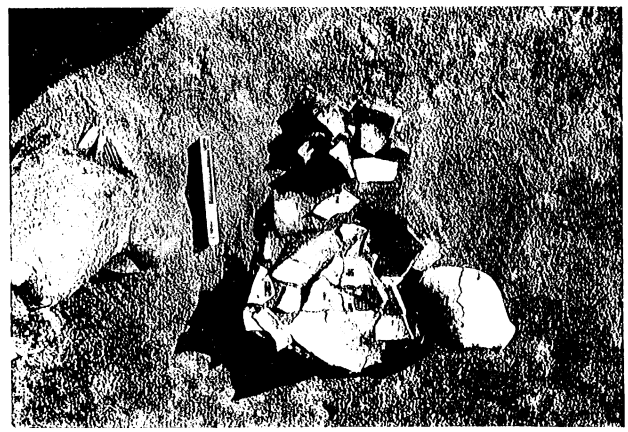


7．13号住居遺物出土状況

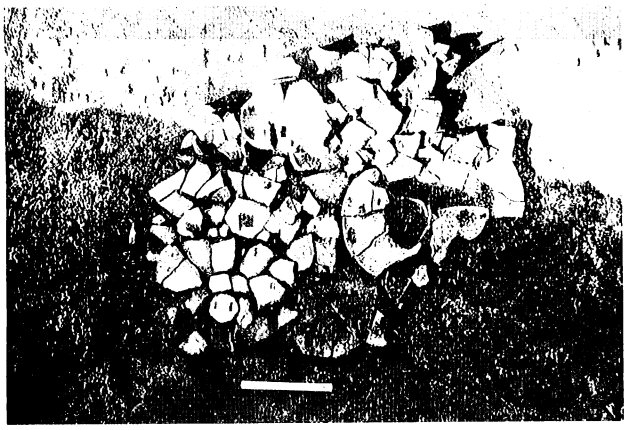
8．13号住居遺物（459）出土状況



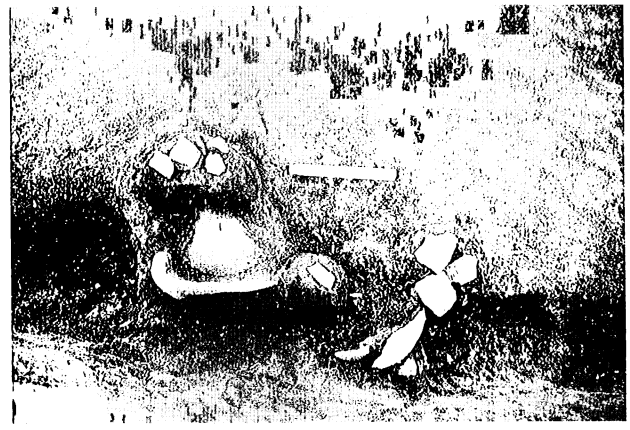
1．13号住居遺物出土状況



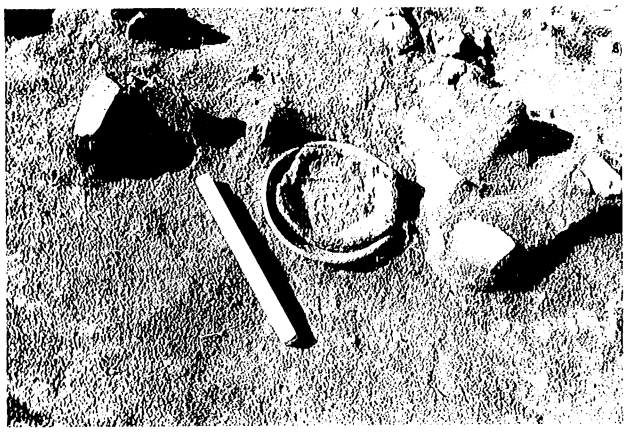
2．13号住居遺物（185・196）出土状況



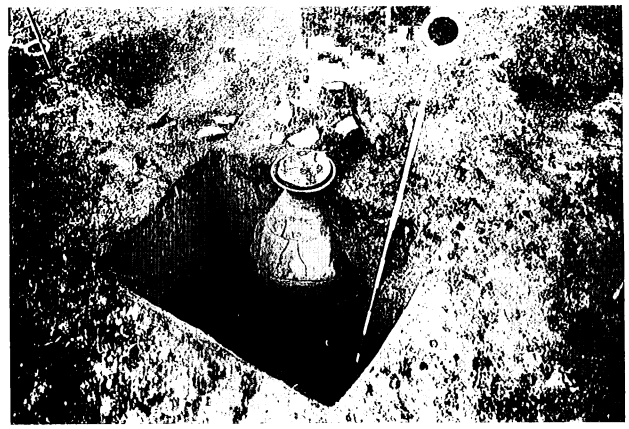
3．13号住居遺物（360・298）出土状況



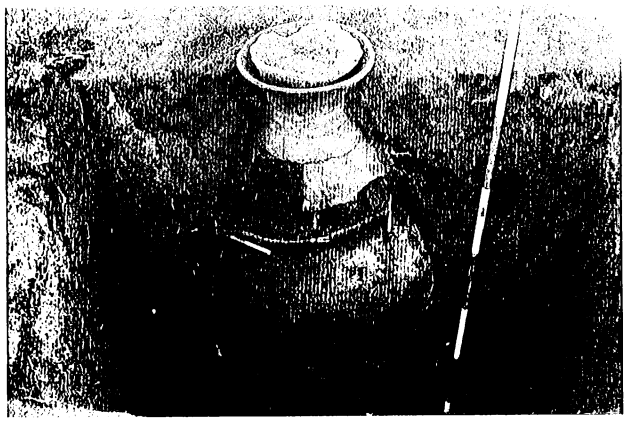
4．13号住居遺物（94）出土状況



5．13号住居内埋め甕（487・488）確認状況



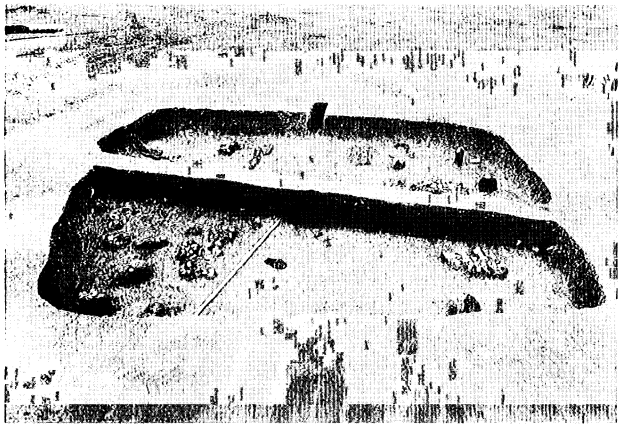
6．13号住居内埋め甕断ち割り状況



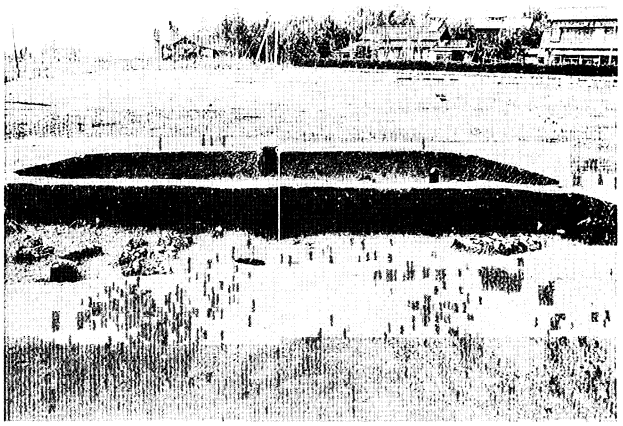
7．13号住居内埋め甕断ち割り状況

8．13号住居内埋め甕被覆の壺（487）除去後

1．20号住居全景

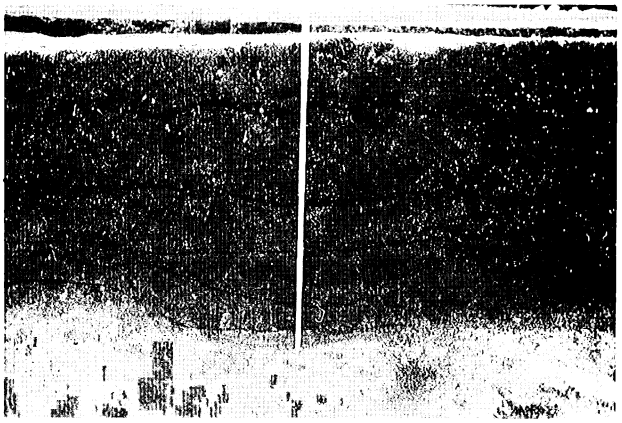


2．20号住居遺物出土状況

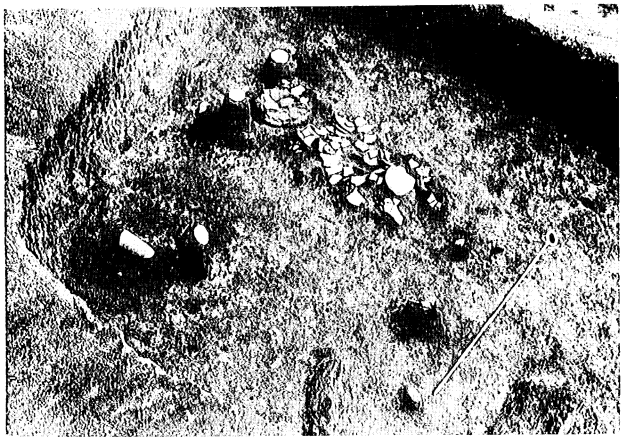


3．20号住居土層堆積状況

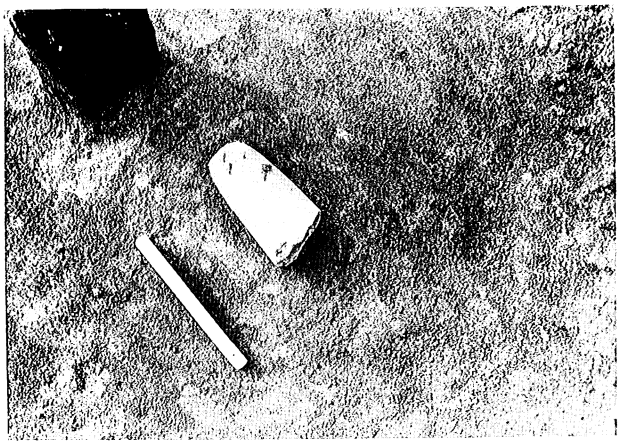
4．20号住居遺物出土状況



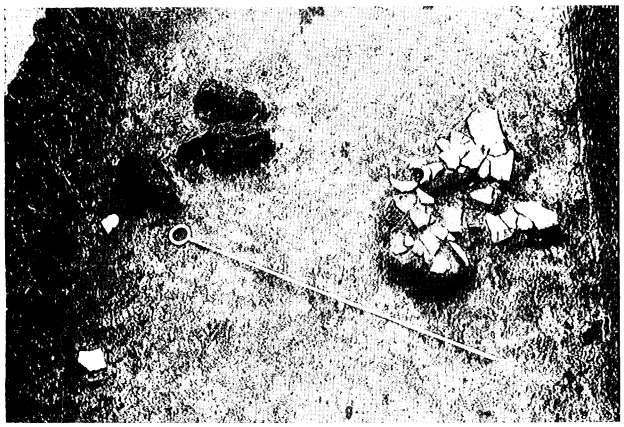
5．20号住居土層堆積状況



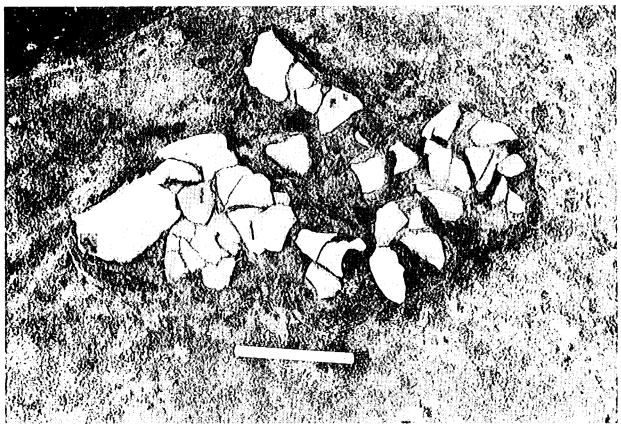
1．20号住居磨製石斧出土状況



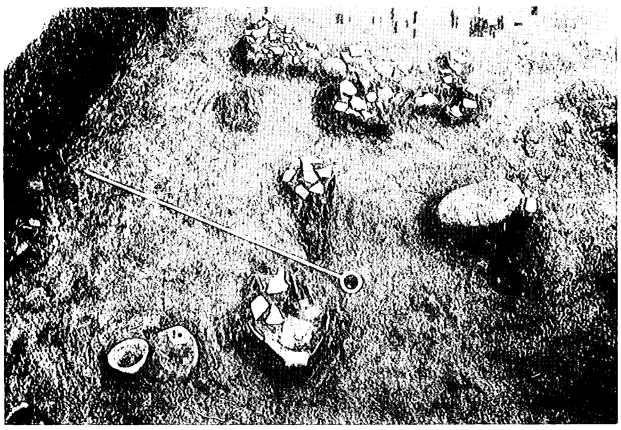
2．20号住居磨製石斧出土状況



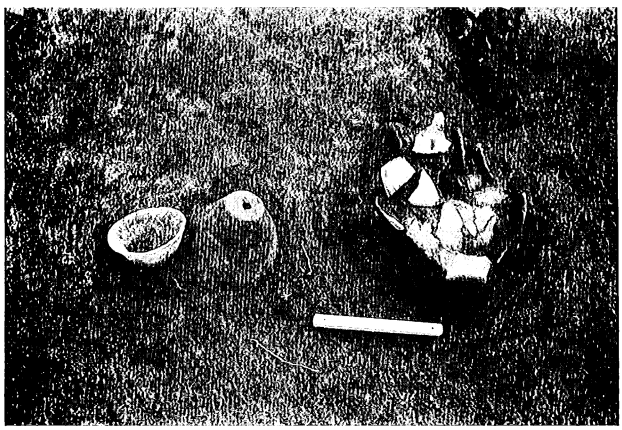
3．20号住居遺物（154･183）出土状況



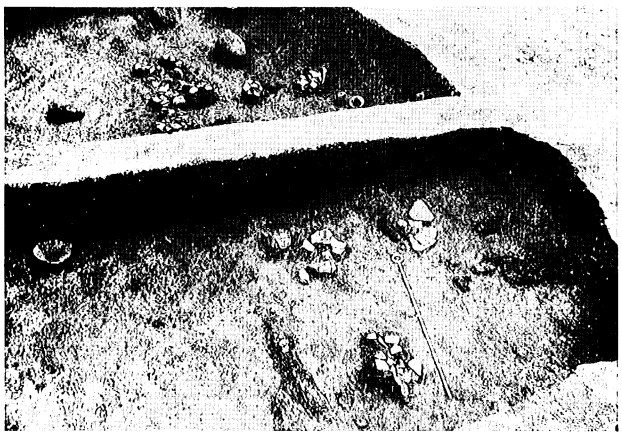
4．20号住居遺物（154･183）出土状況



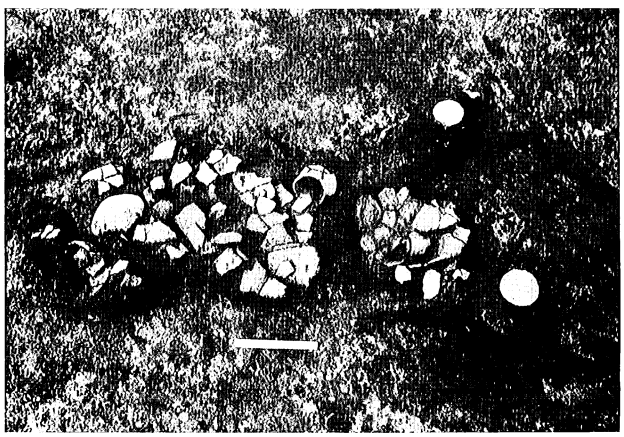
5．20号住居遺物（326･343）出土状況



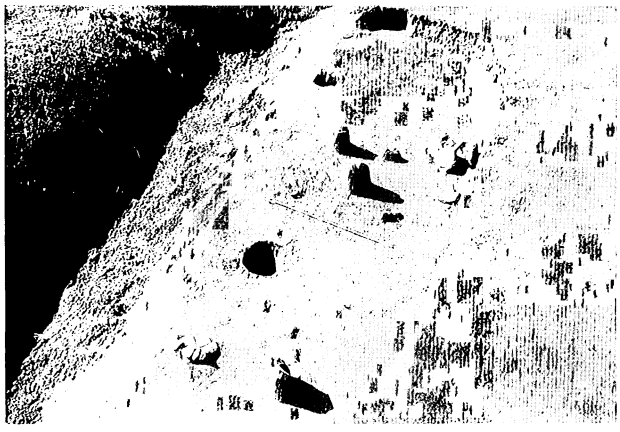
6．20号住居遺物（326･348）出土状況



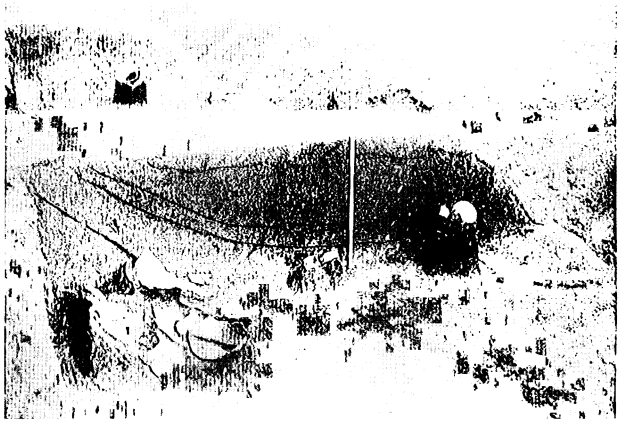
7．20号住居遺物出土状況



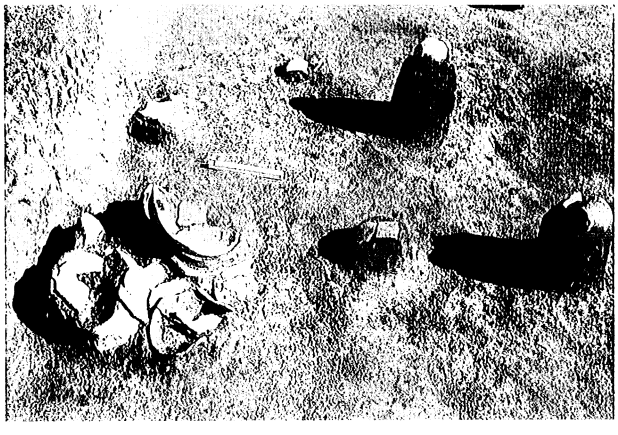
8．20号住居遺物（13･29）出土状況



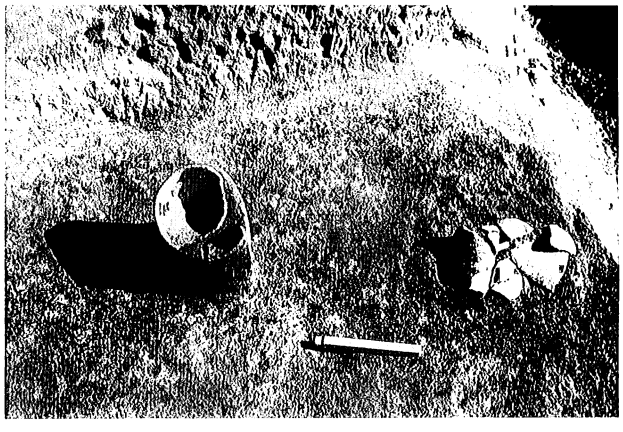
1．22号住居遺物出土状況



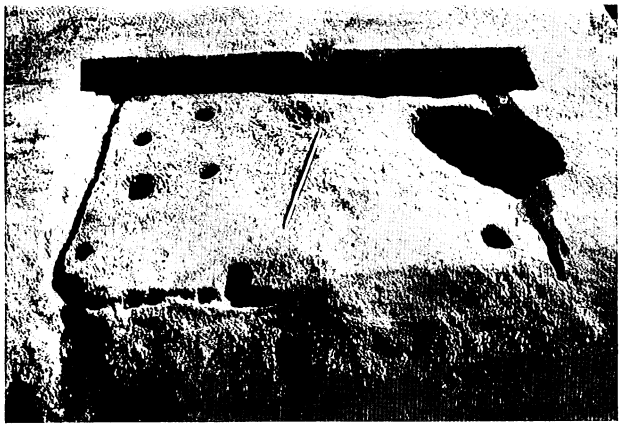
2．22号住居土層堆積状況



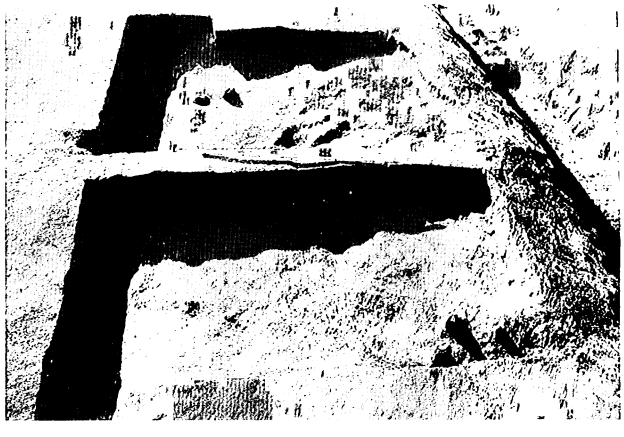
3．22号住居遺物（27）出土状況



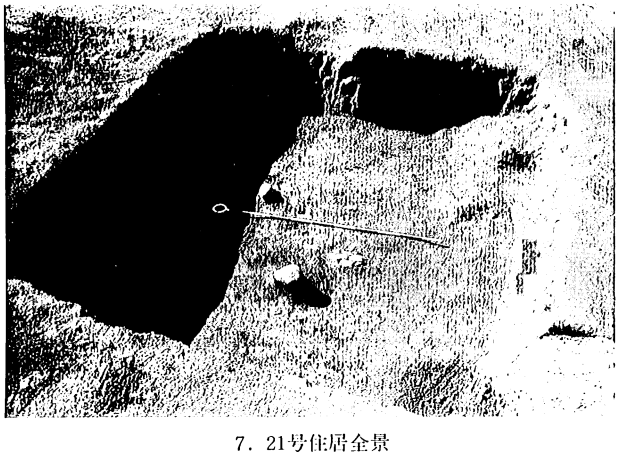
4．22号住居遺物（２）出土状況



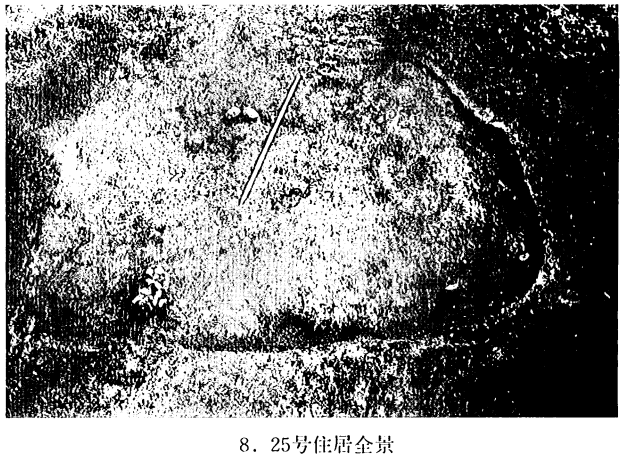
5．23号住居全景



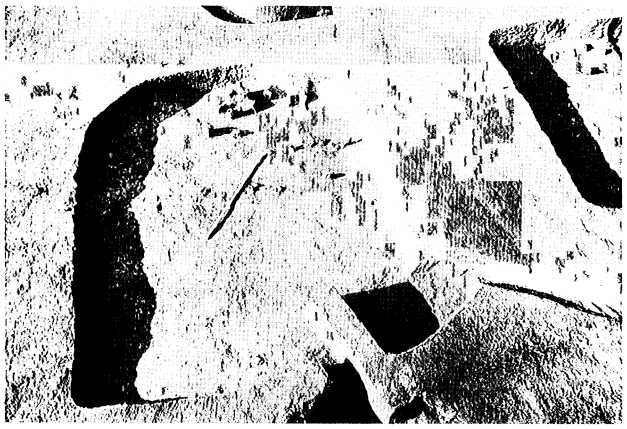
6．23号住居遺物出土状況



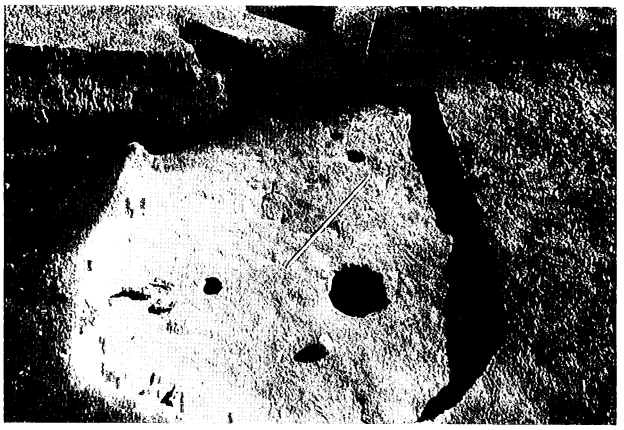
7．21号住居全景



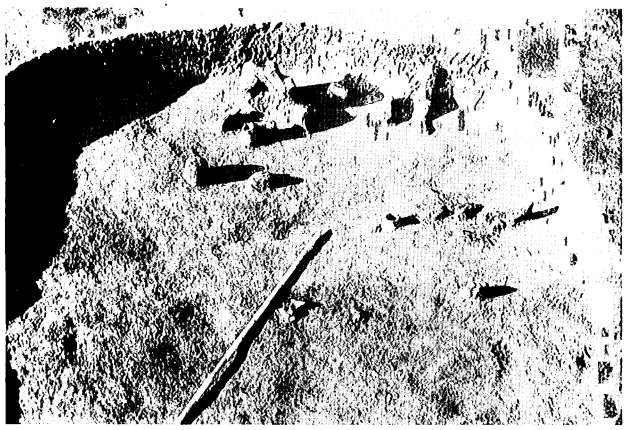
8．25号住居全景



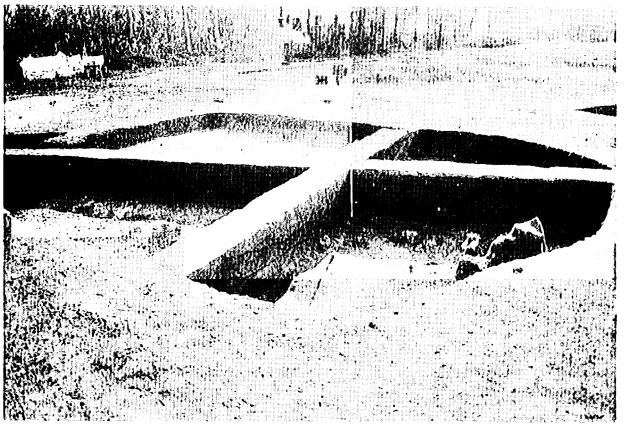
1．29号住居遺物出土状況



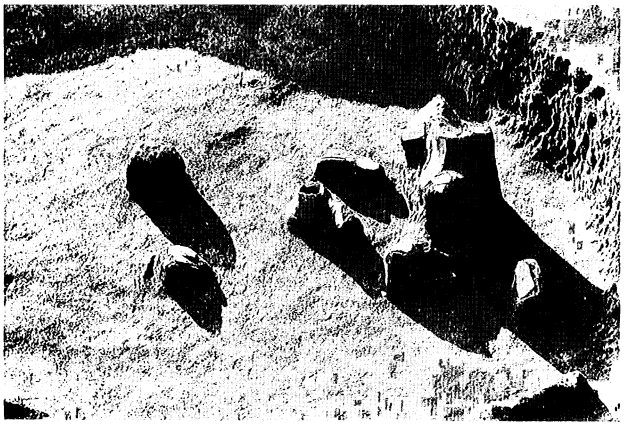
2．29号住居全景



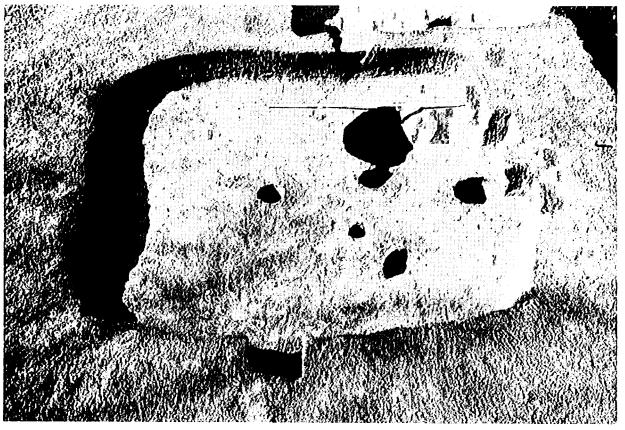
3．29号住居遺物出土状況



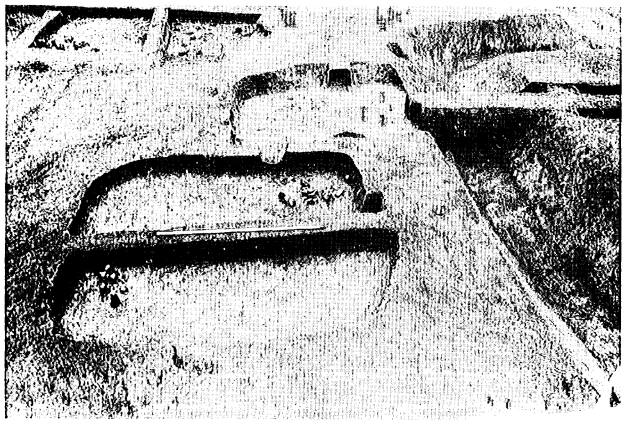
4．29号住居土層堆積状況



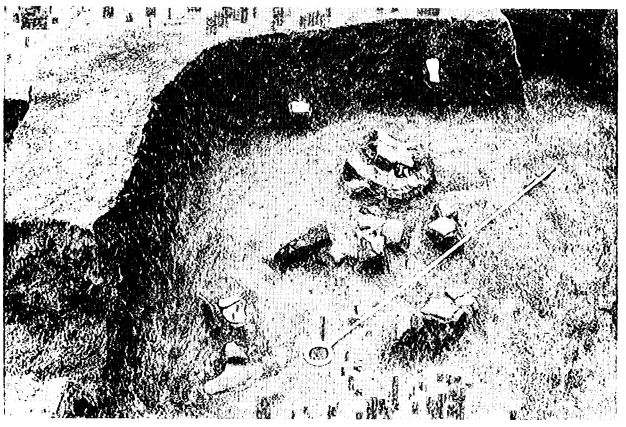
5．29号住居遺物（12･13）出土状況



6．27号住居全景

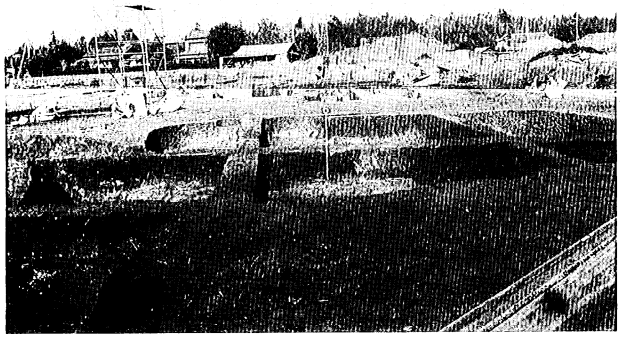


7．27号住居遺物出土状況



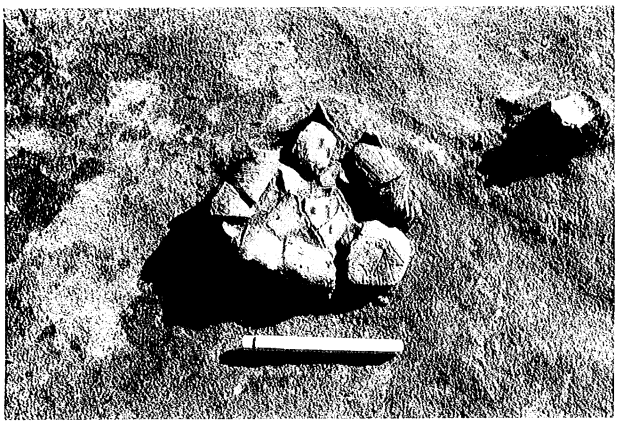
8．27号住居遺物出土状況

1．30·31号住居全景

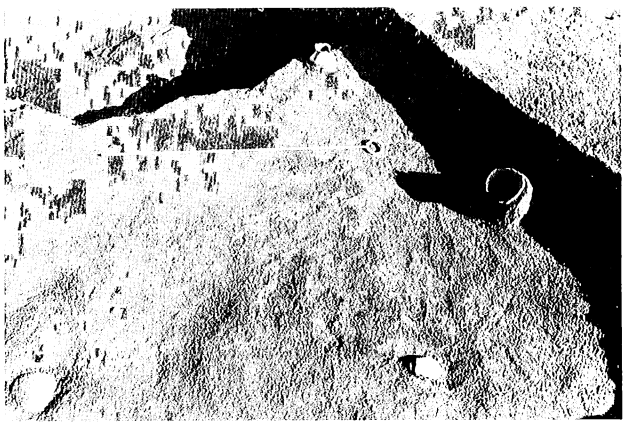


2．30号住居土層堆積状況

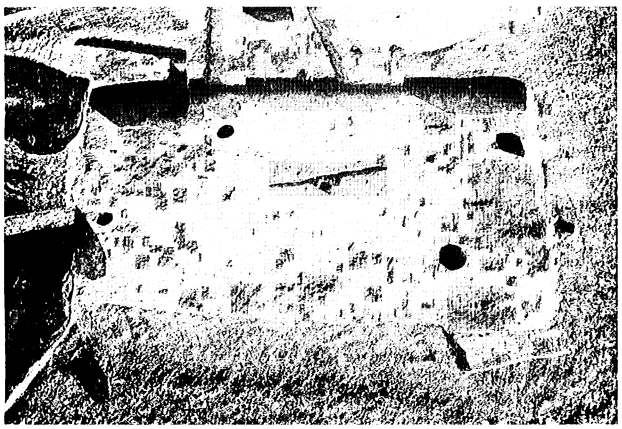
3．30号住居遺物（4）出土状況



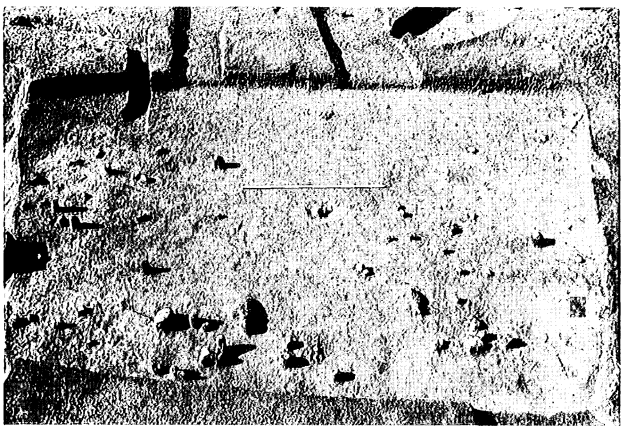
4．30号住居遺物（88）出土状況



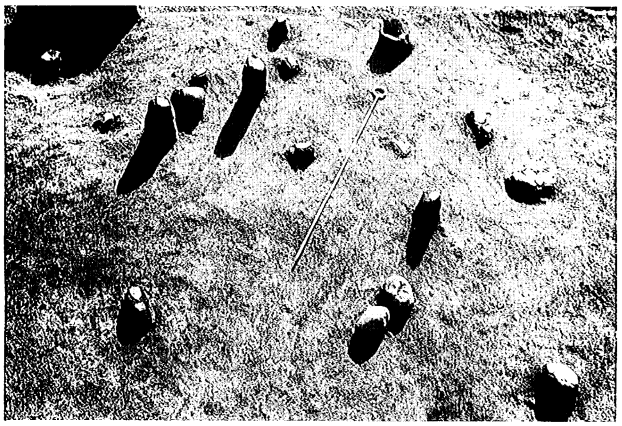
5．30号住居遺物出土状況



1．32号住居全景

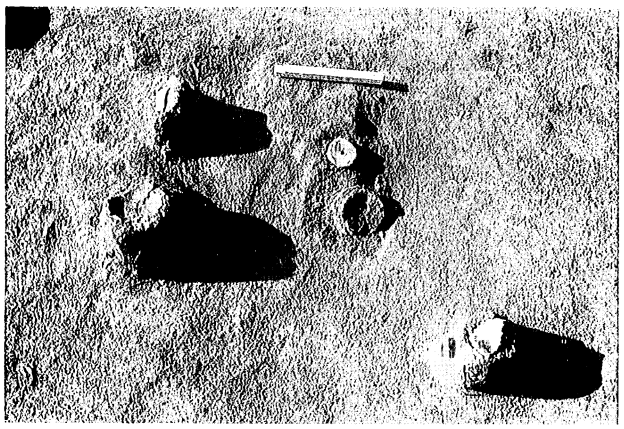


2．32号住居遺物出土状況

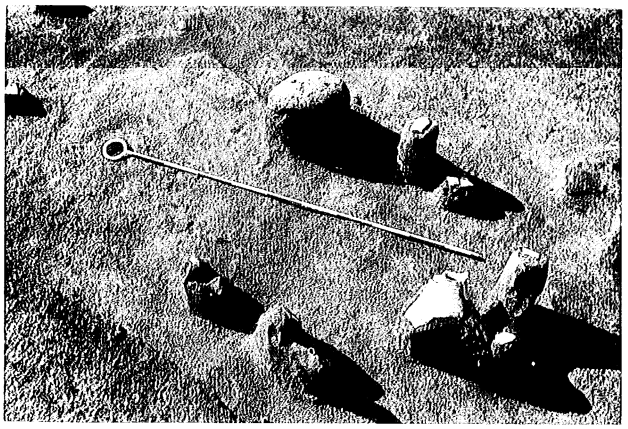


3．32号住居遺物出土状況

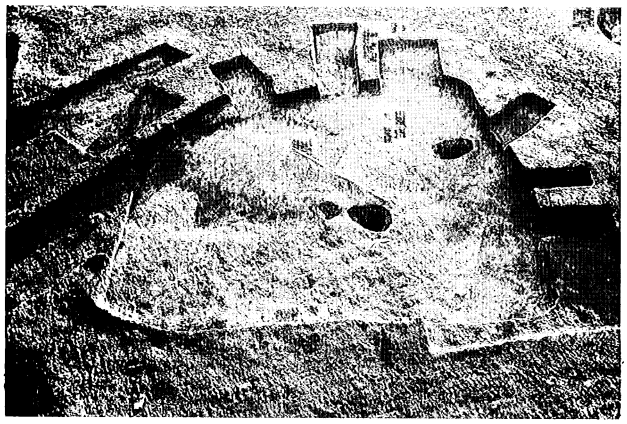
4．32号住居遺物出土状況



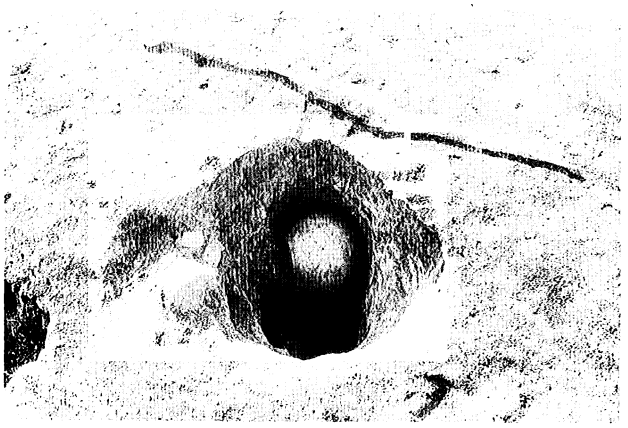
5．32号住居遺物（37）出土状況



6．32号住居遺物出土状況



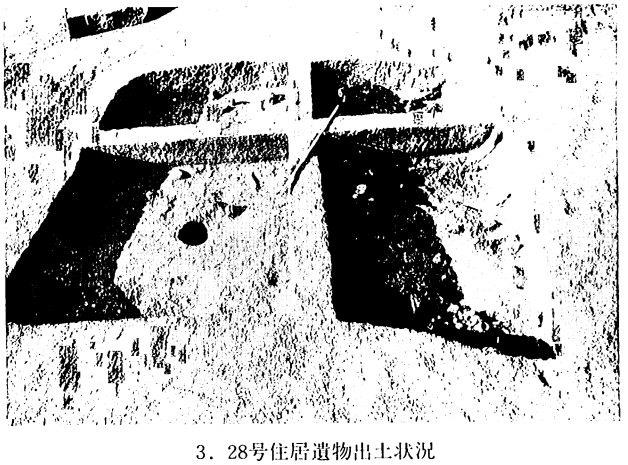
7．33号住居全景



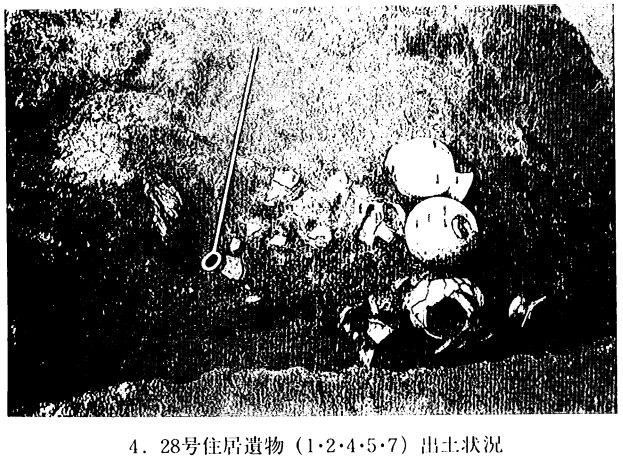
8．33号住居P_2内遺物（88）出土状況

1．方形周溝墓群全景（北より）

2．28号住居全景

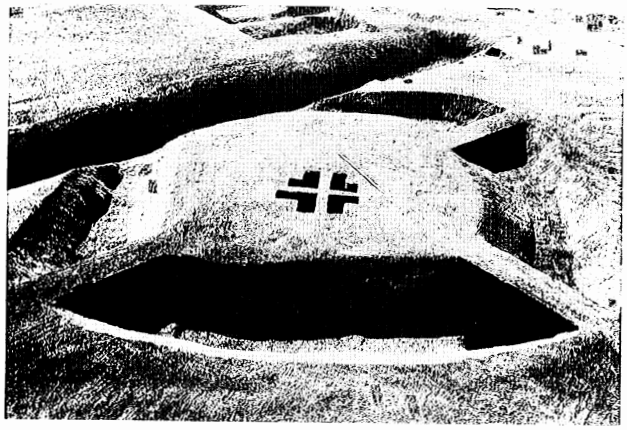


3．28号住居遺物出土状況

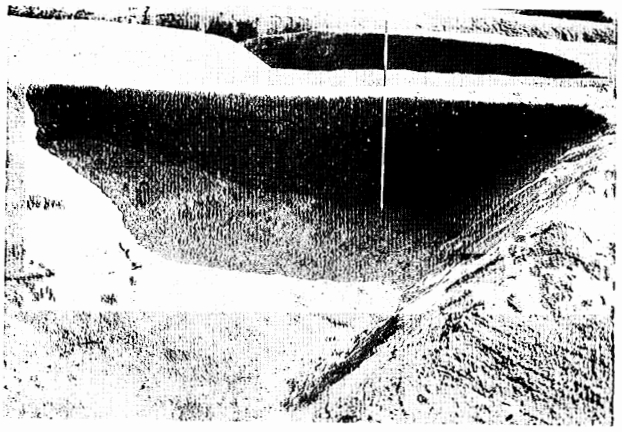


4．28号住居遺物（1･2･4･5･7）出土状況

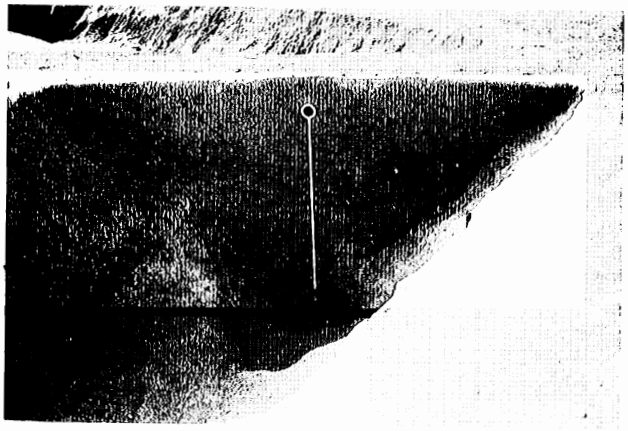
5．28号住居遺物出土状況



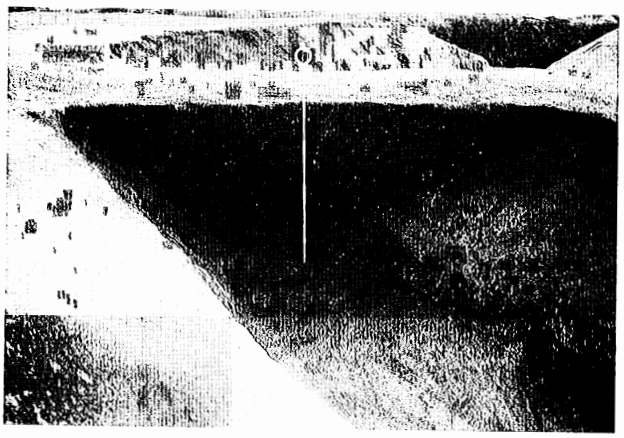
1．1号方形周溝墓全景



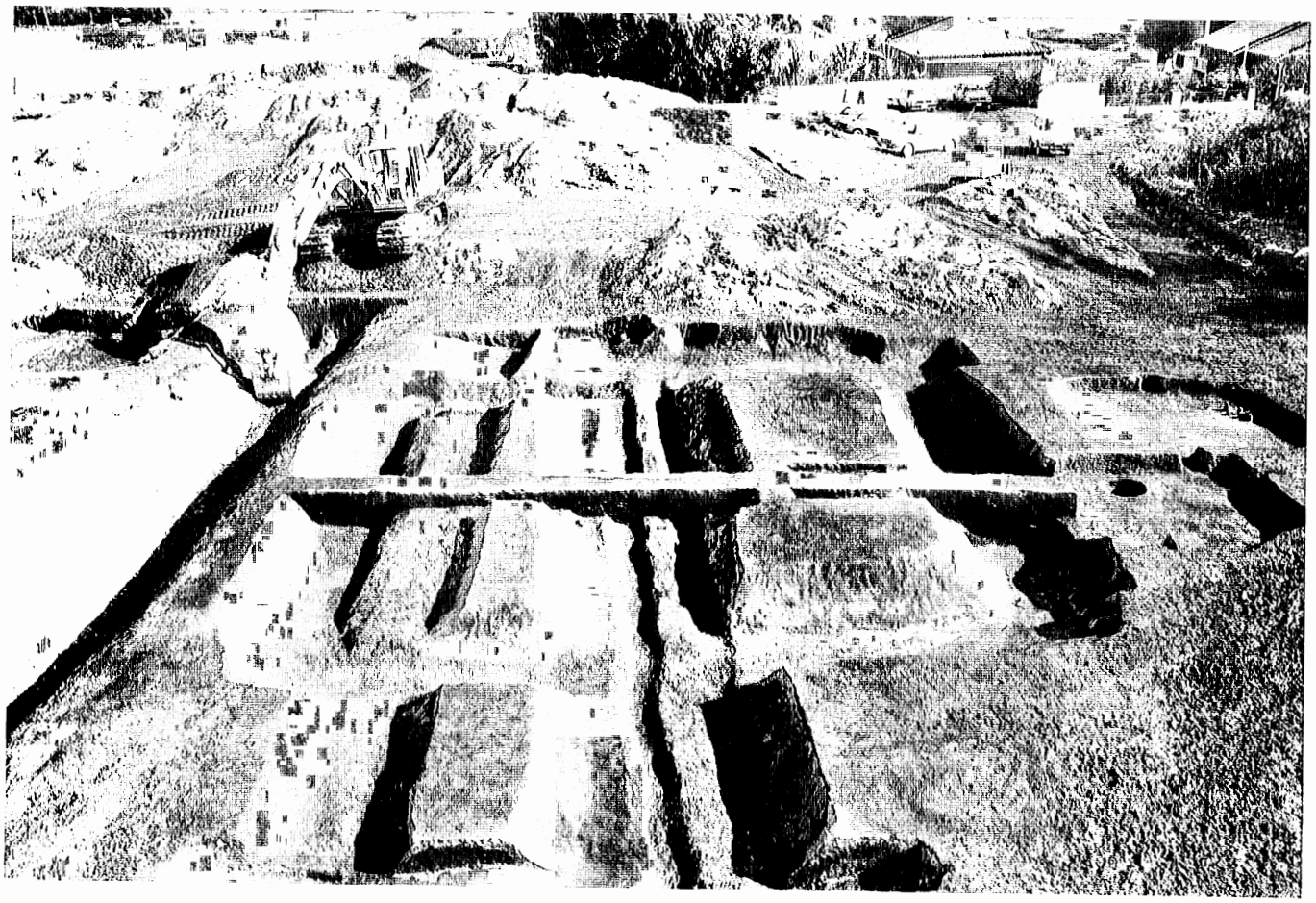
2．1号方形周溝墓土層堆積状況



3．1号方形周溝墓土層堆積状況

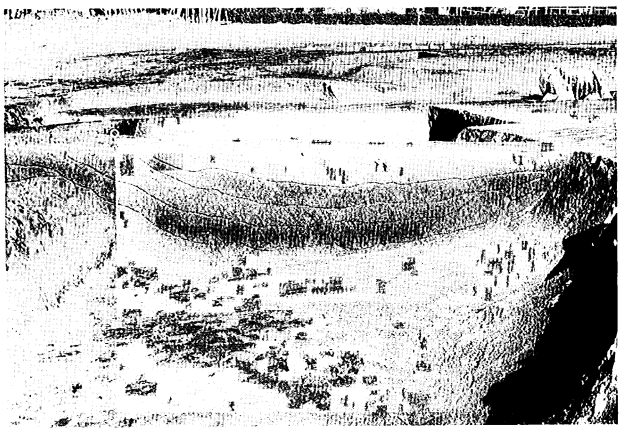


4．1号方形周溝墓土層堆積状況

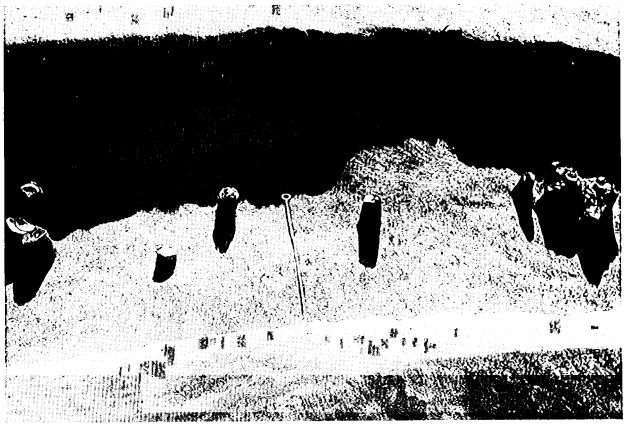


5．3号方形周溝墓全景

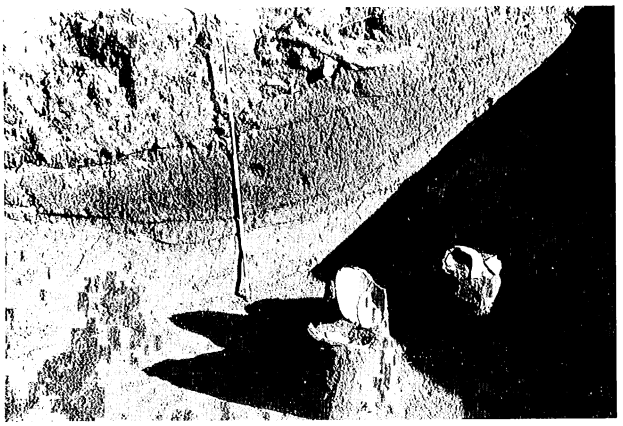
1．2号方形周溝墓全景



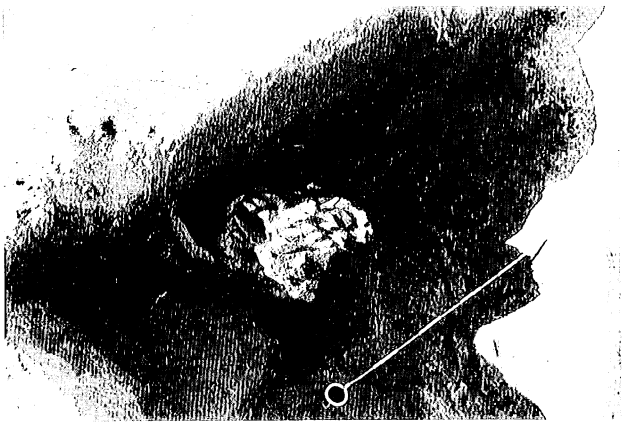
2．2号方形周溝墓土層堆積状況



3．2号方形周溝墓遺物出土状況

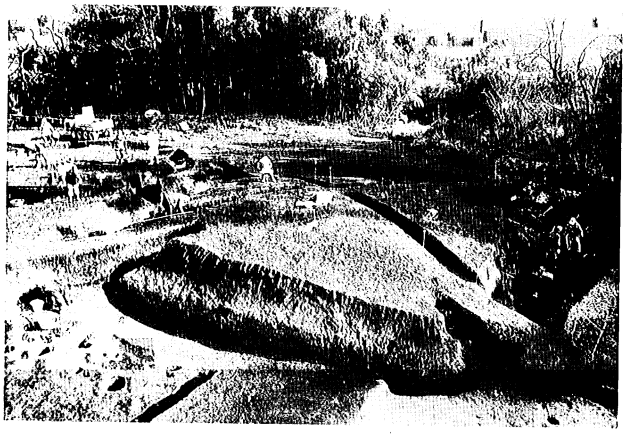


4．2号方形周溝墓遺物（36）出土状況

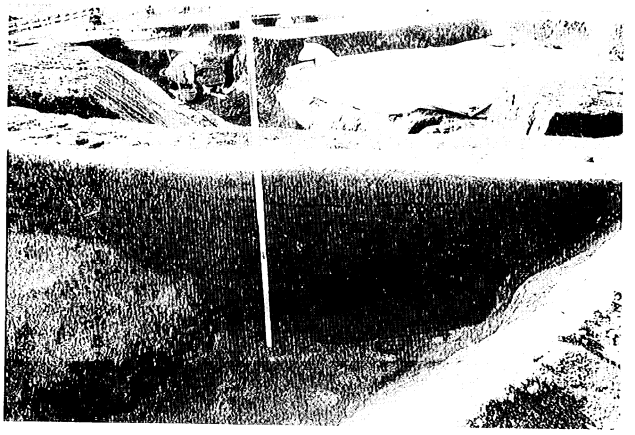


5．2号方形周溝墓遺物（48）出土状況

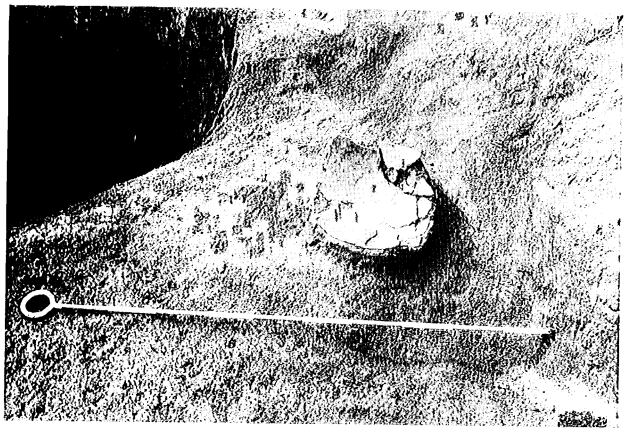
1．4号方形周溝墓全景



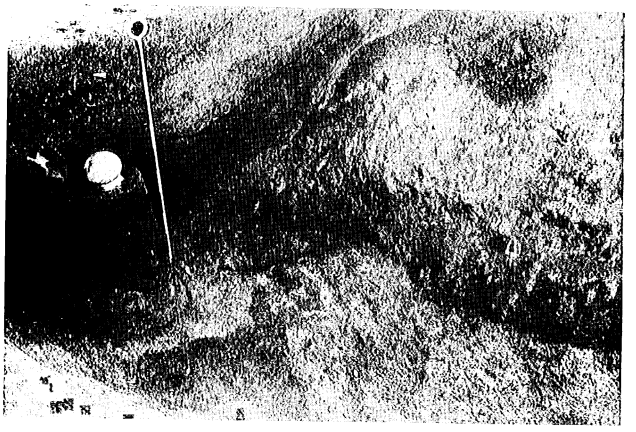
2．4号方形周溝墓調査状況



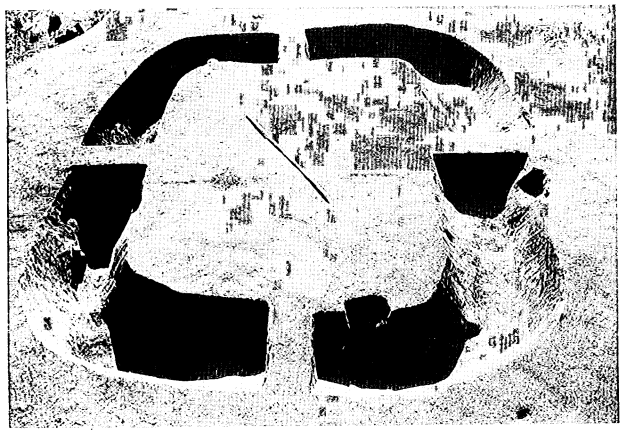
3．4号方形周溝墓土層堆積状況



4．4号方形周溝墓遺物（4）出土状況

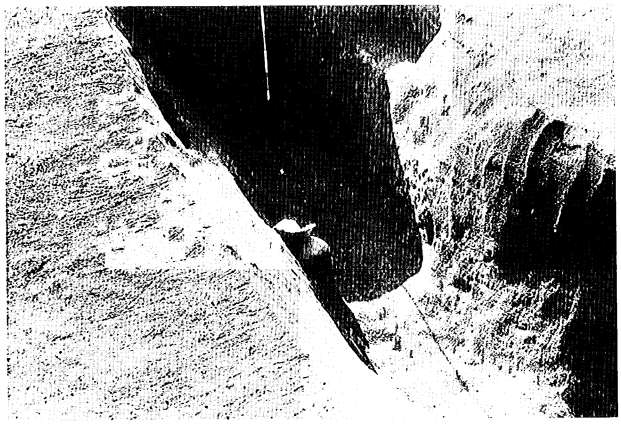


5．4号方形周溝墓遺物（1）出土状況

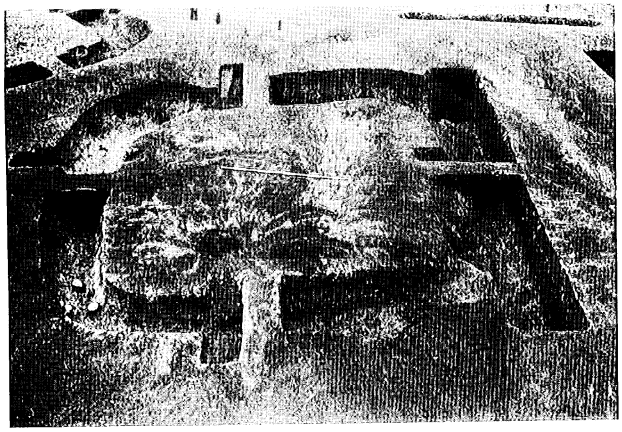


1．5号方形周溝墓全景

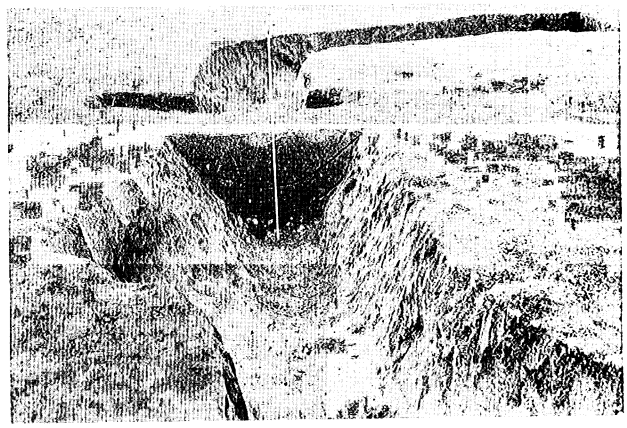
2．5号方形周溝墓遺物（1）出土状況



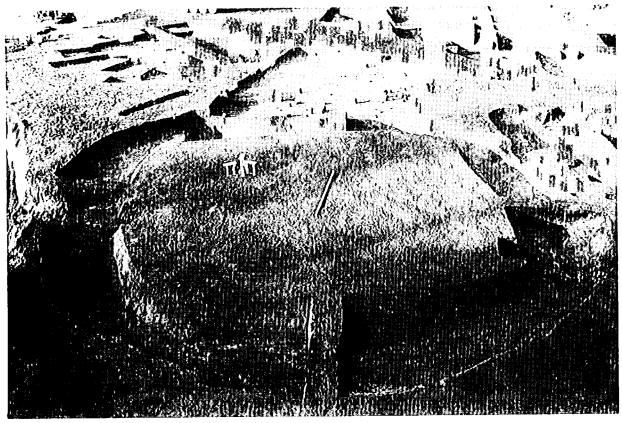
3．5号方形周溝墓遺物（2）出土状況



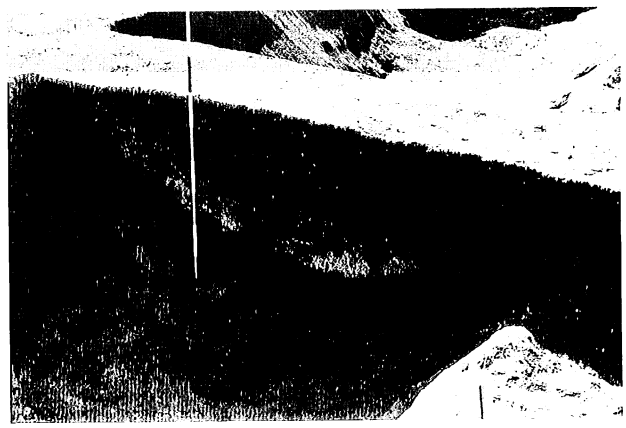
4．6号方形周溝墓全景



5．6号方形周溝墓土層堆積状況

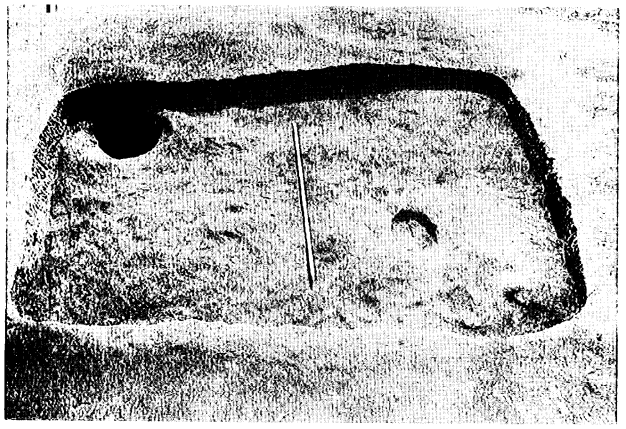


6．7号方形周溝墓全景

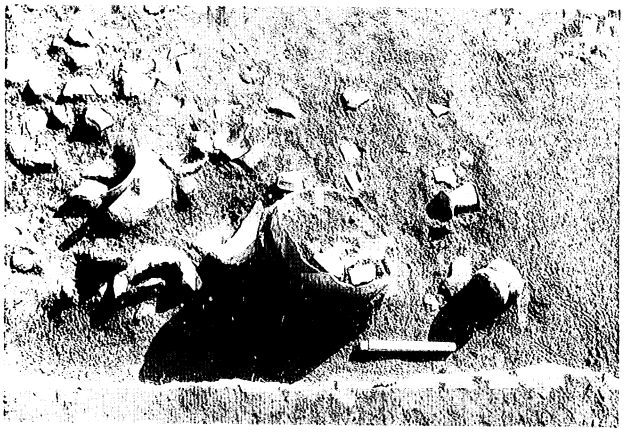


7．7号方形周溝墓土層堆積状況（浅間C軽石）

1．5号住居遺物出土状況

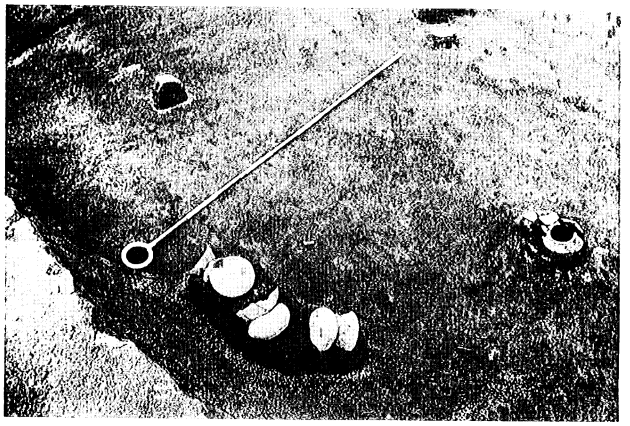


2．5号住居全景

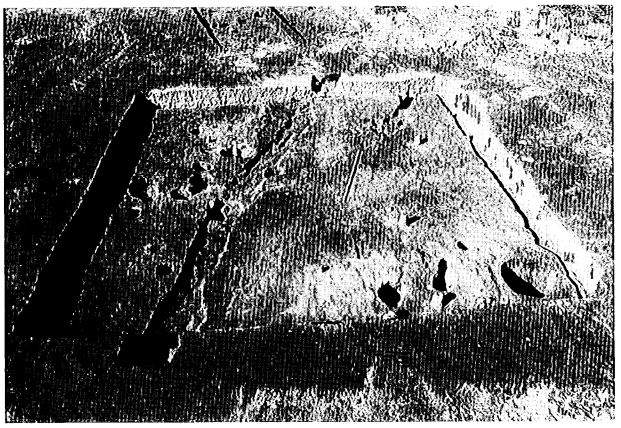


3．5号住居遺物（132・170・172）出土状況

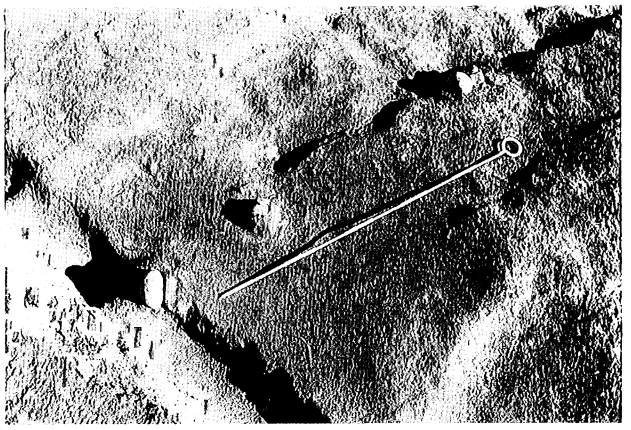
4．5号住居遺物（2・3・4・5）出土状況



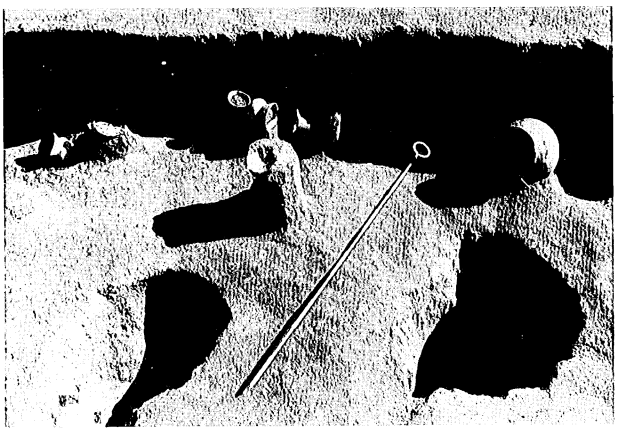
5．5号住居遺物（8・9・10）出土状況



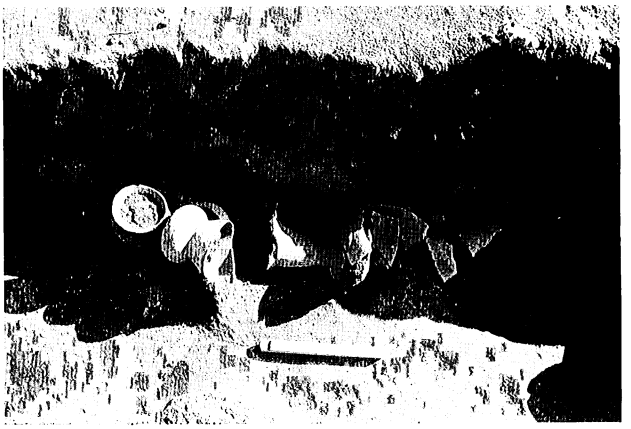
1．8号住居全景



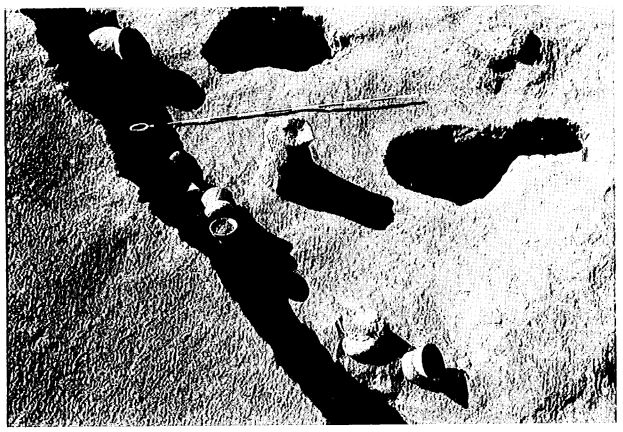
2．8号住居遺物（11）出土状況



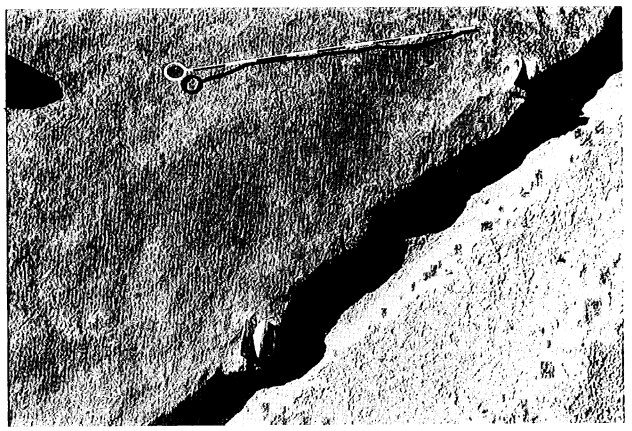
3．8号住居遺物（1·2·3·4·5）出土状況



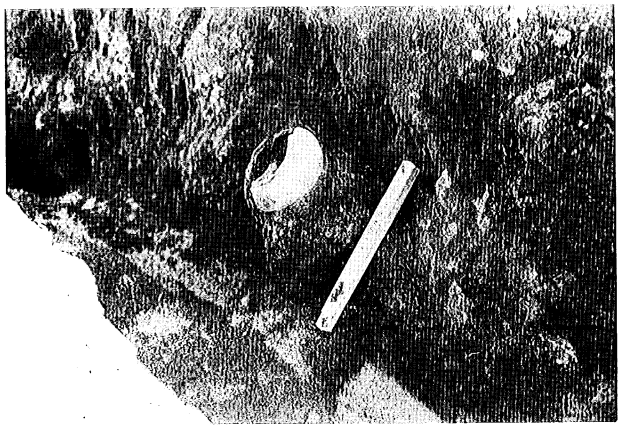
4．8号住居遺物（2·3·4·5）出土状況



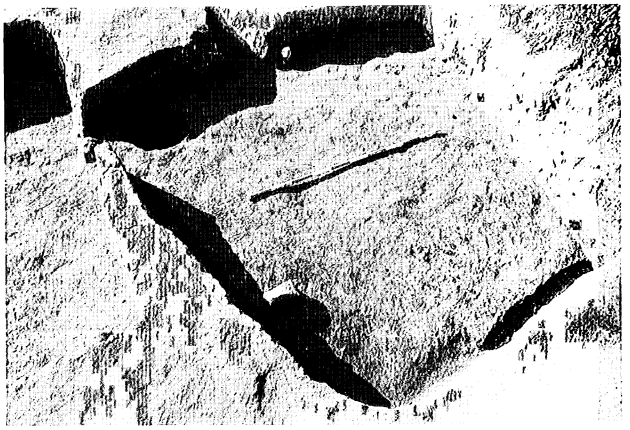
5．8号住居遺物（1·2·3·4·5）出土状況



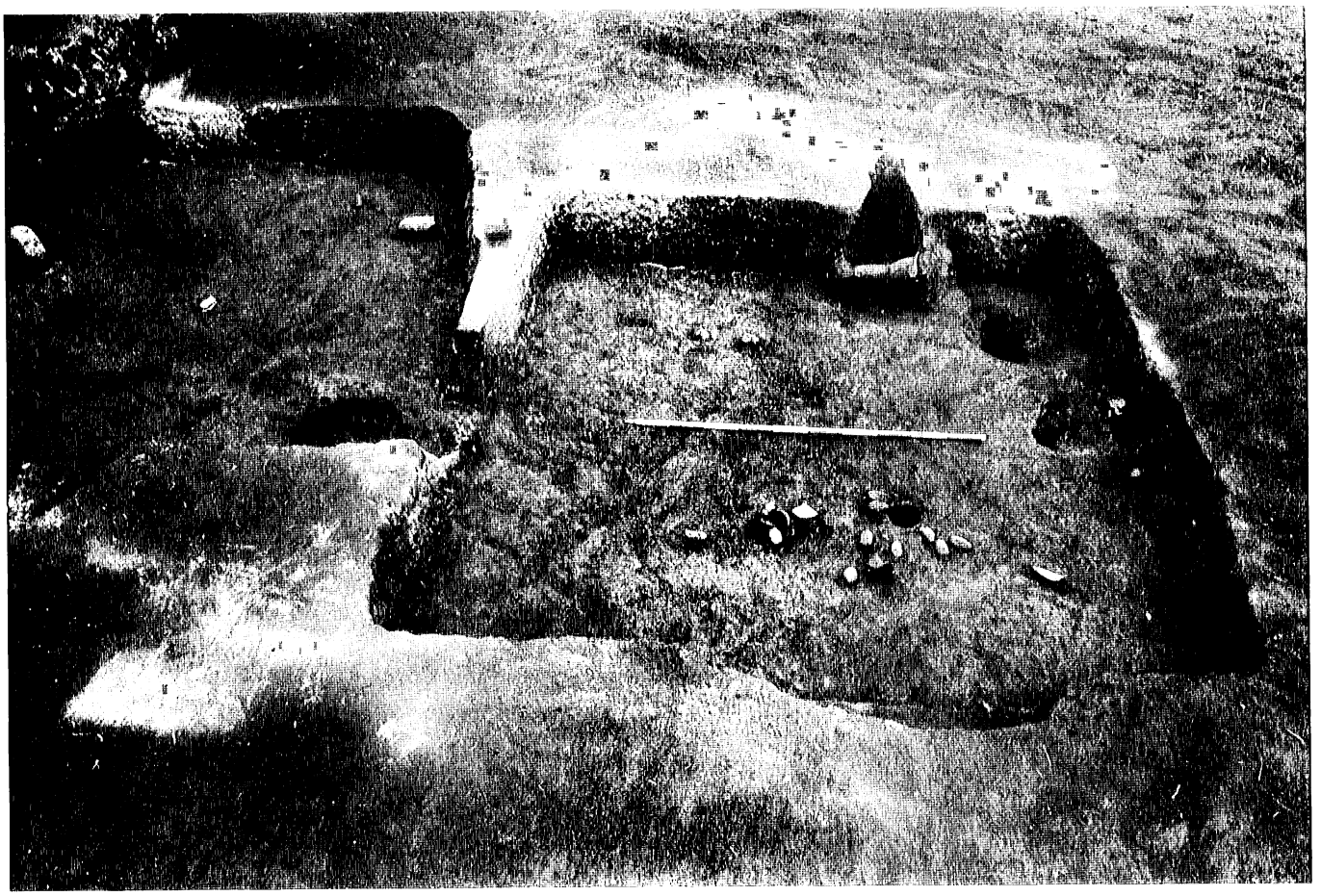
6．8号住居遺物（11·12）出土状況



7．8号住居遺物（6）出土状況

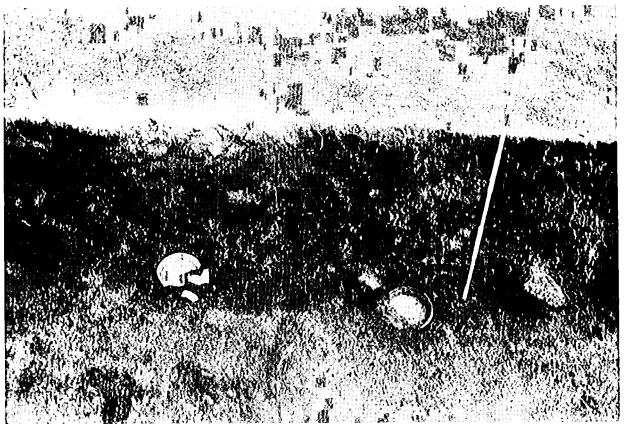


8．1号住居全景

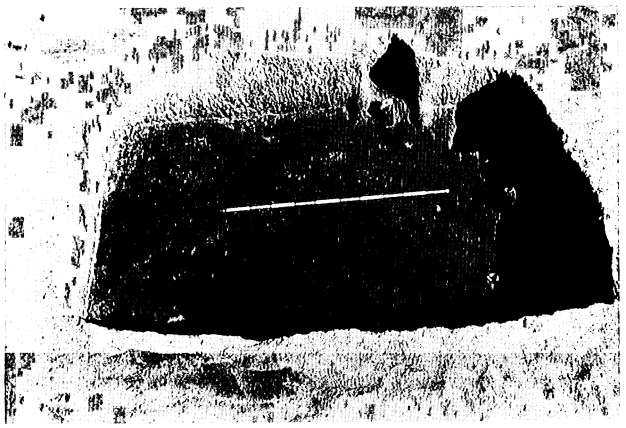


1．2号住居全景

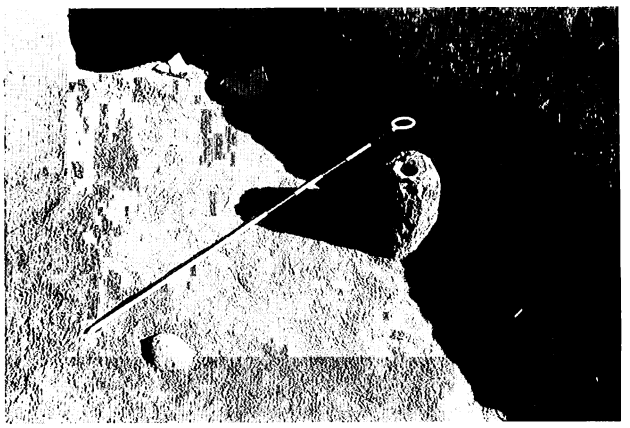
2．2号住居竈部



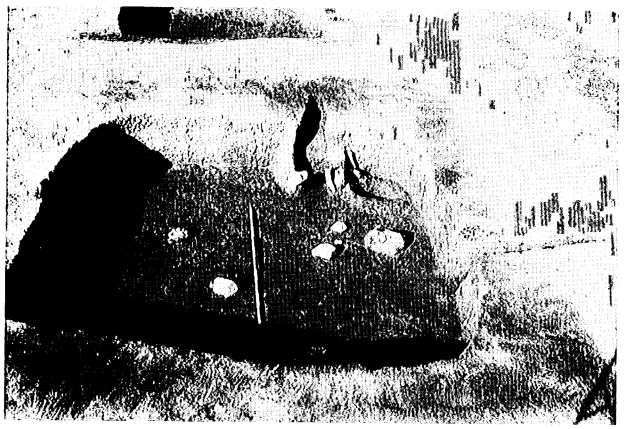
3．2号住居遺物（1·3）出土状況



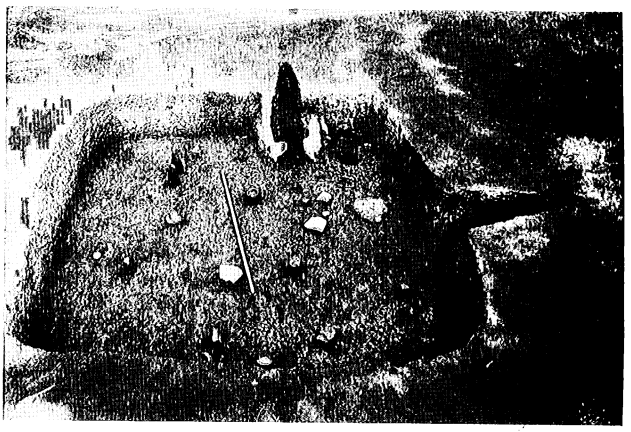
4．3号住居全景



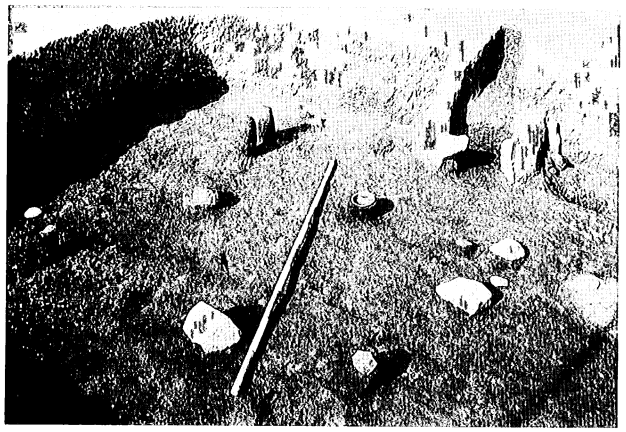
5．3号住居遺物出土状況



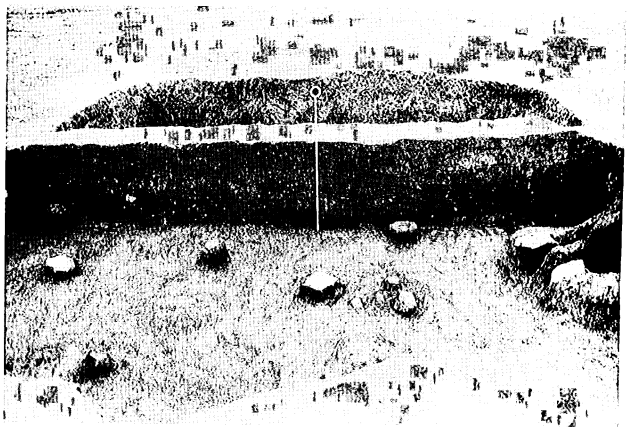
1．4号住居全景



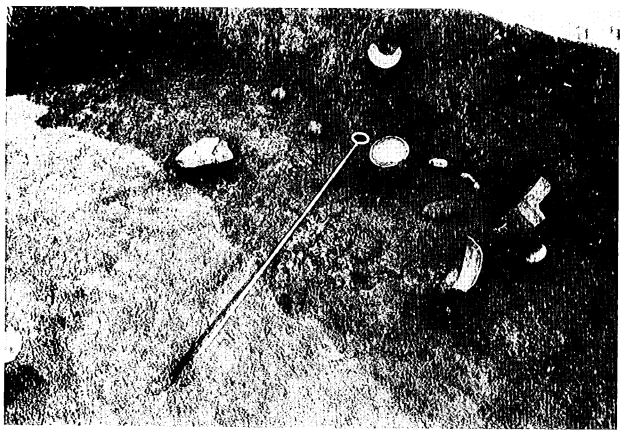
2．4号住居遺物出土状況



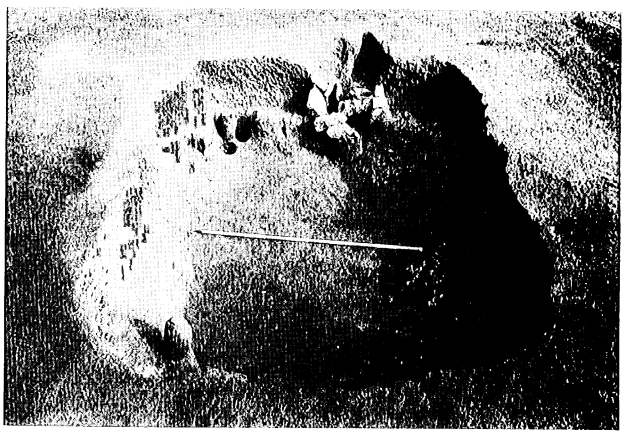
3．4号住居竈部周辺遺物出土状況



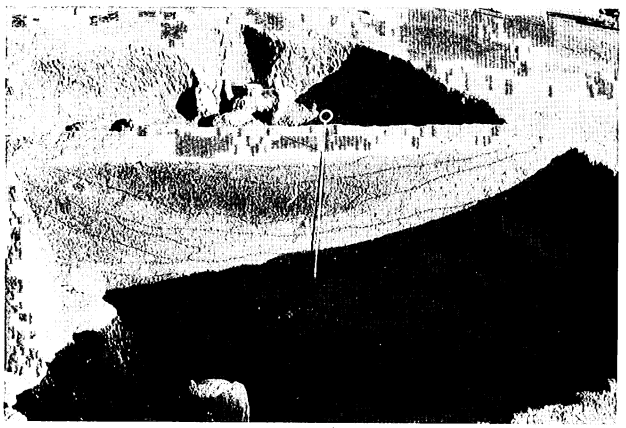
4．4号住居土層堆積状況



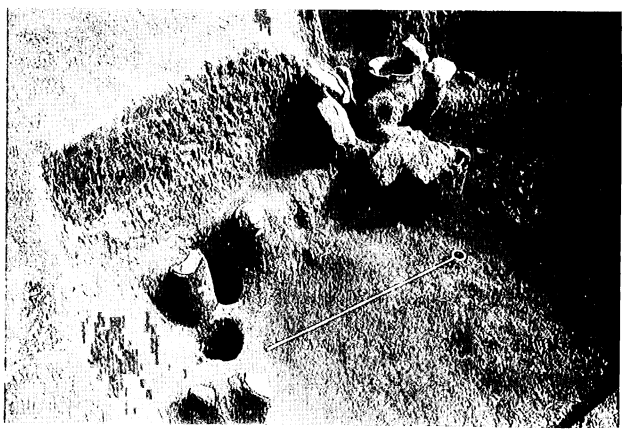
5．4号住居遺物（4·3）出土状況



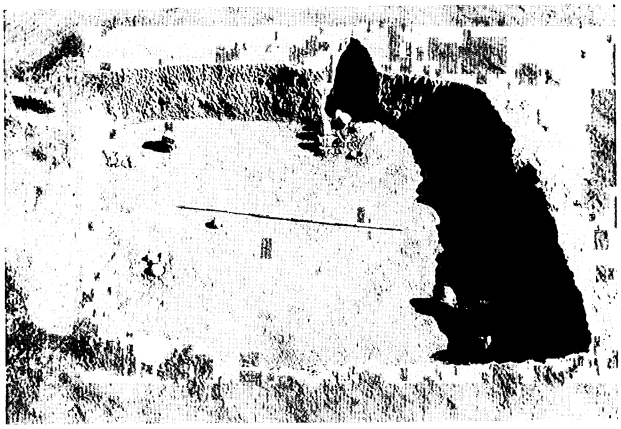
6．18号住居全景



7．18号住居土層堆積状況

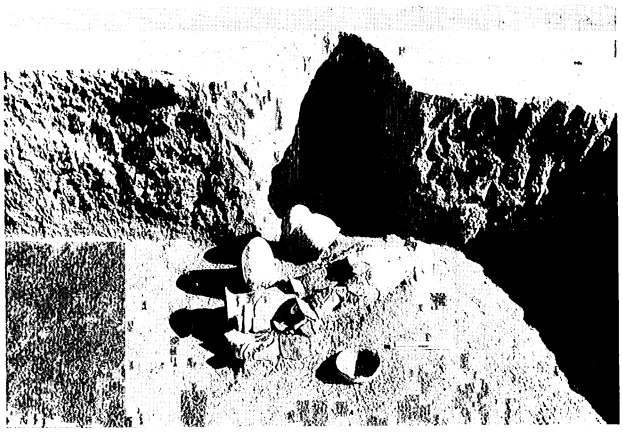


8．18号住居竈部周辺遺物出土状況



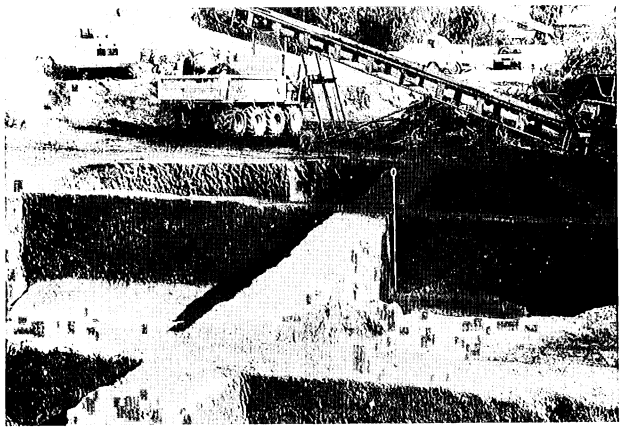
1．16号住居全景

2．16号住居土層堆積状況



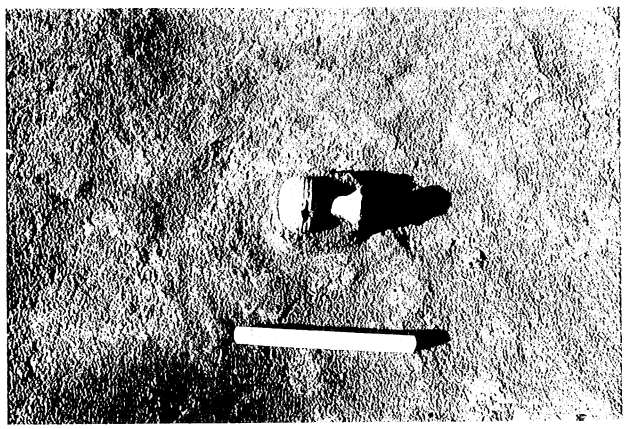
3．16号住居竈部遺物出土状況

4．16号住居遺物（4）出土状況

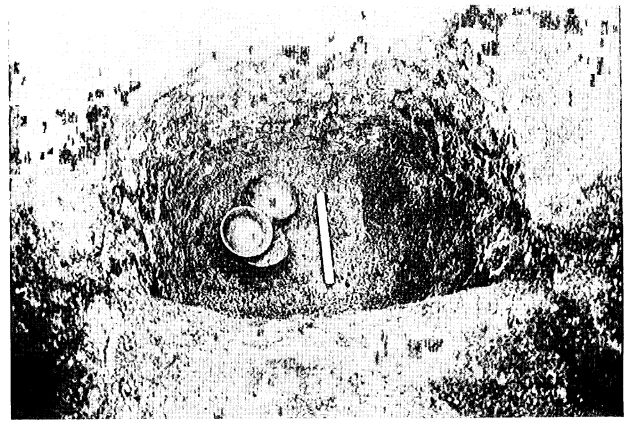


5．31号住居土層堆積状況

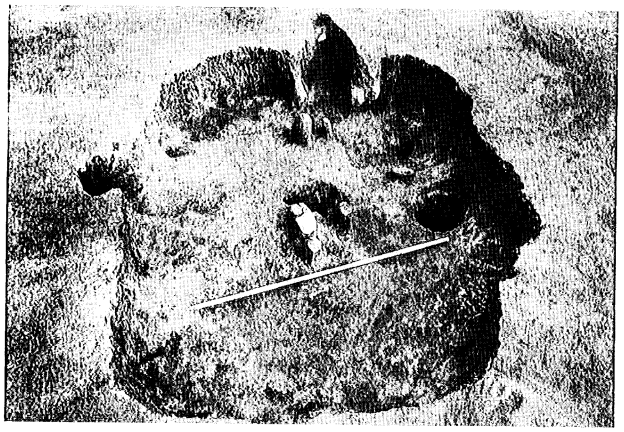
6．31号住居竈部遺物出土状況



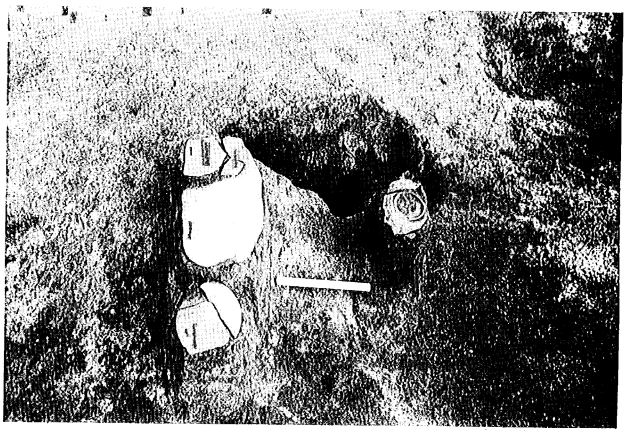
7．31号住居遺物（18）出土状況



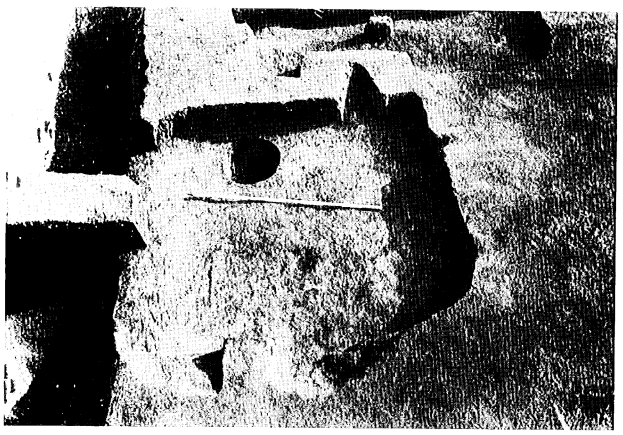
8．31号住居貯蔵穴内遺物出土状況



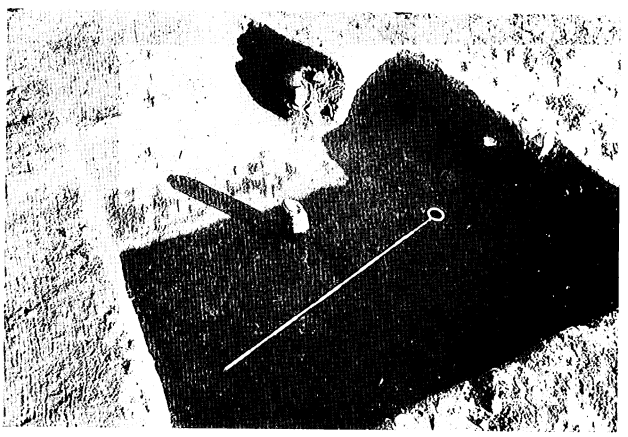
1．19号住居全景



2．19号住居遺物出土状況

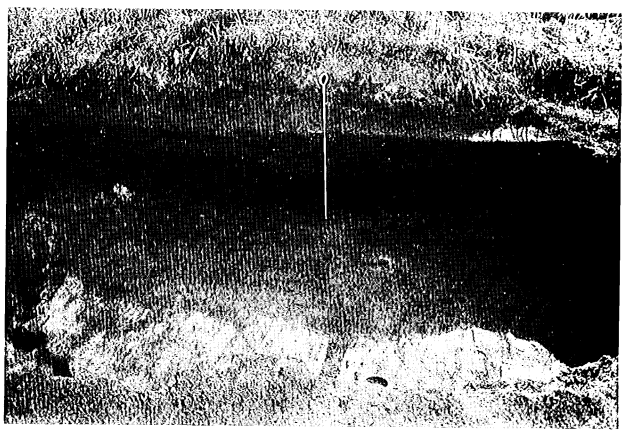


3．26号住居全景

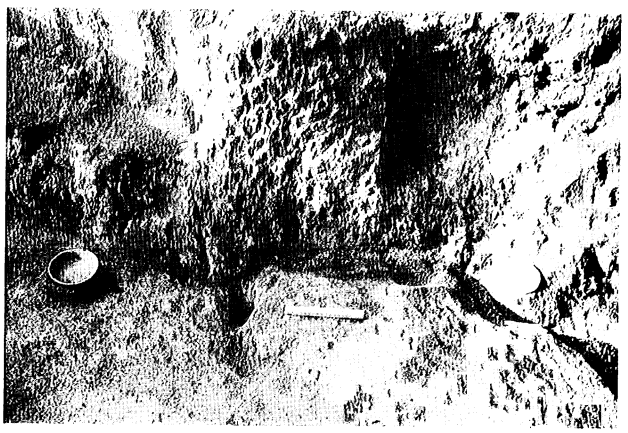


4．26号住居遺物出土状況

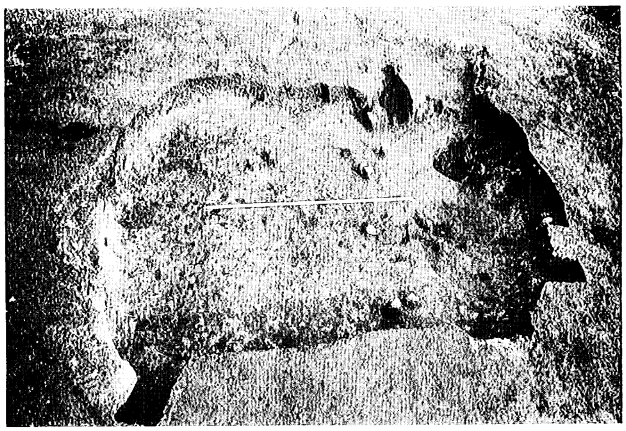
5．24号住居遺物出土状況



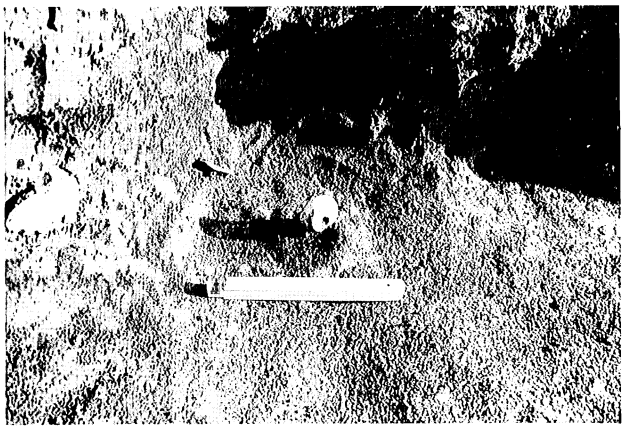
6．24号住居土層堆積状況



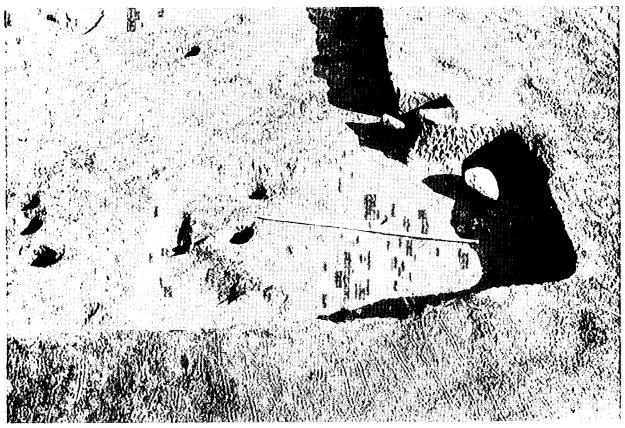
7．24号住居遺物出土状況



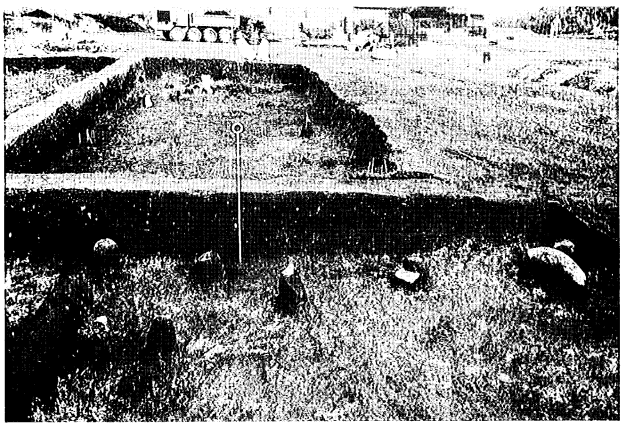
1．12号住居全景



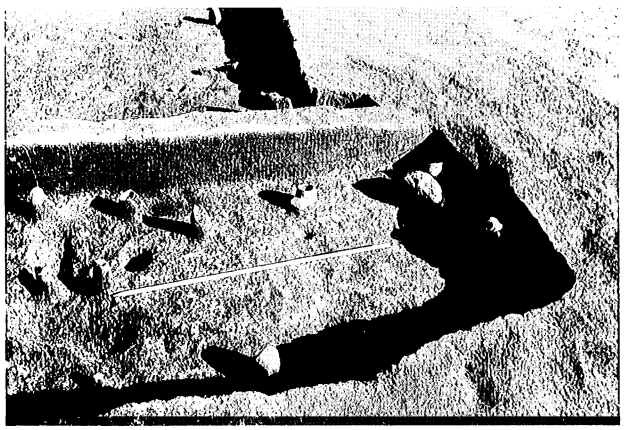
2．12号住居遺物（石製紡錘車）出土状況



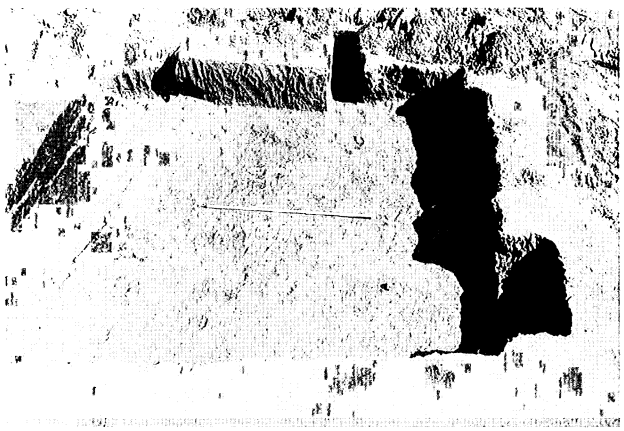
3．14号住居全景



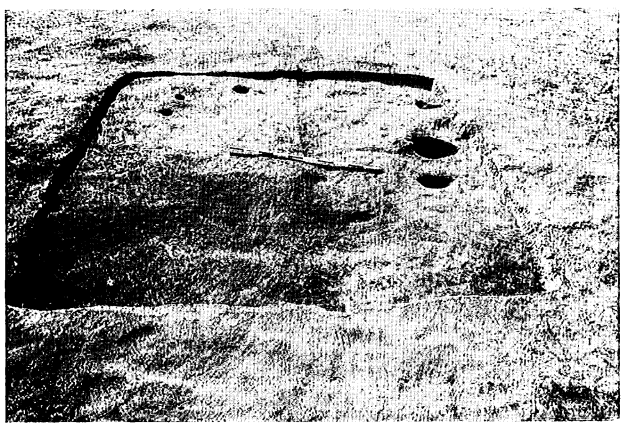
4．14号住居土層堆積状況



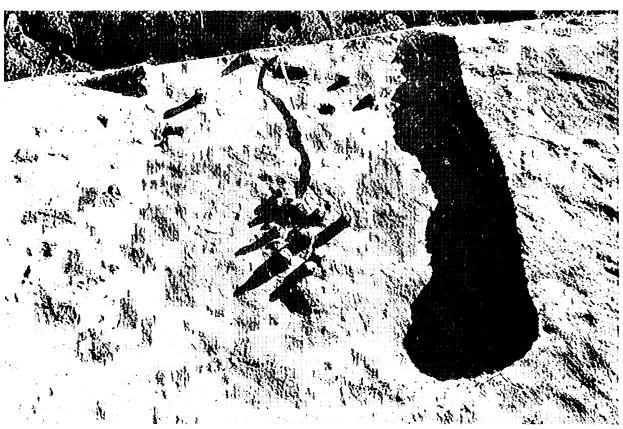
5．14号住居遺物出土状況



6．17号住居全景

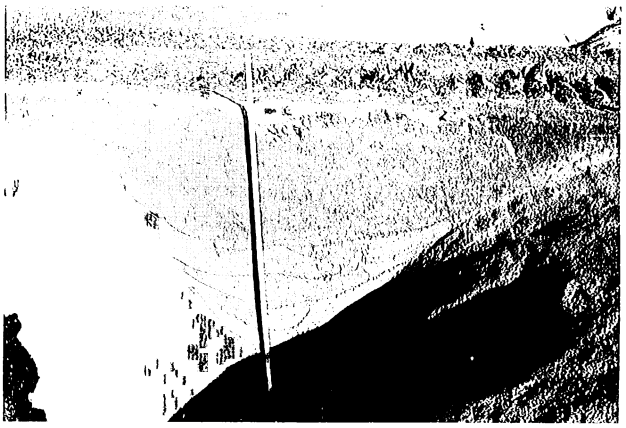


7．6号住居全景



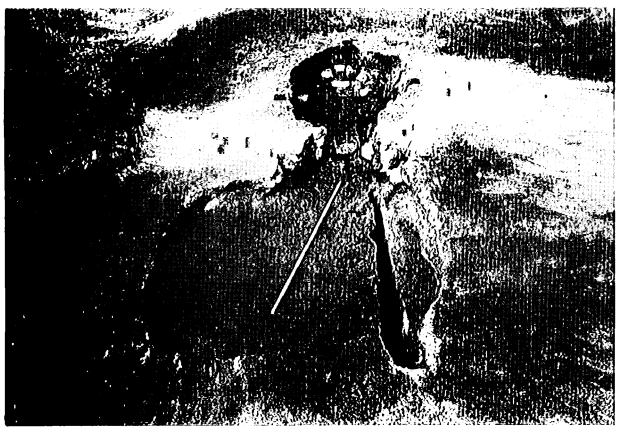
8．15号住居全景

1．中央大溝全景（東より）

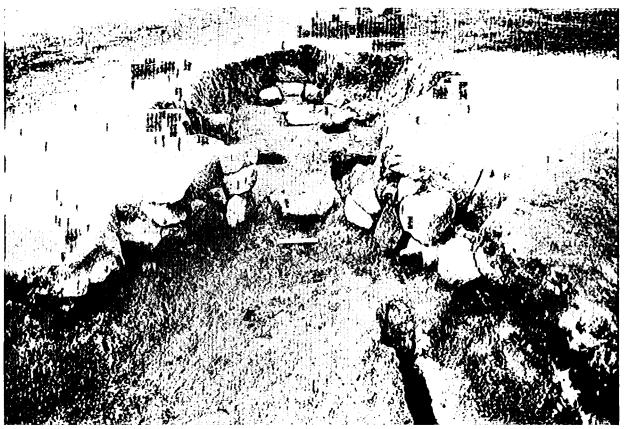


2．中央大溝土層堆積状況

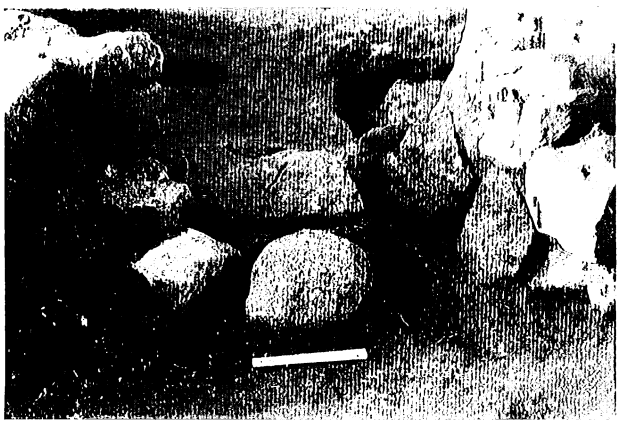
3．中央大溝西コーナー部



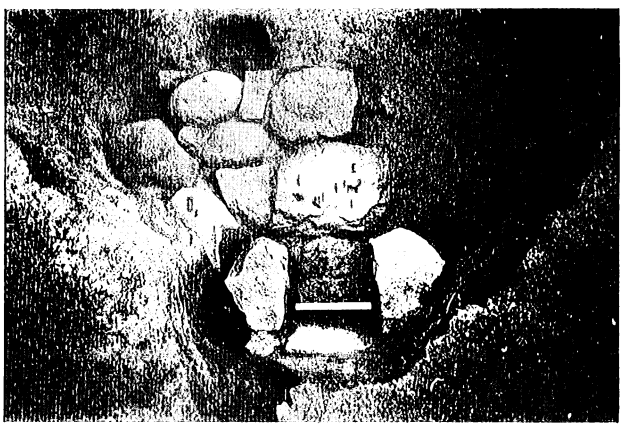
4．近世炭窯全景



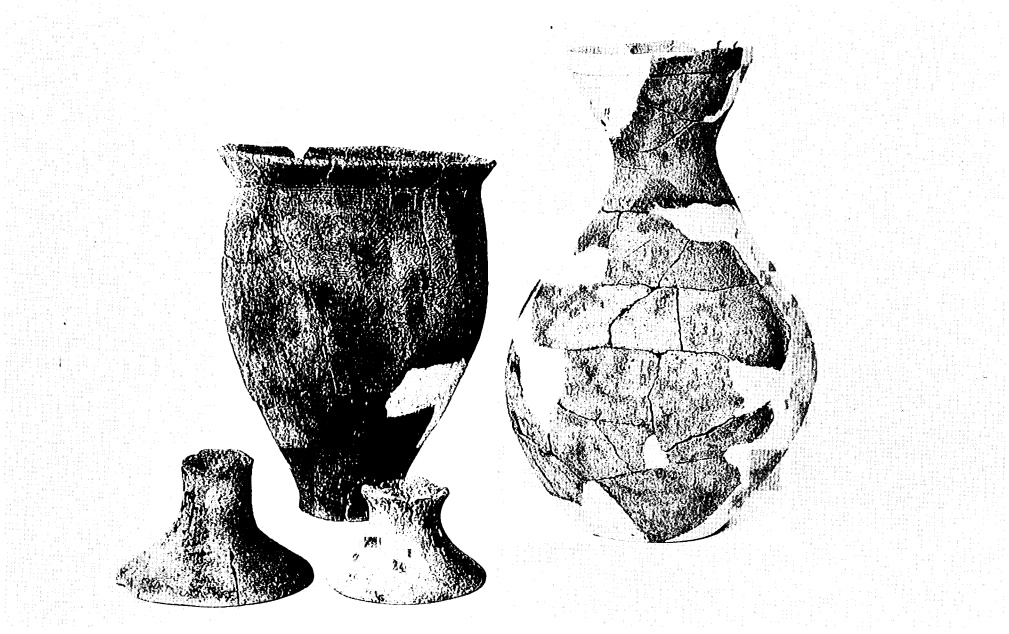
5．炭窯炊口部



6．炭窯炊口部近景

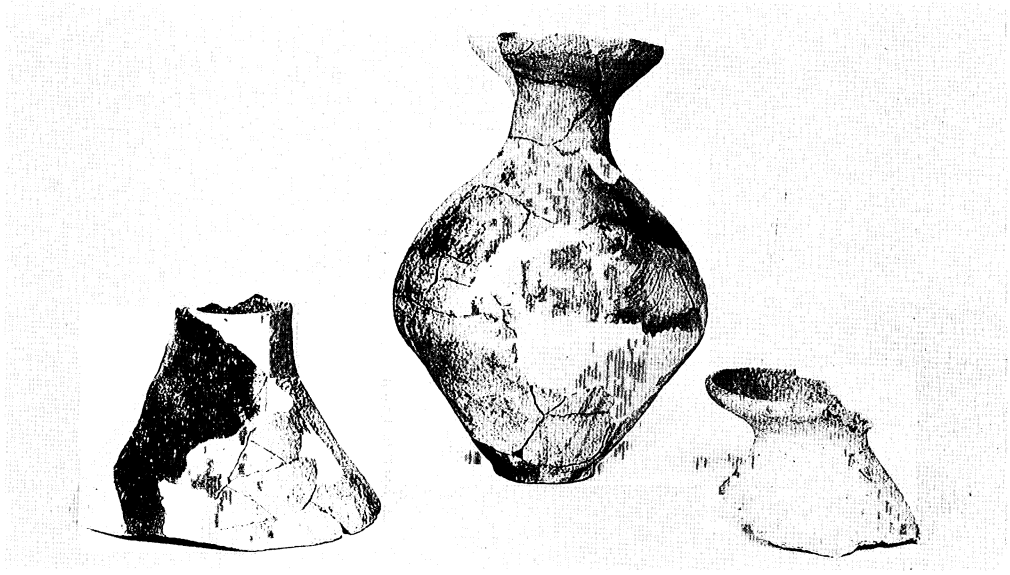


7．炭窯煙道部

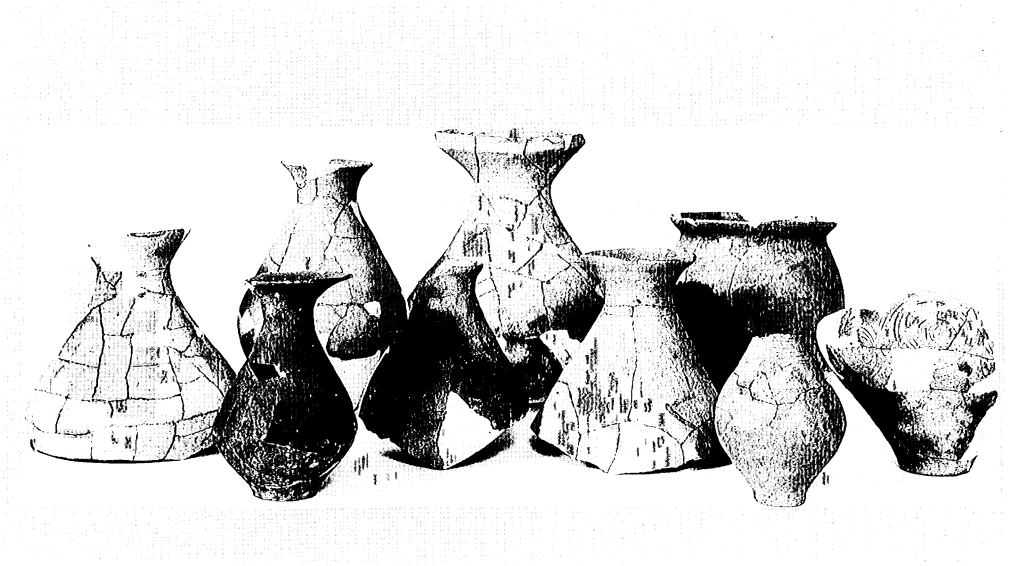


1．7号住居出土遺物

2．9号住居出土遺物

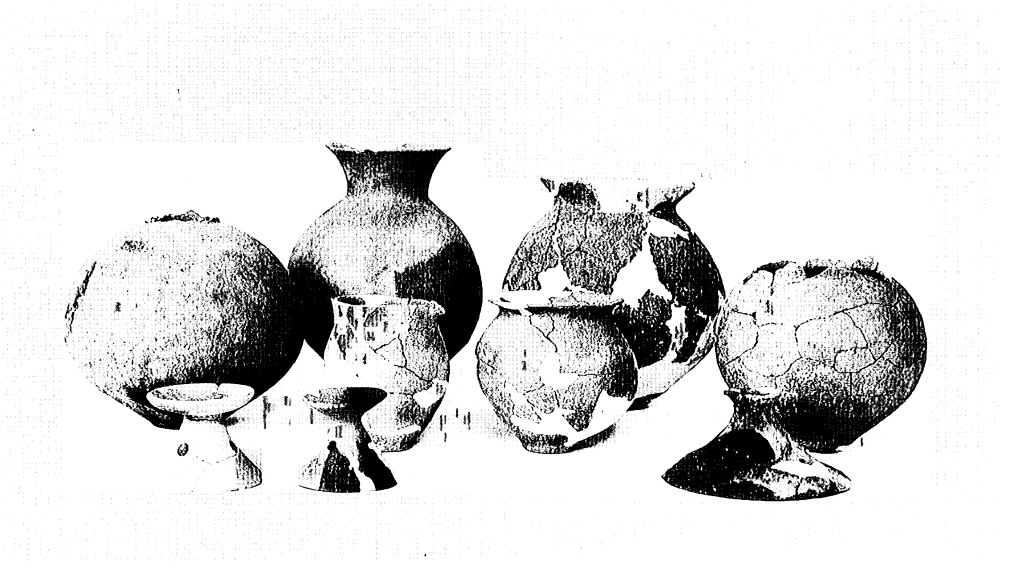


3．22号住居出土遺物



1．13号住居出土遺物

2．20号住居出土遺物

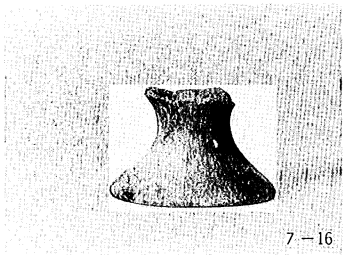


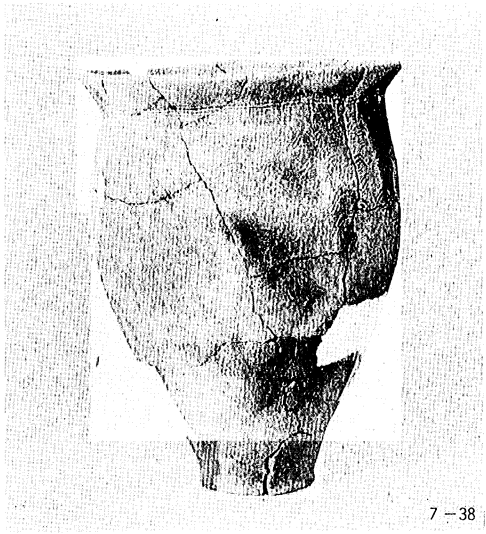
3．28号住居出土遺物

1．5号住居出土遺物

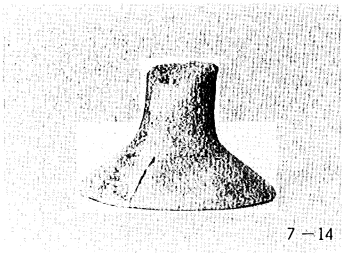
2．8号住居出土遺物

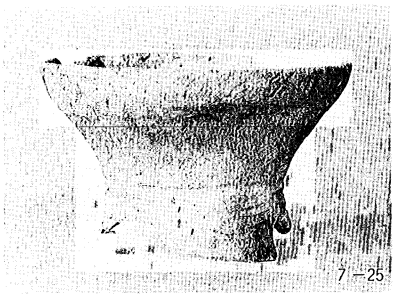
3．3号住居出土遺物

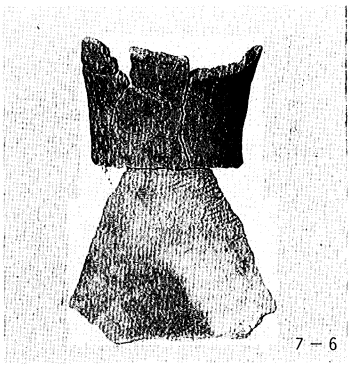

7－16

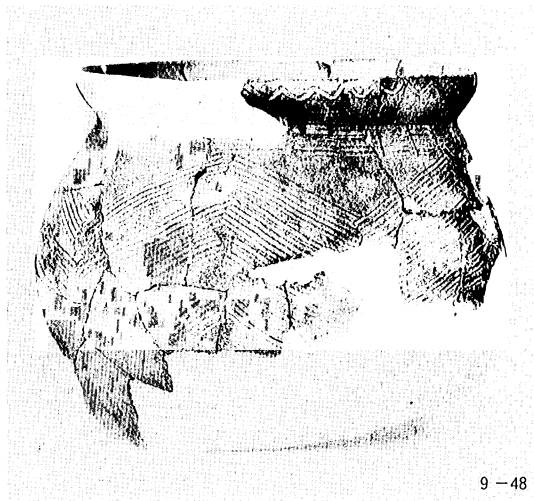

7－38

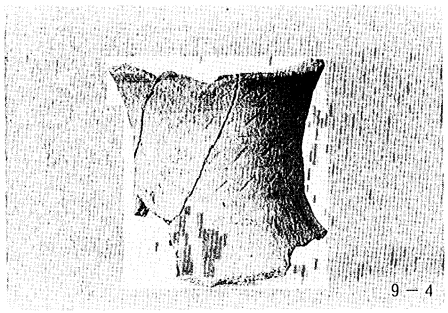
7－32


7－14

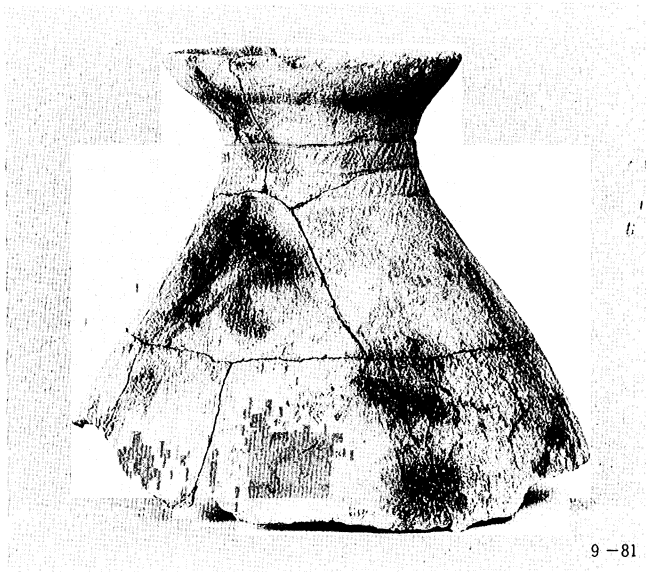

7－25

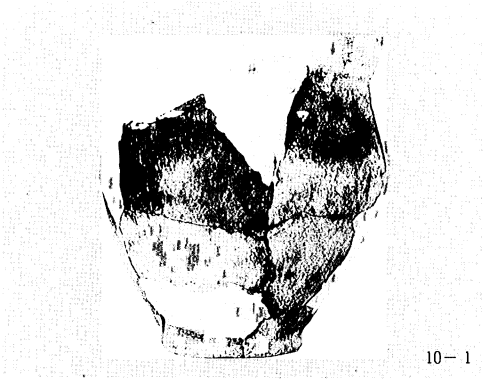

7－6

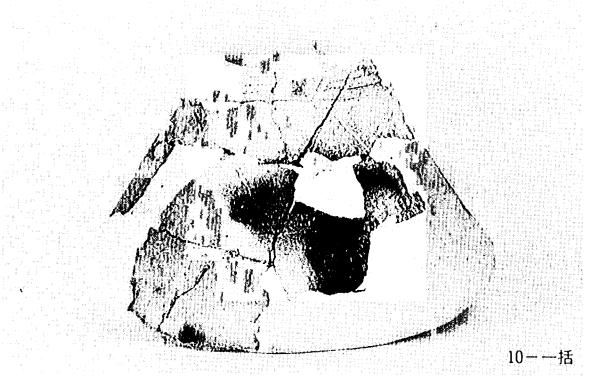

9－48

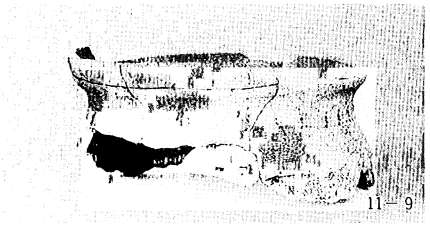

9－4

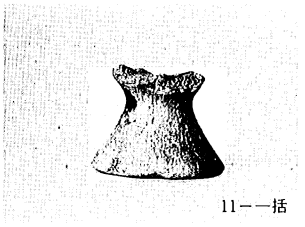
9－14

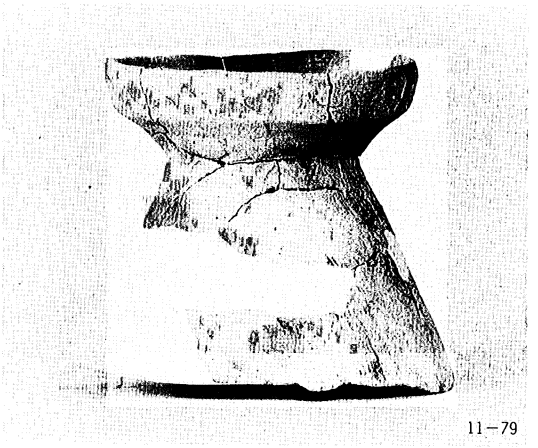

9－81

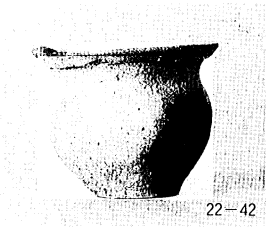

10－1

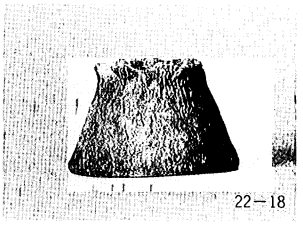

10－一括

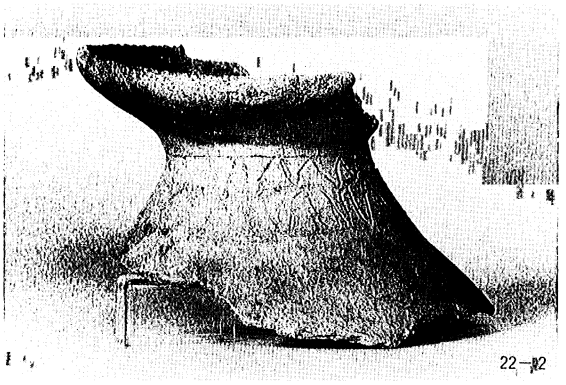

11－9

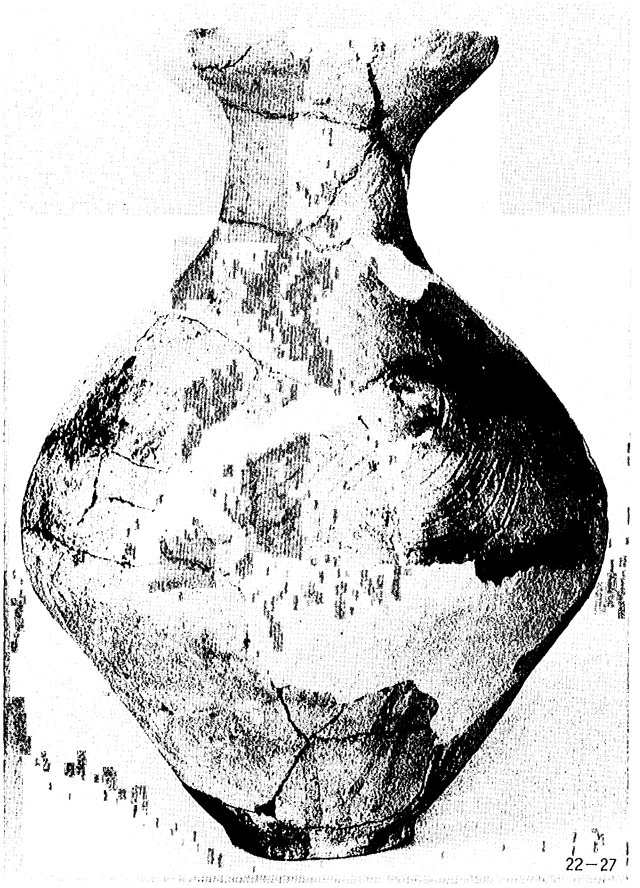

11－一括

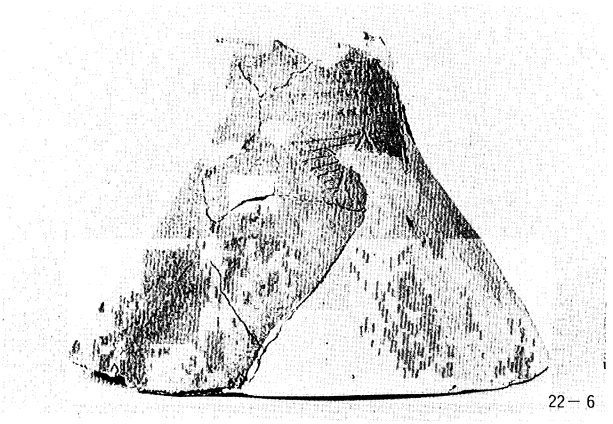

11－79

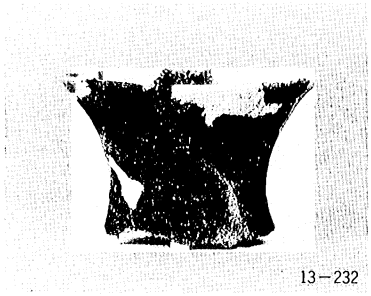

22－42


22－18

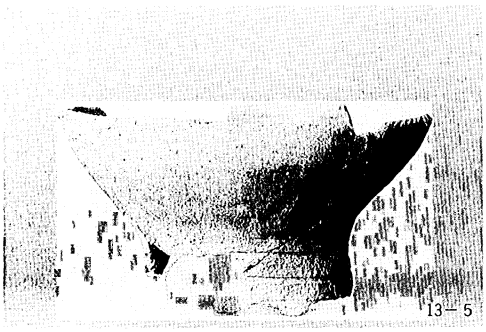

22－12


22－27

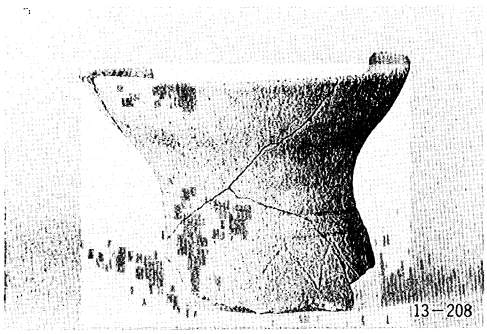

22－6



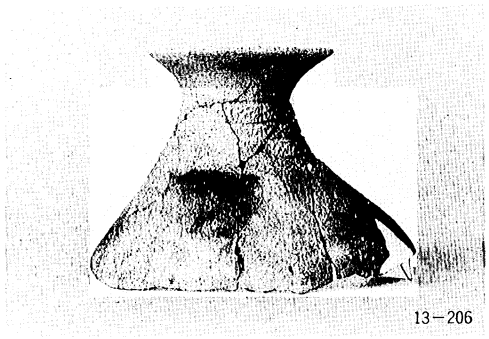
13－232



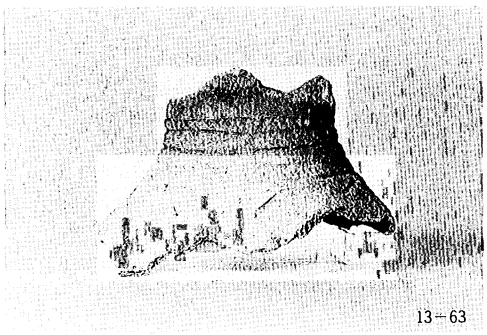
13－5



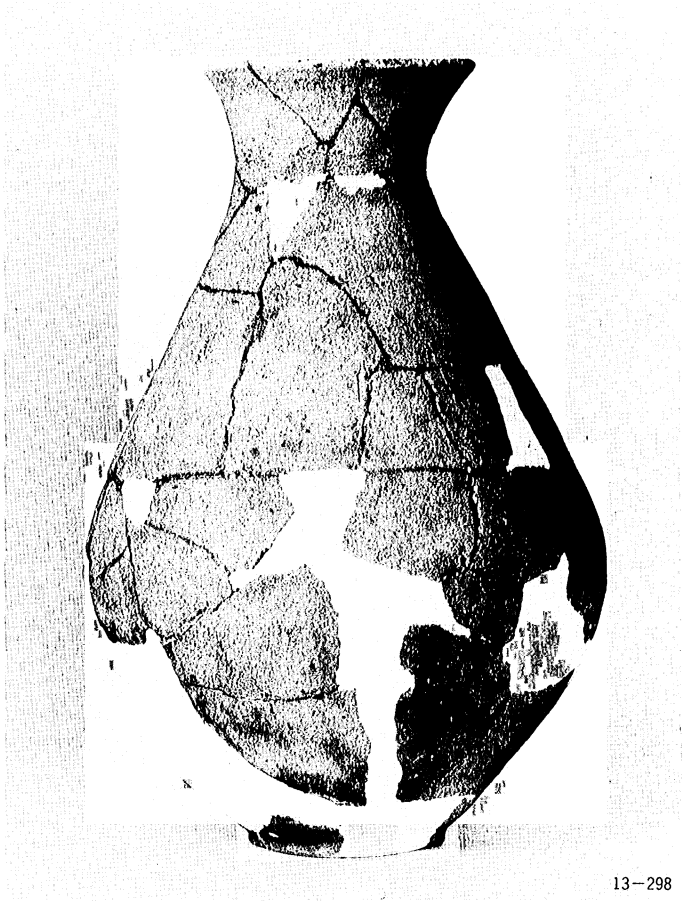
13－208



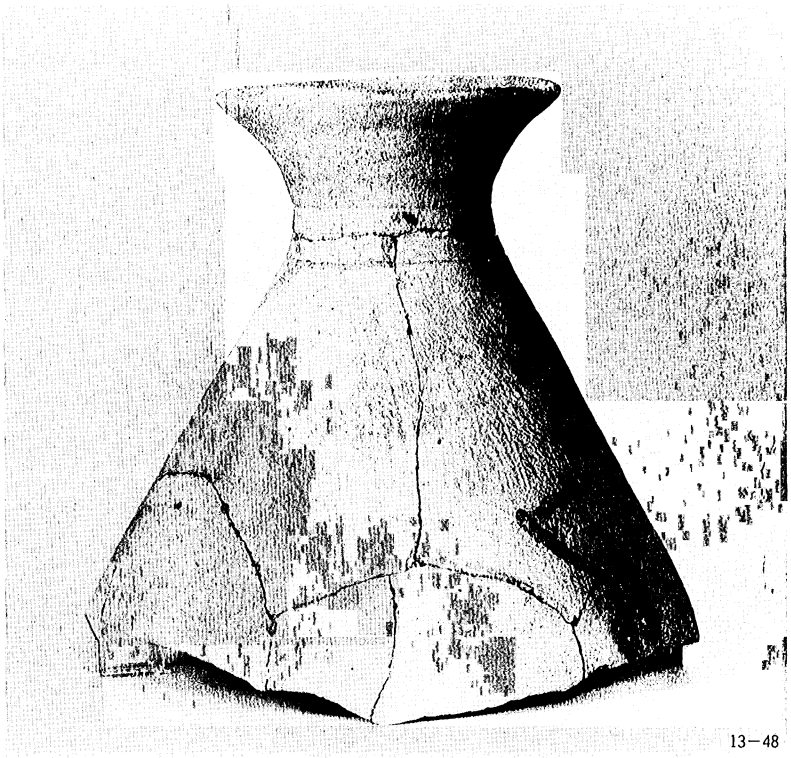
13－206



13－63



13－298



13－48

13－459

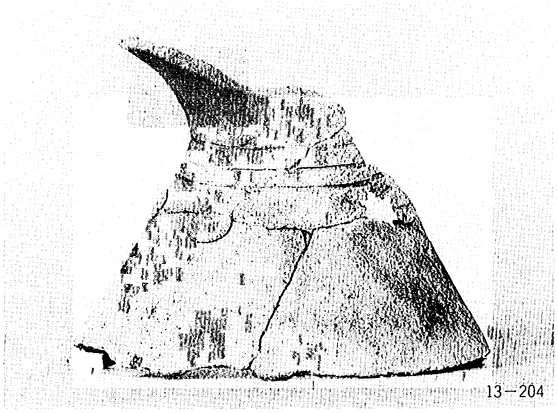
13－94

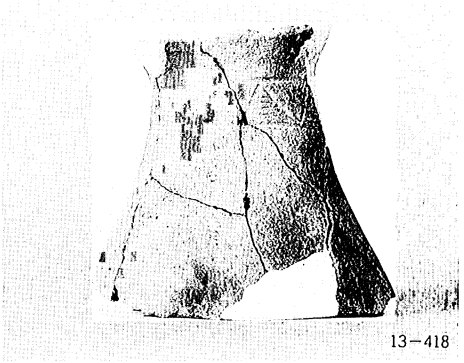
13－185

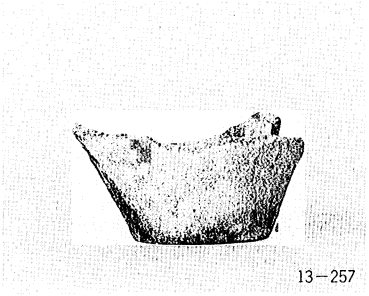
13－69

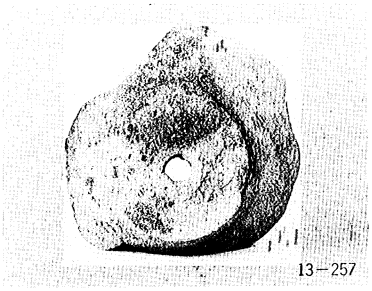
13－251

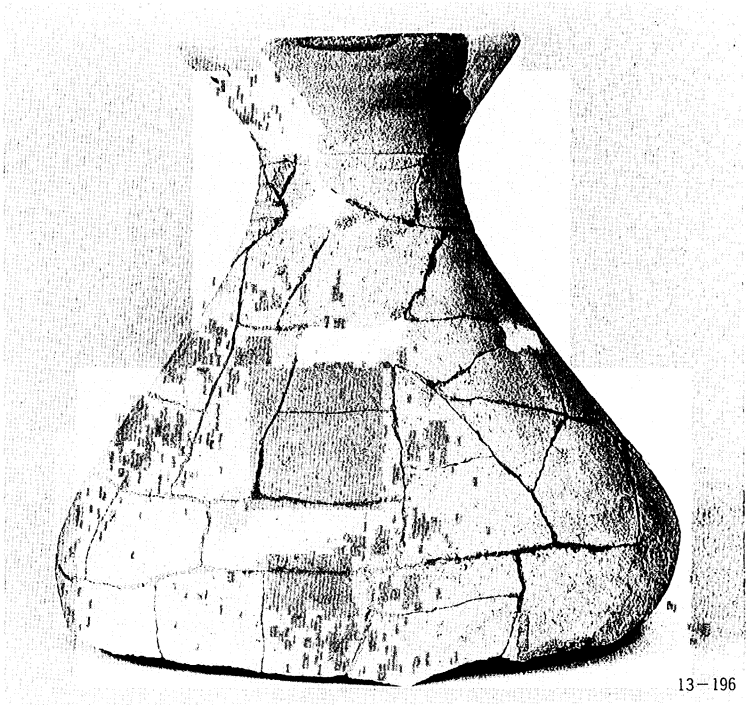
13－360

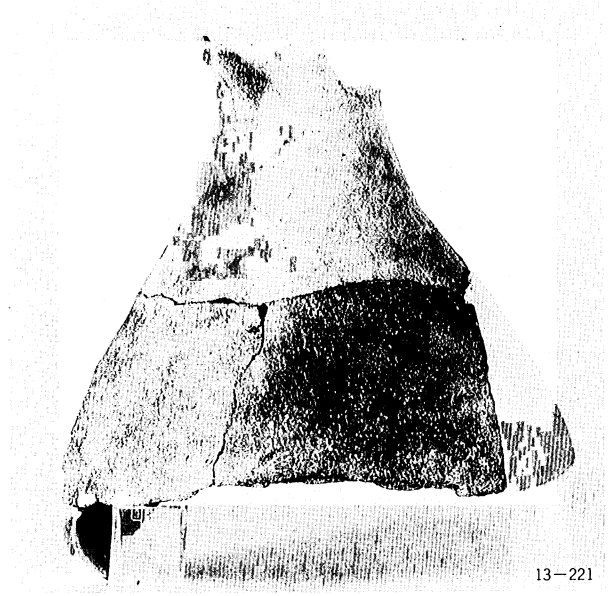

13−204

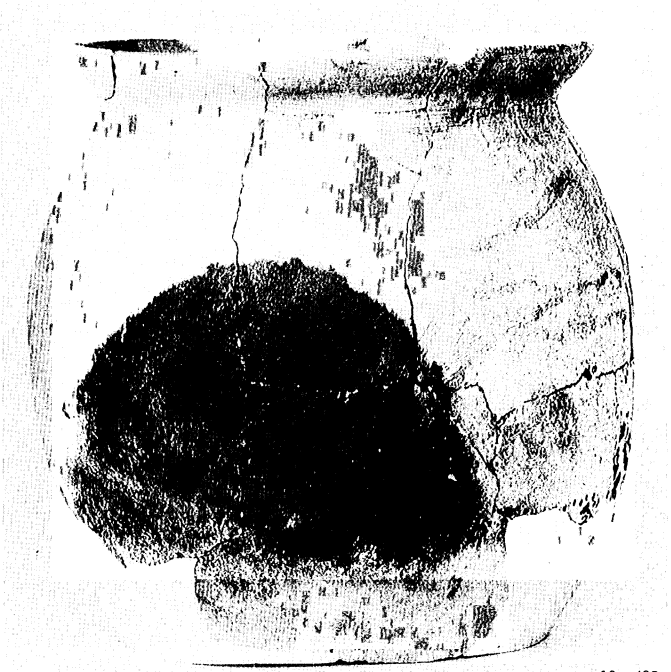

13−418

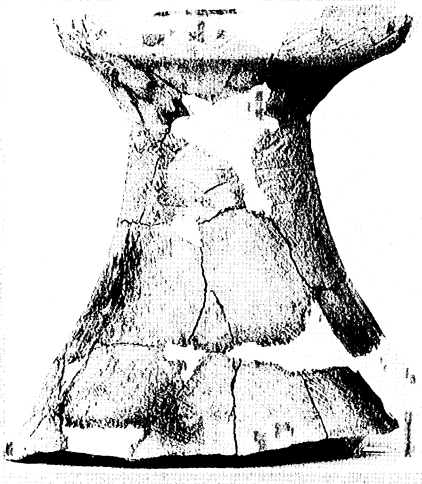

13−257


13−257

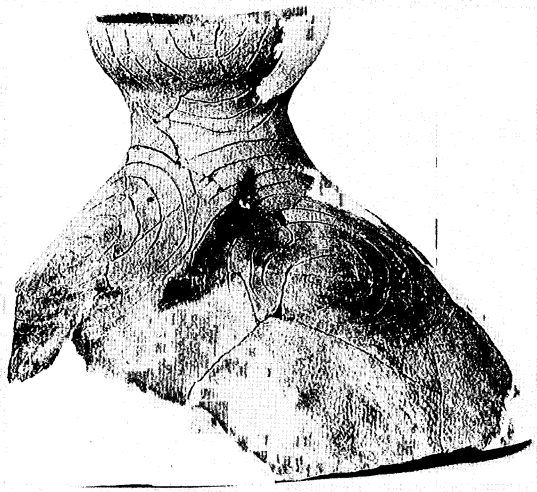

13−196


13−221

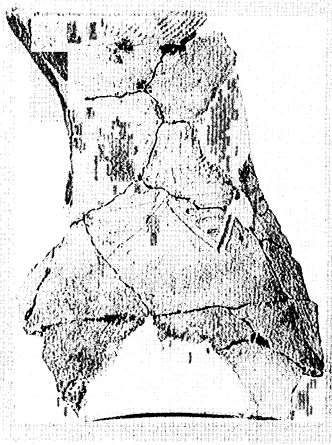

13−488



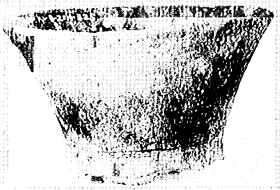
20－117



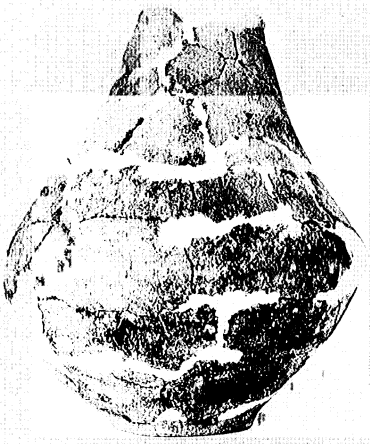
20－154



20－15

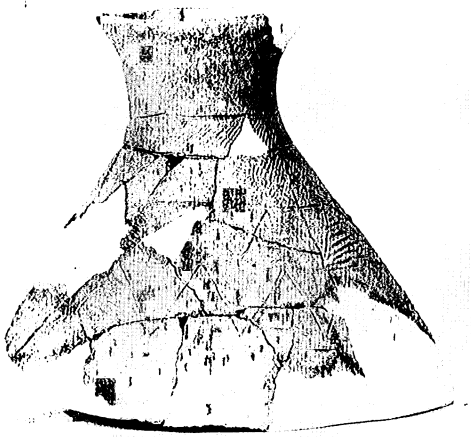


20－325

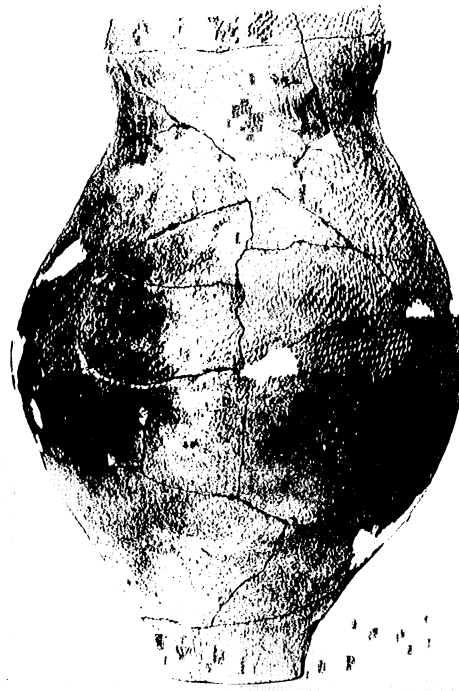


20－13

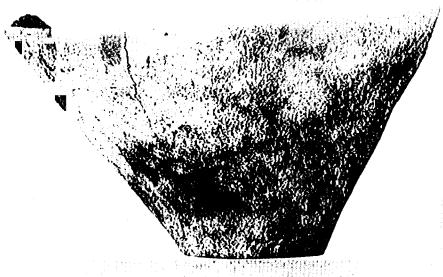
20－29



20－4

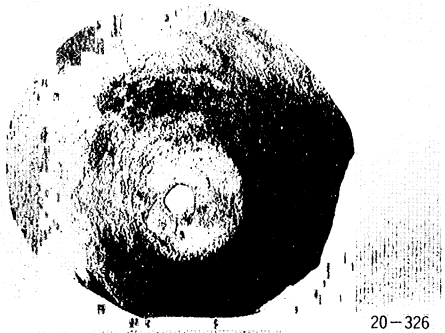


20－348

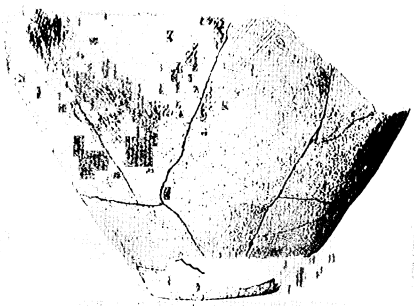


20－326

20－100

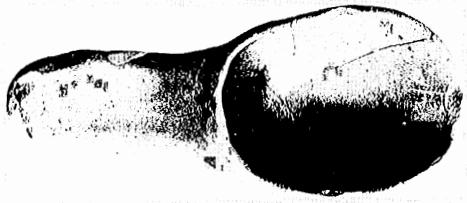


20－326

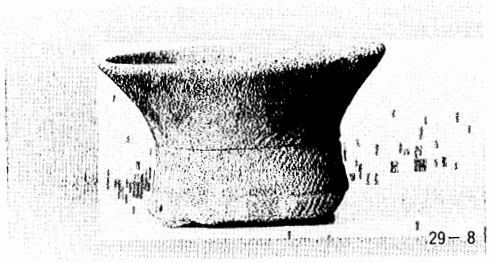


20－134

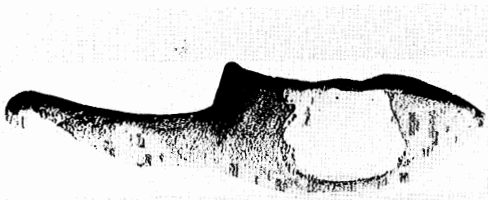
20－183



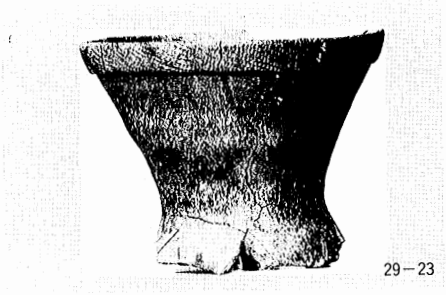
23－19



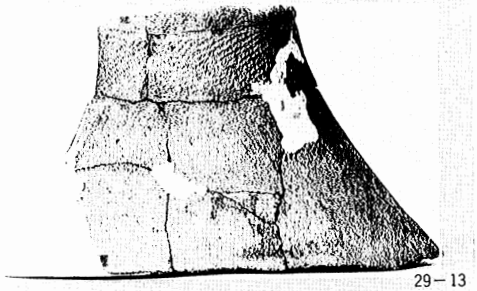
29－8



23－19



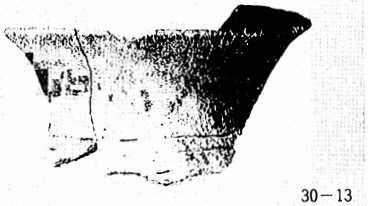
29－23



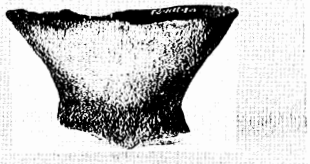
29－13

29－12

30－88

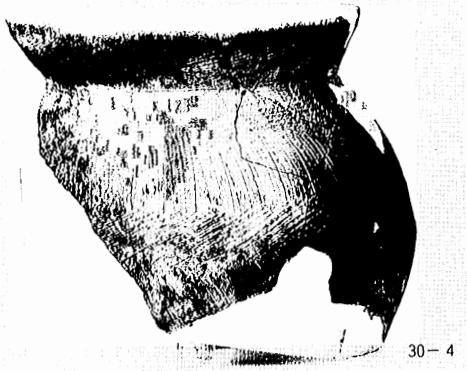


30－13

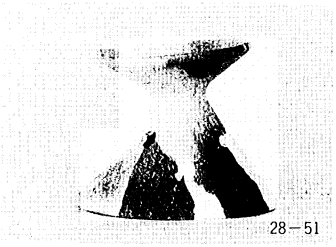


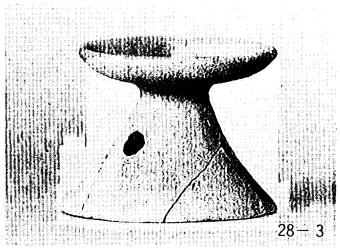
30－73

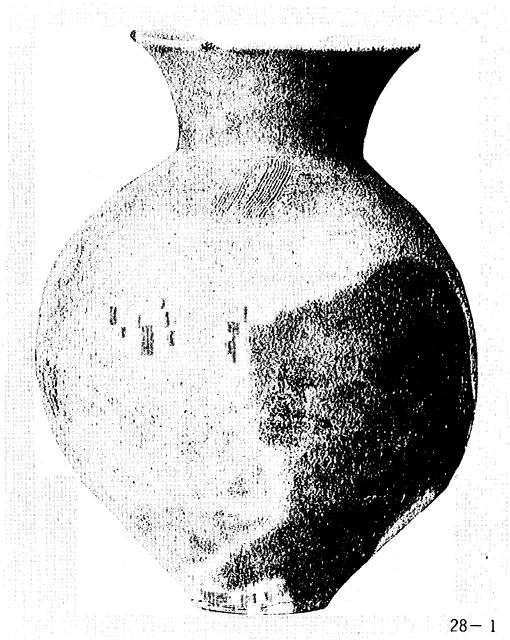
30－47

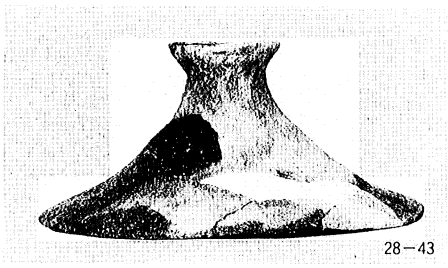


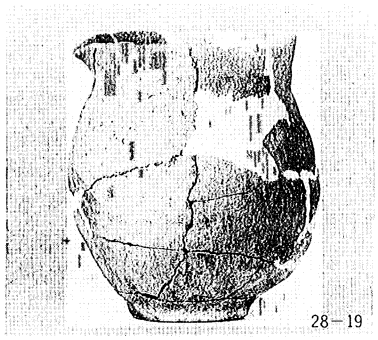
30－4

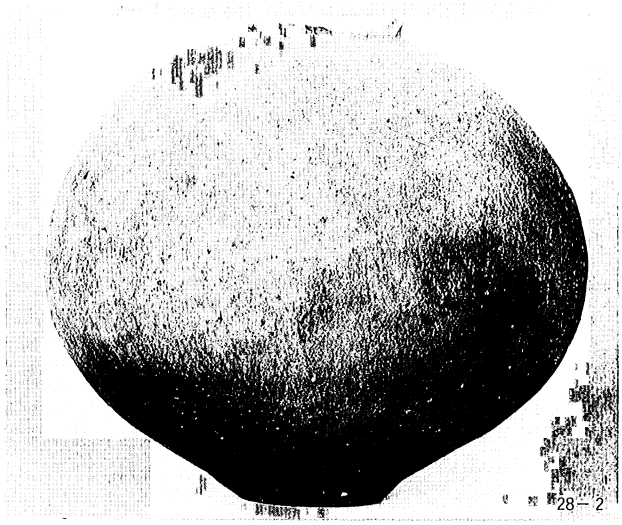

28－51

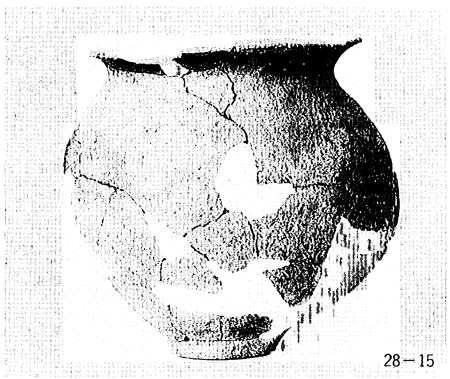

28－3

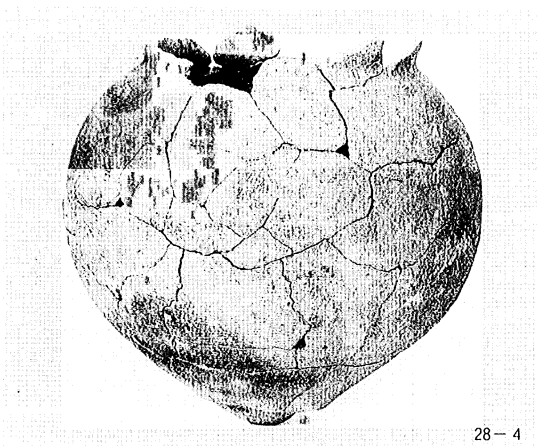

28－1

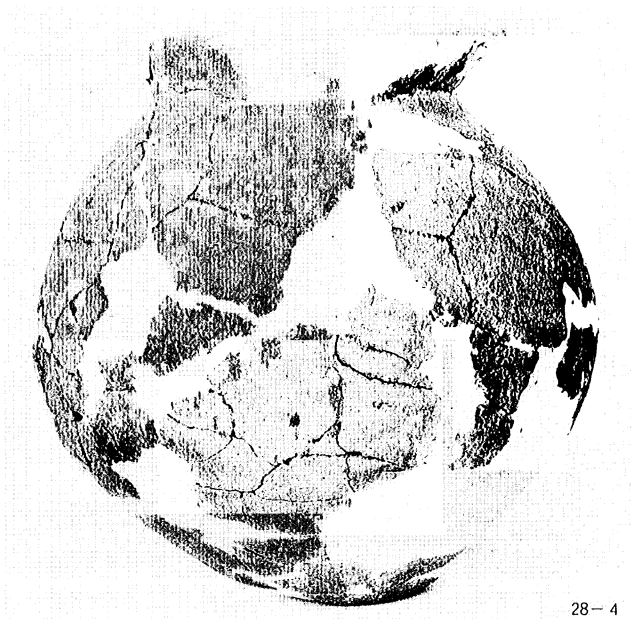

28－43

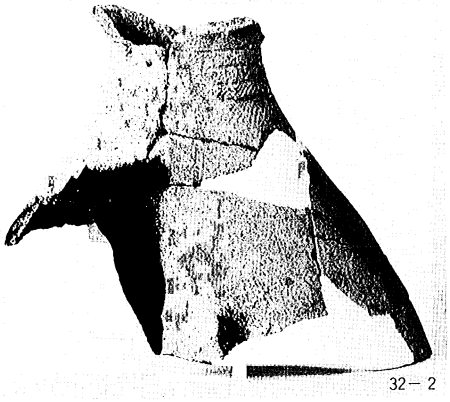

28－19


28－2

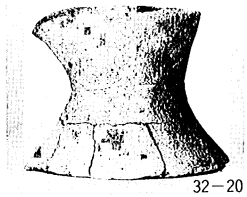

28－15


28－4

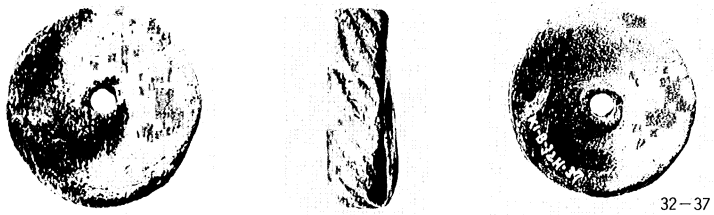

28－4



32－2

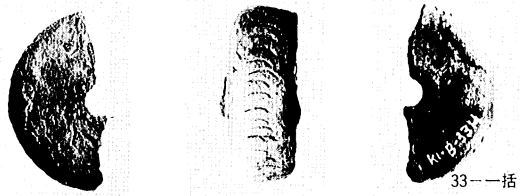


32－20

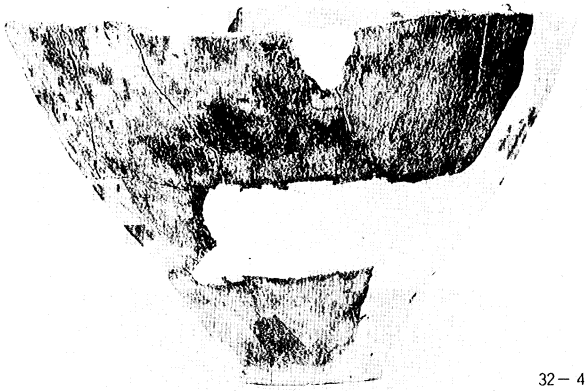


32－37

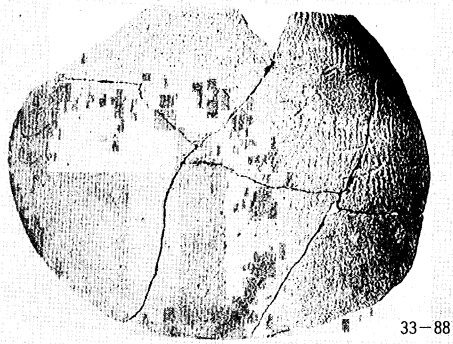
32－一括



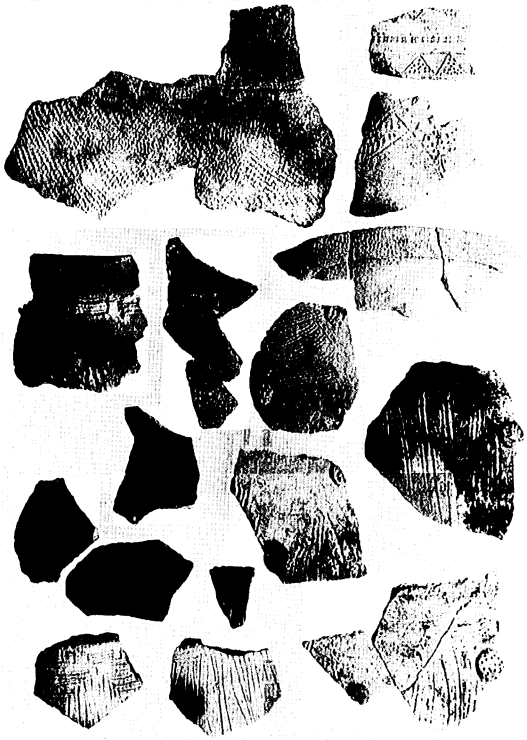
33－一括

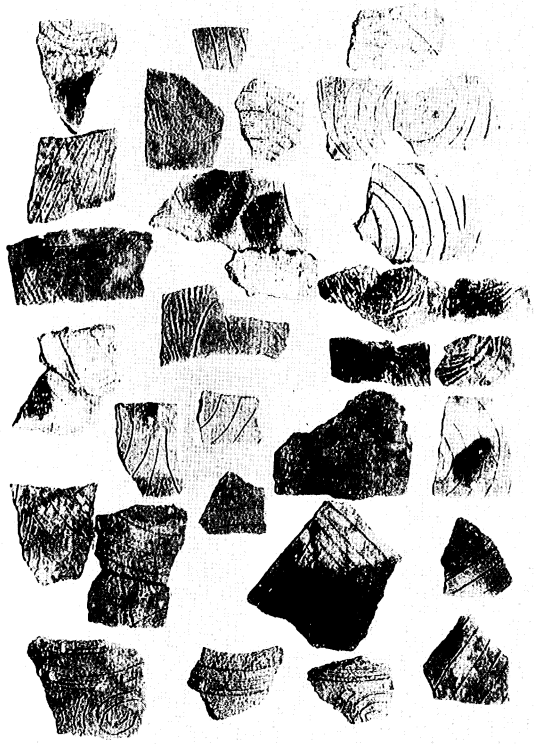


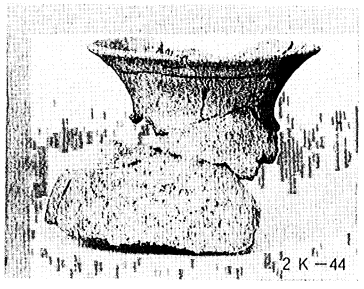
32－4

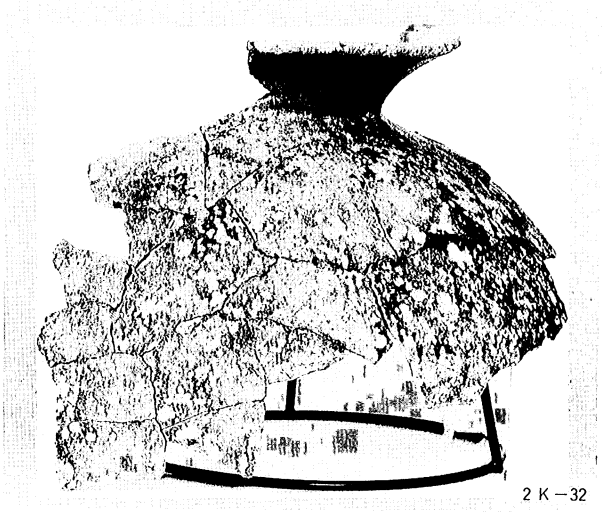


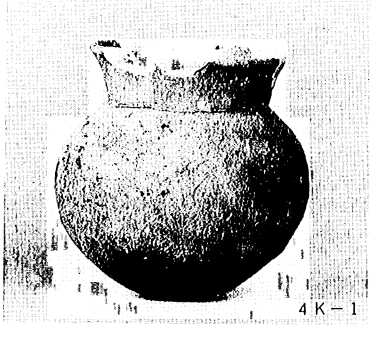
33－88

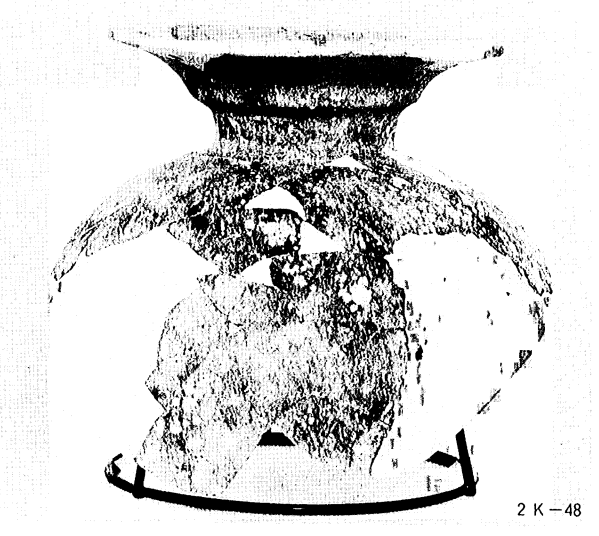


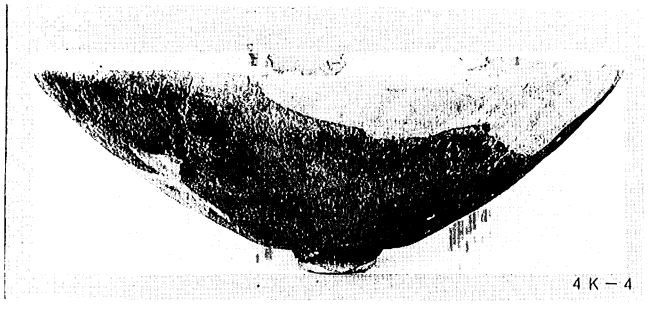



2 K－44

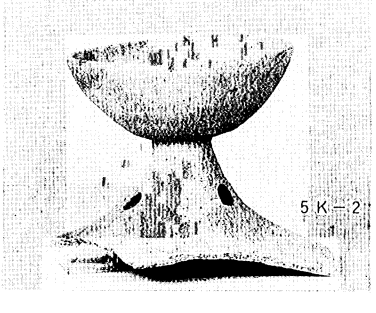

2 K－32

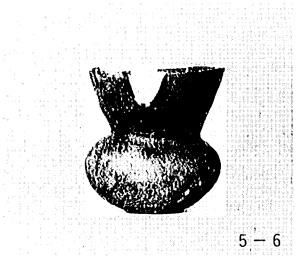

4 K－1

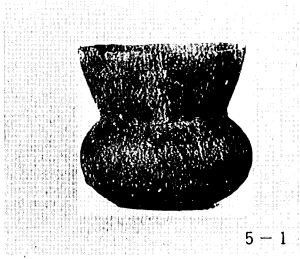

2 K－48

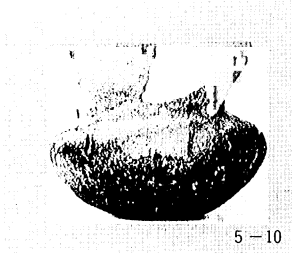

4 K－4

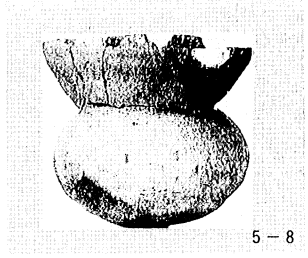
5 K－1

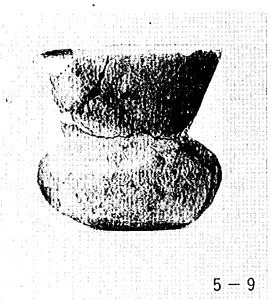

5 K－2

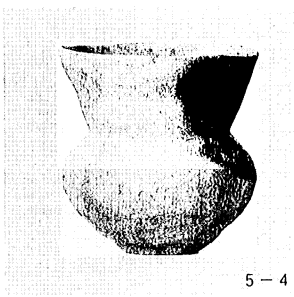

5－6

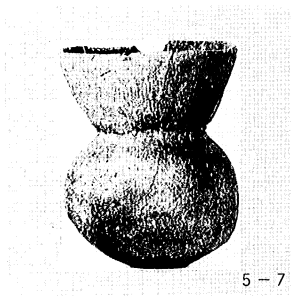

5－1

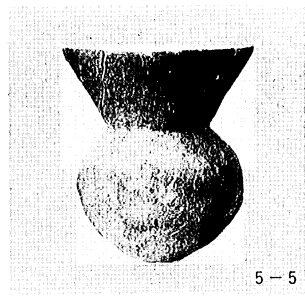

5－10

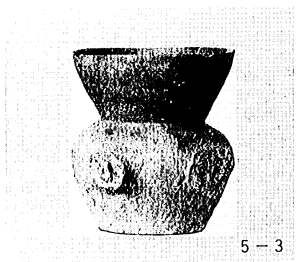

5－8

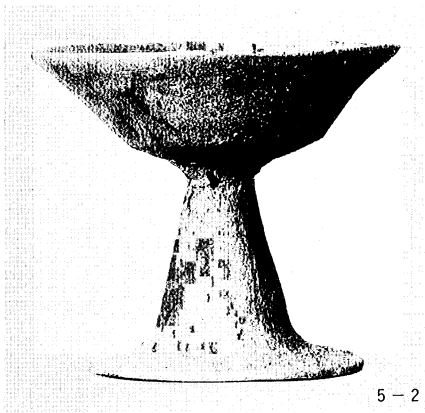

5－9

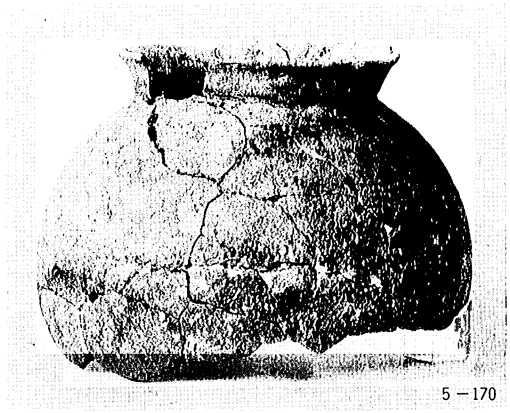

5－4

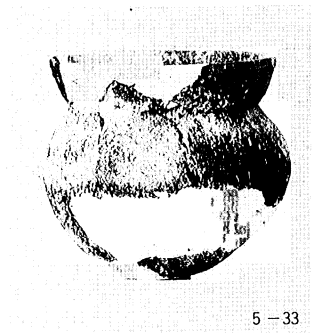

5－7

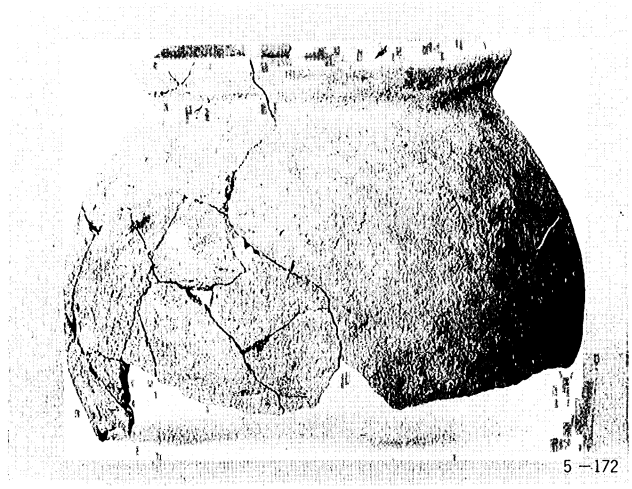

5－5

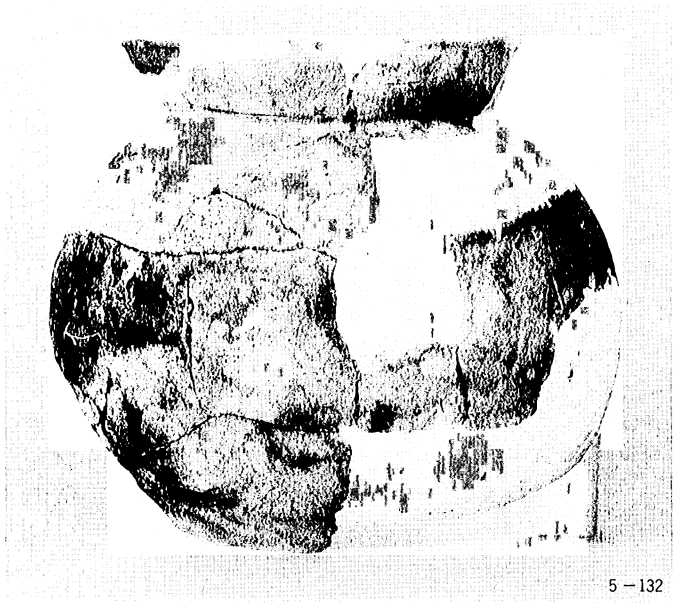

5－3


5－2

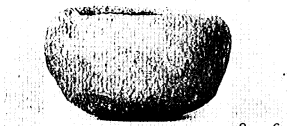

5－170

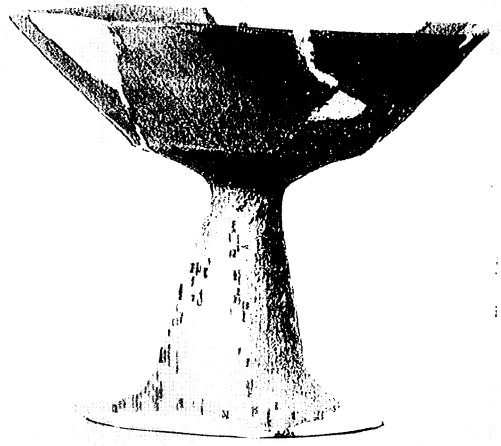

5－33

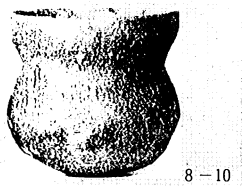

5－172

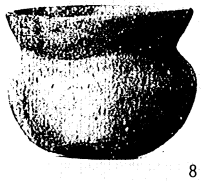

5－132

8－3

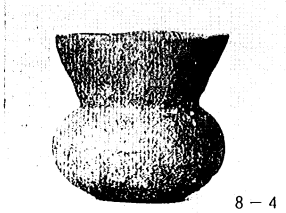

8－6

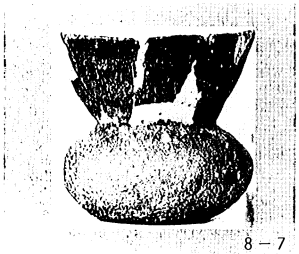

8－2

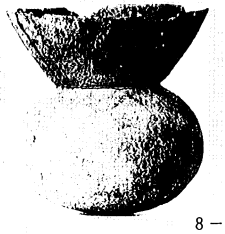

8－10

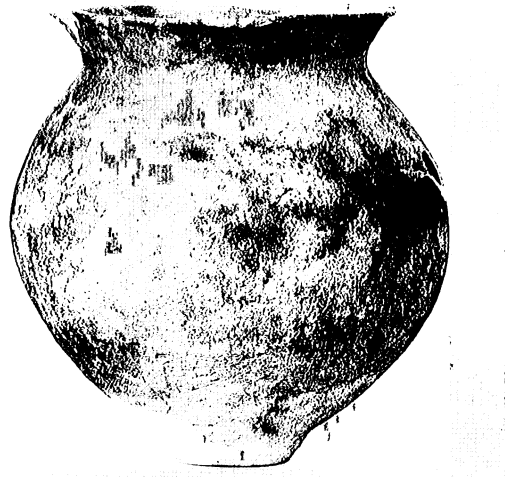

8－11

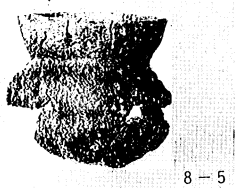
8－8

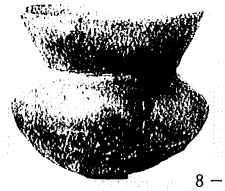

8－4


8－7


8－12

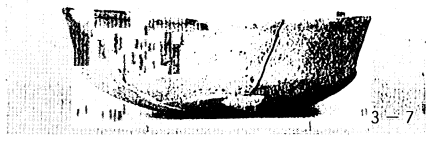

8－1


8－5

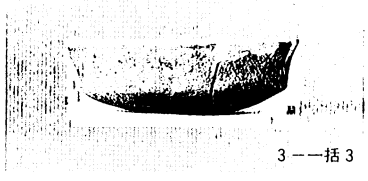

8－9

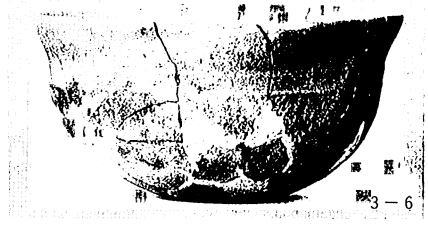
34－1

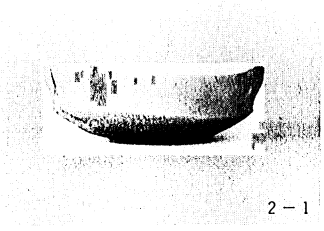
3－1


3－7

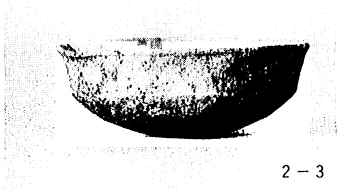
3－一括2


3－一括3

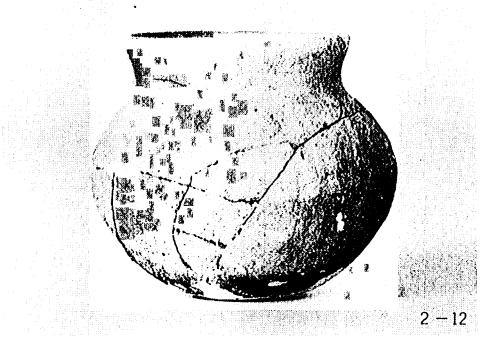

3－6



2－1

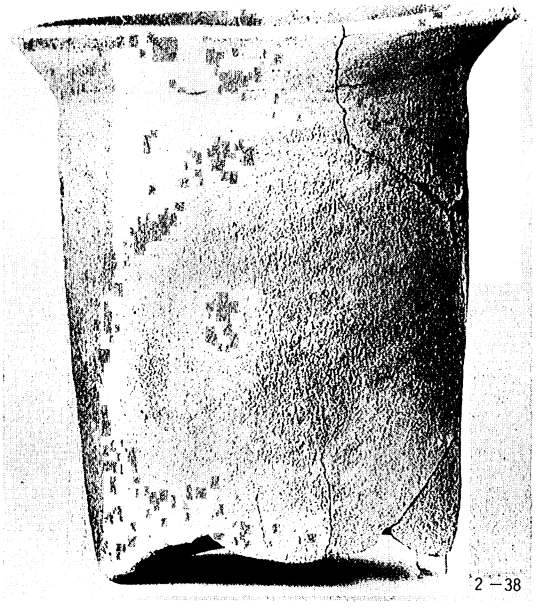


2－3

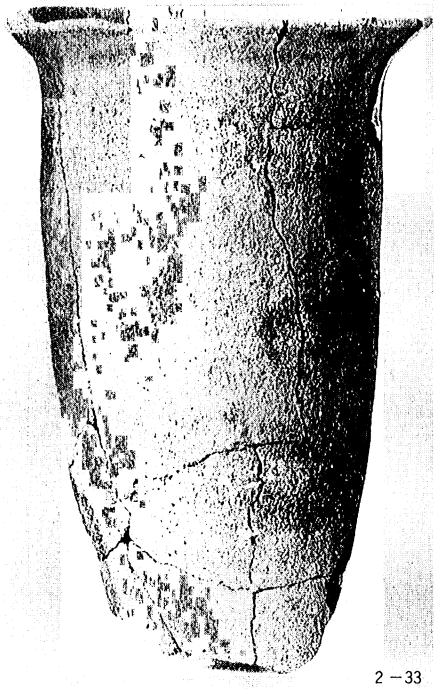


2－12

2－37

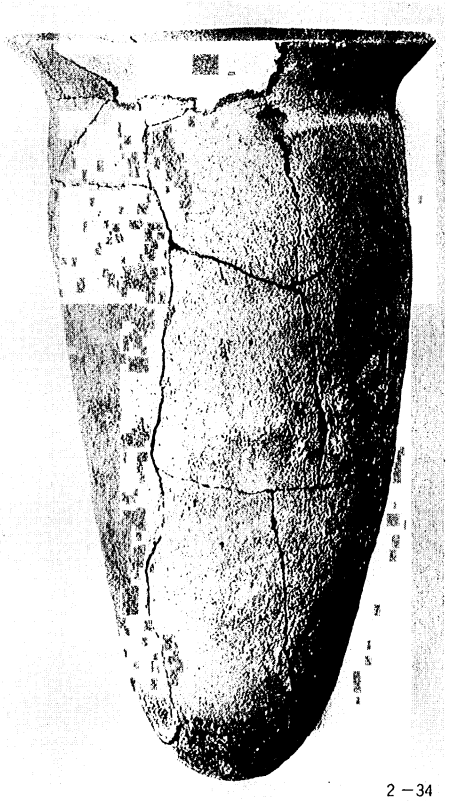


2－38

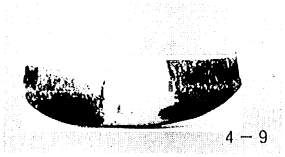


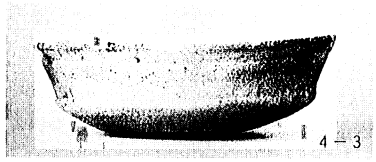
2－33

2－36

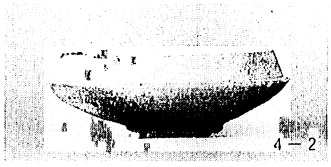


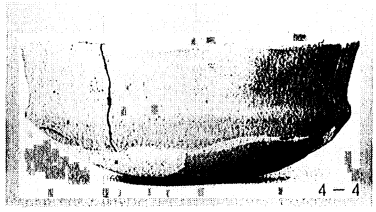
2－34

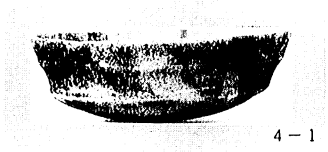

4－9

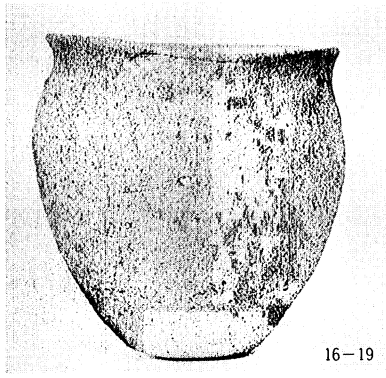

4－3

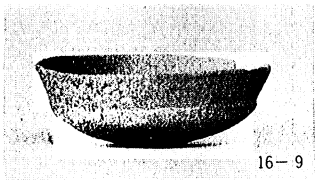
16－22

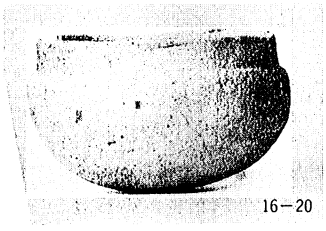

4－2

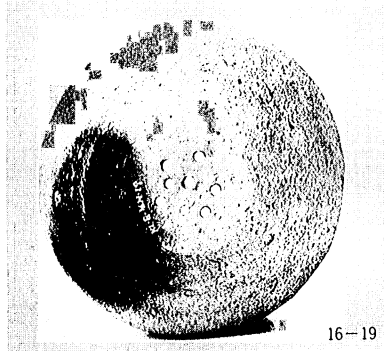

4－4


4－1

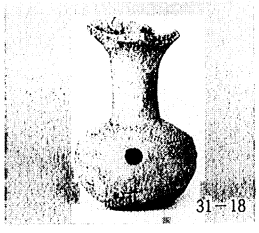

16－19


16－9


16－20

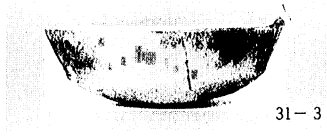

16－19

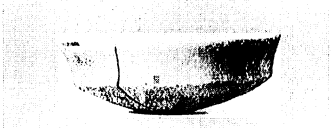
31－7


31－18

31－14

31－1


31－3


31－4－1

31－2

18－1

18－4

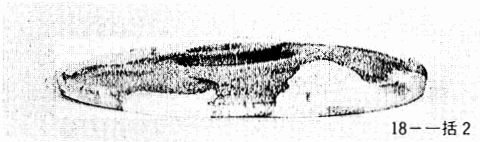
18－6

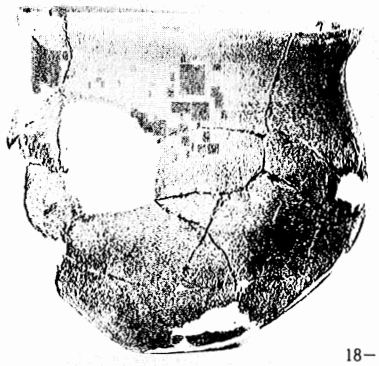
18－7

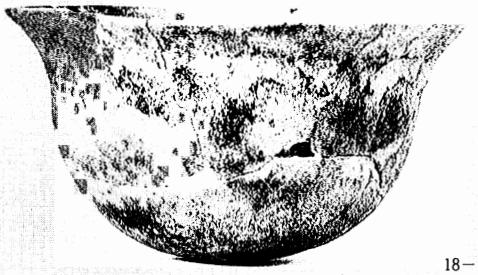
18－5

18－一括4

18－8


18－一括2


18－3


18－17

19－2

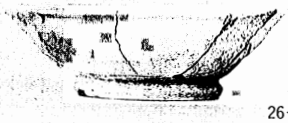
19－3

19－一括3

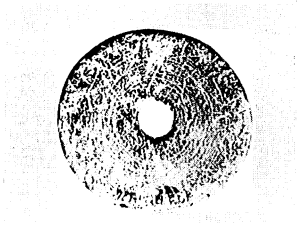
24－1

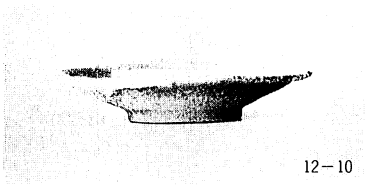
24－一括

26－16


26－1

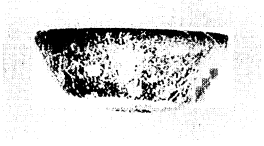
26－4

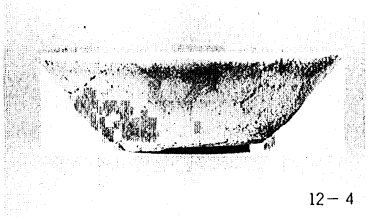




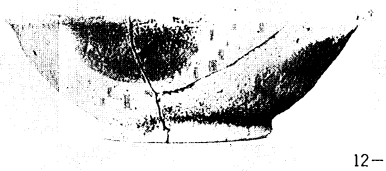
12－10

12－16

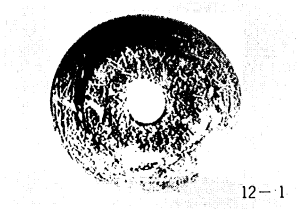




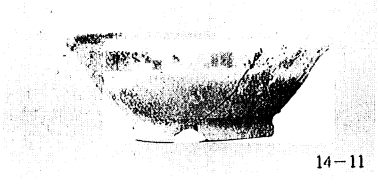
12－4



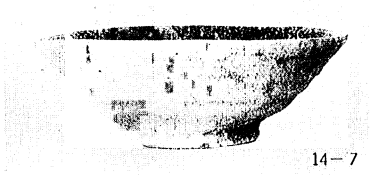
12－40



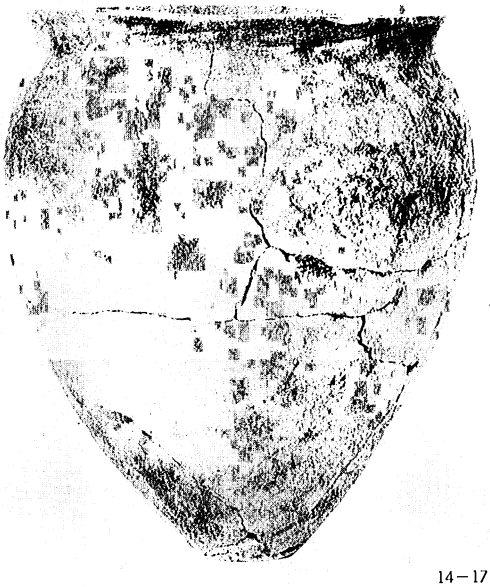
12－1



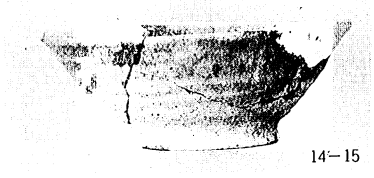
14－11



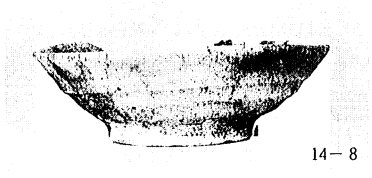
14－7



14－17

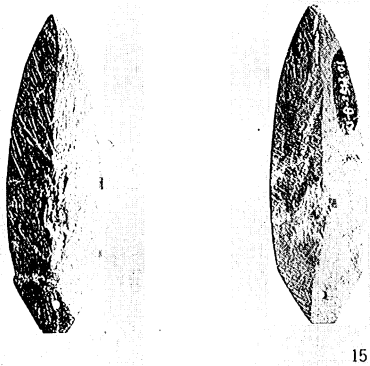


14－15

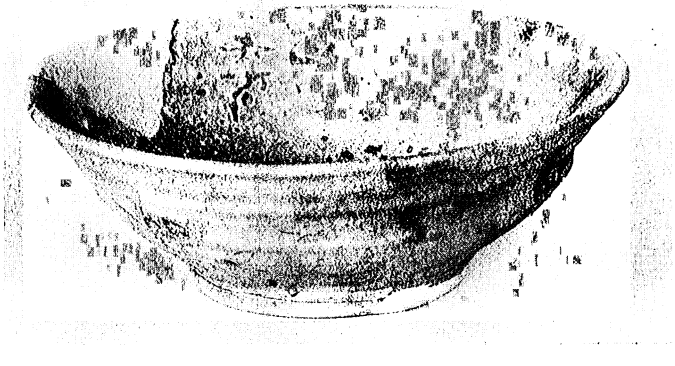


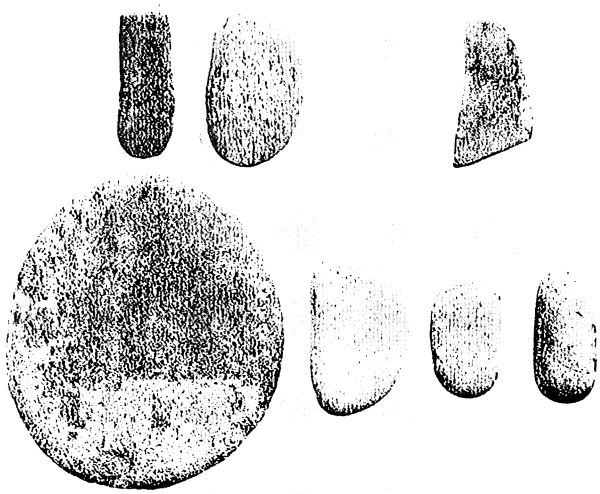
14－8

1



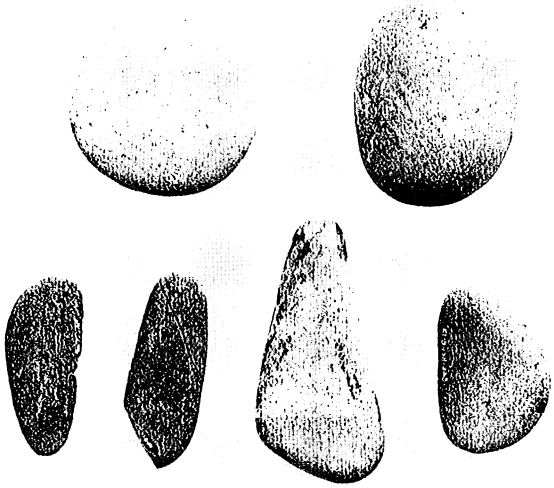
15－1



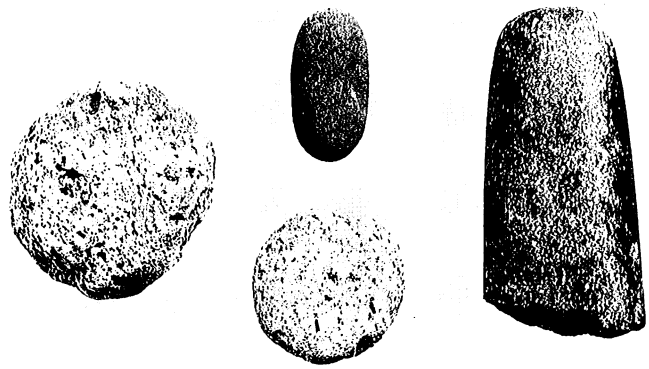


7 号住居出土石器

33号住居出土石器

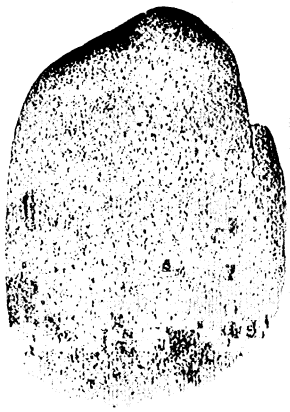


13号住居出土石器



20号住居出土石器

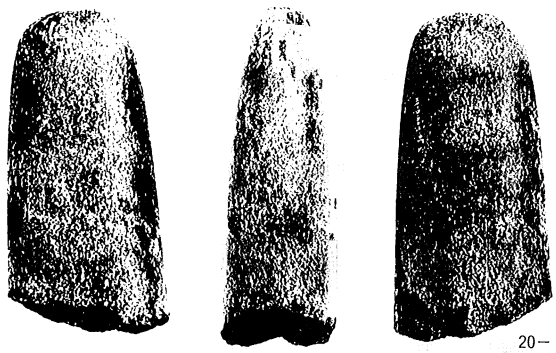
33－14



10号住居出土石器

9 号住居出土石器

33－ 4

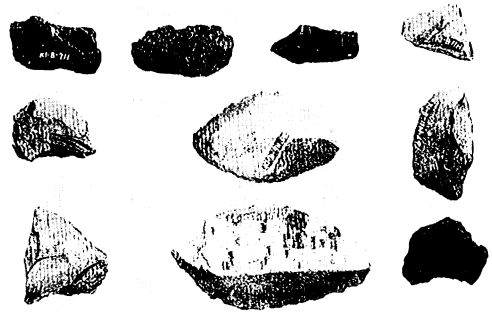


20－ 9

・7 H－括 ・9 H－39 ・10H－括 ・11H－括

・7 H－13 ・9 H－55 ・11H69

・20H－括 ・22H－37 ・32H－括



33－32 a　32－40 a　33－43 a

33－32 b　32－40 b　33－43 b

23－2

32－一括

7－9

粕川村文化財報告第11集　西迎遺跡

平成２年３月17日印刷
平成２年３月20日発行

編集
発行　粕川村教育委員会
群馬県勢多郡粕川村西田面194-4
〒371-02　Tel 0272—85—3311

印刷　朝日印刷工業株式会社